

こども学科の教育と授業計画

2020年度



福島学院大学 福祉学部
こども学科

福祉学部こども学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程の編成および学位授与の方針

(1) 入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

こども学科では、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門領域において、地域社会に根ざし、将来に渡って保育および幼児教育の領域における指導者として地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

こども学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して学科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、こども学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

こども学科の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目からなり、さらに各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成しています。

教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程の編成は、幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者のために教育職員免許法および同法施行規則に規定する科目を置き、保育士の資格を取得しようとする者のために児童福祉法および同法施行規則に規定する科目を置き、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を設置しています。また、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格双方の取得により認定こども園に勤務した場合は、保育教諭となることを可能としています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得など対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるよう各年次に配当して編成しています。

(3) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

こども学科においては、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していることども学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（こども学）」の学位を授与します。

2. 学生の努力目標

福祉学部こども学科は、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う人材育成を目指し、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を養成することを目的とし将来的に幼稚園教諭、保育士、さらには保育教諭としての活躍を期待しています。

幼児教育・保育に関わる知識は、次世代を育む社会の一員として皆さんに等しく求められていくもので、免許・資格の取得そのものを卒業時の必須要件とはしていませんが、学生のみなさんには本学科における学びの証として、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得できるよう努力してください。

3. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために次の点が求められますので、よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の学是「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりでなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でもゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。

注：「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、評価方法などが記載されています。

また、それぞれの授業の事前・事後の学修についても明記されていますので、予習・復習を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を学ぶための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

I. 教育課程と履修の方法

1. 教育課程(カリキュラム)

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」(P15～P22)のとおりです。

教育課程(カリキュラム)は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。

そして科目ごとに、授業の方法(講義・演習・実習)、履修できる学年、科目の種類(必修・選択)、単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験、レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取りあげていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 履修方法

4年間で学ぶ全ての授業科目は、教育課程にまとめられています。この中から、卒業および幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する科目を決めていきます。

(3) 科目の種類

科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」と「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時までになんとも取得できていなければ、卒業することができません。

(4) 授業の開講期

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭一種免許状、保育士指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

学修期間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。

(5) 単 位 制

① 単位とは学修時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。

② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を「時限」としていますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間（90分）で15回の授業では、2時間×15回＝30時間（90時間の1／3）の学修になります。90－30＝60時間は授業外の学修時間（予習・復習）となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(6) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。

こども学科の「卒業に必要な単位数」は、合計124単位です。詳細については教育課程表をご覧ください。

(7) 科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入方法、提出期日等は、オリエンテーションで教務課から説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修することができません。

また、教員や教務課員が早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修確認を完了させるようにしてください。

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 履修規程第26条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。1、2年次の必修科目を落としてしまうと、3、4年次で実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格・免許状取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、**1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位**としています。

4. 免許状・資格の取得

こども学科において指定された単位を取得すると、次の免許状・資格が取得できます。

詳しくは、免許状・資格取得の方法（P7～P14）をよく読んでください。

こども学科

(1) 幼稚園教諭一種免許状

(2) 保育士資格

*幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得することにより、幼保連携型認定こども園において保育教諭を名乗ることができます。

II. 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数えます。そして、授業時間は1回90分で設定されています。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

2. 成績評価と単位認定

各科目の成績評価は以下のとおりです。その他に本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとに、本学独自のGPA（Grade Point Average：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

(1) 本学独自のGPA（以下単にGAPと表記）成績評価とは、

- ① 授業科目はシラバスにより学修目標、成績評価基準を明示したうえ100点満点で成績評定し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
- ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち、各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。
- ③ GPAは、次項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学修指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
- ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意してください。

- (2) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次のとおりとなっています。

A+ (100~90点)	A (89~80点)	B (79~70点)
C (69~60点)	D (59~50点)	F (50点未満)

※ GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

- (3) 単位の認定は、必要な課程として定められた時数について、学外実習および実習指導科目等、別に定める場合を除き、3分の2以上出席し、本学の行う試験その他による成績審査に合格したものに対して行います。

学外実習および実習指導科目等別に定める科目の必要な出席時数は次のとおりです。

1. 学外実習科目の事前・事後指導については5分の4以上。
2. 学外実習については所定の全日数。ただし、実習中、病気、忌引等やむを得ない事情により欠席した場合で、実習期間の延長が可能な場合は当該欠席日数分を延長して補充することができます。
3. 海外実習または演習を行う場合は、当該実習または演習における所定の全プログラム。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く。）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。補足的な措置として、以下のような例があげられます。

○授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・注意1回につき1点減点

※ 同一学生の注意3回以降は、1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。

○遅刻・早退・欠席

・遅刻・早退1回につき1点減点

・欠席1回につき3点減点

※ 遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（認定こども園基本実習、保育実習、幼稚園教育実習等）
- ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行動
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学修成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験に関わる情報は、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配布されたりすることはありませんので注意してください。

(1) 試験の種類

① 定期試験（中間試験、期末試験等）

授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。

② 追 試 験

履修規程第11条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。

ただし、本人の不注意だった場合には、80点満点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）

③ 再試験【履修規程第12条】参照

卒業学年に在籍し、履修規程第13条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目につき5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

① 筆 記 試 験

筆記試験は通常90分です。

試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められます。

科目によって、教科書やノートを持ち込んで良いという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。

② レポ ー ト

レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。

③ その他の方法

調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 「情報機器操作」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としますが、「情報機器操作Ⅰ（初級レベル）」の履修者は、「情報機器操作Ⅱ（中級レベル）」まで計4単位以上を必修とします。

5. 「英会話」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
英会話Ⅰ	ベーシックレベル	1年	2単位
英会話Ⅱ	アドバンスレベル	1・2年	2単位
英書リーディング	—	2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。英語教育の履修については、以下のとおりです。

• 1年次に「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を指定された者

「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を履修して2単位を取得した後、2年次で「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

• 1年次に「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」を指定された者

「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」の2単位を取得した後、2年次で「英書リーディング」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、教育・保育に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次4年次と2カ年の継続履修で、2学年が同じ空間で学修に励むことも学科の特徴的な科目となっています。

「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文の提出（研究過程上に制作物が伴う場合は制作物を含みます）が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は当該学年学生数の20%～25%とし、事前希望調査により極端な偏りを防ぐよう計画されています。こども学科の学生のみなさんは1年次より教育・保育に関する問題意識を持ち、3年次履修時までには自分自身の研究課題を絞り込んでいきましょう。

また、4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表をおこなっていきます。1、2年生にとっては先輩方の研究結果を聞くことにより、より具体的な研究課題を見つける機会となるでしょう。

Ⅲ. 免許状・資格取得の方法

1. 幼稚園教諭一種免許状

(1) 幼稚園教諭一種免許状とは

幼稚園教諭一種免許状は、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則に基づく国家資格です。この免許状は、次の(2)に定められた科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

教育職員免許法に基づく免許状の取得に必要な科目を履修し、単位を修得することによって、幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。本学では、「幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目として配当しています。（2019年度以降の入学生はP 7～、2018年度以前の入学生はP 9～参照）

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な授業科目一覧（2019・2020年度入学生）

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体 育	体育講義	1	1	
	体育実技 I	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話 I (ベーシックレベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	英会話 II (アドバンスレベル)	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作 I (初級レベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	情報機器操作 II (中級レベル)	1・2	2	
合 計			12	

※ 教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「文章表現」、「会話演習」「生活教養」、「英書リーディング」（「英会話 II（アドバンスレベル）」を履修した者）の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	各科目に含めることが必要な事項	開設科目名	単位数
領域及び保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項	国語	2
		算数	2
		音楽	2
		図画工作	2
		体育	2
	□ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	2
		保育内容指導法健康	2
		保育内容指導法人間関係	2
		保育内容指導法環境	2
		保育内容指導法言葉	2
保育内容指導法表現Ⅰ		2	
保育内容指導法表現Ⅱ	2		
教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2
	□ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）	保育者論	2
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政	2
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1
		発達心理学	4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2
ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育・教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等	イ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法及び技術	2
	□ 幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	2
	ハ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2
教育実践に関する科目	イ 教育実習	幼稚園教育実習（事前事後指導1単位含む）	5
	□ 教職実践演習	保育・幼稚園教職実践演習	2
合 計			52

(2) その他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な授業科目一覧（2017・2018年度入学生）

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体 育	体育講義	1	1	
	体育実技 I	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話 I (ベーシックレベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	英会話 II (アドバンスレベル)	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作 I (初級レベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	情報機器操作 II (中級レベル)	1・2	2	
合 計			12	

※ 教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「国語表現」、「会話演習」「生活教養」、「英書リーディング」（「英会話 II（アドバンスレベル）」を履修した者）の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
国 語	国 語	3	2
算 数	算 数	3	2
生 活	—	—	—
音 楽	音 楽	1	2
図 画 工 作	図 画 工 作	1	2
体 育	体 育	2	2
合 計			10

(2) 教職に関する科目

第一欄	免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	保育者論	1	2
		教員の職務内容			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	1
			発達心理学	1	4
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育行政	3	2

免許施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	履修年次	単位数
第四欄	教育課程の意義及び編成の方法	保育・教育課程論	1	2
		保育内容総論	1	2
	保育内容の指導法	保育内容指導法 健康	3	2
		保育内容指導法 人間関係	3	2
		保育内容指導法 環境	2	2
		保育内容指導法 言葉	2	2
		保育内容指導法 表現Ⅰ	2	2
		保育内容指導法 表現Ⅱ	3	2
	教育の方法及び技術	教育方法及び技術	3	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	3	2
	教育相談の理論及び方法	教育相談	3	2
第五欄	教育実習	幼稚園教育実習 *事前事後指導1単位を含む	3・4	5
第六欄	教職実践演習	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計				40

(3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
教科又は教職に関する科目	認定こども園基本実習	2	1

(4) そ の 他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

2. 保育士資格

(1) 保育士とは

保育士は、「児童福祉法」に基づく国家資格です。その仕事の内容は、児童福祉施設（保育所、施設など）で児童の健全な育成をめざし保育にあたるとともに、ソーシャルワークの視点からカウンセリング能力や対話能力を身につけ、児童の保護者に対しても子育ての支援を行うことです。この保育士の資格の取得は、次の(2)に定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

児童福祉法に基づく資格の取得に必要な科目を履修することによって、保育士資格を取得することができます。本学では、「保育士資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目、選択必修科目を配当しています。(2019年度入学生はP11～、2018年度以前の入学生はP13～参照)

保育士資格取得に必要な科目一覧（2019・2020年度入学生）

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教 科 目	単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
外国語・体育 以外の科目	6以上	本学の教育	1	1	
		文章表現	1	4	
		会話演習	2	2	
		情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	* 2単位以上必修。 Ⅰの履修者はⅡまで計 4単位必修
		情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
		生活教養	1	4	
外 国 語	2以上	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	* 2単位以上必修。 Ⅰの履修者はⅡまで計 4単位必修
		英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
体 育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合 計	10以上			21	

(2) 専門教育科目

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修 年次	単位数
保育の本質・目的に関 する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論	2	2
	社会的養護	2	社会的養護Ⅰ	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関 する科目	保育の心理学	2	発達心理学	1	4
	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	2
	子どもの理解と援助	1	幼児理解の理論と方法	3	4
	子どもの保健	2	子どもの保健	1	2
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
保育の内容・方法に関 する科目	保育の計画と評価	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
保育内容指導法 表現Ⅰ			2	2	

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修 年次	単位数
保育の内容・方法に関する科目	保育内容の理解と方法	4	音楽	1	2
			図画工作	1	2
			体育	2	2
	乳児保育Ⅰ	2	乳児保育Ⅰ	2	2
	乳児保育Ⅱ	1	乳児保育Ⅱ	2	2
	子どもの健康と安全	1	子どもの健康と安全	2	1
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ	2	1
子育て支援	1	子育て支援	2	1	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅰ	2・3	2
	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅰ	3	4
総合演習	保育実践演習	2	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計		51	合 計		62

2. 選択必修科目

(1) 専門教育科目

系 列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の対象の理解に関する科目		教育行政	3	2	この中から 6単位以上 必修
		教育心理学	2	1	
		特別支援教育	3	2	
保育の内容・方法に関する科目	15単位 以上	教育方法及び技術	3	2	
		教育相談	3	2	
		国語	3	2	
		算数	3	2	
		保育内容指導法表現Ⅱ	3	2	
保育実習	2	保育実習Ⅱ	4	2	Ⅱ、Ⅲい ずれか3単位 選択必修
		保育実習Ⅲ	4		
	1	保育実習指導Ⅱ	3・4	1	
		保育実習指導Ⅲ	3・4		
合 計	18単位 以上	合 計		18	

(2) その他の科目

系 列	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている科目	認定こども園基本実習	2	1	いずれか 2単位必修
	ピアノ演習Ⅰ	1	2	
	器楽演習	1		
	ゼミナール	3・4	4	
合 計			7	

保育士資格取得に必要な科目一覧（2017・2018年度入学生）

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教 科 目	単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
外国語・体育 以外の科目	6以上	本学の教育	1	2	
		国語表現	1	4	
		会話演習	2	1	
		情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
		生活教養	1	4	
		国際理解論	1	2	
外 国 語	2以上	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
体 育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合 計	10以上			23	

※ 児童福祉法に基づく、保育士資格の必修科目の他に、「英書リーディング」（1年次英会話Ⅱの履修した者）を必修科目としています。

(2) 専門教育科目

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	児童家庭福祉	2	児童家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	相談援助	1	相談援助	2	1
	社会的養護	2	社会的養護	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	2	発達心理学	1	4
	保育の心理学Ⅱ	1	教育心理学	2	1
	子どもの保健Ⅰ	4	子どもの保健Ⅰ	1	4
	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの保健Ⅱ	2	1
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
	家庭支援論	2	家庭支援論	2	2
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
保育内容指導法 表現Ⅰ			2	2	

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数
保育の内容・方法に関する科目	乳児保育	2	乳児保育	2	2
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護内容	1	社会的養護内容	2	1
	保育相談支援	1	保育相談支援	2	1
保育の表現技術	保育の表現技術	4	音 楽	1	2
			図画工作	1	2
			体 育	2	2
保育実習	保育実習指導 I	2	保育実習指導 I	2・3	2
	保育実習 I	4	保育実習 I	3	4
総合演習	保育実践演習	2	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計		51	合 計		61

2. 選択必修科目

(1) 専門教育科目

系 列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の本質・目的に関する科目	15以上	地域福祉論	4	2	この中から 6単位以上 必修
保育の対象の理解に関する科目		発達障害	4	2	
		子育て支援政策	4	2	
		臨床心理学	3	2	
		カウンセリング概論	3	2	
保育の内容・方法に関する科目		カウンセリング演習	3	1	
		幼児理解の理論と方法	3	2	
保育の表現技術		ピアノ演習(初級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(中級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(上級レベル)	1	2	
		器楽演習	1	2	
保育実習		1	保育実習指導 II	3・4	
	2	保育実習 II	4	2	
	1	保育実習指導 III	3・4	1	
	2	保育実習 III	4	2	
合 計	18以上	合 計		27	

※ 「ピアノ演習」または「器楽演習」のうちいずれか2単位を必ず履修しなければなりません。さらに、実習科目から「保育実習Ⅱ」・「保育実習指導Ⅱ」、または「保育実習Ⅲ」・「保育実習指導Ⅲ」のいずれか3単位は必ず履修しなければなりません。

(2) そ の 他

こども学科では、児童福祉法に基づく保育士資格の必修科目の他に、「認定こども園基本実習」と「ゼミナール」を必修科目としています。

福祉学部こども学科 教育課程表 (2019・2020年度入学生)

科 目				単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履修年次				卒業		幼稚園 教諭一種		保育士		備 考	
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
分野	幼一	保	授業科目															
教 養	教育方針		本学の教育	1	講義	8	○				1		1	1				
	表現力 向上分野		文章表現	4	講義 演習	30	○				4		4	4				
			会話演習	2	演習	15		○			2		2	2			対話及びプレゼンテーションを含む	
	情報教育分野		情報機器操作Ⅰ	2	演習	15	○				① 2 2	2	2	2	2	2	2	① 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。
			情報機器操作Ⅱ	2	演習	15	○	○										
			情報機器操作Ⅲ	2	演習	15			○	○	2	2	2	2				
			スマートフォン活用法	1	演習	8			○	○	1	1	1	1				
		スマートフォンのモラルとリスク	1	演習	8			○	○	1	1	1	1					
		ウェブ動画制作	2	演習	15				○	2	2	2	2					
	人間関係分野		生活教養	4	講義 演習	30	○				4		4	4				
教 育	教養分野		音楽演習	2	演習	15	○				2	2	2					
			美術演習	2	演習	15	○				2	2	2					
			文学演習	2	演習	15	○				2	2	2					
			日本国憲法	2	講義	15		○			2	2		2				
			テレビ報道に見る現代理解	2	演習	15				○	2	2	2	2				
			教養演習Ⅰ	2	演習	15				○	2	2	2	2				
			教養演習Ⅱ	2	演習	15				○	2	2	2	2				
			地域研究	1	演習	15		○	○	○	1	1	1	1				
目	国際理解分野		英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	2	演習	15	○			② 2 2 2 4 単位必修	2	2	② 2 2 4 単位必修	2	② 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。 Ⅰの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。			
			英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	2	演習	15	○	○										
			英書リーディング	2	演習	15		○										
			国際理解論	2	講義	15	○			2	2	2	2					
			国際理解演習	2	演習	15	○			2	2	2	2					
	体育分野		体育講義	1	講義	8	○			1	1	1	1					
			体育実技	1	実技	20	○			1	1	1	1		種目選択制			
小 計				48 単位			14 科目	6 科目	4 科目	8 科目	19 単位	35 単位	8 単位	44 単位	19 単位	35 単位		

	幼教系列	保育士系列	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次				卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目	イ □	教育原理	2	講義	15		○			2		2		2		
			保育者論	2	講義	15	○				2		2		2		
			保育原理	2	講義	15	○				2		2	2			
			社会的養護 I	2	講義	15	○				2		2	2			
			社会福祉	2	講義	15	○				2		2	2			
			地域福祉論	2	講義	15				○		2		2		2	
			子ども家庭福祉	2	講義	15	○					2		2	2		
			子ども家庭支援論	2	講義	15		○				2		2	2		
			教育行政	2	講義	15			○			2	2		※	2	
			教育心理学	1	講義	15		○			1		1		※	1	
			発達心理学	4	講義	30	○				4		4		4		
			子ども家庭支援の心理学	2	講義	15		○				2		2	2		
			特別支援教育	2	講義	15			○			2	2		※	2	
			臨床心理学	2	講義	15			○		2			2	※	2	
	心理査定法	2	演習	30			○			2		2		2			
	発達障害	2	講義	15				○		2		2		2			
	カウンセリング概論	2	講義	15				○			2	2		2			
	カウンセリング演習	1	演習	15				○			1	1		1			
	子どもの保健	2	講義	15	○					2		2	2				
	子どもの食と栄養	2	演習	30		○					2	2	2				
	子育て支援政策	2	講義	15				○			2	2		2			
	幼児理解の理論と方法	2	演習	15				○			2	2		2			
	保育の対象的理解に関する科目	保育・教育課程論	2	講義	15	○					2		2		2		
		教育方法及び技術	2	演習	15			○			2	2		※	2	オムニバス	
		社会的養護 II	1	演習	15		○				1		1	1			
		子育て支援	1	演習	15		○				1		1	1			
		乳児保育 I	2	講義	15		○				2		2	2			
		乳児保育 II	1	演習	15		○				1		1	1			
子どもの健康と安全		1	演習	15		○				1		1	1				
障害児保育		2	演習	30			○			2		2	2				
教育相談		2	講義	15			○			2	2		※	2	カウンセリングを含む		
国語		2	講義	15			○			2	2		※	2			
算数		2	講義	15			○			2	2		※	2			
音楽		2	演習	30	○					2		2		2			
図画工作		2	演習	30	○					2		2		2			
体育		2	演習	30		○				2		2		2			
保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	2	演習	30	○					2		2		2			
	保育内容指導法 健康	2	演習	30			○			2		2		2			
	保育内容指導法 人間関係	2	演習	30				○		2		2		2			
	保育内容指導法 環境	2	演習	30		○				2		2		2			
	保育内容指導法 言葉	2	演習	30		○				2		2		2			
	保育内容指導法 表現 I	2	演習	30		○				2		2		2			
	保育内容指導法 表現 II	2	演習	30			○			2	2		※	2			
	保育内容指導法 表現 III	2	演習	30			○			2	2		※	2			
小計	82	単位			11	14	15	3	39	43	45	37	※6 54	28	単位	※印の科目は6単位以上、保育士資格必修	

	幼教系列	保育士系列	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次				卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
専門教育科目	教育実践に関する科目	イ	幼稚園教育実習	5	実習	時間割外			○	○	5	5			5	事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回・4年後期：3回	
		ロ	総合演習 保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15				○		2	2		2		
	保育実習		保育実習指導Ⅰ	2	演習	30		○	○			2		2	2	保育実習指導Ⅰ 授業回数 2年前期：2回・2年後期：8回 3年前期：15回・3年後期：5回	
			保育実習Ⅰ	4	実習	時間割外				○		4		4	4		
			保育実習指導Ⅱ	1	演習	15				○	○	1		1	3	保育実習指導Ⅱ 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	
			保育実習Ⅱ	2	実習	時間割外				○		2		2	③、④ いずれが 3単位 必修		
			保育実習指導Ⅲ	1	演習	15				○	○	1		1	3	保育実習指導Ⅲ 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	
			保育実習Ⅲ	2	実習	時間割外				○		2		2	④		
		認定こども園基本実習	1	実習	時間割外			○			1		1	1			
		学童保育	2	講義	15				○		2		2		2		
		ピアノ演習Ⅰ	2	演習	30	○					2	2	2	2	⑤ この内より2単位卒業必修		
		器楽演習	2	演習	30	○					2	2	2	2			
		ピアノ演習Ⅱ	2	演習	30			○			2		2		2		
		音楽療法概論	2	講義	15			○	○		2		2		2		
		音楽療法演習Ⅰ	2	演習	15			○	○		1		1		1		
		音楽療法演習Ⅱ	2	演習	15			○	○		1		1		1		
		器楽活用法Ⅰ	2	演習	15			○	○		2		2		2		
		器楽活用法Ⅱ	2	演習	15			○	○		2		2		2		
		園芸	2	演習	30				○		2		2		2		
		創作ミュージカル	2	演習	30			○			2		2	2			
	バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流	2	演習	時間割外	○	○				2		2		2			
	特別研究Ⅰ	1	演習	15				○		1		1		1			
	特別研究Ⅱ	1	演習	15				○		1		1		1			
	ゼミナール	4	演習	60			○	○		4		4		4	2年間継続履修 (単位認定は4年次)		
小計				50 単位			3 科目	3 科目	13 科目	16 科目	8 単位	42 単位	11 単位	37 単位	20 単位	33 単位	
専門科目合計				132 単位			14 科目	17 科目	28 科目	19 科目	47 単位	85 単位	52 単位	74 単位	80 単位	61 単位	
総合計				180 単位			28 科目	23 科目	32 科目	27 科目	66 単位	120 単位	60 単位	118 単位	99 単位	96 単位	

最低必要単位数

授業科目		卒業		幼稚園教諭一種		保育士	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
教養教育科目	教育方針	1単位	7単位以上	1単位	5単位以上	1単位	7単位以上
	表現力向上分野	6単位		6単位		6単位	
	情報教育分野	2単位		2単位		2単位	
	人間関係分野	4単位		4単位		4単位	
	教養分野	—		2単位		—	
	国際理解分野	4単位		4単位		4単位	
	体育分野	2単位		2単位		2単位	
小計		19単位	7単位以上	21単位	5単位以上	19単位	7単位以上
合計		26単位以上		26単位以上		26単位以上	
専門教育科目	教職・保育士	39単位	51単位以上	52単位	38単位以上	65単位	18単位以上
	本学独自の科目	8単位		8単位		9単位	
小計		47単位	51単位以上	60単位	38単位以上	80単位	18単位以上
合計		98単位以上		98単位以上		98単位以上	
総合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

福祉学部こども学科 教育課程表 (2017・2018年度入学生)

科 目			単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考			
						1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択				
分 野	幼 一	保	授 業 科 目	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期							必 修	選 択	必 修	選 択
教 養	教育方針			本学の教育	2	講義	15	○							2		2		2				
	表現力 向上分野			国語表現	4	講義 演習	30	○	○						4		4		4				
					会話演習	1	演習	15		○					1		1		1				
	情報教育 分野				情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	2	演習	30	○	○					20	2	20	2	20	2			
					情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	2	演習	30	○	○	○	○		2							2	2	
					情報機器操作ⅢA	2	演習	30			○	○	○	○							2	2	2
					情報機器操作ⅢB	2	演習	30			○	○	○	○							2	2	2
	人間関係 分野				生活教養	4	講義 演習	30	○	○					4		4		4				
					生活と安全	2	講義	15	○						2		2		2				
	教 養	教養分野			音楽演習	2	演習	30			○	○			2		2		2				
					美術演習	2	演習	30	○	○					2		2		2				
					文学演習	2	演習	30	○	○					2		2		2				
					食彩演習	1	演習	15			○				1		1		1				
						日本国憲法	2	講義	15			○				2	2			2			
	育 科	国際理解 分野			英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	2	演習	30	○	○					②2科目 4単位必修	2	②2単位 必修	2	②2単位 必修	2			
				英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	2	演習	30	○	○	○	○	2	2										
				英書リーディング	2	演習	30			○	○	2	2										
				中国語会話Ⅰ	2	演習	30			○	○	2	2										
				中国語会話Ⅱ	2	演習	30				○	○	2	2									
				国際理解論	2	講義	15	○					2	2									
					体育講義	1	講義	8		○				1		1							
目	体育分野			体育実技Ⅰ	1	実技	23	○	○					1		1		1	バレーボール、テニス、バドミントン、ヒップホップ&ジャズダンス、ボディ・コンディショニング				
				体育実技Ⅱ	1	実技	23		○	○			1		1	バレーボール、テニス、バドミントン、ヒップホップ&ジャズダンス、ボディ・コンディショニング							
		小 計			47 単位			12 科目	11 科目	5 科目	6 科目	4 科目	4 科目	3 科目	3 科目	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位		

関する区分	教員免許に 関係する科目	保育士(幼稚園)の 資格取得に 関係する科目	単位		授業 形態	授業 回数	履修年次								卒業		幼稚園 教諭一種		保育士		備考	
			数	数			1年次		2年次		3年次		4年次		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専 門 に 関 する 科 目	保育の本質・目的に関する科目	○	○	保育者論	2	講義	15		○						2		2		2			
		○	○	教育原理	2	講義	15			○					2		2		2			
			○	保育原理	2	講義	15			○					2		2		2			
			○	社会的養護	2	講義	15			○					2		2		2			
			○	社会福祉	2	講義	15	○							2		2		2			
			◇	地域福祉論	2	講義	15						○			2		2		2		
			○	相談援助	1	演習	15			○						1		1		1		
			○	児童家庭福祉	2	講義	15	○								2		2		2		
		保育の対象の理解に関する科目	○		教育行政	2	講義	15				○				2	2					2
			○	○	教育心理学	1	演習	15			○					1		1		1		
			○	○	発達心理学	4	講義	30	○	○						4	4		4			
				◇	臨床心理学	2	講義	15					○				2		2		2	
					心理査定法	2	演習	30				○	○				2		2		2	
					育児ストレス	2	講義	15					○				2		2		2	
				◇	発達障害	2	講義	15						○			2		2		2	
			◇	カウンセリング概論	2	講義	15					○				2		2		2		
			◇	カウンセリング演習	1	演習	15					○				1		1		1		
			○	子どもの保健Ⅰ	4	講義	30	○	○							4		4		4		
			○	子どもの保健Ⅱ	1	演習	15			○	○					1		1		1		
				母子保健Ⅰ	2	講義	15						○			2		2		2		
				母子保健Ⅱ	2	講義	15							○		2		2		2		
			○	子どもの食と栄養	2	演習	30			○	○					2		2		2		
				食物アレルギー事例研究	1	演習	15						○			1		1		1		
		○	家庭支援論	2	講義	15					○				2		2		2			
		◇	子育て支援政策	2	講義	15						○			2		2		2			
	保育の内容・方法及び指導法に関する科目	○	○	保育・教育課程論	2	講義	15		○						2		2		2		オムニバス	
		○	○	保育内容総論	2	演習	30	○	○						2		2		2			
		○	○	保育内容指導法 健康	2	演習	30				○	○			2		2		2			
		○	○	保育内容指導法 人間関係	2	演習	30				○	○			2		2		2			
		○	○	保育内容指導法 環境	2	演習	30			○	○				2		2		2			
		○	○	保育内容指導法 言葉	2	演習	30			○	○				2		2		2			
		○	○	保育内容指導法 表現Ⅰ	2	演習	30			○	○				2		2		2			
		○		保育内容指導法 表現Ⅱ	2	演習	30				○	○				2	2			2		
				教育方法及び技術	2	演習	15				○					2	2				2	オムニバス
			○	社会的養護内容	1	演習	15			○						1		1		1		
			○	保育相談支援	1	演習	15				○					1		1		1		
			○	乳児保育	2	演習	30			○	○					2		2		2		
			○	障害児保育	2	演習	30				○	○				2		2		2		
		保育実習	○	◇	幼児理解の理論と方法	2	講義	15					○			2	2			2		
			○		教育相談	2	講義	15					○			2	2			2		カウンセリングを含む
				保護者対応事例研究	1	演習	15						○			1		1		1		
	○		○	保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15						○			2	2		2			
				認定こども園基本実習	1	実習	時間 割外			○	○					1	1		1			
	○			幼稚園教育実習	5	実習	時間 割外					○	○	○		5	5		5		事前：事後指導1単位を含む 授業回数：7回 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回	
			○	保育実習指導Ⅰ	2	演習	30			○	○	○	○			2		2		2	保育実習指導Ⅰ 授業回数：2回 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回	
	○		保育実習Ⅰ	4	実習	時間 割外					○	○			4		4		4			
			保育実習指導Ⅱ	1	演習	15					○	○	○		1		1		3③			
	◆		保育実習Ⅱ	2	実習	時間 割外						○	○		2		2		3③			
			保育実習指導Ⅲ	1	演習	15					○	○	○		1		1		3④			
	◆		保育実習Ⅲ	2	実習	時間 割外						○	○		2		2		3④			
小計				98 単位			5 科目	7 科目	12 科目	10 科目	11 科目	14 科目	9 科目	7 科目	35 単位	63 単位	41 単位	57 単位	59 単位	39 単位		

専 門 教 育 科 目	教員免許に關する科目	保育士資格に關する科目	履 修 年 次		単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考
			1 年 次					2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択			
			前 期	後 期				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教 科 目 開 示 の 科 目	保 育 の 表 現 技 術	◇	ピアノ演習 (初級レベル)	2	演習	30	○	○							26	2	2	2	⑤ この内より2単位必修			
		◇	ピアノ演習 (中級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	ピアノ演習 (上級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	器楽演習	2	演習	30	○	○								2	2	2				
	●		国 語	2	講義	15				○					2	2	2	2				
	●		算 数	2	講義	15				○					2	2	2	2				
	●	◎	音 楽	2	演習	30	○	○						2	2	2	2					
	●	◎	図画工作	2	演習	30	○	○						2	2	2	2					
	●	◎	体 育	2	演習	30			○	○				2	2	2	2					
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目			学童保育	2	講義	15					○			2	2	2	2				
			学童保育実習	1	実習	時間割外					○	○		1	1	1	1					
			教育内容指導法 国語	2	演習	15					○			2	2	2	2					
			教育内容指導法 算数	2	演習	15					○			2	2	2	2					
			教育内容指導法 音楽	2	演習	15						○		2	2	2	2					
			教育内容指導法 図画工作	2	演習	15						○		2	2	2	2					
			教育内容指導法 体育	2	演習	15						○		2	2	2	2					
本 学 独 自 の 科 目				園芸	2	演習	30					○	○		2	2	2	2				
				創作ミュージカル	2	演習	30					○	○	2	2	2	2					
				バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	2	演習	時間割外	○	○	○	○				2	2	2					
			特別研究Ⅰ	1	演習	15					○			1	1	1						
			特別研究Ⅱ	1	演習	15						○		1	1	1						
			ゼミナール	4	演習	60				○	○	○	○	4	4	4	2年間継続履修					
小 計				43			7	7	2	2	2	2	8	8	14	29	14	29	10	33		
総 合 計				188			24	25	19	18	17	20	20	18	70	118	76	112	90	98		

最低必要単位数

授 業 科 目		卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士	
		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
教 養 教 育 科 目	教 育 方 針	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上
	表 現 力 向 上 分 野	5単位		5単位			
	情 報 教 育 分 野	2単位		2単位			
	人 間 関 係 分 野	4単位		4単位			
	教 養 分 野	—		—			
	国 際 理 解 分 野	6単位		4単位			
	体 育 分 野	2単位		2単位			
小 計		21単位	7単位以上	21単位	7単位以上	21単位	7単位以上
合 計		28単位以上		28単位以上		28単位以上	
専 門 教 育 科 目	教 職	35単位	47単位以上	41単位	41単位以上	71単位	21単位以上
	教 科	8単位		10単位 (●印)		(◎印61単位+○印より6単位+●印より3単位+1単位)	
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目	—		—		—	
	本 学 独 自 の 科 目	6単位		4単位		4単位	
小 計		49単位	47単位以上	55単位	41単位以上	75単位	21単位以上
合 計		96単位以上		96単位以上		96単位以上	
総 合 計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

福祉学部こども学科カリキュラムツリー (2017・2018年度入学生用)

福祉学部こども学科の教育目標…教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を養成
項目
(1) 「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得 (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち、 ① 明るく、意欲深く、思いやり、使命感、責任感、専門意識、協働性(努力)は職業教育科 ② 研究意欲、協働性(努力)は職業教育科 ③ 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の課題の把握 や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得

科目名	専門教育科目				教養教育科目				専門教育科目(実習)			
	教育の意義、教育の基礎理論 保育の本質・目的 保育の対象の理解	教育課程及び指導法/ 生徒指導・教育相談及び進 路指導等 保育の内容・方法	教育実践 教職実践 総合演習	教材に関する科目 保育の基礎技術	学童クラブ指導科目	本学独自の科目	※上記諸資質(明朗、意欲深く、思いやり、使命感、責任感、専門意識、協働性(努力))は職業教育科 自立案を通して学ぶものである	事前・事後指導	教育実習 (事前・事後指導を 含む)	教科又は教職に 関する科目	保育実習	
4年	発達障害 母子保健Ⅰ 母子保健Ⅱ 食物アレルギー—事例研究 地域福祉論	保育課程及び指導法 健康 保育内容指導法 人間関係 保育内容指導法 表現Ⅱ 保育内容指導法 表現Ⅲ 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園教職実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3・4年生継続科目)	情報機器操作ⅢA (3・4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3・4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ (3・4年生継続科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (幼稚園教育実習 (3・4年生継続科目))						
3年	教育行政 臨床心理学 心理療法学 育児ストレス カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育内容指導法 健康 保育内容指導法 人間関係 保育内容指導法 表現Ⅱ 保育内容指導法 表現Ⅲ 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園教職実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3・4年生継続科目)	情報機器操作ⅢA (3・4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3・4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ (3・4年生継続科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (幼稚園教育実習 (3・4年生継続科目))						
2年	教育心理学 子どもの保健Ⅱ 子どもの食と栄養 教育原理 相談援助 家庭教育論	保育内容指導法 環境 保育内容指導法 言葉 保育内容指導法 表現Ⅰ 社会的養護内容 保育相談支援 乳児保育	保育・幼稚園教職実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3・4年生継続科目)	情報機器操作ⅢA (3・4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3・4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ (3・4年生継続科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (幼稚園教育実習 (3・4年生継続科目))						
1年	保育者論 保育原理 社会的養護 社会福祉 児童家庭福祉 児童心理学 子どもの保健Ⅰ	保育内容指導法 環境 保育内容指導法 言葉 保育内容指導法 表現Ⅰ 社会的養護内容 保育相談支援 乳児保育	保育・幼稚園教職実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3・4年生継続科目)	情報機器操作ⅢA (3・4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3・4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ (3・4年生継続科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (幼稚園教育実習 (3・4年生継続科目))						

IV. 実習（認定こども園基本実習・幼稚園教育実習・保育実習・学童保育実習）

(1) 認定こども園基本実習

認定こども園基本実習は、保育士資格取得のための必修科目です。

福島学院大学認定こども園で1週間の基本実習を行います。認定こども園基本実習をまとめると、表1のようになります。

表1 「認定こども園基本実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
福島学院大学認定こども園 (幼保連携型)	2	9月又は2月	1週間	1単位	保育士資格取得希望者必修

〈認定こども園基本実習の指導内容〉

1. 保育者としての愛情と使命感を深め、自己の保育者としての能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（保育者の心構え）
 - 保育者の望ましい資質
 - 幼児教育の考え方
 - 実習の反省と適性への自己評価
2. 実習日誌、指導計画作成の仕方を学び、日案や部分的な指導案を理解する。
 - 実習日誌の書き方
 - 週案と日案の関係、目標の立て方
 - 環境構成の仕方
3. 観察実習・技術演習等を通じて、指導法の基礎を体験的に理解する。
 - 幼児への興味を引き出す保育方法
 - 自由遊びにおける指導法
 - 音楽を通しての幼児とのかかわり方
 - 教材研究と教材教具の準備の仕方
 - 一人ひとりの子どもの発達の特性に応じたかかわり方
 - 基本的生活習慣の指導
4. 実際に保育者と幼児のかかわりを通して幼児理解を深める。
 - 幼児の行動の観察からの読み取り
 - 幼児とのかかわり方
5. 幼児教育の実際についての体験的・総合的理解を与え、適切な勤務態度を身につける。
 - 施設・設備とその活用
 - 園の1日・1年の生活
 - 保育者の職務内容
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、清掃と整理整頓の仕方等）

(2) 幼稚園教育実習

幼稚園教育実習は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。履修方法は学外実習と実習に関する事前・事後指導があり、単位数は5単位です。

学外実習は4年次に幼稚園での本実習が4週間です。教育実習をまとめると、表2のようになります。

表2 「幼稚園教育実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
幼稚園	4	9月	4週間	5単位	幼稚園教諭一種免許状取得希望者必修 (事前・事後指導1単位を含む)

実習に関する事前・事後指導は、クラスセミナーでの実習指導や実習授業、実習反省会等で行います。

幼稚園教育実習の目標

1. 幼稚園についてその実態を知り理解を深める。
2. 幼稚園教諭の職務や役割を体験的に理解し、責任感を喚起する。
3. 指導計画の役割について実際の保育に即して理解する。
4. 指導・援助について実践的に学ぶと共に、経験者の幼児教育に対する姿勢や考え方に触れる。
5. 幼稚園教諭としての適切な勤務態度を身につける。
6. 子どもの発達を現実に即して理解すると共に、幼稚園教諭が担う役割について考える。
7. 幼稚園教諭に求められる適性や態度、能力等について実感を持って考え、自己を見直す。

〈幼稚園教育実習の指導内容〉

1. 幼稚園教諭としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（幼稚園教諭の役割） ○幼児教育の考え方
 - 幼稚園教諭の望ましい資質 ○実習の反省と適性への自己評価
2. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、指導計画の作成と実施・評価等の関連の理解と実践のための能力を高める。
 - 日案や部分的な指導案の作成の仕方 ○実施結果の反省・評価の仕方
 - 反省・評価に基づく新たな計画のたて方
3. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、様々な指導方法を体験し、理解する。
 - 指導案として計画された経験や活動の望ましい指導方法
 - 幼児の動きに即応した弾力的な指導法
 - 環境構成の仕方 ○生活指導の技術
4. 幼児理解の方法について体験し、実際の指導の上で活用する能力を高める。
 - 観察と記録のとり方 ○幼児の行動記録の集積とその活用
 - 問題行動への対応の仕方 ○幼児の発達を考慮した指導計画や指導方法への生かし方
5. 幼児教育の実践についての体験的、総合的理解と、適切な勤務態度を身につける。
 - 幼稚園の施設・設備とその活用 ○幼稚園の教育計画
 - 幼稚園教諭の職務内容 ○保護者や地域との関連と接し方
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、職場内の人間関係等）

表3 『幼稚園教育実習』での標準的な指導計画

実 習 内 容	
事前 (学外)	<ul style="list-style-type: none"> ○実習園を訪問し、事前打ち合わせを行う。 ○オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・出勤・退勤時間の確認、服装（出退勤時や保育中）、その他勤務上の注意点、施設内外の見学、設立の沿革、教育目標、年齢・園児数・クラス編成等、職員組織・構成、教育実習の心得他 ・教育課程、実習期間中の月案および行事・週案等、ディリープログラム、部分実習や全日実習について、季節の歌などの課題曲の選定や楽譜等について
第1週	<ul style="list-style-type: none"> ○指導講話（園長・実習担当者等） <ul style="list-style-type: none"> ・園長講話（幼児教育や幼稚園教諭の在り方等に関する講義等） ・実習担当教諭との打ち合わせ（本日のねらいおよび保育内容他） ・観察（クラスの幼児の活動、一日の生活の流れ、担任の保育の仕方等） 参加（保育室の環境構成、保育援助、教材・教具の準備、清掃、保育室の整理・整頓等） ・打ち合わせ（指導計画について、一日の反省・考察等）
第2週	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・参加（参加が中心となって展開する） ○部分実習（30分程度）の指導案作成（作成の仕方の指導） <ul style="list-style-type: none"> ・部分実習（第2～3週にかけて、出来る限り3回以上） ・部分実習についての反省会
第3週	<ul style="list-style-type: none"> ○保育にティーチングアシスタントとして参加 ○日案作成（実習先の形式による作成の仕方での指導）
第4週	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・参加（第2～3週に同じ） ○全日実習（出来る限り2回以上） <ul style="list-style-type: none"> ・全日実習についての反省会（反省・考察・改善および今後の課題等についての指導） ○園長、主任、担任教諭との話し合い（実習のまとめと評価についての指導）
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○実習のまとめをする（振り返り）

(3) 保育実習

〔保育実習Ⅰ〕

保育実習Ⅰは保育士資格取得のための必修科目です。保育実習指導Ⅰの2単位の他、保育所における実習2単位と、その他表4(A)に掲げる保育所以外の施設における実習2単位を履修します。

実習実施の細目は下記のとおりです。

表4 『保育実習Ⅰ』実施基準(その1)

実習種別	履修方法		実習施設
	単位数	おおむねの実習日数	
保育実習Ⅰ	4単位	20日	(A)

※実習施設の種別は、次の通りです。

- (A) 保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第6条の3第10項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）第3章第2節に規定する小規模保育事業A型及び同基準同章第3節に規定する小規模保育B型に限る）若しくは同条第12項の事業所内保育事業であって同法第34条の15第1項の事業及び同法同条第2項の認可を受けたもの（以下「小規模保育A・B型及び事業所内保育事業」という。）及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る）、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

以上の実施基準を別表にまとめると次のようになります。

表5 『保育実習Ⅰ』実施基準(その2)

実習種別	保育実習Ⅰ		
	保育士資格取得希望者は必修		
実習施設 実習日数 単位数	保育所	おおむね10日間	2単位
	保育所を除く表4(A)欄に掲げる施設	おおむね10日間	2単位

表4、表5に示されているのが現行の実施基準です。本学ではこの基準を踏まえて、より実習の効果をあげることを目的として、独自の方法で実施しています。

保育実習Ⅰの履修方法は、学外実習と学内での保育実習指導Ⅰがあります。

2年次には、実習の基礎を学ぶために福島学院大学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間実施します。3年次には保育所と児童福祉施設実習での実習をおおむね10日間ずつ行います。実習の実施時期は、表6の通りです。

学内での実習に関する事前・事後指導は、教育実習同様、1年次から3年次までの3年間、クラスセミナーでの実習指導や実習の授業、実習反省会等に出席しなければなりません。

表6 「保育実習Ⅰ」実施時期

実習施設	学年	実施時期	実習日数	備考
保育所	3	7月～8月	おおむね10日間	保育所実習
児童福祉施設（保育所を除く）	3	10月～11月	おおむね10日間	児童福祉施設実習

保育実習Ⅰの目標（保育所・児童福祉施設）

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

〔保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ〕

保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、保育士資格取得の選択必修科目です。したがって、資格を取得するためには、保育実習のほかにどちらかを選択し、履修しなければなりません。詳細は表7の通りです。

なお、保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（各1単位）もどちらかを履修します。授業内容は授業計画をご覧ください。

表7 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」実施基準・時期

実習種別	実習施設	単位数	学年	実習日数	実習時期	備考
保育実習Ⅱ	保育所	2単位	4	おおむね10日間	7～8月	どちらか一科目 を履修する
保育実習Ⅲ	(B)	2単位	4	おおむね10日間	7～8月	

(B) 児童厚生施設又は児童発達支援センター、その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）

保育実習Ⅱの目標（保育所）

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習Ⅲの目標（児童福祉施設）

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

(4) 児童福祉施設見学実習

一年次後期以降各授業への動機づけによる幼児教育・保育に関わる専門学科での学びの意識高揚を目的とした教育行事として児童福祉施設見学実習を実施します。

表8 「児童福祉施設見学実習」実施時期

見学実習先	学年	実習時期	実習日数
児童福祉施設および保育所	1	9月	1日

(5) 実習反省会について

本科では、教育実習・保育実習における事前・事後指導の一環として、学外における全実習終了後に「実習反省会」を開催します。

この実習反省会は、教育実習・保育実習の授業回数に含められ、単位認定に関わるものなので、必ず出席しなければなりません。

〈実習反省会の目的〉

実習反省会の目的は、1・2年次は実習事前学習の一環として実施するもので、実習内容の理解と実習に対する意欲高揚を図ります。

3・4年次は実習事後学習の一環として、実習の振り返りと保育者としての自覚深化を目指します。

(6) 実習の履修制限・解除

教育実習・保育実習などについては、実習の履修制限があります。

※詳細については履修規程第27条（実習の履修制限）をご覧ください。

なお、履修制限にかかっても、本人の努力次第で解除される場合もありますので、同規程の第28条（履修制限の解除）も併せてご覧ください。

V. その他

(1) クラスセミナー

こども学科では、各学年ともにクラスセミナーを実施しています。その内容は、就職に関する説明会や相談会、学力向上を目指す講座、さらに、現代社会に対応していくための生活指導など、学生の皆さんにとって直接的に関わる重要な内容が数多く計画されております。

また、教員と学生一人ひとりとの直接的な話を重視するという観点から、クラスアドバイザー（クラス担当教員）による個人面談を年2回実施し、学習や生活相談などを受ける機会を設けています。

(2) 表彰制度

本学では、GPA制度の導入により、教育の質的向上及び学生の学力向上を図ると共に、学業成績が特に優秀で、人格に優れ他者の模範となるような学生を褒賞する各表彰制度を設けています。自ら研鑽して修得する姿勢に報い、学友と共に、若き日に努力することの尊さを認め合う点からも異議あることと考えています。

表彰には、授業科目の成績の他、教育実習や保育実習など学外実習の成績、また学外活動等を参考に学長賞、学部長賞、学科長顕賞が授与されます。

制定 15. 4. 1
改正 16. 4. 1
// 23. 3. 1
// 30.10. 1

制定 15. 4. 1

制定 30. 10. 1

福島学院大学学長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する学長褒賞の実施について定めることを目的とします。

(褒賞の実施)

第2条 褒賞は卒業時に行います。
ただし、必要に応じ適時とすることがあります。

(褒賞者の選考および決定)

第3条 褒賞者の選考は、第4条の規定に該当し、各学科長が学科会議の議を経て学部長の了解のもとに推薦する学生について、教授会において審査し、学長が決定します。

(褒賞者選考の基準)

第4条 選考は学則第51条第2項の各号に沿い、次の各号(基準)の2以上に該当する者を対象として行います。

1. 学業成績が優秀で、人格に優れている者
成績評点平均点88点以上の者、またはA評価が40科目以上でC評価がない者で、人格に優れ、他の模範となる者
 2. 学外実習において、特に高い成績評価を得た者
 - (1) 福祉心理学科にあっては、開設する学外実習において、90点以上の評価を得た者。
ただし、2科目以上の学外実習を履修した場合は、その平均点が90点以上の評価を得た者
 - (2) こども学科にあっては、幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの学外実習において、履修した3種実習科目の平均点が90点以上を得た者
 3. 学生の課外活動もしくは学内の自主活動において特に優れた実績をあげた者
学友会、学科学友会、クラブの責任者として本学の充実・発展につながる業績をあげた者
 4. 学外活動もしくはボランティア活動において優れた実績をあげた者
 - (1) 地方または全国的規模で行われた権威のある展覧会、コンクール、体育大会、競技会等において入賞(順位の定めのある場合は3位以内)もしくは国際的な大会等に日本代表として出場、出展した者
 - (2) 社会的貢献活動において顕著な業績をあげ、本学の名誉の高揚に貢献した者
 5. その他学生の模範となる顕著な行為のあった者
善行、人命救助、奉仕的活動、研究発表、発明発見等において顕著な行為のあった者
- 2 前項各号により、顕著に優れた者は、該当基準を1とすることができます。

(褒賞の重複)

第5条 学長賞と学部長賞については、学長賞を優先し、重複を避けて褒賞するものとします。

(褒賞の方法)

第6条 褒賞は、表彰状、記念品等によって行います。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行し、平成30年度卒業生から適用します。
2. この規程の所管は教務課とします。

学部長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する学長褒賞以外に福祉学部の学生のうち、学業優秀かつ品行善良で他の模範となる者の表彰について定めることを目的とする。

(表彰の実施)

第2条 表彰は卒業時に学長の立会いのもとに、学部長がこれを行う。

(表彰者の選考および決定)

第3条 表彰者の選考は、第4条の規定に該当する学生について、教授会の議を経て、学長の承認のもとに学部長が決定する。

(表彰者選考の基準)

第4条 選考は、次の各号のすべてに該当する者を対象として行う。

1. 品行善良な者
 2. 学業成績が特に優秀な者
原則としてGPA85点以上の者、またはA評価35科目以上でC評価のない者
 3. 学外実習において特に優秀な評価を得た者のうち各々実習総合評価点80点以上の者
 4. 課外活動(学友会、クラブ、クラス活動等)においてよくその職責もしくは活動を遂行した者
- 2 前項第2号該当者の中で、GPA88点以上の者、もしくは学外活動(ボランティア活動を含む)で実績をあげた者、またはA評価40科目以上を取得した者については、その他の各号に該当しない場合でも、表彰選考対象者に加えるものとする。

(表彰の方法)

第5条 表彰は、表彰状、記章、記念品等によって行う。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

こども学科長顕賞規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する褒賞のうち、こども学科の学生について、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育目標に沿い、幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ(保育所・福祉施設)、および保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの4種実習のうち履修した3種実習以上について、80点以上の者の顕賞について定めることを目的とします。

(顕賞の実施)

第2条 顕賞は各年度、学部長の立会いのもとに、実習反省会実施時にこども学科長がこれを行います。

(顕賞者の決定)

第3条 顕賞者の決定は、こども学科会議で確認の上、学部長及び学長の承認のもとにこども学科長が決定します。

(顕賞の方法)

第4条 顕賞は、表彰状と図書カード(5千円)をもって顕賞者に授与するものとします。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行します。
2. この規程は、こども学科の所管とします。

2020年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【1年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
本学の教育	桜 田 葉 子	1			1	1			33
文章表現	安 田 信 二	4			4	4			36
情報機器操作Ⅰ	桑 木 道 子	2 ①	2	2 ①	2	2 ①	2	① 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。	40
情報機器操作Ⅱ	桑 木 道 子		2		2		2		43
生活教養	渡 辺 雅 子	4			4	4			46
美術演習	鈴 木 美 樹		2		2		2		52
音楽演習	長 尾 順一郎		2		2		2		55
文学演習	中 野 真 樹		2		2		2		58
英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	オカンポ・メリッサ・ブラザ	2 ②	2	2 ②	2	2 ②	2	② 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。Ⅰの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。	61
英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	オカンポ・メリッサ・ブラザ		2		2		2		64
国際理解論	坂 本 恒 夫		2		2		2		68
国際理解演習	中 丸 一 志		2		2		2		71
体育講義	島 田 貴 広	1		1		1		11月下旬より 8コマ	74
体育実技 (バレーボール)	島 田 貴 広	1 単位必修		1 単位必修		1 単位必修			76
体育実技 (バドミントン)	島 田 貴 広 藤 本 要							79	
体育実技 (レクリエーションスポーツ)	金 野 麻 衣							82	
体育実技 (バスケットボール)	宮 崎 利 勝							85	
体育実技 (卓球)	宮 崎 利 勝							88	
体育実技 (サッカー)	原 隆 弘							91	
保育者論	長 島 輝 子	2		2		2			94
保育原理	山 崎 信 政	2			2	2			97
社会的養護Ⅰ	八 木 孝 憲	2			2	2			100
社会福祉	日 下 輝 美	2			2	2			103
子ども家庭福祉	今 清 孝		2		2	2			106
発達心理学	梅 宮 れいか	4		4		4			109
子どもの保健	湯 田 厚 子	2			2	2			113
保育・教育課程論	渡 辺 博 志	2		2		2			116
音楽	長 尾 順一郎	2		2		2			119
図画工作	古 畑 雅 規	2		2		2		1/2クラスで実施	123
保育内容総論	鈴 木 智 子	2		2		2			126
ピアノ演習Ⅰ	山 崎 信 政	2 単位必修	2	2	2 単位必修	2			131
	ミハウ・ソブコヴィアク								
器楽演習	長 尾 順一郎		2				2		2
パリダンスレッスンと パリ島幼稚園交流	佐 藤 敦 子		2		2		2		143

2020年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【2年次生】

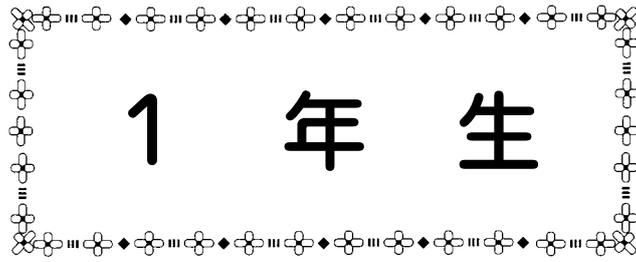
授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
会話演習	藤 間 久 子	2			2	2		1 / 2クラスで2コマ実施	147
日本国憲法	菅 原 好 秀		2	2			2		150
英書リーディング	高 橋 了 治		2		2		2	1年次に「英会話Ⅱ」のみを履修した者は必修	153
教育原理	関 本 仁	2		2		2			157
子ども家庭支援の心理学	八 木 孝 憲		2		2	2			160
教育心理学	田 辺 稔	1		1		1			162
子どもの健康と安全	湯 田 厚 子		1		1	1		1 / 2クラスで実施	165
子どもの食と栄養	田 村 佳奈美		2		2	2			168
子ども家庭支援論	高 橋 雄 二		2		2	2			172
社会的養護Ⅱ	板 垣 健太郎		1		1	1			175
子育て支援	今 清 孝		1		1	1			177
乳児保育Ⅰ	永 澤 孝 子		2		2	2			180
乳児保育Ⅱ	永 澤 孝 子		1		1	1			184
体育	島 田 貴 広	2		2		2			188
保育内容指導演法 環境	杉 浦 広 幸	2		2		2			191
保育内容指導演法 言葉	中 野 真 樹	2		2		2			195
保育内容指導演法 表現Ⅰ	鈴 木 美 樹	2		2		2		1 / 2クラスで実施	199
認定こども園基本実習	長久保 和 子 鈴 木 翔 太		1	1		1		実習時期9月・2月	203
保育実習指導Ⅰ	今 清 孝 太 鈴 木 翔 太		2		2	2		2年間継続履修 授業回数 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回	205
バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流	佐 藤 敦 子		2		2		2		143

2020年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【3年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
音楽演習	長尾 順一郎		2		2		2		209
教育行政	関本 仁		2	2			2		213
臨床心理学	佐藤 佑貴	2			2		2		216
心理査定法	渡邊 宏周		2		2		2		219
カウンセリング概論	杉山 雅彦		2		2		2		222
幼児理解の理論と方法	佐藤 佑貴		2	2			2		224
教育方法及び技術	佐藤 博英 鈴木 忠雄		2	2			2	オムニバス 佐藤 11コマ(前半) 鈴木 4コマ(後半)	227
障害児保育	北村 壽秋		2		2	2			230
教育相談	佐藤 佑貴		2	2			2		234
国語	中野 真樹		2	2			2		237
算数	佐藤 博英		2	2			2		240
保育内容指導法 健康	藤本 要	2		2		2			243
保育内容指導法 人間関係	鈴木 智子	2		2		2			247
保育内容指導法 表現Ⅱ	鈴木 裕美子		2	2			2		252
創作ミュージカル	長尾 順一郎	2			2	2			256
保育実習指導Ⅰ	今鈴木 清孝 鈴木 翔太		2		2	2		2年間継続履修 授業回数 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回	205
保育実習Ⅰ	今鈴木 清孝 鈴木 翔太		4		4	4		実習時期7月～8月	259
幼稚園教育実習	長久保 和子 長島 輝子		5	5			5	2年間継続履修 事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回	261
保育実習指導Ⅱ	今鈴木 清孝 鈴木 翔太		1		1		1	2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	264
保育実習指導Ⅲ	高橋 雄二		1		1		1	2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	267
ゼミナール	田辺 稔	4		4			4	2年間継続履修	269
ゼミナール	今 清孝	4		4			4	2年間継続履修	274
ゼミナール	古畑 雅規	4		4			4	2年間継続履修	280
ゼミナール	渡辺 博志	4		4			4	2年間継続履修	284
ゼミナール	山崎 信政	4		4			4	2年間継続履修	290
ゼミナール	鈴木 美樹	4		4			4	2年間継続履修	294
ゼミナール	佐藤 佑貴	4		4			4	2年間継続履修	301
ゼミナール	島田 貴広	4		4			4	2年間継続履修	306
ゼミナール	八木 孝憲	4		4			4	2年間継続履修	311
ゼミナール	長尾 順一郎	4		4			4	2年間継続履修	315

2020年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【4年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
地域福祉論	日 下 輝 美		2		2		2		321
子育て支援政策	桜 田 葉 子		2		2		2		325
保護者対応事例研究	山 崎 信 政		1		1		1		328
保育・幼稚園教職実践演習	渡 辺 博 志		2	2		2			330
保育実習Ⅱ	今 鈴 木 清 孝 太		2		2	2 単位必修	2	実習時期7月～8月	333
保育実習Ⅲ	高 橋 雄 二		2		2		2	実習時期7月～8月	335
学童保育	鈴 木 翔 太		2		2		2		337
教育内容指導法 算数	佐 藤 博 英		2		2		2		340
特別研究Ⅰ	橋 本 ヨシイ		1		1		1	お菓子づくり・パンづくり	343
特別研究Ⅱ	菅 田 清 正		1		1		1	園行事等映像制作	346
幼稚園教育実習	長久保 和 子 長 島 輝 子		5	5			5	2年間継続履修 事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回	261
保育実習指導Ⅱ	今 鈴 木 清 孝 太		1		1	1 単位必修		2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	264
保育実習指導Ⅲ	高 橋 雄 二		1		1			2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	267
ゼミナール	田 辺 稔	4		4			4	2年間継続履修	269
ゼミナール	今 清 孝	4		4			4	2年間継続履修	274
ゼミナール	古 畑 雅 規	4		4			4	2年間継続履修	280
ゼミナール	渡 辺 博 志	4		4			4	2年間継続履修	284
ゼミナール	山 崎 信 政	4		4			4	2年間継続履修	290
ゼミナール	鈴 木 美 樹	4		4			4	2年間継続履修	294
ゼミナール	佐 藤 佑 貴	4		4			4	2年間継続履修	301
ゼミナール	島 田 貴 広	4		4			4	2年間継続履修	306
ゼミナール	八 木 孝 憲	4		4			4	2年間継続履修	311
ゼミナール	長 尾 順一郎	4		4			4	2年間継続履修	315



1 年 生

授業科目名	本学の教育		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：桜田葉子		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県議会議員・平成15年～平成29年		
社会貢献としての委員会・職等		聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問、福島県美容業生活衛生同業組合顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県歯科技工士会顧問、福島職業訓練技能協会顧問		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国立音楽大学声楽学科卒業（芸術学士） 大学行政管理学会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。 オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 建学の精神「真心こそすべてのすべて」の理念と本学の教育が目指す姿を3つの視点で学ぶ。 1つ目の視点は「高校と大学の学びの違い」 2つ目の視点は「地域課題」 3つ目の視点は「本学での学生生活」 この3つの視点で本学の目指す姿を学ぶことによって、感性豊かな心と無限の可能性に挑戦する心を育む大学生生活の充実につなげる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。			目標	C・E・D
② 挑戦する心を育む。			目標	E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	福島学院大学で学ぶということ ・建学の精神 ・教育理念 ・福島学院の歴史	「本学の教育」 パワーポイント ※スーツ着用	「本学の教育」を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	大学で学ぶということ① <ul style="list-style-type: none"> ・高校までの学びとの違い ・受講のルールやマナー ・ノートの取り方、質問の仕方 ・オフィスアワー活用の仕方 	「教務・履修ガイド」 パワーポイント ※スーツ着用	「教務・履修ガイド」を読んでおく。
3	大学で学ぶということ② <ul style="list-style-type: none"> ・レポート／小論文／作文の違い ・レポート課題の取り組み方 ・著作権の基礎（研究不正も含む） 	自作資料	授業に関するキーワードを予習する。
4	大学で学ぶということ③ <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションと発表の違い ・話し方の基礎 ・メディアリテラシー（SNSなどの注意） 	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
5	地域課題を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会について ・生産性向上と働き方改革について ・地域創生について ・SDGsについて ・地域連携活動 	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
6	福島学院で学生生活を送るということ① <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動 ・友人関係などで悩んだら ・学習が思うように進まなくて悩んだら ・差別とハラスメントについて 	「学生生活ガイドブック」 「教務・履修ガイド」 パワーポイント ※スーツ着用	レポート作成を始める。 （レポート提出は6月26日まで） 「学生生活ガイドブック」 を読んでおく。
7	福島学院で学生生活を送るということ② <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン ・卒業生講話 	「学生生活ガイドブック」 パワーポイント ※スーツ着用	「学生生活ガイドブック」を読んでおく。
8	生と性を考える （福島県立医科大学との連携）	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
期末試験	レポート提出		
【期末試験の講評】 レポートの評価は、コメントを付して返却します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②についてレポートにより、100点満点で評価します。 レポート（1,000字以上1,200字以内）は、次のいずれかのテーマで作成し、6月26日(金)13:00までに教務課（駅前キャンパスは5階事務室）へ所定様式にて提出のこと。なお、誤字・脱字の多いもの、文章不整なもの及び内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求めます。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とします。 〈レポートのテーマ〉 2つのうちのいずれかを選択 ① 私の夢 ② 私のキャリアデザイン			
【教科書】 「本学の教育」「学生生活ガイドブック」「教務・履修ガイド」 ※必要に応じて資料を配布します。			

【その他補足事項】

授業はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行います。3回目の授業だけは学科別とします。出欠確認をスムーズに行うため座席指定とします。

授業8回の3分の1を超える回数を欠席した場合は欠格となります。遅刻・早退は3回で1回の欠席となります。2コマ連続授業ですので注意してください。

授業科目名	文章表現		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：安田 信二		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島民報社論説委員（2002年4月より2020年3月まで。このうち2018年4月より論説委員長）。福島学院大学短期大学部客員教授（2019年4月より2020年3月まで）		
社会貢献としての委員会・職等		中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学文学部卒業、文学士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー、メールアドレスは初回講義時に説明します。		

【授業の概要】 大学生、社会人として日本語表現の基本的な能力を高めるための講義と演習を展開します。 プリントへの記述、日本語検定に備えた模擬試験の受験、小論文の提出等を通して文章表現への理解を深めます。 また、広報紙作りにも取り組みます。広報紙に掲載する内容のテーマの設定、取材の方法、記事の書き方や写真の撮影、記事のレイアウト（割り付け）などを学びます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 社会人として通用する文章表現力を身に付けます。			目標	A・C・D
② グループ活動による広報紙作りの基本を学びます。			目標	B・D
③ 日本語検定を受検し、3級合格を目指します。			目標	C・D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	(1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法 (3) 日本語検定試験	授業計画 ワークシートに平仮名、片仮名を書いて提出する。	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (12P～22P)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	文章表現力(1) 文は短く (21回目まで毎回、不適切な表現を記入したワークシートを配布し、直して答えてもらいます。その後に解説します)	ワークシートの返却。 日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (24P～27P)
3	文章表現力(2) 主語と述語	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (28P～42P)
4	文章表現力(3) 能動と受動	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (43P～54P)
5	文章表現力(4) 「に」「を」正しく	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (55P～64P)
6	文章表現力(5) 「てにをは」を省かない	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (65P～69P)
7	日本語検定の模擬試験 (60分) 文章表現力(6) 「するか」「させるか」か	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (70P～75P)
8	文章表現力(7) 話し言葉の影響を避ける①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (76P～80P)
9	文章表現力(8) 話し言葉の影響を避ける②	日本語検定模擬試験の返却と解説。日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (86P～97P)
10	文章表現力(9) 言いたいことを明確にする	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (102P～108P)
11	文章表現力(10) 分かりやすく書く①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (109P～122P)
12	文章表現力(11) 分かりやすく書く②	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (123P～133P)
13	文章表現力(12) 分かりやすく書く③	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (138P～140P)
14	文章表現力(13) 簡潔に書く①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (141P～146P)
15	文章表現力(14) 簡潔に書く②	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習 (147P～151P)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	小論文(800字程度)		
16	文章表現力(15) 簡潔に書く③	前期末小論文の指導。	日本語検定問題を解く。 教科書 予習(152P~156P)
17	文章表現力(16) 簡潔に書く④	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習(157P~162P)
18	文章表現力(17) 簡潔に書く⑤	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習(164P~181P)
19	文章表現力(18) 強調する言葉は控えめに	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習(186P~187P)
20	文章表現力(19) 句読点	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書 予習(188P~201P)
21	文章表現力(20) せりふや考えを「 」でくくる	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	新聞を読む。
22	広報紙作り(1) (新聞を活用しながら広報紙作りの基本となる作業を解説します。自宅、図書館などで新聞や広報紙などを読んで理解を深めてください)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
23	広報紙作り(2) 広報紙の記事は、書いた人の名前を入れる署名記事とします。各自の記事をグループごとに紙面に割り付けて仕上げます。	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
24	広報紙作り(3)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
25	広報紙作り(4)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
26	広報紙作り(5)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
27	広報紙作り(6)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
28	広報紙作り(7)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。新聞を読む。
29	広報紙作り(8) 各グループが広報紙の1ページと2ページを印刷する。 発表会の準備(感想発表や反省の準備)	新聞 グループワーク	発表会の準備。新聞を読む。
30	広報紙作り(9) 広報紙作り発表会 ※ゲスト 学内評価協力者	発表会、講評	広報紙作りのまとめ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	小論文 (800字。広報紙作りを振り返り、まとめる)		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標① 70点満点 授業中の返答(10点)、授業課題への取り組み(10点)、授業中の日本語検定課題への取り組み(10点)、前期小論文(20点)、後期小論文(20点)</p> <p>目標② 20点満点 グループ活動による広報紙作り(1回10点)、特に優れた記事(1回15点)</p> <p>目標③ 日本語検定の合格級に応じて点数を加算 加点内容(加点基準 準3級5点、3級8点、準2級20点、2級30点)</p> <p>以上を合計して100点を上回る場合は、一律100点として評価します。 詳しくは初回授業時に説明します。</p>			
<p>【教科書】 書名：文章力の基本 著者名：阿部紘久 発行所：日本実業出版社 価格：1,300円(税別)</p> <p>書名：日本語検定公式練習問題集3訂版3級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：900円(税別)</p>		<p>【参考書】 書名：日本語検定公式練習問題集3訂版2級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：1,000円(税別)</p>	
<p>【その他補足事項】 前期、後期の小論文は、内容と正しい表現の両面から評価します。 記事の優秀加点は、授業担当者と学内評価協力者2人の合計点(5点×3=15点)で構成します。 日本語検定試験は11月14日(土曜日)に行います。</p>			

授業科目名	情報機器操作 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：桑木道子	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師(情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師(教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム(Tohoku U.PFFP)修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修	
保育士資格	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 現代の情報ネットワーク社会を支えるICT(情報通信技術)活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキル(リテラシー)を、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目です。コンピュータ利用経験の少ない受講者を対象に、本科目と後期の「情報機器操作II」を併せて以上の内容を実施します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
		E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
	【アクティブラーニングの要素】		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	イ	ディスカッション、ディベート	
	ウ	グループワーク	
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 後期に履修する「情報機器操作II」において実践的な技術・知識の演習を実施するためのベースができる。	目標	A・B	
② パーソナルコンピュータの基本操作とタイピング操作、日本語入力操作を習得することができる。	目標	A・B	
③ 具体的な「道具(ソフト)」として、ワープロ機能の実践的な利用技術と知識を習得することができる。	目標	A・B・C	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> • 授業の進め方 • 実習環境の実際とその理解 • タイピング練習ソフトの配布と練習方法の説明 • 正しいタイピング練習の理解と実践 	シラバス、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	事前理解：シラバス内容の確認
2	タイピング練習 OS (Windows) 操作の基本理解 日本語入力と文書作成 <ul style="list-style-type: none"> • 日本語入力システムの確認 • ファイル、フォルダ管理の基本 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 2 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • 事前理解：テキスト内容 • 課題：Exe. 1
3	タイピング練習 図形ツール操作演習(1) <ul style="list-style-type: none"> • PowerPointスライド上での図形ツールの操作 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • 事前理解：テキスト内容
4	タイピング練習 図形ツール操作演習(2) <ul style="list-style-type: none"> • PowerPointスライド上での図形ツールの操作 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • 事前理解：テキスト内容
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 図形ツールの活用 1 <ul style="list-style-type: none"> • 図形操作の確認 • 案内図を作る 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3 Exercise 1 (PowerPoint)	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • 事前理解：テキスト内容 • 課題：Exe. 1
6	タイピング練習 図形ツールの活用 2 <ul style="list-style-type: none"> • イラストを作る① • PowerPointスライド上での図形ツール 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3 Exercise 1	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • 事前理解：テキスト内容 • Exercise復習
7	タイピング練習 図形ツールの活用 3 <ul style="list-style-type: none"> • イラストを作る② • PowerPointスライド上での図形ツール 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3 Exercise 2	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • Exercise復習
8	タイピング練習 図形ツールの活用 4 <ul style="list-style-type: none"> • イラストを作る③ • PowerPointスライド上での図形ツール 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3 Exercise 3	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • Exercise復習
9	タイピング練習 図形ツールの活用 5 <ul style="list-style-type: none"> • イラストを作る④ • PowerPointスライド上での図形ツール 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3 Let's Try	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • Exercise復習
10	タイピング練習とタイピング速度の測定 実践ワープロソフト Word演習 1 - 1 <ul style="list-style-type: none"> • 日本語入力とワープロ基本機能の確認 • 簡単なお便りの作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • Exercise復習 • 「イラスト集」課題
11	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 - 2 <ul style="list-style-type: none"> • さまざまな「書式設定」の理解 • 簡単なお便りの作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> • タイピング練習 • Exercise復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習1-3 ・Word文書上での「図形」「画像」配置	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 5	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題
13	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習2-1 ・図表が入ったおたよりの作成	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 6 Exercise. 1 Exersice. 2	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題
14	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習2-2 ・やや複雑なレイアウト文書の作成	Webアプリ「e-typing」 Exersice.3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word総合演習 ・これまでの授業課題のまとめ	Webアプリ「e-typing」 総合演習課題	・これまでのExercise内容の理解と復習
期末試験	Word総合演習課題（実技試験）		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③：期末試験 60点 ・Word文書作成課題 提出課題 30点 ・授業時作成および授業時間外での提出課題 授業参加状況 10点 ・評価基準により採点（初回授業時に説明） 詳細は、初回授業時に説明します。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> 基本的に、テキストに従い、課題を進める授業形態となります。授業内外において積極的な態度で受講することを希望します。 授業内容については、演習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合があります。 演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備してください。詳細はオリエンテーション時に説明します。 			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：桑木道子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師(情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師(教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム(Tohoku U.PFFP)修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修		
保育士資格	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 現代の情報ネットワーク社会を支えるICT(情報通信技術)活用に必要な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキル(リテラシー)を、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目です。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
○	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 卒業後に就く現場において、情報ネットワーク社会に積極的に参画していくための「情報活用の実践力」の修得を目標とする。	目標	A・B・C		
② 自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を養成する。	目標	A・B・C		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 実習環境の実際とその理解 MS Officeアプリケーション操作の確認 タイピングスキルと「正しいタイピング」の理解と実践 タイピング速度の測定 	シラバス、テキスト Webアプリ「e-typing」	事前理解：シラバス内容の確認
2	タイピング練習 MS Officeでの図形ツール活用演習(1) <ul style="list-style-type: none"> 「Word」「PowerPoint」での図形ツール活用 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 各種イラスト作成課題
3	タイピング練習 MS Officeでの図形ツール活用演習(2) <ul style="list-style-type: none"> PowerPointスライド上での図形ツール活用 「イラスト集」の作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 各種イラスト作成課題
4	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 <ul style="list-style-type: none"> 文書成形機能の確認 簡単な文書の作成と再利用 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業外課題
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 実践ワープロソフト Word演習 2-1 ビジュアルツールの活用 <ul style="list-style-type: none"> 図形、画像、表などの理解 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 5	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業外課題 「保育を学ぼう①」
6	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2-2 <ul style="list-style-type: none"> イラストの入った案内カードの作成 表を組み込んだ文書の作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 6	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業外課題 「保育を学ぼう②」
7	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2-3 <ul style="list-style-type: none"> やや複雑なレイアウト文書の作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 6	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業復習課題
8	タイピング練習 実践プレゼンテーション PowerPoint演習 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための情報分析・評価ツールの活用 情報探索（Web検索、図書館の利用、論文検索） 	Webアプリ「e-typing」 テキストPart 4 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
9	タイピング練習 実践表計算ソフト Excel演習 1 (作表とかんたんな計算) <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの基本機能確認 「クラス表」(グラフ作成含む) 「年間カレンダー」の作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習 授業外課題 「保育を学ぼう③」
10	タイピング練習とタイピング速度の測定 実践表計算ソフト Excel演習 2-1 (データベース機能の基礎) <ul style="list-style-type: none"> 「児童台帳様式」の作成 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
11	タイピング練習 実践表計算ソフト Excel演習 2-2 (データベース機能の基礎) <ul style="list-style-type: none"> 「児童台帳」の作成、更新と検索・集計の実際 	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習 授業外課題 「保育を学ぼう④」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	タイピング練習 実践表計算ソフト Excel演習3-1 (グラフと計算式の活用) ・「身体計測記録表」と「身体計測記録台帳」の作成	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
13	タイピング練習 実践表計算ソフト Excel演習3-2 ・「身体計測記録台帳」を活用したグラフ作成の実際と簡単なデータ分析	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう⑤」
14	タイピング練習 実践表計算ソフト Excel演習3-3 ・「行事写真購入申し込み管理表」「健康診査表」による、場面に応じた活用方法の理解 ・期末試験(総合演習)の説明	Webアプリ「e-typing」 テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 ネットワークの基礎知識 ・LAN、インターネット、クラウド・サービス、IoT ・情報リテラシー、情報セキュリティ、情報モラル	Webアプリ「e-typing」 テキストPart 5 テキストPart 6	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう⑥⑦」
期末試験	Word/Excel総合演習課題(実技試験) ・これまでの知識とスキルを活用する		・Word、ExcelのExercise内容の理解と復習

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】

目標①②：期末試験 60点 ・Word総合課題、Excel総合課題
提出課題 30点 ・授業時作成および授業時間外での提出課題
授業参加状況 10点 ・評価基準により採点(初回授業時に説明)
詳細は、初回授業時に説明する。

【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座
著者名：阿部正平 他
発行所：萌文書林
価格：2,000円(税別)

【参考書】 なし

【その他補足事項】

- ・基本的に、テキストに従い、課題を進める授業形態となります。授業内外において積極的な態度で受講することを希望します。
- ・授業内容については、演習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合があります。
- ・演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備してください。詳細はオリエンテーション時に説明します。

授業科目名	生活教養		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：渡辺雅子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島女子短期大学（現福島学院大学）事務局研修担当 （平成元年4月～平成6年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		伊達市子ども・子育て会議委員、伊達市学校施設利活用審議会委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島女子短期大学（現福島学院大学短期大学部）準学士 日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは前期と後期の最初の授業時に説明します。		

【授業の概要】 学外実習にあたって、就職してからも、現代社会では、コミュニケーション能力が求められています。そのコミュニケーション能力の基本の一つに「マナー」があげられます。 本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な人間関係を円滑に図るため基本的なマナー（言葉遣いのマナー、訪問のマナー、応対のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得していきます。 授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて、演習や実践を通して学んでいきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 社会人としての基本マナー（言葉遣い・訪問・応対・電話等のマナー）を身に付ける。			目標	A・B・G
② 冠婚葬祭お付き合いのマナーの基礎知識を修得する。			目標	A
③ 会食のマナー（食作法）について、実践を通して身に付ける。			目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業概要と到達目標、授業内容（学外授業を含む）、評価、その他 あなたのマナー好感度はどれくらい？ 訪問のマナー(1) 訪問前の準備、手土産について	授業計画 教科書・配布資料・スライド DVD「五節句」「長寿の祝い」各5分	授業計画 教科書P32～37、160、164～165、171を見ておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) 玄関先でのマナー、席次のマナー 客間でのマナー①	教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー①」 5分 「和室での作法」7分 「上座・下座」5分	教科書P27～37、44～48、配布資料を見て、席次の課題①をまとめる (A4判1枚)
3	訪問のマナー(3) 客間でのマナー②、辞去のマナー ◎事例研究①	課題①の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー②」 5分	課題② 実習先に訪問した際の言葉遣いをまとめる (A4判1枚)
4	訪問のマナー(4) ◎事例研究② 茶菓のいただき方 もてなしのマナー	課題②の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー③」 5分 「煎茶のいれ方」3分 茶菓の出し方の演習	課題③ 訪問のマナー小テストの準備
5	◆小テスト①：訪問のマナー 電話のマナー(1) 対応のポイント、かけ方(基本編) ◎かけ方の演習①	教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演習： 事例研究	課題④ 実習先に電話をかける際 の言葉遣いをまとめる (A4判1枚)
6	電話のマナー(2) かけ方(応用編) ◎かけ方の演習②	課題④の発表・解説 前回実施の小テスト(返却)・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演習： 事例研究	課題⑤ 就職活動で電話をかける 際 の言葉遣いをまとめる (A4判1枚)
7	電話のマナー(3) 受け方(基本編) 受け方(応用編)① ◎受け方の演習①	課題⑤の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演習： 事例研究 DVD「家族からの電話」 3分	課題⑥ 職場で電話を受ける際 の 言葉遣いをまとめる (A4判1枚)
8	電話のマナー(4) 受け方(応用編)② ◎受け方の演習② 伝言メモ作成の留意点	課題⑥の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演習： 事例研究 DVD「会社の星：電話」 7分 伝言メモの作成(演習)①	課題⑦ 職場で電話を受ける際 の 言葉遣いをまとめる (A4判1枚)
9	電話のマナー(5) 受け方(応用編)③ ◎受け方の演習③	課題⑦の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演習： 事例研究 伝言メモの作成(演習)②	課題⑧ 伝言メモ(3種類)の作成、 清書 課題⑨ 電話のマナー小テストの 準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	◆小テスト②：電話のマナー 対応のマナー(1) 来客対応の心構え お迎え（基本編） 名刺の受け渡し	課題⑧の発表（実物投影機）・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「会社の星：名刺」 5分 名刺と名刺入れを使用し ての演習（二人一組）	課題⑩ 職場でお客様を迎え際の 言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)
11	対応のマナー(2) お迎え（応用編） 取次ぎ 案内 見送り	前回実施の小テスト（返却）・解説 課題⑩の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 事例研究（アポイントメントがないケース他） DVD「案内の仕方」3分	課題⑪ 教科書P128～134を見て 今まで経験した中で、食 事の仕方の質問事項をま とめておく (A 4判1枚)
12	会食のマナー：西洋料理(1) メニュー、テーブルセッティング、 レストランでの基本マナー、会食時の話題 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(1)	課題⑪の発表・解説 教科書・配布資料・スライド ナプキン、カトラリー、洋 食器等を使用し ての演習	課題⑫ テーブルマナー演習事前 レポートの準備 (A 4判1枚)
13	会食のマナー：西洋料理(2) 食べ方の基本マナー① ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(2)	教科書・配布資料・スラ イド ナプキン、カトラリー、洋 食器等を使用し ての演習 DVD「スマートな食べ 方の流儀①②」10分（5 分×2項目）	課題⑫ テーブルマナー演習事前 レポートの作成 (A 4判1枚)
14	会食のマナー：西洋料理(3) 食べ方の基本マナー② グラスの扱い方・乾杯のマナー 難しい料理の食べ方（応用編） 西洋料理における酒の知識 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(3)	教科書・配布資料・スラ イド ナプキン、カトラリー、洋 食器、グラス等を使用し ての演習 DVD「スマートな食べ 方の流儀③④」10分（5 分×2項目）	課題⑬ ナプキン・カトラリーの 使い方を日常生活で実践 する 課題⑭ 教科書P50～68を見て言 葉遣いのプリントをまと めておく
15	◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(4) 言葉遣いと人間関係のマナー 社会生活での言葉のルール 前期のまとめ・前期末試験の説明	課題⑭の発表・解説 教科書・配布資料・スラ イド	前期末試験に向けて、教 科書・配布資料等、既修 内容を再確認
期末 試験	前期末試験（中間試験）	筆記試験	前期末試験に向けて、教 科書・配布資料等、既修 内容を再確認
16	◆学外授業「テーブルマナー演習」実施 ①特別講義「現代の結婚式事情」30分 ②西洋料理テーブルマナー演習 90分	西洋料理テーブルマナー の実践 9月30日(水) 11:00～13:00 ウエディングエルティに て実施予定	課題⑮ テーブルマナー演習事後 レポートの作成 (A 4判2枚)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	前期末試験の解説 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事後指導 会食のマナー：日本料理(1) 日本文化としての箸のマナー	課題⑫⑬の提出 前期末試験返却・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「箸のマナー」20分 箸・碗を使用しての演習	課題⑫ カイセキ料理(会席料理・懐石料理)について調べておく (A 4判1枚)
18	会食のマナー：日本料理(2) 日本料理の流れ(種類) 食べ方の基本マナー 日本酒の基礎知識	課題⑭の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「会席と懐石」7分 「土瓶蒸しの食べ方」3分 箸・碗・和食器等を使用しての演習	課題⑭ 中国料理(4大料理)について調べておく (A 4判1枚)
19	会食のマナー：中国料理(1) 中国料理の種類 中国料理の基礎知識	課題⑮の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「高級中国料理を学ぶ」 30分(10分×3回) 箸・レンゲ・中国食器等を使用しての演習	課題⑮ 中国料理(飲茶)について調べておく (A 4判1枚)
20	会食のマナー：中国料理(2) 食べ方の基本マナー 中国茶・中国酒の基礎知識	課題⑯の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「中国茶」7分 箸・レンゲ・中国食器等を使用しての演習	課題⑯ バイキングとビュッフェについて調べておく (A 4判1枚) 課題⑰ 会食のマナー小テストの準備
21	会食のマナー：パーティーのマナー パーティーの基礎知識 立食パーティーのマナー 服装のマナー ◆小テスト③：会食のマナー(総合問題)	課題⑱の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「会食マナー①」7分 皿・グラス・カトラリー等を使用しての演習 グループワーク(ディスカッション) DVD「会食マナー②」10分	課題⑱ 学外授業時の資料を参考に挙式のスタイルをまとめておく (A 4判1枚)
22	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(1) 招待状の返信・お祝い電報 祝品	前回実施の小テスト(返却)・解説 課題⑳の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 返信用ハガキの書き方(演習) DVD「六曜」7分	課題㉑ お祝い電報を作ってみる(電文・台紙の選択・金額の算出)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(2) 祝金・かけ紙と祝儀袋の表書き	課題22の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「ウエディングマナー①」10分 祝儀袋の表書きの演習	課題23 表書きを筆ペンで書いてみる
24	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(3) 服装と当日のマナー	課題23の発表(実物投影機)・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「ウエディングマナー②」10分 グループワーク(ディスカッション) 袱紗と祝儀袋を使用しての演習	課題24 授業で視聴したDVDの披露宴受付時のパッドマナーについてまとめておく
25	冠婚葬祭お付き合いのマナー 人生の祝い事(赤ちゃん・子どもの祝い事) 帯祝から十三参りまで	課題24の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「七五三の由来」3分 「内祝い」7分	課題25 五節句・二十四節気・雑節について調べておく(A4判1枚)
26	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	課題25の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「お正月の過ごし方」30分(15分×2回)	課題26 自分の誕生月の行事を一つ取り上げ由来や祝い方等をまとめておく(A4判1枚)
27	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(2) 1月から6月までの行事	課題26の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「節分」10分 「ひな祭り」8分 「端午の節句」4分	課題27 自分が通っていた幼稚園・保育所等で行われた行事をまとめておく(A4判1枚)
28	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(3) 7月から12月までの行事	課題27の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「七夕の祝い」6分 「8・9月の行事」各8分 「クリスマスって何?」5分	課題28 お悔やみ電報を作ってみる(電文・台紙の選択・金額の算出)
29	冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー(1) 葬式のスタイル、葬式の手順、お悔やみ電報、供物・供花、弔慰金、不祝儀袋の表書き	課題28の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 不祝儀袋の表書きの演習	課題29 表書きを薄墨の筆ペンで書いてみる
30	冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー(2) 服装のマナー 通夜・告別式への参列のマナー 後期のまとめ	課題29の発表(実物投影機)・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「お香典・お焼香悩み解決」12分 焼香・玉串奉奠・献花の演習 袱紗と不祝儀袋を使用しての演習	後期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	後期末試験	筆記試験	後期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標① …前期末試験（筆記試験）30% 目標②・③…後期末試験（筆記試験）30% 目標③ …テーブルマナー演習（事前レポート5%・事後レポート15%）20% 目標① …前期小テスト（2回×5%）10% 目標①・③…後期小テスト（1回：グループごとに実施）10% ※その他、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。</p>			
<p>【教科書】 書名：新生活教養 — 社会人としての基本マナー — 著者名：近喰晴子・三村善美 他 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別） ※授業内容に応じて参考資料を配布します。</p>		<p>【参考書】 特に指定しません。</p>	
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料を整理するための専用ファイル（A4判）を1冊準備してください。 2. 学外授業など、指定された場合にはスーツを着用してください。 3. 学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合があります。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出てください。（申し出がない場合は出席扱いとはしないので注意してください） 5. 学外授業「テーブルマナー演習」は、こども学科と保育学科、2学科合同で実施します。 * 9月30日(水)11:00~13:00ウエディングエルティにて実施予定です。必ず出席してください。 6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,200円の実費を徴収します。その他の経費は大学で補助します。 			

授業科目名	美術演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象 教員免許状更新講座 講師 (平成23年～) 文部科学省認定他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了、芸術学修士 学芸員資格・中学校教諭一種免許(美術)・高等学校教諭専修免許(美術)、 美術科教育学会、全国造形美術教育教員養成協議会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「美術」は、ものの見方を広げると同時に、様々なものとのコミュニケーションを可能にしてくれます。本演習では、専門性につながるそれらの教養としての「美術」を学ぶものです。 具体的には造形表現を通して、ものを作りだす喜びを味わいます。季節感のある製作を通して自然や文化に親しみ、美意識を養い感性を豊かにします。また、美術作品の材料から文化史を展望した教材映像視聴と解説も行います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
	<input type="radio"/>	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
「作品」の製作を通して、美術の楽しさや奥深さを味わうことができる。			目標	A・B・D
自然に対する興味・関心が育ち、そこから生み出された文化への理解を深めることができる。			目標	A・D・F
作品の製作や鑑賞を通して、美的感性が養われ、美術の基礎技能や表現力を高めることができる。			目標	A・B・D・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、今後の学習の進め方 キャンパス内で自然観察を行う (自然観察のポイント)	授業計画 プリント① ※キャンパス内散策は天候による散策の感想を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント①の復習 ワークシートの記入と提出
2	季節や行事のカードをつくってみよう(1) ～立体カードの構造を知る	プリント② アイデアスケッチをする 画用紙、カッターなどで製作する	プリント②の復習 空き時間を使って課題を進める
3	季節や行事のカードをつくってみよう(2) ～基本のつくり方	プリント③ 画用紙、カッターなどで製作する	プリント③の復習 空き時間を使って課題を進める
4	季節や行事のカードをつくってみよう(3) ～基本から応用へ	プリント④ 画用紙、カッターなどで製作する	プリント④の復習 空き時間を使って課題を進める
5	季節や行事のカードをつくってみよう(4) ～様々な方法を試してみる 作品の鑑賞	画用紙、カッターなどで製作する 他者の作品に触れ、感想を述べ合う	プリント⑤の予習 空き時間を使って課題を進める
6	季節感のある造形を楽しもう(1) ～資料収集 作りたい物のイメージを膨らませる	プリント⑤ アイデアスケッチをする	プリント⑤の復習 空き時間を使って課題を進める
7	季節感のある造形を楽しもう(2) ～スケッチをもとに、製作する	スケッチをもとに製作する 他者の作品に触れ、感想を述べ合う	空き時間を使って課題を進める プリント⑥の予習
8	光と影で表現してみよう(1) ～ステンドグラスの歴史や作例の紹介 製作工程の説明、図案を描く	プリント⑥ 画用紙、鉛筆などで製作する	プリント⑥の復習 空き時間を使って課題を進める
9	光と影で表現してみよう(2) ～図案の完成	画用紙、鉛筆などで製作する	空き時間を使って課題を進める
10	光と影で表現してみよう(3) ～画用紙を切り抜く	画用紙、鉛筆などで製作する	空き時間を使って課題を進める
11	光と影で表現してみよう(4) ～画用紙を切り抜いた後、透明フィルムに貼る	画用紙、鉛筆などで製作する	空き時間を使って課題を進める
12	光と影で表現してみよう(5) ～配色を考える	画用紙、鉛筆などで製作する	空き時間を使って課題を進める
13	光と影で表現してみよう(6) ～ステンドグラスの完成	画用紙、鉛筆などで製作する	空き時間を使って課題を進める プリント⑦の予習
14	色と絵具の文化を知ろう ～原始時代から現代まで、色と絵具の文化を概観し、色について調べてみよう	プリント⑦ 映像教材視聴(26分) 「絵を視る／絵を探る 色は何でできているか — 色の材料 —」 意見や感想等を述べ合う	プリント⑦の復習 ワークシートの記入と提出 空き時間を使って課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	作品鑑賞とまとめ ～授業の振り返りと自己課題の確認	他者の作品に触れ、感想を述べ合う 半年間の感想を述べ合う	ワークシートの記入ファイルの整理と提出準備
期末試験	試験 ～反省と感想も記入し、作品ファイルを完成させる	作品、プリント⑧ ファイルをまとめる	ワークシートの記入ファイルの整理と提出
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B・D・E・F：作品（提出状況や完成度）・提出物70% 目標A・B・D・E・F：受講態度20% 目標A・B・D・E・F：試験10% ※なお、初回授業時に説明します。			
【教科書】 使用しません。		【参考書】 その都度、紹介します。	
【その他補足事項】 1. 材料費として1,000円程度の実費を徴収します。 2. 各自の準備物として、A4判のクリアファイル（2リング）やクリアポケット、リサイクル品等が必要となります。 3. 実技を行うため、履修者は24名までとします。それを超える場合は調整することがありますが、特に第一希望の学生を優先します。 4. 履修人数や希望、天候、作業の進捗により、一部内容が変わることもあります。			

授業科目名	音楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業は、単純な楽器でも工夫次第で多様な表現ができることや小さな音に耳を澄ますことの大切さを、仲間との協働的な活動を通して学びます。 そのために、身近な打楽器やシュタイナーペンタトニック等に調律されたカリンバを用いて即興演奏をしたり、いろいろな歌を演奏したりします。その際、幼児教育の現場で使用される主要なコードについても演奏を試み、コード記号とその構成音に関する理論的な理解を深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 身近な楽器の演奏法を身に付ける。			目標	B
② 音楽理論に基づいたコードの仕組み、構成音について理解する。			目標	A
③ 表現のイメージや内容について話し合いながら練習や発表に取り組む。			目標	G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標、評価方法 ・これまでの音楽体験 ・グループ分け	授業計画 講義 演習：これまでの音楽体験をもとに自己紹介	前期における授業内容の把握

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	身近な打楽器の基本的な奏法(1) ・カスタネットの基本的な奏法と演奏	講義：カスタネットによる表現の多様性について 演習：複数のカスタネットによる表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
3	身近な打楽器の基本的な奏法(2) ・楽曲に合わせたカスタネットの演奏 ・カスタネットによるアンサンブル	演習：楽曲に合わせたカスタネット演奏の映像を視聴し、基本的なリズムパターンを演奏できるよう練習する。	復習：授業で演奏したリズムパターンを暗譜で演奏できるようにする。
4	身近な打楽器の基本的な奏法(3) ・カホンの基本的な奏法と演奏	講義：カホンによる表現の多様性について 演習：カホンの叩き方の工夫による表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
5	身近な打楽器の基本的な奏法(4) ・カホンの基本的な奏法と演奏	演習：カホンの叩き方の工夫による表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
6	身近な打楽器の基本的な奏法(5) ・シェイカーの基本的奏法と演奏	講義：シェイカーの構造と基本的奏法について 演習：音やリズムの変化を工夫する。	復習：音の変化をつける方法を練習する。
7	身近な打楽器の基本的な奏法(6) ・カスタネット、カホン、シェイカーを用いたアンサンブルを楽しむ。 ・グループごとに発表したり録画をしたりしながら批評し合う。 ・発表による小テスト① ・レポート提出①	演習：グループごとにテーマを決め、3種類の打楽器によるアンサンブルを創作する。	予習：日常生活を打楽器で表現する構想をもつ。
8	カリンバの演奏(1) ・カリンバ演奏の視聴 ・カリンバの構造と演奏方法	演習：音名とリードの対応を理解する。	復習：音名とドレミの対応 予習：アメイジンググレイスを視聴する。
9	カリンバの演奏(2) ・「アメイジンググレイス」の演奏	演習：楽譜に基づいた演奏の習熟	復習：「アメイジンググレイス」演奏
10	カリンバの演奏(3) ・「アメイジンググレイス」の演奏 ・コード用カリンバとのアンサンブル	演習：楽譜に基づいた演奏の習熟	復習：「アメイジンググレイス」演奏
11	基本的コードの理解と実習(1) ・鍵盤と3和音の関係	講義：「音程」「和音」「音名」「コード」等用語の説明	復習：3和音
12	基本的コードの理解と実習(2) ・五度圏と和音の関係 ・小テスト①	演習：五度圏を使って、12音を根音としたコードを記譜する。	復習：五度圏
13	カリンバの演奏(4) ・コード、ベース、メロディを分担して「アメイジンググレイス」を演奏	演習：多重録音による効果を試す。	予習：分担パートと譜読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(1) ・グループでの表現の工夫	演習：グループごとに表現内容や役割分担を決め、練習する。	予習：何を表現するか、役割分担
15	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(2) ・グループごとの発表 ・レポート提出②	演習：グループごとに発表しあいそれぞれの発表にコメントする。	復習：前期の活動を振り返る。
期末試験	実技試験、筆記試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①③：レポート 30点満点（レポート1つ15点×2回） 目標②：小テスト（五度圏の作り方） 30点満点、 期末試験（コードの構成音の記譜 25点満点） 目標①②③：授業反省記録 15点満点 総計100点満点で評価			

授業科目名	文学演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国学院大学大学院文学研究科後期課程修了、博士（文学）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育の場に導入される素ばなしや絵本、人形劇には昔話や童話といった児童文学・児童文化財を原作とするものが多くある。さまざまな時代・地域に伝えられた児童文学をとりあげ、普遍的な「物語」の枠組みやその伝承方法について知ることで、作品への理解を深めていく。 また、昔話・童話から素ばなし、絵本、メディアへの翻案の際の原作との相違点に着目し分析し、さまざまな物語への対応力をつけ、児童文学作品をモチーフとした素ばなし、絵本の読み聞かせ、人形劇の演習発表を行うことで保育技術の向上をはかる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	国内外の文学・児童文学の概要を学び、文学史や物語の構成を知る。		目標	A・B
②	素ばなしや読み聞かせのモチーフとなる児童文学に関する理解を深め、人形劇や素ばなしを行う。		目標	A・D
③	授業内容をふまえて文学的観点から絵本を解釈し、読み聞かせを行う。		目標	A・D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業のねらい、進め方の説明	講義資料を用いて文学についての基本的な説明を行った後、授業のねらい・進め方、評価方法、事前準備に関する説明を行う。	予習：授業計画の確認。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育と文学(1) 「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と文学	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・講義資料を用いての説明およびグループディスカッションを行う。	予習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」の項を事前学習する。
3	保育と文学(2) 児童文学・児童文化財	児童が伝承する文化財についてのグループディスカッションを行う。	予習：言葉遊び、替え歌などの児童が伝承する文学・文化財を記録・収集する。
4	児童文学とメディア(1) — 日本のアニメーション・映画 —	アニメーション・映画化された児童文学作品の解説。DVD「かさじぞう山」視聴(20分)。日本の主要なメディア化された文学作品について比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：日本の主要なメディア化された児童文学作品を調べ、鑑賞する。
5	児童文学とメディア(2) — 海外のアニメーション・映画 —	アニメーション・映画化された児童文学作品の解説。DVD「3匹の子ぶた」視聴(20分)。海外の主要なメディア化された文学作品について比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：海外の主要なメディア化された児童文学作品を調べ、鑑賞する。
6	伝承文学と児童文学(1) — 昔話から素ばなしへ —	伝承文学を採録したビデオ「日本の昔話」視聴(20分)。昔話を題材とした素ばなしの発表。比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：昔話を題材とした素ばなしの発表準備。
7	伝承文学と児童文学(2) — 童話から素ばなしへ —	童話を題材とした素ばなしの発表およびもとなった童話との比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：童話を題材とした素ばなしの発表準備。
8	児童文学研究発表(1) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。
9	児童文学研究発表(2) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。
10	児童文学研究発表(3) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	児童文学研究発表(4) 昔話・童話を原作とした児童文化財の制作	昔話・童話をもとにした児童文化財の脚本を制作するグループワークを行い、そのねらいや工夫を発表する。	予習：指定されたテーマに沿って、児童文化財の原作となる昔話・童話を選び、講読する。
12	児童文学研究発表(5) 昔話・童話を原作とした児童文化財の発表	グループごとに制作した児童文化財の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに児童文化財の発表練習をする。
13	児童文学研究発表(6) 昔話・童話を原作とした児童文化財の発表	グループごとに制作した児童文化財の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに児童文化財の発表練習をする。
14	児童文学研究発表(7) 昔話・童話を原作とした児童文化財の発表	グループごとに制作した児童文化財の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに児童文化財の発表練習をする。
15	児童文学研究発表(8) 講評と授業のまとめ	これまでの演習発表の講評を教員・学生双方から行い、改善点についてグループディスカッションを行う。	予習：これまでの発表内容についてワークシートをまとめる。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①：期末試験 40% 目標②・③：発表 40% 目標①・②・③：授業参加態度（意欲・理解・授業内小課題の到達度） 20%			
【教科書】 指定なし。 ＊適宜講義資料を配布する。			

授 業 科 目 名	英会話 I (ベーシックレベル)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼任講師 オカンポ メリッサ ブラザ 氏名：Ocampo Merissa Braza	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし	
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし	
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		博士（教育学）北海道大学大学院、教師認可試験（フィリピン） 衛生検査官国家ボードの検査（フィリピン） 言語学習の国際心理学会 日本大学英語教育学会（ジャセート）会員 全国語学教育学会（ジャールト）会員 Mind, Brain, and Education JALT SIG	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		教養教育科目	選択必修
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修
保育士資格		教養教育科目	選択必修
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時説明します。	

【授業の概要】 外国の人々とコミュニケーションが円滑にいかないのは、多くは言葉の違いであると私たちは考えやすい。もちろんお互いのことが通じなければ、十分な意思の疎通ははかれないが、身振りや手振りあるいは絵を描いたりして、なんらかの意志を伝えることはできる。異なる文化背景を持つ人々の意志の相互伝達は、言葉による（バーバル）コミュニケーション、言葉によらない（ノンバーバル）コミュニケーション、そしてそれらコミュニケーションの土台、枠組み、指針となっている、それぞれの文化が内包する価値観、思想、信条、伝統、美意識のすべてを含む。 この授業では、英語はどのような人にも身近なものである、ということを理解することを目的とする。間違ふことを恐れずに、そこから学生が成長していくことが望まれる。FEMA（家族環境モードアプローチ）により、学生は間違いを積極的に受け入れることができ、授業内でストレスを感じずに学ぶことができる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 貿易や教育交流、そしてコミュニケーションなど、それらグローバル化を理解できるようにする。		目標	F	
② 異なる文化圏の人々とコミュニケーションを図る方法を学ぶ。		目標	F	
③ 他者の意図、謝罪などの社会的行為、要求および賛辞などを理解するために英語を話す方法を学ぶ。		目標	A	
④ 「英語での演劇プレゼンテーション」を通じて、他の人の前で自信を持って話すことができるようにする。		目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・1年分の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ	自己紹介、グループリーディング	Unit 1 -12の予習をしておく
2	Unit 1. Culture and Identity 文化ってなに？	テキスト・CD グループリーディング、リスニングと話し合い	Unit 1 (p 1 - 7)
3	Unit 2. Hidden Culture 見えない文化が、私たちの判断を左右する	口述とディスカッション、リスニング	Unit 2 (p 8 -14)
4	Unit 3. Stereotypes 思いこみが、コミュニケーションを妨げる	テキスト・CD グループリーディング、国際イベントへの参加	Unit 3 (p15-22)
5	Unit 4. Words, Words, Words 言葉の違いが生むコミュニケーション・ギャップ	テキスト・CD 話し合い	Unit 4 (p23-30)
6	Unit 5. Communication Without Words ノンバーバル・コミュニケーション — 身体は話す	ディスカッション、グループリーディング	Unit 5 (p31-38)
7	Unit 6. Diversity ひとつの国には、一つの文化しかない？様々な文化の共存	グループワーク、ディスカッション、ディベート	Unit 6 (p39-46)
8	Unit 7. Perception 緑は青？ピンクは桃色？文化によって異なる見方	グループワーク	Unit 7 (p47-55)
9	Unit 8. Communication Style (1) 「沈黙」もコミュニケーションのシグナル	グループワーク、プレゼンテーション	Unit 8 (p56-62)
10	Unit 9. Communication Style (2) 腹芸ってどんな芸？ — 語る文化、語らぬ文化	グループワークとディスカッション、プレゼンテーション	Unit 9 (p63-70)
11	Unit10. Values 行動の規範となる価値観は文化によって様々	グループワークとディスカッション	Unit10 (p71-78)
12	Unit11. Deep Culture (Beliefs and Values) (1) 文化を支える思想・信条 — 個人主義・集団主義	グループワークとディスカッション	Unit11 (p79-84)
13	Unit11. Deep Culture (Beliefs and Values) (2) 文化を支える思想・信条 — 個人主義・集団主義	グループワークとディスカッション	Unit11 (p85-86)
14	Unit12. Culture Shock カルチャーショックから学ぶこと	グループワークとディスカッション	Unit12 (p87-91)
15	Wrap up 纏める授業	プレゼンテーション	Unit 1 -12
期末試験	前期期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 ①～④ 期末試験 50%

目標 ①～④ グループディスカッション（授業への貢献・態度など） 25%

目標 ①～④ プレゼンテーション、特別講義のレポート 25%

合計100点満点で評価します。

※成績評価への補足的対応措置により減点などを行います。

【教科書】 書名：Different Realities -Adventures in Intercultural Communication-

著者名：Joseph Shaules / Juri Abe

発行所：Nan'un-do

価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

1. 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可）
2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。
3. 福島市での国際イベントへの参加を奨励します。

授 業 科 目 名	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼任講師 オカンポ メリッサ ブラザ 氏名：Ocampo Merissa Braza		開 講 期	前期・後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		博士（教育学）北海道大学大学院、教師認可試験（フィリピン） 衛生検査官国家ボードの検査（フィリピン） 言語学習の国際心理学会 日本大学英語教育学会（ジャセート）会員 全国語学教育学会（ジャールト）会員 Mind, Brain, and Education JALT SIG		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時説明します。		

【授業の概要】 外国の人々とコミュニケーションが円滑にいかないのは、多くは言葉の違いであると私たちは考えやすい。もちろんお互いのことが通じなければ、十分な意思の疎通ははかれないが、身振りや手振りあるいは絵を描いたりして、なんらかの意志を伝えることはできる。異なる文化背景を持つ人々の意志の相互伝達は、言葉による（バーバル）コミュニケーション、言葉によらない（ノンバーバル）コミュニケーション、そしてそれらコミュニケーションの土台、枠組み、指針となっている、それぞれの文化が内包する価値観、思想、信条、伝統、美意識のすべてを含む。 この授業では、英語はどのような人にも身近なものである、ということを理解することを目的とする。間違ふことを恐れずに、そこから学生が成長していくことが望まれる。FEMA（家族環境モードアプローチ）により、学生は間違いを積極的に受け入れることができ、授業内でストレスを感じずに学ぶことができる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 貿易や教育交流、そしてコミュニケーションなど、それらグローバル化を理解できるようにする。			目標	F
② 異なる文化圏の人々とコミュニケーションを図る方法を学ぶ。			目標	F
③ 他者の意図、謝罪などの社会的行為、要求および賛辞などを理解するために英語を話す方法を学ぶ。			目標	A
④ 「英語での演劇プレゼンテーション」を通じて、他の人の前で自信を持って話すことができるようにする。			目標	F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツなど Unit 1. Intercultural Communication in Today's World A. 今日の世界の異文化コミュニケーション	授業計画 テキスト・CD グループリーディング、 リスニングと話し合い	Unit 1. 1 (p.7-8) 予習： あなたの生活の中で「グ ローバリゼーション」を どこで見ることができま すか？
2	Unit 1. Intercultural Communication in Today's World B. 今日の世界の異文化コミュニケーション	グループリーディング、 リスニングと話し合い	Unit 1. 1 (p.9-12) Difference of globalization and intercultural communication. グローバリゼーションと 異文化コミュニケーション の違い。
3	Unit 2. English for Intercultural Communication 異文化コミュニケーションのための英語	テキスト・CD グループディスカッショ ンとディベート	Unit 2. (p.13-18) Are you afraid of making mistakes when speaking English? If yes, what kind of mistakes? あなたは英語を話すとき に間違いを犯すことを恐 れていますか？ もしそ うなら、どんな種類の間 違いですか？
4	Unit 3. Important Features of Human Communication 人間のコミュニケーションの重要な特徴	テキスト・CD 新しい習慣や古い習慣に ついてクラスの学生にイ ンタビューする。	Unit 3. (p.19-24) Do you know any gestures that are different across cultures? 国によって異なるジェス チャーを知っているか？
5	Unit 4. The concept of Culture 文化という概念	テキスト・CD 国際フェスティバルへの 参加	Unit 4. (p.25-30) 文化に関係あるポピュ ラーソングの分析。
6	Unit 5. Language and Thought 言語と思考	テキスト・CD プリント使用グループ (3～4人)で割り当て られたトピックについて 話し合い発表	Unit 5. (p.31-36) あなたは外国語を学ぶこ とで人々がより知的にな ることができると思いま すか？
7	Unit 6. Communication Styles コミュニケーション スタイル	テキスト・CD ピアティーチング	Unit 6. (p.37-42) What are the different styles of communication? コミュニケーションの異 なるスタイルは何です か？

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	Unit 7. Human Psychology and Communication 人間の心理とコミュニケーション	テキスト・CD 小グループディスカッション	Unit 7. (p.43-48) What verbal and nonverbal communication do you use to have an appropriate communication? 適切なコミュニケーションにどんなバーバルとノンバーバルコミュニケーション(ジェスチャー)を使っているか?
9	Unit 8. Speech Acts across Cultures 言語行為と文化	テキスト・CD 小グループディスカッション(シナリオベースの問題を解決し、リストからの質問/問題に取り組む)	Unit 8. (p.49-54) グループメンバーとのブレインストーミング。自分たちが発表したいストーリーをまとめる。
10	Unit 9. Stereotype and Intercultural Communication ステレオタイプと異文化コミュニケーション	テキスト・CD ディスカッション	Unit 9. (p.55-60) As Japanese, what is your opinion about blood type and stereotype? 日本人として、血液型のステレオタイプについてどう思いますか?
11	Unit10. Cultural Accommodation in Intercultural Communication 異文化コミュニケーションにおける文化調整	テキスト・CD (シナリオベースの問題を解決し、リストからの質問/問題に取り組む)	Unit10. (p.61-66) 社会のステレオタイプに関連する英語の映画を見る。— スクリプトのチェックを始めると練習。
12	Unit11. Intercultural Communication in Higher Education 高等教育における異文化コミュニケーション	ピアースモールトーク より批判的に考え、より深い理解のために話し合う	Unit11. (p.67-72) 小セミナーの講義を聞いて、印象や意見を書く。
13	Unit12. Study Abroad and Intercultural Adaptation 海外留学と異文化適応	自己受容とピアワークショップ	Unit12. (p.73-78) 短いビデオクリップを見て(学生に自分のビデオクリップ、例えばCM、ビデオクリップなどを選ぶ)、自分たちの人生への関わりを分析する。
14	Unit13. Intercultural Competence for the Future 将来のための異文化能力	テキスト・CD ピアグループディスカッション	Unit13. (p.79-84) 予習: Do you think that knowledge about different cultures is necessary for the future? 「将来的に、さまざまな文化の知識が必要だと思いますか。」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	Unit 1 -13 Wrap up Presentation プレゼンテーション	プレゼンテーション	Unit 1 -13
期末試験	前期期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①～④ 期末試験 50% 目標①～④ グループディスカッション（授業への貢献・態度など） 25% 目標①～④ プレゼンテーション、特別講義のレポート 25% 合計100点満点で評価します。 ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行います。</p>			
<p>【教科書】 書 名：Intercultural Communication for English Language Learners in Japan 日本の英語学習者のための異文化間コミュニケーション 著者名：Troy McConachy 発行所：Nan'un-do 価 格：2,000円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 1. 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可） 2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。 3. 福島市での国際イベントへの参加を奨励します。</p>			

授業科目名	国際理解論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：坂本恒夫		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社外取締役（2000-2003年、2003-2006年）			
社会貢献としての委員会・職等	日本中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム 会長			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	明治大学大学院博士後期課程（経営学博士）博士 日本経営学会、日本経営財務研究学会、証券経済学会、日本経営分析学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後、研究室で説明します。			

【授業の概要】 本科目では、個別の国の概要について具体的に説明していきます。最初に、歴史を説明し、その国の現状を解説した後、抱えている課題について詳しく述べていきます。 特に、日本との関係およびその交流の歴史について勉強します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
		B	技能		
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)				
① 国際的な現状の理解を深め、多様性、応用力を身に着けます。	目標	F			
② 各国の抱えている課題を説明し、今、世界で何が起きているかを理解します。	目標	A			
③ 日本との関係を深く分析し、その国に対しての日本の付き合い方について考えます。	目標	C			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業進め方の留意点	講義 配布資料	
2	第1章 イギリス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第2章 フランス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
4	第3章 オーストラリア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
5	第4章 ニュージーランド (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
6	第5章 アメリカ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
7	第6章 アジア諸国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
8	第7章 中国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
9	第8章 台湾 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
10	第9章 香港 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
11	第10章 韓国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
12	第11章 マレーシア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
13	第12章 タイ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
14	第13章 シンガポール (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配布資料	配布資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	第14章 まとめとディスカッション	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
期末試験	筆記試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標②③：レポート 50点 目標①：ディスカッションの参加度 50点			

授業科目名	国際理解演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：中丸一志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		株式会社ナカノフドー建設 建築施工管理10年 ・建築設計及び工事監理24年		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本大学工学部 工学士 一級建築士、設備設計一級建築士、一級施工管理技士、宅地建物取引士・建築学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。 実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。また、それについての個別指導も行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
集団行動に関するマナーの取得、旅行計画の立案等を学習できる。			目標	A
ホスピタリティとインバウンド、イノベーションを学ぶことができる。			目標	A
各自の興味ある分野（ビジネス、観光、デザイン、建築など）を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。			目標	F・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的 シンガポールの歴史（歴史・人種・言語）	授業計画 配布資料 インターネット検索	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポールの地理・気候・経済・産業（貿易・観光）	配布資料 インターネット検索	シンガポールの調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	シンガポールの街並みと建築・交通事情	配布資料 インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの食文化 入国手続き他事前準備・現地の法律について	配布資料 インターネット検索	シンガポールへの調査
5	現地での行動について(渡航前の最終確認) 各グループ旅程プレゼンテーション	配布資料 インターネット検索	シンガポールの調査
6	現地体験(1) 飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項の確認(移動バス内) 飛行機搭乗(羽田=SG)	シンガポール研修の実施 (2021年2月21日~26日 6日間予定) 全体及び個別指導	シンガポールの調査
7	現地体験(2) ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
8	現地体験(3) ニューウォータービジターセンター視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
9	現地体験(3) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
10	現地体験(4) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
11	現地体験(4) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
12	現地体験(5) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
13	現地体験(5) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
14	現地体験(6) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
15	現地体験(6) 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
期末試験	最終レポート発表	プレゼンテーションの評価・指導	プレゼンテーションの練習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・F…事前レポート20点、最終レポート40点で評価する。 目標G …団体行動・グループの在り方を40点で評価します。 *海外研修における所定の全プログラムに出席してください。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム(オプションを除く)に出席できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績評価を行います。			
【教科書】 使用しません。		【参考書】 使用しません。	

【その他補足事項】

- シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要になります。
- その他
 - (1) 最少催行人数を10名、最多催行人数を15名程度とする。なお、履修者が10名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が10名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となります。
 - (2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月下旬より指導を開始とします。
 - (3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないでください。

授業科目名	体 育 講 義		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>	開 講 期	後期	
		授 業 回 数	8回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		29時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 現在および将来の生活における健康や体力づくり、生涯学習の一環としての運動およびスポーツについて理解を深めて行く。 主な授業内容として、運動と健康・体力との関連性、慢性疾患と生活習慣、体力と運動にまつわるからだの仕組み、運動処方やスポーツ外傷・障害の予防と応急処置などである。 また、それらの知識を自ら積極的に生活の中で活用し、実践していく力と意欲を身につけるよう授業を行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
		B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
○	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
健康と運動、体力との関連性について理解する。			目標	A	
生活習慣病の発症メカニズムとその予防について理解する。			目標	A	
目的に応じた運動処方の基礎を学ぶ。			目標	A・E	
安全で効果的な運動実践の方法を理解する。			目標	A	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「授業の概要と進め方について」 「運動と健康・体力の関連」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 振り返りシート	配布プリントやノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	慢性疾患と生活習慣① 「生活習慣と慢性症状、発病までのしくみ」 「糖尿病と虚血性疾患について ～インスリンと脂質・糖代謝を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 振り返りシート	配布プリントでインスリンとFFA、中性脂肪、コレステロールの各用語解説を読んでおくこと。
3	慢性疾患と生活習慣② 「がんと生活習慣～飲酒と喫煙を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 振り返りシート	配布プリントを読んで生活習慣病発病のメカニズムを復習しておくこと。
4	運動とからだのしくみ 「体力要素と運動機能の関係」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) VTR「驚異の小宇宙人体V なめらかな連係プレー骨・筋肉」 振り返りシート	配布プリントやノートの整理
5	運動処方の実際① 「エアロビックな運動とアネロビックな運動」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 (電卓機能付きの携帯電話も使用可) 振り返りシート	配布プリントやノートの整理 簡単なトレーニングを家庭で実践してみること。
6	運動処方の実際② 「エネルギー代謝を中心に」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 振り返りシート	事前に1日の食事内容と生活活動の内容と時間を調べておくこと。 配布プリントやノートの整理
7	スポーツ外傷・障害の予防と応急処置	演習：応急処置 スライド資料 (パワーポイント使用) 振り返りシート	配布プリントやノートの整理
8	授業の振り返り(まとめ)	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	総復習をするので配布プリントやノートを整理して持参すること。
期末試験	期末試験 筆記試験を行う		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・E：40点満点のまとめテスト(筆記試験)を授業の最後に実施。 目標A・E：振り返りシートを30点満点で評価する(7回実施。6回分を1回あたり5点で評価する)。 授業中に学習した内容を振り返り、理解した内容をまとめて記述する。 目標E：学習に対する意欲・興味関心・主体性などについて授業中の行動(例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等)を観察し、30点満点で評価する。 以上、合計100点で評価する。			
【教科書】 なし			
【その他補足事項】 参考図書は授業中に紹介するが購入の必要はない。			

授業科目名	体 育 実 技 (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広 <small>しまだ たかひろ</small>		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本スポーツ協会公認バレーボール指導員 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。			目標	B
コンビネーションやフォーメーションなどの戦術的理解を深める。			目標	A・B・E
チームづくりやチームワークを学ぶ。			目標	A・E
バレーボールのルールやコートマナーを学ぶ。			目標	A・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	バレーボールの用語を予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ(サーブを中心に)	グループワーク	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ(レシーブを中心に)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基本技能③ パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基本技能④ パスの技術と動き(アンダーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基本技能⑤ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ミートを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基本技能⑥ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ステップを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割(ローテーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割(ポジションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション(5人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション(3~4人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション(マンアップフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション(マンダウンフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション(クイックを絡めたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション(移動を加えたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価(ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
<p>【試験の講評】 授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B : 技能テスト 30点 目標E : 試合中の観察評価(ルール・戦術理解) 30点 目標E : 授業参加時の態度(コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況) 30点 目標A・B・E : 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。 以上、合計100点で評価する。</p>			
【教科書】 なし		【参考書】 なし	
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ(体育館用のスポーツシューズであれば可) ・授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリ類の着用は認めない。 ・爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。 ・長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。 ・服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。 			

授業科目名	体 育 実 技 (バドミントン)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	准教授 しま だ たか ひろ 島 田 貴 広	兼任准教授 ふじ もと かなめ 藤 本 要	開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
	期 末 試 験 の 有 無	無		
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		(藤本 要) 日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員 (2004年まで6年間) 全国私立短大体育大会運営委員競技副委員長、テニスの部競技委員長 (日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員在籍中) 国見町子ども・子育て支援推進協議会委員 (2015年まで2年間)		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		(島田貴広) 東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士(スポーツ科学) 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会 (藤本 要) 日本体育大学体育学部健康学科卒業 学士(体育学) 日本体育大学体育専攻科修了(高等学校教諭1級免許状取得) 中学・高等学校教諭1級免許状(保健体育) 衛生管理者証、日本応用心理学会 会会員、日本ブリーフセラピー協会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
バドミントンのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。	目標	A・B		
ドライブ、ハイクリア、サービスなどの基本技能ができる。	目標	B		
戦術を工夫し、試合で生かすことができる。	目標	B・E		
トーナメントやリーグ戦などの組み立てができ、仲間と試合を楽しめる。	目標	E		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	〈ガイダンス〉 今後の日程と授業展開・内容	講義 授業計画(シラバス)持参	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		バドミントンの用語を予習してくる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する 	グループワーク	ダブルスのルールを予習してくる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈オーバーヘッドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈オーバーヘッドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈オーバーヘッドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈アンダーハンドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈アンダーハンドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈アンダーハンドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈アンダーハンドストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈サイドアームストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術〈サイドアームストローク〉 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルのルールを理解する ・審判法 	グループワーク	シングルのルールを予習してくる。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	技能テスト		課題としている技能を練習しておく。
<p>【試験の講評】 授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B　　：技能テスト　30点 目標E　　　：試合中の観察評価（ルール・戦術理解）　30点 目標E　　　：授業参加時の態度（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）　30点 目標A・B・E：特記事項　10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。 以上、合計100点で評価する。</p>			
<p>【教科書】　なし</p>		<p>【参考書】　なし</p>	
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、バドミントンシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可） ・授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリー類の着用は認めない。 ・爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。 ・長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。 ・服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。 			

授業科目名	体育実技 (レクリエーションスポーツ)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： <small>こんのま</small> 野 麻 衣		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		各種専門学校・短大における講師活動（平成13年～現在に至る）		
社会貢献としての委員会・職等		桑折町スポーツ推進委員 総合型地域スポーツクラブマルベリーこおり運営委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		仙台大学大学院スポーツ科学研究科修了、修士（スポーツ科学）、レクリエーションコーディネーター、日本スポーツ運動学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等への対応を行います。		

【授業の概要】 本授業では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとします。様々なニュースポーツ種目を体験して、それぞれの基本技能の課題、チームワークの課題を設定することで、学生がより積極的に自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養っていきます。また、試合形式で行う場合は、準備から審判を含めた試合の管理運営方法までを学び、実践力を身につけていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ニュースポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。			目標	B
チーム戦術、あるいはグループ戦術の理解、またより運動を前向きに楽しむためのルールのアレンジ等、チームで協働して実践できるようになる。			目標	G
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養う。			目標	E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目と年間計画の説明 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	授業計画 講義・実技	ウォーミングアップ・ クールダウンの理解・確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	コミュニケーションゲーム(1) (アイスブレイキング)	実技 (グループワーク)	アイスブレイキングの理解・確認
3	コミュニケーションゲーム(2) (アイスブレイキング)	実技 (グループワーク)	アイスブレイキングの理解・確認
4	チャレンジ・ザ・ゲーム(1) (ロープ、ボール、ディスク、フープ使用)	実技 (グループワーク)	チャレンジ・ザ・ゲームの理解・確認
5	チャレンジ・ザ・ゲーム(2) (ロープ、ボール、ディスク、フープ使用)	実技 (グループワーク)	チャレンジ・ザ・ゲームの理解・確認
6	フライングディスク・ドッチビー(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	ディスク使用プログラムの理解・確認
7	フライングディスク・ドッチビー(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	ディスク使用プログラムの理解・確認
8	フライングディスク・ドッチビー(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	ディスク使用プログラムの理解・確認
9	ソフトバレーボール(1) 試合形式①	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
10	ソフトバレーボール(2) 試合形式②	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
11	ソフトバレーボール(3) 試合形式③	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
12	インディアカ(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
13	インディアカ(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
14	インディアカ(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
15	ユニバーサルホッケー(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
16	ユニバーサルホッケー(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
17	ユニバーサルホッケー(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
18	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(1)	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り
19	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(2)	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り
20	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(3) 振り返り	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り

<p>【講評】 授業終了後、希望者には到達度の講評について、説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標B …技能・知識の習得度 60% 目標E・G …授業への参加状況 30% 目標B・E・G…特記事項 10%※</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>	
<p>【教科書】 使用しない。</p>	<p>【参考書】 特に指定しない。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>〈実施種目について〉 実施するニュースポーツ種目は、「インディアカ、ソフトバレーボール、フライングディスク（ドッジビー）、ユニバーサルホッケー」をベースとし、アイスプレーキングやチャレンジ・ザ・ゲーム等を含めた活動とします。各種目の基本ルールでの活動からアレンジしたものまで、より運動に親しむことができるように工夫し活動します。（授業時の気象条件等により種目の順番を変更する場合があります）</p> <p>〈課題について〉 ニュースポーツ種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については、各種目実施前に説明を行いますが、事前にインターネット等を活用してルールを確認し、個人で理解を深め準備を整えておいてください。最終課題は、グループごとにレクリエーションスポーツプログラムを工夫し体験することで、実際にそのプログラムを体験したことによる振り返りを行います。</p> <p>〈服装持ち物、活動場所について〉 服装は気候・活動内容に合わせたスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズを持参し、各自アクセサリ類ははずし、安全に活動することができるよう努めてください。 活動は、基本的には屋内活動（体育館）となりますが、気象状況・活動内容によっては、グラウンドを使用することが適している場合もあるので、授業最後の事前の準備についての説明を聞き次週の準備を整えてください。</p>	

授業科目名	体育実技 (バスケットボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：宮崎利勝 〔本務先：仙台大学 職名：講師〕		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院（体育学修士） 日本体育学会 日本バイオメカニクス学会 日本陸上競技学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 主に試合形式を中心に実施する。試合内においてシュートやドリブル、パスワークについての基本的技能を身につけていく。また、戦術やルールについても簡易ゲームを用いながら理解を深めていく。試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得する。 また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ゲームを通じ、実戦に用いられる基本的技能を習得する。			目標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。			目標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。			目標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 シラバス持参	シラバスを熟読しておくこと。
2	基礎技術① ボールコントロール、ハンドリング、パッシング	グループワーク	用語やルールについて予習すること。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	基礎技術② シューティング ドリブルとレイアップシュート	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基礎技術③ シューティング ジャンプシュートとリバウンド	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基礎技術④ パッシングとドリブル シューティングとの組み合わせ	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基礎技術の総合練習 ドリブル ドリブルターン レイアップシュート ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	ゲーム (簡易化) 5対5のゲーム (シュートなし、ラインゴール形式)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能①ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能②ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能③パスワークの基本的な技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	バスケットボールの映像を視聴する	視聴覚教材 (45分程度)を用いて、戦術やルールを理解させる。	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ゲーム 5対5による攻防の実践 マンツーマンディフェンスについて	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ゲーム 5対5による攻防の実践 3点シュートによる展開	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ゲーム 5対5による攻防の実践 リバウンドの影響について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による④	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	オフェンス技術のまとめ オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価(ドリブルチェンジ クロスオーバーシュート ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ)まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
<p>【試験の講評】 授業終了後、希望者には実技試験等の講評について説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 目標B：技能テスト 30点 目標A：試合中の観察評価(ルール・戦術理解) 30点 目標G：授業への意欲態度 40点 出欠状況により減点する場合がある。</p>			
<p>【その他補足事項】 服装はスポーツウェア上下を必ず着用すること。着用していない場合は出席を認めない場合がある。屋内用運動シューズを持参すること。</p>			

授業科目名	体 育 実 技 球 (卓 球)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：宮崎利勝 〔本務先：仙台大学 職名：講師〕		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院（体育学修士） 日本体育学会 日本バイオメカニクス学会 日本陸上競技学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 主に試合形式を中心に実施する。前半では基本技術の習得やルールなどについて内容を展開していく。試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得する。 また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ゲームを通じ、実戦に用いられる基本的技能を習得する。			目標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。			目標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。			目標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 シラバス持参	シラバスを熟読しておくこと。
2	基礎技術① 各打法の紹介、ラケットの握り方、簡易ゲームの実施	グループワーク	用語やルールについて予習すること。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	基礎技術② 打球時の基本姿勢、フォアハンド、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基礎技術③ バックハンド、バックショート、裏面打法、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基礎技術④ フットワーク、前後左右への動き、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基礎技術⑤ 各種サーブとそのレシーブの紹介1、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基礎技術⑥ 各種サーブとそのレシーブの紹介2、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	ゲームの方法 シングルス① シングルの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	ゲームの方法 シングルス② 正規のルールによる審判法を解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	ゲームの方法 ダブルス① ダブルスのフォーメーションについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	ゲームの方法 ダブルス② ダブルスの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	競技としての卓球を知る	視聴覚教材(45分程度)を用いて、戦術やルールを理解させる。	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ゲーム トーナメント形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ゲーム トーナメント形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ゲーム トーナメント形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	ゲーム リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	ゲーム リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	ゲーム リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	まとめ 基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
20	技能チェックと評価 (サーブ レシーブ 各打法) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
<p>【試験の講評】 授業終了後、希望者には実技試験等の講評について説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価 (評価方法・基準)】 目標B：技能テスト 30点 目標A：試合中の観察評価 (ルール・戦術理解) 30点 目標G：授業への意欲態度 40点 出欠状況により減点する場合がある。</p>			
<p>【その他補足事項】 服装はスポーツウェア上下を必ず着用すること。着用していない場合は出席を認めない場合がある。屋内用運動シューズを持参すること。ラケットについては毎時貸し出す予定。</p>			

授業科目名	体 育 実 技 (サ ッ カ ー)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師		開 講 期	通年
	氏名：原 ^{はら} ^{たか} ^{ひろ} 隆 弘		授 業 回 数	20回
	〔本務先：株式会社AC福島ユナイテッド 職名：アカデミーダイレクター〕		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		株式会社AC福島ユナイテッドアカデミー アカデミーダイレクター期間4年		
社会貢献としての委員会・職等		(一財)福島県サッカー協会キッズ委員会 委員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東京教育大学体育学部健康教育学科卒業 保健体育科 高等学校教諭専修免許 公益財団法人日本サッカー協会 公認S級コーチ		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 サッカーのプレーそれ自体を楽しむ。それを深めるためにボールを「止める」、「蹴る」、「運ぶ」、という基礎技術を身につける。また、原理原則やルールについても理解し、同時に仲間とコミュニケーションを取り、協調してプレーすることの大切さを学ぶ。試合運営の方法や審判法についても学習する。 以上のことを学び、身体活動や仲間との活動の楽しさ・重要性を実感してもらい生涯スポーツにつなげる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	サッカーのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。		目標	B
②	戦術的理解を深める。		目標	A・B・E
③	チームづくりやチームワークを学ぶ。		目標	A・E
④	サッカーのルールやマナーを学ぶ。		目標	A・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明	講義 授業計画(シラバス)持参	サッカーの用語を予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	〈基本練習①〉 キックの種類(インサイド、インステップ他)、トラップ、ドリブル、1対1、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
3	〈基本練習②〉 ショートパス～ロングパス、グラウンダーと浮き球のパス、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	〈基本練習③〉 ドリブルとシュート、壁パス他、動きの中でのパス、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	〈ディフェンス〉 ディフェンスの基本(チャレンジ&カバー)、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	〈オフェンス〉 ポジショニングと役割、コンビネーション、パス&ゴールの基本、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	〈コンビネーション〉 1対1、3対1、4対2、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	〈個人技能の確認①〉 ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	〈個人技能の確認②〉 ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	〈個人技能の確認③〉 ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	〈ゲーム①〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	〈ゲーム②〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	〈ゲーム③〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	〈ゲーム④〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	〈ゲーム⑤〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	〈ゲーム⑥〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	〈ゲーム⑦〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	〈ゲーム⑧〉 ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	〈実技テスト①〉 ドリブルシュート、リフティング	実技試験	苦手な技能について練習してくる。
20	〈実技テスト②〉 ドリブルシュート、リフティング	実技試験	苦手な技能について練習してくる。

【期末試験の講評】

授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標① : 技能テスト 30点

目標②④ : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解） 30点

目標③④ : 授業参加時の態度（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況） 30点

目標①～④ : 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点で評価する。

【その他補足事項】

- ・服装はスポーツウェア上下、グラウンド用シューズ
- ・授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリ類の着用は認めない。
- ・爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。
- ・長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。
- ・服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：ながしまてるこ 長島輝子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島女子短期大学附属幼稚園教諭、副園長、園長 (昭和50年4月～平成17年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		一般社団法人日本保育学会会員、日本応用心理学会会員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		國學院大學幼児教育専門学校 幼稚園教諭一種免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		月曜日5限・6限、宮代キャンパス研究室にて行います。		

【授業の概要】 (1) 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の職務内容とその社会的意義・役割について概説する。 (2) 保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)に求められる資質・能力を概説する。 (3) 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の地位・身分、服務及び養成・研修の制度を解説する。 (4) 圧痕の幼児教育行政の動向を紹介し、将来の進路決定に役立つような情報を提供する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
○	ウ	グループワーク		
○	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
(1) 幼児教育の意義と保育者の役割を理解する。			目標	A
(2) 保育者に求められる資質・能力を理解する。			目標	C
(3) 保育者の地位・身分及び守るべきサービスを理解する。			目標	A
(4) 専門職としての就職するための心構えを学ぶ。			目標	F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・「保育者論」で何を学ぶのか ・評価方法等	講義、質疑応答 授業計画 プリント(教科書)配布	予習：第1・2章の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育とは何か ・保育者とは ・保育者のタイプと役割	グループワーク・講義 プリント	復習：本日の話し合いをレポートにまとめる。
3	保育者に求められる資質・能力 — 指導者としての実践的指導能力面から (発表会DVDを視聴して) —	DVD視聴・講義 レポートを作成し提出する。	復習：第1・2章の読み込み
4	保育者に求められる資質・能力 — 指導者としての総合的人間力の面から (保育者の哲学、砂遊びを通して) —	講義 グループワーク、まとめ 発表	復習：「砂遊び」の講義をまとめる。
5	保育者の社会的位置づけ — 保育者の責務、保育者という職業(地位・身分) —	講義 質疑応答	復習：第2章の読み込み
6	保育者の服務について(1) — 地方公務員法第30条～第33条 — 幼稚園・保育所・認定こども園の業務	講義 質疑応答	予習：第8章の下読み
7	保育者の服務について(2) — 地方公務員法第34条と児童虐待防止法 — 児童福祉施設における保育者の業務	講義 質疑応答	復習：第8章の読み込み
8	保育者の服務について(3) — 地方公務員法第35条～第38条と教育公務員特例法 — ・子育て支援センターの業務、保護者に対する理解と支援 ・保育者と専門機関等の連携	講義 質疑応答	予習：第12章の下読み
9	保育者の実践的能力について ・子どもを理解する力 ・保育を計画する力	講義 グループワーク、発表	予習：第10章の下読み
10	保育者の実践的能力について ・保育を実践する力 ・保育を省察する力 ・省察、計画、実践	講義・グループワーク まとめ、発表	復習：第10章の読み込み
11	保育の展開と再構成 ・保育の計画と記録の大切さ ・保育・教育課程と指導計画	講義・グループワーク まとめ、発表	復習：第7章の読み込み
12	保育の実践事例(DVD他)から ・保育の展開と再構成	講義 質疑応答	復習：第7章の読み込み
13	保育者間の連携・協働と専門機関との連携 ・保育者間で育てていきたい力とは ・保育カンファレンスの生かし方	講義 質疑応答	復習：第9章の読み込み
14	最近の幼児教育行政の動向について	講義 質疑応答	予習：第15章の下読み
15	これからの保育者に求められるもの	講義 レポート作成	復習：第15章の読み込み
期末試験	ペーパー試験	ペーパー試験 (持ち込みなし)	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A・C・F：(1) 期末試験（70点） (2) 課題提出（20点）</p> <p>目標A・C：(3) 授業中の行動（例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等）を観察し、評価する。（10点）</p> <p style="text-align: right;">以上、合計100点で評価する。</p> <p>※詳細についてはオリエンテーション時</p>	
<p>【教科書】 新版 保育者論（編著者：谷田貝公昭・高橋弥生）を印刷し配布します。それをファイルにまとめ教科書を作ります。紙ファイル一冊準備すること。</p>	<p>【参考書】 書名：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領3法令 すぐわかる すぐできる おたすけガイド</p> <p>著者名：無藤 隆</p> <p>発行所：ひかりのくに株式会社</p> <p>価格：1,200円（税別）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>・特になし</p>	

授業科目名	保育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政	やま ざき のぶ まさ	開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本授業では、保育の基本的概念を学び、保育における理念についての理解を目的とする。 この目的に沿い、保育の理念・思想が、歴史の変遷とともにどのように捉えられてきたのかを学び、併せて現代の教育・保育に関する法令及び制度について理解する。また、保育実践に生かせる知識の習得、専門職としての保育者の役割を理解すると共に、諸外国の教育・保育の多様なあり方への理解を深める。 さらに、日本の保育の現状と今日的課題の理解等を通して、保育現場の実際や、現代の子ども達がおかれている状況を把握し、子どもや保護者へ対してより良い支援の多様なあり方を考察する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	○	E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
○	イ	ディスカッション、ディベート		
○	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育の意義及び目的について理解する。	目標	A・C		
保育に関する法令及び制度を理解する。	目標	A・C		
保育所保育指針における保育の基本について理解する。	目標	A・C		
保育の思想と歴史の変遷について理解する。	目標	A・C		
保育の現状と課題について理解する。	目標	A・C・E・F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育の意義と目的 ～保育とは何か～	「保育とは何か」について意見交換	予習；保育の意義について検討
2	保育の基盤 ～子ども観について～	「子どもとはどのようなものか」について意見交換	予習；子ども観について検討
3	子ども理解 ～保育における子ども理解について～	「子どもの行為の意味」について意見交換	予習；子ども理解について検討
4	子どもが育つ環境 ～環境による保育について～	「保育環境」について意見交換	予習；子どもが育つ環境について検討
5	保育内容・方法 ～保育の基本と保育内容について～	「子どものための保育」について意見交換	予習；保育内容について検討
6	保育の計画 ～保育における計画と実践について～	「保育の計画はなぜ必要か」について意見交換	予習；保育計画について検討
7	保育における健康・安全 ～衛生管理と安全管理について～	「子どもの遊びと怪我」について意見交換	予習；子どもと健康安全について検討
8	保育の在り方 ～子どもの多様性について；子どもとともに育つ～	「多様な子ども」について意見交換	予習；多様な子どもについて検討
9	保育の思想と歴史 ～保育の歴史に学ぶ～	「保育を学ぶ上で歴史を学ぶ必要性」について意見交換	予習；保育の歴史について検討
10	保育の思想と歴史 ～日本における保育制度の移り変わり～	「幼保一元化」について意見交換	予習；保育の歴史について検討
11	保育者とは ～共に学ぶ保育者～	「保育者」について意見交換	予習；保育者について検討
12	子育てと子育て支援 ～子育て支援の必要性和具体的展開について～	「子育て支援」について意見交換	予習；子育て支援について検討
13	保育の現状と課題 ～すべての子どもに保育を～	「待機児童問題」について意見交換	予習；保育の現状について検討
14	保育の現状と課題 ～保育の質の維持と向上～	「保育の質」について意見交換	予習；保育の質の向上について検討
15	保育の原理 ～あらためて保育について考える～	「あらためて保育とは何か」について意見交換	予習；保育について検討
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】

目標：A・F 保育者の理念・思想の歴史の変遷による視点、現代の教育・保育に関する法令及び制度についての理解、並びに、諸外国の教育・保育の多様なあり方についての理解 50点

目標：A・C・E 保育者の役割についての理解や、子どもや保護者へ対してのより良い支援のあり方等についての考察 50点

目標到達度は、期末試験60%、ミニレポート40%、により評価するが、授業態度・出席状況も加味する。

【教科書】 書名：新しい保育講座1 保育原理
著者名：渡邊英則 他 編著
発行所：ミネルヴァ書房
価格：2,200円（税別）

書名：保育所保育指針解説
著者名：厚生労働省 編
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）

書名：幼稚園教育要領解説
著者名：文部科学省 編
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）

書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省 編
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

【その他補足事項】

テキストの予習・復習をすること。

授業科目名	社会的養護 I		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		児童養護施設心理療法士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本福祉心理学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 社会的養護の意義とその歴史の変遷を踏まえ、子どもの権利擁護を基本とした制度や実施体系及び関連する専門職等に関して理解するとともに、今日の社会的養護の現状と課題を理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。			目標	A
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。			目標	A
社会的養護の制度や実施体系等について理解する。			目標	A・F
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。			目標	A・F
社会的養護の現状と課題について理解する。			目標	A・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 (1) 社会的養護の理念と概念	授業の進め方等の説明をする。	予習：児童養護施設の設置数を調べる。
2	(2) 社会的養護の歴史の変遷	講義を踏まえて年表を作成する。	予習：里親の種類と現況を調べて提出。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	2. 社会的養護の基本 (1) 子どもの人権擁護と社会的養護	DVD「子どもの権利とは」13分	予習：子どもの権利条約について調べて内容把握。
4	(2) 社会的養護の基本原則	DVD「子どもの意向と最善の利益」9分	予習：虐待の種類と発生件数を調べる。
5	(3) 社会的養護における保育士等の倫理と責務	グループワーク：保育観と保育士の専門性についてディスカッション	予習：施設における保育士の業務内容を調べる。
6	3. 社会的養護の制度と実施体系 (1) 社会的養護の制度と法体系	施設入所児童の特長についてパワポ資料で説明する。	予習：社会的養護に関連する法律を調べる。
7	(2) 社会的養護の仕組みと実施体系	グループワーク：被虐待児の事例検討	予習：レビューテーマ「児童養護施設について」300字
8	4. 社会的養護の対象・形態・専門職 (1) 社会的養護の対象	グループワーク：アセスメントの方法と理解	予習：児童相談所の機能について調べる。
9	(2) 家庭養護と施設養護	グループワーク：家庭養護・施設養護のメリットデメリットについてディスカッション	予習：家庭養護と施設養護の違いを調べる。
10	(3) 社会的養護に関わる専門職	DVD「専門性と子どもの権利」13分	予習：レビューテーマ「専門職の種類と業務内容」300字
11	5. 社会的養護の現状と課題 (1) 社会的養護に関する社会的状況	プレイセラピーに関する資料配布及び実際に事例で学ぶ。	予習：厚労省HPで社会的養護施策を概観する。
12	(2) 施設等の運営管理	DVD「ペアレントトレーニング」15分	予習：児童養護施設の規模や期待を分類把握する。
13	(3) 被措置児童等の虐待防止	DVD「しつけと虐待」13分	予習：レビューテーマ「施設内暴力について」300字
14	(4) 社会的養護と地域福祉	グループワーク：児童養護施設による地域貢献についてディスカッション	予習：児童養護施設による地域貢献について調べる。
15	まとめ	グループワーク：子ども自立についてディスカッション	復習：ジェノグラム作成
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 到達目標：A 後期末試験 40%
2. 到達目標：A・E 毎回のリアクションペーパー、授業内の小レポート等提出物 40%
3. 到達目標：E・F 授業内の発言及び活動 20%

【参考書】 書名：子どもの未来を育む自立支援
著者名：井出智博・片山由季
発行所：岩崎学術出版社
価格：2,800円（税別）

授業科目名	社会福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：日下輝美		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		日本地域福祉学会福島県地方委員、福島県社会福祉協議会評議員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻修了 （修士（経営学））		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本講義は、社会福祉の制度・法体系の基礎的な知識を学び、保育士として必要な視点を身につけることを目的とします。 〈講義内容〉 ① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点を養います。 ② 社会福祉の制度や実施体系等について学びます。 ③ 社会福祉における相談援助について理解を深めます。 ④ 社会福祉における利用者の保護に関する仕組みについて学びます。 ⑤ 社会福祉の動向と課題について理解を深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
社会福祉の制度・法体系について説明することができる。		目標	A・C	
社会福祉の歴史の変遷を踏まえ、社会福祉の政策上の位置づけについて理解することができる。		目標	A・C	
社会福祉専門職の専門性と倫理について論じることができる。		目標	A・C・F	
社会福祉専門職としての保育士の役割を説明することができる。		目標	A・C・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	保育と社会福祉	教科書 教科書補足資料	教科書 p 16～25を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	社会福祉の考え方と役割	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 28～39を事前に読む 予習のテーマ：「社会福祉とは何か」400字
4	社会福祉のあゆみ	ラーニングコモンズ（図書館に於ける学び） 教科書補足資料	教科書 p 42～54を事前に読む 復習：感想文提出
5	生活を守る社会保障制度	教科書 新聞記事等を使用しペアワークを行います。	教科書 p 56～70を事前に読む
6	社会福祉の制度・法体系	教科書 教科書補足資料	教科書 p 72～88を事前に読む
7	社会福祉の実施機関と行財政	教科書 教科書補足資料	教科書 p 90～100を事前に読む
8	社会福祉の施設	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 102～108を事前に読む 予習のテーマ：「社会福祉施設について」800字
9	子どもの人権と児童家庭福祉	教科書 教科書補足資料	教科書 p 110～124を事前に読む
10	社会福祉の専門職と倫理	専門職に関するDVD①を視聴（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書 p 126～142を事前に読む 復習：感想文提出
11	相談援助の意味と方法	専門職に関するDVD②を視聴（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書 p 144～159を事前に読む 復習：感想文提出
12	福祉サービスの利用支援と第三者評価	教科書 教科書補足資料	教科書 p 162～171を事前に読む
13	権利擁護と苦情解決	グループワーク 教科書 教科書補足資料	教科書 p 174～188を事前に読む 復習：感想文提出
14	地域福祉の意味と推進方法	プレゼンテーション 教科書 教科書補足資料	教科書 p 190～200を事前に読む
15	他分野との連携とネットワークまとめ	教科書 教科書補足資料	教科書 p 202～214を事前に読む 教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 目標A・C・F：レポート（50%）
レポート課題は授業内容に沿って設定します。
- (2) 目標A・C：筆記試験（50%）
後期末に記述方式のテストを実施します。

*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。

【教科書】 書名：保育と社会福祉
著者名：橋本好市、宮田 徹 編
発行所：株式会社みらい
価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。

授業科目名	子ども家庭福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 清 孝	きよ たか	開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士 （社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 社会福祉の構成要素のひとつである子ども家庭福祉は、対象者を子どもだけではなく、子どもの育つ環境全体を視野に入れた理解により、豊かなものにすることができる。 本講義では、子ども家庭福祉の基本的理念、制度、施設等の運営、ソーシャルワークなどの子ども家庭福祉援助について体系的に学び、保育者として必要な知識と思考方法を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。	目標	A・C		
② 子ども家庭福祉サービスについて理解する。	目標	A・F		
③ 子ども家庭福祉における専門職としての保育者の役割を理解する。	目標	A・C・F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 保育における子ども家庭福祉	授業計画 授業資料1 授業資料完成	予習：テキスト「保育における子ども家庭福祉」 熟読→資料完成に活用

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	現代社会と子ども・家庭 — 社会・家庭・地域の変容 —	授業資料2 授業資料完成	予習：テキスト「現代社会と子ども・家庭」熟読 →資料完成に活用
3	現代社会と子ども家庭福祉 — 子ども家庭福祉の方向性 —	授業資料3 授業資料完成	予習：テキスト「現代社会と子ども家庭福祉」熟読 →資料完成に活用
4	子ども家庭福祉の概念と理念 — 児童の権利条約 —	授業資料4 授業資料完成	予習：テキスト「子ども家庭福祉の概念・理念」熟読 →資料完成に活用
5	子ども家庭福祉の歴史的展開	授業資料5 授業資料完成	予習：テキスト「子ども家庭福祉の歴史的展開」熟読 →資料完成に活用 復習：「1～5のまとめ」レポート作成
6	子ども家庭福祉の法体系 — 児童福祉6法及び関連法 —	授業資料6 授業資料完成	予習：テキスト「諸外国の現状」「子ども家庭福祉の法体系」熟読 →資料完成に活用
7	子ども家庭福祉の実施体制	授業資料7 授業資料完成	予習：テキスト「子ども家庭福祉の実施体制」熟読 →資料完成に活用
8	子ども家庭福祉の費用 子ども家庭福祉の専門職とネットワーク	授業資料8 授業資料完成	予習：テキスト「子ども家庭福祉の費用」「専門職とネットワーク」熟読 →資料完成に活用 復習：「6～8のまとめ」レポート作成
9	子ども家庭福祉の現状と課題(1) — 子育て支援サービスと保育ニーズ —	授業資料9 授業資料完成	予習：テキスト「少子化と子育て支援サービス」「多様な保育ニーズへの対応」熟読 →資料完成に活用
10	子ども家庭福祉の現状と課題(2) — 母子保健サービス —	授業資料10 授業資料完成	予習：テキスト「母子保健サービス」熟読 →資料完成に活用
11	子ども家庭福祉の現状と課題(3) — 障害のある子どもへの支援 —	授業資料11 授業資料完成	予習：テキスト「障害のある子どもへの支援」「子どもの健全育成」熟読 →資料完成に活用
12	子ども家庭福祉の現状と課題(4) — 子ども虐待とDV —	授業資料12 授業資料完成 視聴32分 「児童虐待」「DV」	予習：テキスト「子ども虐待とDVへの対応」熟読 →資料完成に活用
13	子ども家庭福祉の現状と課題(5) — 社会的養護サービス —	授業資料13 授業資料完成	予習：テキスト「社会的擁護サービス」熟読 →資料完成に活用

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	子ども家庭福祉の現状と課題(6) — ひとり親家庭福祉 —	授業資料14 授業資料完成	予習：テキスト「ひとり親家庭福祉」熟読→資料完成に活用 復習：「9～14のまとめ」レポート作成
15	子ども家庭福祉援助活動 — 子ども家庭福祉援助活動と保育及び相談援助 —	授業資料15 授業資料完成	予習：テキスト「子ども家庭福祉援助活動」熟読→資料完成に活用
期末試験	期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③：期末試験（70点満点）。 目標②：授業内容に関して、質問や意見を積極的に述べる学生には加点する。 目標③：レポート（3回）は30（各10）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。 100点を越えたものは一律100点とし、ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。</p>			
<p>【教科書】 書名：最新・保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉 著者名：柏女霊峰 ほか 発行所：社会福祉法人 全国社会福祉協議会 価格：2,000円（税別）</p>			
<p>【参考書】 期末試験の際には、授業配布資料のみ持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。 授業配布資料は、授業内容及び必要事項を書き込み、授業中または授業後に完成させ試験に臨むこと。</p>			

授業科目名	発達心理学		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：梅 ^{うめ} 宮 ^{みや} れいか		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		日本学校心理士会福島支部会長（平成30年6月～）、日本臨床発達心理士会研修委員（平成27年～）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学大学院文学研究科博士課程（文学修士） 健康医学会、健康心理学会 学校心理士スーパーバイザー（学校心理士資格認定機構）、臨床発達心理士スーパーバイザー（臨床発達心理司資格運営機構）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレス等については初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業は、第Ⅰ部として発達全般に関する基礎知識（発達の定義、人間発達の特殊性、発達を規定する要因や相互作用、初期経験や社会的・文化的背景、子ども観・保育観の変遷、主な発達理論、胎児期から老人期までの発達特徴や発達課題）、第Ⅱ部として、乳幼児期・児童期を中心とした身体・運動の発達、認知の発達、言語の発達、社会性の発達、感情の発達、発達障害等について、具体的な事実や現象を例にあげながら解説していきます。 予習では必ずテーマを解決し、そのつどレビューを授業開始時に提出してもらいます。レビューを作るのに、2～3時間程度の時間を想定しています。授業冒頭で提出されたレビューを担当教員が概読、質問に答えるとともに、冒頭のディスカッションの材料とします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
○	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	子どもの心身の発達に対する主な要因とその相互作用について理解する。	目標	A
②	発達に関する代表的理論を理解する。	目標	A
③	発達の概念、保育・教育に関する発達理解の意義について理解する。	目標	A
④	乳幼児期から青年期の各時期について、運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解する。	目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 発達の定義、生涯発達、発達の原理、発達のメカニズム	授業の進め方の説明をします。	必ずB5版以上のノートを持参してください。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	人間発達の特異性(生理的早産)	予習のレビューで、有用なものをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。 DVD「生命」20分	予習:レビューテーマ:極低出生体重児とは 400字
3	発達を規定する要因1(遺伝的要因と環境的要因)	予習レビューの授業導入活用 DVD「双子の科学」17分	予習:レビューテーマ:アダルトチャイルド(AC)について 400字
4	発達を規定する要因2(相互作用の考え方)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習:レビューテーマ:双子コーデについて 400字
5	初期経験と子どもの発達	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習:レビューテーマ:母性について 400字
6	子どもの発達と社会・文化的背景	予習レビューの授業導入活用 DVD「トロブリアンド諸島のクラ交換」23分	予習:レビューテーマ:通過儀礼について 400字
7	子ども観・保育観の変遷1(ヨーロッパにおける子ども観と代表的な保育観)	予習レビューの授業導入活用 DVD「ペスタロッツ幼稚園」23分	予習:レビューテーマ:ベラスケス「ラス・メニーナス」を説明し、中央の人物の考えていることを推測せよ 400字
8	子ども観・保育観の変遷2(日本における子ども観、現代における子どもの姿)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習:レビューテーマ:昭和の子どもと平成の子どもの違い 400字
9	発達理論の理解1(ピアジェ、ヴィゴツキー等)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習:レビューテーマ:思考発達段階説について 400字
10	発達理論の理解2(フロイト、エリクソン、ワロン等)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習:レビューテーマ:アイデンティティについて 400字
11	胎児期(胎児の身体・運動発達、胎児期の感覚機能の発達、母胎の影響)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃんの科学」15分	予習:レビューテーマ:喫煙と肥満の関係について 400字
12	新生児期1(新生児の生活と行動、新生児の知覚と能力)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃんの科学」13分	予習:レビューテーマ:最古の記憶は何か? 400字
13	新生児期2(新生児期の環境と養育者の及ぼす影響)	予習レビューの授業導入活用 DVD「お母さんの危機」18分	予習:レビューテーマ:アヴェロン野生児について 400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	乳幼児期1 (乳幼児の発達課題、脳の発達)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃん成長の道のり」13分	予習：レビューテーマ：三位一体脳は本当か？うそか？ 400字
15	乳幼児期2 (基本的生活習慣の確立、こころの芽生えと知的発達)、まとめ(1)	予習レビューの授業導入活用 DVD「子どもの世界」14分	予習：レビューテーマ：子どもの目線とは？ 400字
期末試験	到達目標を評価するため、それぞれ論述題4問で行います	自筆ノート持込可	
16	児童期 (発達課題、発達の特徴、小1プロブレム、自己理解、対人関係の発達)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：幼少接続について 400字
17	青年期 (青年期の始期と終期、特徴と発達課題、第二反抗期、自我同一性)	予習レビューの授業導入活用 DVD「OZ」52分	予習：レビューテーマ：自分を自分と証明せよ
18	成人期・老人期 (成人期の特徴と発達課題、老人期の特徴と発達課題)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：若返りについて
19	身体・運動の発達1 (身体発達の特徴、運動発達の分類と方向性、移動運動の発達)	予習レビューの導入活用 ゲストスピーカー	予習：レビューテーマ：運動嫌いについて 400字
20	身体・運動の発達2 (バランス運動、協調運動、幼児期・児童期の運動発達の様相)	予習レビューの導入活用 ゲストスピーカー	予習：レビューテーマ：不器用について 400字
21	認知の発達1 (乳幼児期の特徴、随伴性の理解、表象の形成)	予習レビューの授業導入活用 DVD「刑事コロンボ」40分	予習：レビューテーマ：認知症と介護者の表情 400字
22	認知の発達2 (保存の概念、心の理論、児童期の特徴)	予習レビューの授業導入活用 DVD「僕のぼら色の人生」43分	予習：レビューテーマ：LGBTについて 400字
23	言語の発達1 (前言語的コミュニケーション、母親語と育児語、音声の獲得、3項関係、表象機能)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：親はなぜ幼児語で話しかけるのか？ 400字
24	言語の発達2 (言語的コミュニケーション、一語文の成立、二語文と多語文、読み書きの発達)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習 DVD「スターゲート」46分	予習：レビューテーマ：絵本はなぜ有効か？ 400字
25	社会性の発達1 (人とのかかわり、社会化、親子関係、仲間関係)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：ヤン・ステーン「大人が歌えば子供が笛吹く」解釈 400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	社会性の発達2 (遊びと発達、自己意識と対人関係)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：ブリュッセル「子供の遊戯」社会性からの解釈 400字
27	感情の発達 (感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会文化の中での感情発達)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：いやいや期とは？ 400字
28	発達障害の理解 (発達障害の概念、発達障害の子どもの特徴、保育者としての対応)	予習レビューの授業導入活用 DVD「きみがおしえてくれたこと」 40分	予習：レビューテーマ：空気が読めないことについて 400字
29	子どもの発達の理解の方法 (アセスメント、発達検査、行動観察)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：臨床発達心理学におけるアセスメントの意義 400字
30	子どもの支援 (遊び、仲間関係、コミュニケーション)、まとめ(2)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：孤立している子どもへの声かけを考えよ 400字
期末試験	到達目標を評価するため、それぞれ論述題4問で行います	自筆ノート持込可	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】 目標①～④：中間・期末試験 (到達目標各25点、計200/4 = 50点満点)、レビュー100/2 = 50点満点、総計100点満点 で評価。ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
【教科書】 書名：幼児教育と保育のための発達心理学 著者名：小池庸生・藤野信行 編著 発行所：建帛社 価格：2,000円 (税別)			
【参考書】 書名：保育の心理学Ⅰ、Ⅱ 著者名：本郷一夫 編著 発行所：建帛社 価格：2,200円 (税別)			

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：湯田厚子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県公立小中学校養護教諭（昭和53年4月～平成30年4月） 福島県スクールカウンセラー（平成30年4月～現在）			
社会貢献としての委員会・職等	福島県養護教諭部会会長（平成23・24年） 全国養護教諭連絡協議会副会長（平成27・28年）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻修士課程修了修士（教育学） 養護教諭、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、日本学校心理士会、日本LD学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 この授業においては、幼稚園教諭や保育士に求められている子どもの命を守り、健やかな育ちを支えるために必要な資質としての、子どもの心身の健康と安全、成長発達に関する知識や技術を学びます。また、子どもの疾病の特徴や予防、適切な対応についても学びます。授業テーマに沿った講義を進めるだけでなく、授業テーマごとに、現代の保育の現状や実際に起こっている課題等について学生に提示し、グループディスカッションや意見発表等を取り入れて、より良い保健活動の在り方について考えを深めていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
	○	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)				
子どもの健康を捉えるための基盤となる知識として健康とは何かについて理解し、述べることができる。	目標	A			
子どもの発育発達の実態を理解するとともに、疾病の予防とその適切な対応の仕方について理解し、述べるができる。	目標	B・E			
子どもの安全管理の在り方や具体的な安全対策、応急処置について理解し、述べるができる。	目標	B・E			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 「講義ノート」づくり (2) 授業の概要と目標 (3) 授業内容と評価の方法 (4) その他	シラバス	
2	子どもの健康と保健の意義 1 健康の概念とヘルスプロモーション	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (WHO憲章について調べてくる)
3	子どもの健康と保健の意義 2 地域における保健活動と児童虐待防止	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (虐待事例について調べてくる)
4	子どもの発育・発達と保健 1 生物としてのヒトの成り立ち	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (自分の母子手帳を見て、自分の誕生までの様子を知る)
5	子どもの発育・発達と保健 2 身体発育・生理機能運動機能の発達	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
6	子どもの疾病と保育 1 健康状態の把握	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (健康状態の把握の方法について調べてくる)
7	子どもの疾病と保育 2 疾病の理解と適切な対応①	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
8	子どもの疾病と保育 3 疾病の理解と適切な対応②	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
9	子どもの疾病と保育 4 疾病の予防と適切な教育的援助①	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
10	子どもの疾病と保育 5 疾病の予防と適切な教育的援助②	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
11	子どもの精神保健 1 子どものこころの健康	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どものメンタルヘルスの課題について調べてくる)
12	子どもの精神保健 2 障害を持つ子どもへの適切な対応	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
13	環境及び衛生管理並びに安全管理 子どもの事故けがに対する応急処置・救命処置	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どもの事故の事例について調べてくる)
14	健康及び安全の実施体制 1 保育現場における危機管理と安全対策	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	健康及び安全の実施体制 2 家庭・専門機関・地域との連携 まとめ	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験40点 ノート10点 小レポート10点 目標B・E：実技演習20点 ディスカッション発言など積極的講義参加20点 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
【教科書】 書 名：イラストで学ぼう！ 子どものケガ・病気・感染症 著者名：朴 賢晶・鈴木陽子・赤塚徳子 発行所：芽ばえ社 価 格：1,400円（税別）		【参考書】 書 名：保育所保育指針〈平成29年度告示〉 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別） 書 名：幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別） 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別）	
【その他補足事項】 「講義ノート」として使用するので、A4サイズのノート（30ページ程度）1冊を購入し第1回講義時に必ず持参すること。指定した【参考書】は毎時間持参するのが望ましい。			

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡辺博志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事 (平成15年4月～平成17年4月) 福島大学総合教育研究センター准教授・教授 (平成19年4月～平成25年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		福島市教育事務評価検証委員 大玉村第三者評価委員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士(教育学) 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状(国語)、日本カリキュラム学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは金曜日午前宮代キャンパス研究室で行います。		

【授業の概要】 認定こども園、幼稚園、保育所及び連節する小学校低学年で行われている保育・教育活動は、国の意図的、計画的な仕事として行われていることを理解できるようにします。国はその目的を達成するため保育・教育活動の基準として幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領を公示し、充実した保育・教育の具現に努めていること、また各幼稚園、保育所では、地域や子どもの実態を踏まえた保育・教育活動を行うために最適な教育課程を編成し、特色ある保育・教育を実施・推進していること、保育・教育の質の向上に向けて教育課程を評価して改善を図り新しい教育課程の編成・実施につなぐ一連のPDCAサイクルを取り入れていること、家庭や地域社会の人的・物的資源を活用し連携して保育・教育を充実しているなどを捉えることができます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
	○	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 保育・教育の目的達成と教育課程の意義や必要性および法的根拠や編成手順・方法を自分の言葉で表現し説明できる。			目標	A	
② 日々の保育・教育に必要な具体的な指導計画や保育・教育のための指導案を作成することができる。			目標	B	
③ 指導と評価の観点に立ち、より効果的で質の高い教育課程編成のあり方・方法について自分の視点で論じることができる。			目標	E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・幼児教育・保育の基本とカリキュラムの考え方と展望	授業計画 授業の進め方、資料活用、評価、ミニレポート作成について説明します パワーポイント資料、プリント資料、ペア・グループ討議	事前配布する資料の授業テーマキーワードについて予習し、ミニレポートに整理します
2	教育・保育の目的と計画的な営み ・教育課程・保育課程の意義と必要性 ・目的と計画性のある教育・保育の具体事例研究	教科書・プリント教材、メディア資料、パワーポイント資料、ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート①
3	「保育」「教育」の専門性 —— 意図的・計画的にすすめるために —— ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の基準性と必要性	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート②
4	幼稚園の教育課程の編成の原則と手順 ・法的根拠 ・ビジョンの構成(理念、方針、目標) ・指導計画	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート③
5	保育課程の編成と原則 ・保育のねらい、内容と保育課程の編成 ・「一体化」の意味と具体	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート④
6	教育・保育内容と子どもの活動 ・教育課程と指導計画 ・教育・保育課程の具体事例研究	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート⑤
7	意図的・計画的に保育・教育を行うための「計画」の必要性 ・長期の指導計画 ・月指導計画 ・短期の指導計画 ・日指導計画(日案) ・年間指導計画 ・期の指導計画 ・週計画週案	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート⑥
8	短期の指導計画：日案(日の計画)の作成(1) ・生活と保育のデザイン ・日案作成の基本と諸要素 試案「部分案」の作成	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 「部分案の作成」
9	短期の指導計画：日案(日の計画)の作成(2) ・「ねらい」の具体化と環境構成 ・日案の具体事例研究 ・総合的指導の構想と具体化 試案「一日案」の作成	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 「一日案の作成」
10	週案の必要性和週案の作成(1) ・週案作成の基本と子どもの生活リズム ・週案と日案の共通点、相違点 ・週案の具体事例研究	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 週案の具体事例について解説文作成
11	週案の必要性和週案の作成(2) ・園行事や環境構成を生かした週計画 ・記録と省察 ・試案「週案」の作成とグループ検討	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 週案作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	「評価」とカリキュラム・マネジメント (PDCAサイクル) ・PDCAサイクル、反省・評価の方法、記録の意義・方法	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート⑦
13	保育・教育の「連携」と子どもの育ち ・幼稚園教育要領と外部の教育資源 ・地域の物的環境・人的環境 ・地域との連携事例研究 — その効果と成果 (聞き取り調査発表)	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート⑧
14	さまざまな教育・保育課程のデザインと実践展開 ・特色ある教育・保育活動の実際 ・保幼小の連携 ・預かり保育・延長保育	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 私の幼稚園ビジョン等作成
15	私たちの考える理想の〇〇園 ・園の保育・教育ビジョン ・特色ある教育環境 教育・保育活動 ・プレゼンテーションと冊子作り (完成)	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プレゼンテーション資料作成
期末試験	記述方式テスト		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】 目標①③：期末試験 …60点 (レポートを含む) 目標①③：「感想・質問・意見」の提出 …20点 (授業後、毎回提出) 目標②：指導案の作成 …10点			
【教科書】 書名：指導計画の作成と保育の展開 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：250円 (税別)		【参考書】 書名：教育課程の理論 保育におけるカリキュラム・デザイン 著者名：磯部裕子 発行所：萌文書林 価格：1,800円 (税別) 書名：保育課程・教育課程総論 著者名：柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ 編 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,200円 (税別)	
【その他補足事項】 1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくします。 2. 授業の初めにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深めます。 3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図ります。 4. 授業に使用する教材は前週に配布するので「授業のキーワード」について下調べをしておく。			

授業科目名	音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼稚園や保育園等で使われている楽曲の楽譜には、コードネームが記載されています。それらは限られたコードによる基本的なコード進行を使用している場合がほとんどです。 本授業においては、コード理論の基礎を学ぶことにより、初見の楽曲でも自力で楽曲分析とコード伴奏ができるように授業を展開していきます。その際、カリンバや打楽器等も活用しながらアンサンブルを通して、コード理論の基礎を仲間と協働しながら楽しく習得できるように授業を進めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	コード理論の基礎を習得する。		目標	A
②	簡単な楽器を使って、コード、ベース、リズムを演奏できる。		目標	B
③	それぞれの楽曲分析を交流させながら、協力してアンサンブルを楽しむ。		目標	G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要、目標、評価 ・自己紹介 ・グループ編成	講義 演習	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	シュタイナーペンタトニックで調律されたカリンバで遊ぶ(1) ・ふし問答	講義：カリンバの構造 演習：カリンバ演奏	講義内容、演習内容の復習
3	シュタイナーペンタトニックで調律されたカリンバで遊ぶ(2) ・リズム問答	講義 演習：カリンバ演奏	講義内容、演習内容の復習
4	シュタイナーペンタトニックで調律されたカリンバで遊ぶ(3) ・曲の演奏	講義 演習：カリンバ演奏	講義内容、演習内容の復習
5	シュタイナーペンタトニックで調律されたカリンバで遊ぶ(4) ・曲の演奏	講義 演習：カリンバ演奏	講義内容、演習内容の復習
6	シュタイナーペンタトニックで調律されたカリンバで遊ぶ(5) ・アンサンブル発表 ・レポート提出①	講義 演習：カリンバ演奏	講義内容、演習内容の復習
7	基本的な楽典 ・音名 ・音程 ・和音	講義：基本的な音楽用語 演習：各種音程の記譜	予習：基本的な音楽用語を調べる
8	簡単なコードの練習(1) ・C、G、F	講義：コードの構成音 演習：コードの演奏	講義内容、演習内容の復習
9	簡単なコードの練習(2) ・G、D、C	講義：コードの構成音 演習：コードの演奏	講義内容、演習内容の復習
10	簡単なコードの練習(3) ・C、G、Am、Em7 ・小テスト①	講義：コードの構成音 演習：コードの演奏	講義内容、演習内容の復習
11	コード理論(1) ・三和音	講義：鍵盤との対比 演習：Cコードをもとに他の和音を考える	予習：三和音の予習 講義内容、演習内容の復習
12	コード理論(2) ・ベース音（根音）	講義 演習：各コードのベース音の記譜と演奏	予習：ベース音の予習 講義内容、演習内容の復習
13	コード理論(3) ・五度圏 ・レポート提出②	講義：五度圏の作り方 演習：自分で五度圏を作る	講義内容、演習内容の復習
14	楽曲分析(1) ・コードの構成音とベース音	講義 演習：教材曲の譜読み	講義内容、演習内容の復習
15	楽曲分析(2) ・伴奏型の工夫	講義 演習：数種類のリズムパターンで工夫	講義内容、演習内容の復習
期末試験	・実技試験 ・筆記試験		
16	五度圏を利用した和音分析 ・小テスト②	講義 演習：36種類のコードの構成音を記譜	講義内容、演習内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	アンサンブル(1) ・選曲 ・パート分担	講義 演習:選曲と譜読み、パート分担	予習:選曲とコード分析
18	アンサンブル(2) ・練習	講義 演習:グループ練習	予習:担当パートの練習
19	アンサンブル(3) ・発表	講義 演習:発表	復習:コードとベース音の関係
20	アンサンブル(4) ・仲間の批評を生かしたアンサンブルの再発表	講義 演習:練習、発表	
21	リズムアンサンブル(1) ・ダウンビート、アップビート	講義:拍、拍節等 演習:拍の表と裏を感じて拍を取る	講義内容、演習内容の復習
22	リズムアンサンブル(2) ・リズムパターン	講義 演習:4種類のリズムパターンの練習	講義内容、演習内容の復習 予習:リズムパターン
23	リズムアンサンブル(3) ・リズムパターンの組み合わせ	講義 演習:リズムパターンの組み合わせを工夫する	講義内容、演習内容の復習 予習:リズムパターンの組み合わせ
24	リズムアンサンブル(4) ・発表	講義 演習:リズムアンサンブル発表	復習:アンサンブルのポイント等
25	コード、ベース、ボーカル、パーカッションを組み合わせたアンサンブル(1) ・練習	講義 演習:アンサンブル練習	予習:選曲
26	コード、ベース、ボーカル、パーカッションを組み合わせたアンサンブル(2) ・練習	講義 演習:アンサンブル練習	予習:譜読み
27	コード、ベース、ボーカル、パーカッションを組み合わせたアンサンブル(3) ・練習	講義 演習:アンサンブル練習	予習:分担パートの練習
28	コード、ベース、ボーカル、パーカッションを組み合わせたアンサンブル(4) ・発表	講義 演習:アンサンブル発表	予習:発表の工夫を考える
29	コード理論のまとめと記譜 ・五度圏 ・小テスト③	講義 演習:五度圏とコードの関係を整理	復習:五度圏の作成
30	学習した内容の振り返り ・コード構成音の見つけ方 ・リズムパターン 等々 ・レポート提出③	講義 演習:授業を振り返って発表し合いレポートをまとめる	復習:1年間の学習をまとめる
期末試験	・実技試験 ・筆記試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標①：レポート提出3回（各5点で15点満点）、前期期末試験（コードの構成音とベース音の記譜で15点満点）

目標②：小テスト3回（各10点で30点満点）、後期期末試験（実技試験コード伴奏、ベース音演奏で15点満点）

目標③：練習や発表における取り組みの態度25点満点

合計100点満点

ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。

授業科目名	図 画 工 作		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：古 畑 雅 規 ふる はた まさ のり		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動。			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業 芸術学士 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子供の造形活動に伴う様々な素材、画材、道具等の基礎知識とその具体的な制作活動等について学んでいく。造形活動に関する素材、道具の活用を子供の目線・使用を前提に展開をする。具体的には絵具や色鉛筆を使った絵画作品の制作、立体では粘土などを使い、人物や動物の一部または全体像の制作を学び、子どもの造形活動支援の実際を学んでいく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	B		
② さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	A		
③ 意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業内容と計画の説明 (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 本科目の留意点など	
2	動植物を図形化して描く ～絵画やデザインの基礎	イラストボード・定規などで図形を描くための準備	定規やコンパス等で図形を描く練習をする

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	動植物を図形化して描く ～様々な図形	定規やコンパスの使用方を学びながら正確に描けるようにする	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
4	動植物を図形化して描く ～図形としてのバランス	図形を完成させる	空き時間などを使って制作を進める
5	完成させた図形に着彩 ～絵具の使い方	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
6	図形に着彩 ～混色の技法	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
7	図形に着彩 ～色(明度)の効果	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
8	図形に着彩 ～色(彩度)の効果	色相環を使いポスターカラーで着彩して完成させる	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
9	鉛筆デッサン ～鉛筆の特性	アイディアノートを使い描く対象を考える	鉛筆での絵画作品を調べる
10	鉛筆デッサン ～絵画の構図	決めた対象物のデッサン	鉛筆での絵画作品を調べる
11	鉛筆デッサン ～陰影による立体感	全体のバランスを考える	鉛筆での絵画作品を調べる
12	錯視図形を描く ～錯視の効果	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
13	錯視図形を描く ～形のデフォルメ	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
14	錯視図形を描く ～形のデフォルメ	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
15	前期のまとめ	これまでの作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
16	人物の立体制作 ～人物を制作する意味	板・アルミ箔・樹脂粘土などを使いオブジェを乗せるための土台づくり	空き時間を使って制作を進める
17	人物の立体制作 ～人物の骨格	アルミ箔・樹脂粘土などを使い動物の基礎の形づくり	空き時間を使って制作を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	人物の立体制作 ～人物像の形のバランス	アルミ箔・樹脂粘土などを使い肉付けする	空き時間を使って制作を進める
19	人物の立体制作 ～背景の意味	アルミ箔・樹脂粘土などを使い背景も同時に制作する	空き時間を使って制作を進める
20	人物の立体制作 ～全体のバランス	樹脂粘土を使い細部に手を加え完成させる	空き時間を使って制作を進める
21	人物の立体制作 ～絵具の使い方	アクリル絵具などを使いおおまかに着彩	空き時間を使って制作を進める
22	人物の立体制作 ～絵具によるグラデーション	アクリル絵具などを使いグラデーションをとり入れて着彩	空き時間を使って制作を進める
23	人物の立体制作 ～全体のバランス	アクリル絵具などを使い全体のバランスを整え仕上げ。ニス塗り完成	空き時間を使って制作を進める
24	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	色鉛筆を使うための絵画を鉛筆で描く	身近にある物の色の観察をする
25	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	グラデーションなどによる着彩	身近にある物の色の観察をする
26	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	全体のバランスを整え完成させる	身近にある物の色の観察をする
27	遠近法の学習 ～一点透視図法	鉛筆で遠近法による風景を描く	普段の生活の中で遠近法の観察をする
28	遠近法の学習 ～一点透視図法	鉛筆で遠近法による風景を描く	普段の生活の中で遠近法の観察をする
29	遠近法の学習 ～一点透視図法	色鉛筆で着彩して完成させる	普段の生活の中で遠近法の観察をする
30	後期のまとめ	通年を通しての作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③：作品評価 60点（6作品の技術力、表現力など総合で評価） 目標③：授業態度 20点（授業への意欲、質疑応答の内容などで評価） 目標①：期末試験 20点（ペーパー試験）			
【教科書】 使用しない			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・材料費として1,870円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授業科目名	保育内容総論		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		認可保育園保育士（昭和58年～平成21年）（内副園長歴6年間）		
社会貢献としての委員会・職等		国見町こども・子育て支援推進協議会委員（平成28年～現在） 福島県保育士・保育所支援センター「保育士再就職支援セミナー」 講師（平成26年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院こども心理専攻修士課程修了、修士（こども心理） 保育士資格・幼稚園教諭二種免許状、日本保育学会、日本応用心理学会、日本小児学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 1、保育内容を総合的に捉える視点を養い、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容を中心に、保育の基本・指導の在り方、各領域の捉え方を理解し、総合的に指導することの重要性について学ぶ。 2、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達過程を見通した指導計画作成を理解する。 3、模擬保育を通し、各年齢別の指導方法を具体的に理解し実践力を培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 幼稚園、保育所の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を学び、総合的指導法について理解する。			目標	A・B
② 保育内容の歴史の変遷や「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育、保育要領」の基本を理解し、保育内容を総合的に捉える視点を獲得する。			目標	E・F
③ 子どもの生活全体を通して、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と養護（生命の保持、情緒の安定）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。			目標	B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容総論の概要・本講義のガイダンス	教科書 プリント資料1	教科書復習10～19
2	幼稚園の役割と幼稚園教育要領の基礎理解①	*授業開始時に復習内容のグループディスカッションを行う(5分間)。 教材DVD視聴【子どもを育む保育の環境～3歳以上児を中心に】 20分 教科書 プリント資料2	DVD視聴の内容をプリント資料2にまとめる
3	幼稚園の役割と幼稚園教育要領の基礎理解②	*DVD【子どもを育む保育の環境・3歳以上】の復習内容の確認(5分間) 教科書 プリント資料3	幼稚園の役割と幼稚園教育要領 教科書復習20～37(プリント資料3にまとめる)
4	保育所の役割と保育所保育指針の基礎理解①	*プリント資料3の確認 教材DVD視聴【子どもを育む保育の環境～3歳未満児を中心に】 20分 プリント資料4	保育所の役割と保育所保育指針 教科書復習20～37(DVD視聴の内容をプリント資料4にまとめる)
5	保育所の役割と保育所保育指針の基礎理解②	*DVD【子どもを育む保育の環境・3歳未満】の復習内容の確認(5分間) プリント資料5	保育所の役割と保育所保育指針 教科書復習20～37
6	教育課程・全体的な計画と保育内容5領域の考え方	*前回の復習内容【保育所の役割と保育所保育指針】のミニテスト(5分間) 教科書 プリント資料6	レポート①教育課程・保育課程(全体的な計画)と保育内容5領域の考え方 教科書復習47～62
7	領域「健康」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【教科書47～62】の確認 教科書 プリント資料7	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 復習
8	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の健康を中心に確認 教科書 プリント資料8	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	領域「環境」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の人間関係を中心に確認 教科書 プリント資料9	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 復習
10	領域「言葉」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の環境を中心に確認 教科書 プリント資料10	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 復習
11	領域「表現」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の言葉を中心に確認 教科書 プリント資料11	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 復習
12	指導計画作成における基本的な考え方(1)	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の表現を中心に確認 教科書 プリント資料12	指導計画作成における基本的な考え方 教科書復習63～96
13	指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)	*指導計画作成における基本的な考え方(1)の復習 教科書 プリント資料13	指導計画作成における具体的な手順とポイント(2) 教科書復習63～96
14	指導計画作成における具体的な手順とポイント(3)	*指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)の復習 教科書 プリント資料14	指導計画作成における具体的な手順とポイント(3) 教科書復習63～96
15	指導計画の作成と保育の実際(0、1、2歳児の保育方法)画像やグラフを取り入れた指導案の立案(情報の著作権の遵守を含む)	DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境0、1、2歳児～20分 プリント資料15 ※グループ演習	グループ演習で立案した指導計画作成復習
期末試験	前期期末試験		
16	指導計画の作成と保育の実際(3歳児の遊びの指導方法)画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	*指導計画作成のプレゼンテーション DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境3歳児～20分 プリント資料16 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際(3歳児の遊びの指導方法) 教科書復習 85～86・97～112

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	指導計画の作成と保育の実際（4歳児の遊びの指導方法） 画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	* 指導計画案のプレゼンテーション DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境4歳児～ プリント資料17 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際（4歳児の遊びの指導方法） 教科書復習 85～96・97～112
18	指導計画の作成と保育の実際（5歳児の遊びの指導方法） 画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	* 4歳児の遊びの指導方法の確認 DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境5歳児～ プリント資料18 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際（5歳児の遊びの指導方法）レポート② 教科書復習 85～96・97～112
19	模擬保育①（0、1、2歳児）	* 5歳児の遊びの指導方法の確認 教科書 プリント資料19	模擬保育①の振り返り 教科書復習63～84
20	模擬保育②（0、1、2歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料20	模擬保育②の振り返り 教科書復習63～84
21	模擬保育③（3歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料21	模擬保育③の振り返り 教科書復習85～96
22	模擬保育④（4歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料22	模擬保育④の振り返り 教科書復習85～96
23	模擬保育⑤（5歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料23	模擬保育⑤の振り返り 教科書復習85～96
24	模擬保育の観察から保育記録の作成への取り組み①	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料24	レポート③ 【模擬保育からの学び】
25	模擬保育の観察から保育記録の作成への取り組み②	* 模擬保育からの学び(グループワーク) 教科書 プリント資料25	保育記録の作成プリント復習
26	保育の展開方法（行事への取り組みを通しての指導法 運動会）	* 保育記録の作成プリントの確認 教科書 プリント資料26	行事への取り組みを通しての指導法「運動会プリント資料復習」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	保育の展開方法（日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法 節分豆まき会）	*プリント資料26の確認 教科書 プリント資料27	日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法「節分豆まき会プリント資料復習」
28	保育指導における教材研究について	*節分豆まき会プリント資料の確認 教科書 プリント資料28	保育指導における教材研究について「プリント資料復習」
29	保育所および幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続について	*復習内容【小学校教育の円滑な接続】ミニテスト 教科書 プリント資料29	保育所および幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続 教科書復習97～112
30	保育内容総論のまとめ	教科書 プリント資料30	保育内容総論のまとめ【プリント1～30中心に】
期末試験	後期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③…期末試験 70% 目標①③ …レポート 30%（3回×各10点）			
【教科書】 書名：実践を創造する 演習「保育内容総論」 著者名：豊田和子 発行所：株式会社みらい 価格：2,000円（税別） 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針、保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書		【参考書】 最新保育資料集（子どもと保育総合研究所）	

授業科目名	ピアノ演習Ⅰ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政	やま ざき のぶ まさ	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル等の練習曲の中から35曲程度抜粋した曲を主な教材とし、それらの曲を正確なリズム、音で弾くこと、感性豊かに弾けることを目標とする。また、保育現場において、子どもたちとともに表情豊かに歌えるような応用力を身に付ける。授業内容は、課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方法により展開していく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を修得する。	目標	B		
バイエル・幼児の歌曲等様々なピアノ曲を通してピアノ表現に親しみ、幅広い表現力を養う。	目標	D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、評価方法 ピアノ個室の利用方法 課題曲面談と課題曲の選定	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
3	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
4	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
5	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
6	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
7	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
8	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
9	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
10	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
11	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
12	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
13	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
14	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
15	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末 試験	前期末試験		
16	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
17	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
18	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
19	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
20	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
22	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
23	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
24	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
25	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
26	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
27	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
28	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
29	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
30	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標B・Dについて下記の通り、100点満点で評価する。 60～69点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力を加味して採点する。 70～79点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、高度な演奏技術を加味して採点する。 90点以上 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。			
【教科書】 書名：標準バイエルピアノ教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別）			
【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。			

授業科目名	ピアノ演習 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：ミハウ・ソブコヴィアク	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	平成7年6月 フランツ・リスト国際ピアノコンクール（ポーランド共和国） ヴロツワフ・プレスセンター賞受賞 平成8年6月 ヤマハ音楽振興会主催コンサート「パー・ピアノフォルテ」（ポーランド共和国）優勝 平成29年2月 第8回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan 最優秀指導者賞受賞 平成30年2月 第9回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan 指導者賞受賞		
社会貢献としての委員会・職等	一般社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員、ショパン国際ピアノコンクールin Asia審査員、ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan審査員長		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	ショパン音楽院ピアノ、チェンバロ、オルガン科（ポーランド共和国）修了（学術修士）※平成20年大学名変更、現在ショパン音楽大学 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択	
保育士資格	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル、ツェルニー30番、ブルグミュラー25番、ソナチネアルバム I、ソナタ、ショパンエチュードの中から中級者は42曲、上級者は50曲程度を抜粋した曲を主な教材とし、正確なリズム、音で弾くこと、感性豊かに弾けることを目標とする。また、保育現場において、子どもたちとともに表情豊かに歌えるような応用力を身に付ける。授業内容は、習熟度別に課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方式により展開していく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	○ オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を習得する。	目標	B		
幼児曲・歌曲も含め、ポップス、クラシック、ジャズなど様々なピアノ表現に親しみ、幅広い表現力を養う。	目標	D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 授業の進め方 評価方法 レベルの確認 その他（本科目の留意点） 	
2	ピアノの構造について詳しく学ぶ	ピアノの各部の名前を学ぶ。鍵盤を取り出し、ハンマーの動きを確認する。ピアノの蓋を開け、弦の長さや太さを観察する。	課題曲を各自練習しておくこと。
3	ピアノを弾く姿勢について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	上半身の動かし方を中心に学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
4	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	強弱に使われるイタリア語を学ぶ。 ソフトペダルの使い方について学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
5	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	テンポに使われるイタリア語を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
6	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	表情記号に使われるイタリア語を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
7	ペダリングについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	音が濁らないテクニックを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
8	アーティキュレーションについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	拍子、スラー、スタッカートなど。	課題曲を各自練習しておくこと。
9	フレージングについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	音楽の句読点を、日常の話と共通点を見つけ、学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
10	強弱について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	鍵盤にのせる手の重さによって強弱を変化させることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
11	強弱について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	鍵盤にのせる手の重さによって強弱を変化させることを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
12	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわかる。	課題曲を各自練習しておくこと。
13	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわけ、実際に弾きわけてみる。	課題曲を各自練習しておくこと。
14	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわけ、実際に弾きわかることを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	各自の課題曲の個別レッスン	今まで学んだことを確認し試験にむけ課題曲を仕上げる。	課題曲を各自練習しておくこと。
期末試験	前期末試験	到達度確認のための演奏会	課題曲を各自練習しておくこと。
16	ハーモニーについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
17	ハーモニーについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
18	ハーモニーについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
19	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
20	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
21	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
22	時代と音楽様式について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	時代ごとの曲のスタイルの違いを、演奏を聴かせながら学ぶ。バロック、古典、ロマン派、近現代まで。	課題曲を各自練習しておくこと。
23	曲全体の解釈について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中にある表現の自由さの扱い方を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
24	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
25	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
26	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
27	コラボレーション 各自の課題曲の個別レッスン	伴奏について学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
28	各自の課題曲の個別レッスン	実際に聴き手がいることを想定し、演奏する。課題曲を各自練習しておく。	課題曲を各自練習しておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	各自の課題曲の個別レッスン	実際に聴き手がいることを想定し、演奏する。課題曲を各自練習しておく。	課題曲を各自練習しておくこと。
30	各自の課題曲の個別レッスン	今まで学んだことを確認し試験にむけ課題曲を仕上げる。	課題曲を各自練習しておくこと。
期末試験	後期末試験	到達度確認のための演奏会	
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標B・Dについて下記の通り、100点満点で評価する。 〈中級者〉60～69点…課題曲42曲（バイエル100番程度・他歌曲を含む）を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲42曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲42曲に加え、ツェルニー30番程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。 〈上級者〉60～69点…課題曲50曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲を含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番程度（他ソナタも含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番程度、ブルグミュラー、ソナチネの課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲（ソナタ、ショパンエチュード等）を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。</p>			
<p>【教科書】 書名：標準バイエル教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別）</p> <p>※その他、歌曲等については担当教員が配布する。 ※バイエル終了レベルの学生については、教科書の購入について別に指示する。</p>			
<p>【その他補足事項】 レベル分けについては、担当教員が行う。</p>			

授業科目名	器楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育者の感受性の豊かさは、幼児の音楽表現の質と密接な関係があります。保育者の感受性が多様な音や音楽に対して常に開かれていなければ、幼児の多様な表現に共感することはできません。 そこで、多種多様な楽器に触れ、構造や音色・奏法、歴史的・文化的背景とともに、その奥深さや楽しさ、不思議さなどを感じ取りながら創造的な音楽活動に取り組んでいくことができるように授業を展開します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 多種多様な楽器に触れ、構造や音色、奏法、文化的背景などについて理解するとともにコードネームを理解し、簡単な伴奏をすることができる。			目標	A
② 即興的にふし遊びやリズム遊びをするとともに、リコーダーや身近な打楽器等を用いて楽しく演奏することができる。			目標	B
③ 互いの表現に対するイメージを交流させたり、注意深く演奏を聴き合ったりしながらアンサンブルをすることができる。			目標	G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 評価方法と授業の進め方 これまでの音楽経験 	講義：授業概要等の説明 演習：これまでの音楽経験について記述し、それを基に自己紹介を兼ねて発表する。	年間の授業内容を把握し学修の見通しをもつ
2	カスタネットの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> カスタネットの歴史(教育用カスタネットも含む) カスタネットの基本的な奏法と演奏 拍子木やクラベス、沖縄の三板との比較 	講義：カスタネットの歴史や奏法について 演習：基本的な奏法	予習：カスタネットの基本奏法についてのプリント
3	カスタネットの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> カスタネットの基本的な奏法と演奏 一人の演奏から人数を増やして演奏 	講義：カスタネットによる表現の多様性について 演習：複数のカスタネットによる表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
4	カスタネットの基本的な奏法(3) <ul style="list-style-type: none"> 楽曲に合わせたカスタネットの演奏 カスタネットによるアンサンブル 	演習：楽曲に合わせたカスタネット演奏の映像を視聴し、5つのリズムパターンを演奏できるよう練習する。	復習：授業で演奏したリズムパターンを暗譜で演奏できるようにする。
5	カスタネットの基本的な奏法(4) <ul style="list-style-type: none"> 複数パートによるカスタネットアンサンブル曲を演奏する。 グループごとに発表し、録画をしたり批評し合ったりする。 カスタネットに基本的な奏法 小テスト① 	演習：グループごとにパートの分担を決めて演奏に取り組む。	復習：暗譜できるよう、繰り返し練習する。
6	タンブリンの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> タンブリンの歴史、構造 タンブリンの基本的奏法と演奏 	講義：タンブリンの歴史と構造 演習：タンブリンの基本的奏法	予習：プリントで予習
7	タンブリンの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> タンブリンの基本的な奏法と演奏 皮面とシンバル部分の叩き分けによる演奏 	講義：タンブリンによる表現の多様性について 演習：タンブリンの叩き方の工夫による表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
8	トライアングルの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> トライアングルの構造と基本的奏法 音量変化とリズムの変化について工夫する。 	講義：トライアングルの構造と基本的奏法について 演習：音の変化を工夫する。	復習：音の変化をつける方法を練習する。
9	トライアングルの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> トライアングルによるアンサンブルを創作する。 	講義：カスタネットでの学習を生かしたアンサンブル 演習：グループごとに複数のトライアングルでのアンサンブルを創作する。	予習：グループごとに複数のパートに分けてリズムを考える。
10	身近な打楽器による簡単なアンサンブル <ul style="list-style-type: none"> カスタネット、タンブリン、トライアングルを用いたアンサンブルを楽しむ。 グループごとに発表したり録画をしながら、批評し合う。 タンブリン、トライアングルの基本奏法 小テスト② 	演習：グループごとにテーマを決め、3種類の打楽器によるアンサンブルを創作する。	予習：日常生活を打楽器で表現する構想をもつ。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	スチールパンの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> スチールパンの歴史と構造、基本的奏法 スチールパンによる音遊び 	講義：スチールパンの歴史と構造、基本的奏法 演習：実際に叩いて音の並びを試し、特徴ある音色を感じ取る。	予習：プリントを基にスチールパンの歴史について概観する。
12	スチールパンの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> スチールパンが使われている楽曲について スチールパンによる音遊び 	演習：実際に叩いて音の並びを試し、特徴ある音色を感じ取る。	予習：スチールパンによる音遊びについて構想する。
13	リコーダーの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの歴史と構造 基本的な演奏法 リコーダー演奏の鑑賞 リコーダー製造の動画を視聴 	講義：リコーダーの歴史、構造、演奏について 演習：これまでの各自のリコーダーに対するイメージを記述し発表したり演奏家の演奏を鑑賞したりする。	予習：プリントによりリコーダーの歴史等について概観する。
14	リコーダーの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> 構え方、運指 呼吸と息のコントロール 歌口だけによる演奏 	講義：リコーダーの構え方や運指、息のコントロール 演習：鏡を使ったり二人組になってモニターをし合ったりする。	復習：授業内容を基に、リコーダーの構えや息のコントロールを試す。
15	リコーダーの演奏(1) <ul style="list-style-type: none"> ピッチの合わせ方を構造面から理解する。 ロングトーン奏法やタンギング奏法 	演習：ピッチが合っている場合と合わない場合の違いを実際の聴取やチューナーでの計測などで把握する。	予習：チューニング方法についてプリントを基に概観する。
期末試験	実技・筆記試験		
16	リコーダーの演奏(2) <ul style="list-style-type: none"> 様々なアーティキュレーションの違いと奏法を理解する。 サミングと運指 	演習：実際の演奏映像と様々なアーティキュレーションを対応させる。サミングを用いて安定した音が出せるよう練習する。	予習：プリントを基に様々なアーティキュレーションについて概観する。
17	リコーダーの演奏(3) <ul style="list-style-type: none"> 2音だけを用いた即興的なふし遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲合わせたりして2音による即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に2音による音遊びについて概観する。
18	リコーダーの演奏(4) <ul style="list-style-type: none"> 3音を用いた即興的なふし遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲合わせたりして3音による即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に3音による音遊びについて概観する。
19	リコーダーの演奏(5) <ul style="list-style-type: none"> 短いフレーズを組み合わせた音遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲合わせたりして短いフレーズを組み合わせた即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に短いフレーズによる音遊びについて概観する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	リコーダーの演奏(6) ・短いフレーズを組み合わせた音遊び ・リコーダーの基本奏法 ・小テスト③	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲合わせたりして短いフレーズを組み合わせた即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に短いフレーズによる音遊びについて概観する。
21	リコーダーの演奏(7) ・多重録音による即興演奏	演習：ロングトーンやタンギングを生かした短いフレーズや即興的な旋律を多重録音した自分たちの演奏を鑑賞する。	予習：多重録音の方法や機材についてプリントにより概観する。
22	リコーダーの演奏(8) ・多重録音による即興演奏	演習：ロングトーンやタンギングを生かした短いフレーズや即興的な旋律を多重録音した自分たちの演奏を鑑賞する。	予習：どんなフレーズを組み合わせるか構想をもつ。
23	コードネームの理解と演奏(1) ・コードネームの理論 ・構成音 ・リズムパターン	講義：楽譜に付いているコードネームの意味について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	予習：コードネームと構成音について概観する。
24	コードネームの理解と演奏(2) ・カリンバによるコードによる演奏	講義：楽譜に付いているコードネームの意味について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	復習：コードネームとその構成音を確かめる。
25	コードネームの理解と演奏(3) ・カリンバによるコードによる演奏 ・コードネームについて ・小テスト④	講義：基本的なコード進行について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	復習：コードネームとその構成音を確かめる。
26	リコーダーの演奏(9) ・簡単な楽曲のアンサンブルを楽しむ。 ・カリンバのコード伴奏でのアンサンブル	演習：グループごとに楽曲を決め、カリンバや他の楽器を用いてアンサンブルを楽しむ。	復習：コードネームとその進行を確かめる。
27	リコーダーの演奏(10) ・簡単な楽曲のアンサンブルを楽しむ。 ・カリンバのコード伴奏でのアンサンブル	演習：グループごとに楽曲を決め、カリンバや他の楽器を用いてアンサンブルを楽しむ。	復習：コードネームとその進行を確かめる。
28	身近な楽器を用いてのアンサンブル(1) ・楽曲やパート分担の決定	演習：パート分担と演奏形態等の確認。	予習：演奏曲や形態について
29	身近な楽器を用いてのアンサンブル(2) ・各自パート練習 ・アンサンブルの練習	演習：発表会に向けての練習	予習：各自のパートの練習
30	身近な楽器を用いてのアンサンブル(3) ・グループごとのアンサンブル発表 ・1年間の振り返り	発表会と1年間の授業の振り返り及び反省	発表会に向けての準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	実技・筆記試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②…授業で扱う打楽器やリコーダーの基本的奏法、コードネームについての理解・実技に対して小テストを実施する。(カスタネット15点満点、タンブリン・トライアングル15点満点、リコーダー15点満点、コードネーム15点満点)計60点 目標③ …グループで行うアンサンブル活動や発表会に向けた参加態度及び授業への積極的な取り組みや協働的な学びの態度。40点 ほか、総合点から評価に関する共通理解に則る減点を行います。</p>			
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教書等は使用せず、授業内容に沿ったプリントをその都度配布します。 • 使用する教材は多岐にわたるため、ビデオやCDなど適宜選択して使用します。 			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業で用いるリコーダー（ソプラノまたはアルト）は各自準備します。 			

授業科目名	バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1・2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤敦子	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学認定こども園園長3年2か月		
社会貢献としての委員会・職等	日本音楽療法学会東北支部福島県代表、財団法人福島市私立幼稚園協会監事、公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園協会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	日本音楽療法学会認定音楽療法士、国立音楽大学教育音楽学科卒業・芸術学士・幼稚園一種免許状取得、明星大学大学院修了修士（教育学）幼稚園専修免許状取得、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会、日本保育学会所属		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 1. バリ島研修（8月23日～8月28日）の6日間に参加することを条件として、授業は6月から行います。授業の履修届は5月29日(金)17:00までとし、他学科の履修者「国際理解演習（バリ島研修）」を含め、10名以上の履修者で開講します。バリ島研修日程の詳細及び研修費用は、関心のある方に別途配布します。 2. 本授業は、研修旅行前にバリ島の歴史、文化、芸術等を学び、かつ現地での交流のための準備を行います。 3. 研修終了後はレポートを提出し、反省会を行います。 * 渡航手続き等は、時間外に行うことがあります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
	○	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
○	ウ	グループワーク		
○	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
①	バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける	目標	F	
②	友人と協力しながら、バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、表現力向上、協調性、思いやりを身につける	目標	D・G	
③	バリ島に関する文化、芸術、生活、歴史、宗教、教育の中からテーマを一つ選び研究を行いレポートにまとめる	目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について ・現地の子どもたちとの交歓交流の内容 ・訪問先の具体的な説明	授業計画 資料配布	バリ島の宗教・歴史・芸術・文化・気候風土などを事前に調べておく
2	バリ島について (宗教・歴史・芸術・文化・気候風土・人々の生活の様子・現地の治安など) バリ島研修のDVD鑑賞	資料配布 DVD「バリ島研修旅行」 60分	バリ島の宗教・歴史・芸術・文化・気候風土などをまとめ、研究テーマを考えておく
3	研究テーマとレポート作成について (研究テーマの決定) 渡航手続きの説明 交流の練習(1) 交流の選曲	資料配布 ダンスの練習	研究テーマについて事前に調べ学習しておく
4	交流の練習(2) ダンスの振り付け	ダンスの練習	研究テーマについて事前に調べ学習しておく 交流の曲を考えておく
5	交流の練習(3) ダンスの振り付け・衣装の選定	ダンスの練習	交流の曲に合わせてダンスの練習をしておく
—	研修旅行の実施(1日目) ・飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項確認 (移動バス内で実施) ・飛行機搭乗(成田=バリ島)	バリ島海外研修の実施 2020年8月23日～28日 [4泊6日] 予定 全体および個別指導	現地での学習・研究 (記録)
6 ┆ 8	研修旅行の実施(2日目) / 3コマ ・バリダンスレッスン ・現地での文化施設の視察(美術館、寺院見学) ・ヌサドゥアシアター「デブダンシアターショー」鑑賞	実地研修	現地での学習・研究 (記録)
9 ┆ 11	研修旅行の実施(3日目) / 3コマ ・ハラパン幼稚園での歓迎式典、園児との交歓交流、自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学 ・ケチャックダンス鑑賞	実地研修	現地での学習・研究 (記録)
12 ┆ 13	研修旅行の実施(4日目) / 2コマ ・ケランピタン宮殿での子どもたちとの交歓交流、バリダンスレッスン ・ケランピタン宮殿でのバリダンス鑑賞 ・ケランピタン宮殿でのバリ衣装体験(ミニ・模擬結婚式)	実地研修	現地での学習・研究 (記録)
14	研修旅行の実施(5日目) / 1コマ ・自由研修 ・レゴンダンス鑑賞	実地研修	現地での学習・研究 (記録)
—	研修旅行の実施(6日目) 日本への帰国準備、バリ島からの出国準備 空港・飛行機でのマナー(ホテル・移動バス内で実施)	実地研修	研究テーマに沿ったレポートを作成する
15	事後指導 反省会・レポート提出について		研究テーマに沿ったレポートを作成する

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標①② … 現地での公式プログラム参加（50点）

（真剣に参加したか、交流の仕上がりはどうか、友人と協調していたか、子どもたちと積極的に交流していたか、交流先でのマナーは良かったか、健康管理は保たれていたかなど）

目標②③ … 交流のためのダンスレッスン参加（20点）

（積極的に参加していたか、アイデアは出していたか、お互いに協力し合っていたかなど）

* 1回欠席につき3点減点

目標③ … 事前指導への参加態度（10点）

（積極的に参加していたか、注意事項を聞いていたか、持参品をきちんと準備できていたか、書類の提出はなされていたかなど）* 1回欠席につき3点減点

目標③ … 最終レポートの内容（20点）

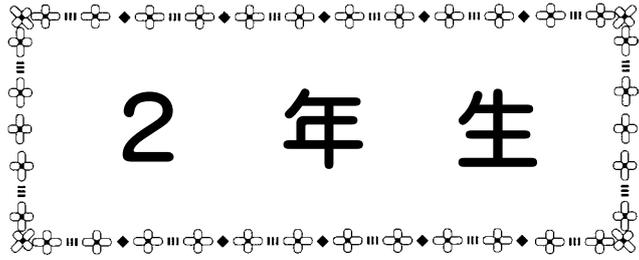
（1000字以上1200字以内）

※海外研修における現地研修・公式プログラムについては、体調不調もしくは病気・怪我等で所定のプログラムに参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点とします。

【その他補足事項】

1. 履修届は指示された日時までに行ってください。
2. 渡航手続き、交歓交流の練習等は、授業時間外に実施します。*夏期休業期間に実施する場合があります。
3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回程度行います。
4. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておいてください。
（現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい）
5. 現地での健康状態を把握する上で、健康チェックの用紙を提出していただきます。
6. 研修旅行中、常備薬や医師からの薬が必要な場合は、各自の責任において薬を持参してください。
7. 現地での体調管理については、最大限のサポートをしますが、自己管理、自己責任とします。
8. 団体で行動するので協調性を身につけておいてください。
（現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とします）
9. 海外旅行保険の付保が必要となります。また、ご家族からの「承諾書」も提出していただきます。
10. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催します。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合があります。
11. 最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とします。

※海外研修の実施にあたり、自然災害、国際情勢（テロ等）等によって、十分な安全を確保できないと判断した場合、または、鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症が終息しない場合については、海外研修の実施を中止、または延期する場合があります。



2 年 生

授業科目名	会 話 演 習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：藤 間 久 子 〔職名：フリーアナウンサー〕		開 講 期	前期・後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	テレビユー福島 1983.10～1988.3 (ニュース担当キャスター)			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	昭和女子大学 文家政学部卒業 家政学士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 本科目では、社会生活においてコミュニケーション能力を向上させるべく話し方の基礎や円滑な人間関係を築く為の会話法などを学び、その表現技法を習得する。 さらにテレビの番組制作を通し、自分の意見や情報を整理し、それを明確に伝える表現力を養うことを総合演習として取り組む。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 基礎的な音声表現を身につけ会話のイメージアップを図る。	目標	A		
② コミュニケーションを深めるための会話力を身につける。	目標	G		
③ 番組制作を通し多角的なものの見方や自分の言葉で情報を発信する力を養うこと。	目標	C・D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と評価方法などについて 自己紹介(1)～個性ある自己紹介とは	個別指導	復習：原稿作成
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表 (DVD収録) プリント	課題：DVDチェック レポート提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセントなど	プリント	復習：プリントチェック
4	論理的思考に基づく表現力 論理的に話すための話のまとめ方について	個別指導	復習：原稿チェック
5	敬語表現(1) 敬語の必要性和表現方法について	プリント	復習：プリントの内容確認
6	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習：プリントの内容確認
7	敬語表現(3) 様々な状況での会話法について	個別指導 発表	復習：敬語表現、用法についての確認
8	コミュニケーションを高める会話法(1) TPOに応じた言葉遣いと好感の持てる話し方	シナリオ作成 個別指導	予習：シナリオの設定
9	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における非言語表現	ロールプレイング	予習：シナリオチェック
10	ゲストスピーカー 番組制作・取材の方法など・映像の採り方	特別講義 (TUF)	復習：番組の企画、プラン作成
11	番組制作(1) 企画・構成・取材計画	グループワーク (番組作りの為のミーティング、下調べ)	グループごとの取材、撮影
12	番組制作(2) 素材編集 台本、原稿作成	グループワーク (各自のスマホで編集 番組のフォーマット作成)	復習：原稿チェックと下読み
13	番組制作(3) スタジオリハーサル	グループワーク (スタジオセッティング、 リハーサル)	復習：手直しを含めた原稿チェック
14	番組制作(4) スタジオ収録	グループワーク	予習：台本の確認、下読み
15	番組視聴	試写会 全体討議	
期末試験	前期末試験、後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標① : 期末試験 30点満点 目標①・② : 課題スピーチなど表現力の総合 30点満点 目標①・②・③ : 番組制作（取材、編集、原稿、スタジオ収録など）での表現力 40点満点 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：日本語会話表現法とプレゼンテーション 著者名：古閑博美 発行所：学文社 価格：※図書館蔵書	

【その他補足事項】

- 1 取材活動は授業時間外で行う
- 2 撮影・編集は原則各自のスマートフォンを使用のこと
- 3 完成した番組は学生ホールで上映
- 4 ゲストスピーカーは変更になることがある

授業科目名	英書リーディング		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：高橋了治		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北学院大学大学院文学研究科英語英文学専攻博士前期課程修了、文学修士（英文学）、中学・高等学校教諭専修免許状（英語）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問などに対応します。		

【授業の概要】 これまでに培われた英語力の上に立ち、英文読解を通して基本的な英文法を整理し、英単熟語・構文の修得を測りながら、英語学習の中でも修得困難なリーディング力の向上を目指す。また本文中で使われている表現を応用した簡単な英作文の練習も行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 辞書を使用して英文の内容を理解できる。			目標	A・C
② 英文を文法的に分析して正しく解釈できる。			目標	A・C
③ 既習の英語表現を応用して英語で簡単な自己表現ができる。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業の概略と目標、授業内容と進め方、評価方法、英語読解の学習方法についてなど。	授業計画	[予習] 授業内容と授業計画を確認しておく。 [復習] 外国語を学ぶ意義について自分なりの考えをまとめておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	Unit 1 Step 1～3 「〈人〉」または「〈物〉は/が～する」のパターン、自動詞と他動詞の性質について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 1 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 4～9)を解く。 [復習] 授業で提出した課題①の見直し改善。
3	Unit 2 Step 1～3 「〈人〉に〈物〉を～する」のパターン、授与動詞の性質について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 2 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 10～15)を解く。 [復習] 授業で提出した課題②の見直し改善。
4	Unit 3 Step 1～3 人や物について説明しよう(1)、感覚や特徴を表す表現について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 3 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 16～21)を解く。 [復習] 授業で提出した課題③の見直し改善。
5	Unit 4 Step 1～3 人や物について説明しよう(2)、使役動詞の発送について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 4 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 22～27)を解く。 [復習] 授業で提出した課題④の見直し改善。
6	Unit 5 Step 1～3 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン、基本自制について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 5 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 28～33)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑤の見直し改善。
7	Unit 6 Step 1～3 「これから～するつもりだ」のパターン、意志や予定を表す表現。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 6 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 34～39)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑥の見直し改善。
8	Unit 7 Step 1～3 「(今)～している」のパターンと「その時～していた」のパターン、現在分詞の働きについて。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 7 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 40～45)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑦の見直し改善。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	Unit 8 Step 1～3 過去のことが現在まで影響する形、完了形の表現が持つ効果について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 8 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 46～51)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑧の見直し改善。
10	Unit 9 Step 1～3 「話し手の気持ち」を表す表現、助動詞の種類と働きについて。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit 9 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 52～57)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑨の見直し改善。
11	Unit10 Step 1～3 「相手の気持ち」を表す表現、助動詞の種類と働きについて。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit10 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 58～63)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑩の見直し改善。
12	Unit11 Step 1～3 「～すること」を表す2種類の形、句や節レベルの名詞表現について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit11 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 64～69)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑪の見直し改善。
13	Unit12 Step 1～3 2種類の「～すること」の形を区別する方法、動名詞の感覚について。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit12 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 70～75)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑫の見直し改善。
14	Unit13 Step 1～3 「～するために」と「～して」を表す形。目的と感情の原因の表現。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] Unit13 Passageの音読及び意味調べ。課題(p. 76～81)を解く。 [復習] 授業で提出した課題⑬の見直し改善。
15	Unit 1～13 まとめ。 Listening Practice及び既習表現の応用。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント、 CD使用	[予習] 授業で提出した課題①～⑬の見直し改善。 [復習] 授業内での解説を参照して理解不足の項目を補修しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	学期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A：期末試験 50点 目標C：授業毎に提出する課題 30点 目標D：授業内での発表（音読、指定された文の和訳） 20点 欠席、遅刻、授業中の態度などについては、シラバスの「学業成績評価の共通基準」に沿う。</p>			
<p>【教科書】 書名：A Primer of Communication in English ISBN：978-4881987254 著者名：小川政史 発行所：松柏社 価格：2,000円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 ・授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可） ・授業の実施状況によって、進度や内容が変わることがあります。</p>			

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：関本 ひとし 仁	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現・児童青少年課）嘱託員（平成23年～平成25年） 荒川区自治総合研究所 研究員（平成27年～平成29年）			
社会貢献としての委員会・職等	幼稚園教諭免許状対象 文部科学省認定 教員免許状更新講座 講師（平成29年～）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	早稲田大学大学院教育学研究科博士課程（単位取得退学）・修士（教育学） 高等学校教諭 1種／専修免許状、博物館学芸員、社会教育主事、日本社会教育学会、教育史学会、関東教育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々 の社会・文化を背景として、どのように教育とい うものを捉えてきたのでしょうか。教育思想の 歴史を概観しつつ、その様々な思想が現在おこ なわれている教育に対してどのような影響を与 えているのか、について考えます。特に、子ど もの福祉に関わる教育論に注目しながら、子ど もたちにとって豊かな育ちを支える教育のあり 方について、皆さんとともに考えていきたいと 思っています。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 教育の意義・目的について学び、児童福祉とのかかわりについて理解する。	目標	A・F		
② 教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。	目標	A・C		
③ さまざまな教育実践の取り組み、及びその実践の土台となっている思想について理解する。	目標	A・C		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション：教育とは何か	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
2	教育の目的について：教育・教化・形成の違い	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
3	教育と児童福祉	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
4	西洋における教育思想と歴史(1)：古代～コメニウス、ルソー、ベスタロッチまで	確認小テスト①、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
5	西洋における教育思想と歴史(2)：フレーベル、デューイ～現代に至るまで	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
6	日本の教育思想と歴史	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
7	子ども観と教育観	確認小テスト②、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
8	教育制度の基本	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
9	教育にかかわる法律と行政	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
10	さまざまな国の教育制度	確認小テスト③、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
11	教育実践の基礎	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	さまざまな教育実践	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
13	社会教育と生涯学習	確認小テスト④、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
14	教育の権利保障	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
15	教育の現代的課題／まとめ	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
期末試験	前期末／後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・C・F：期末試験…50% 目標A・C・F：授業内での確認小テスト…20% 目標A・C・F：授業態度などの平常点(各回終了時に各自がまとめたものの提出を含む)…30%			
【その他補足事項】 教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドの資料を配布します。予習としてその下読みをおこない、授業の準備をしておいてください。 参考図書に関しては、授業の進行に応じて、適宜紹介していきます。			

授業科目名	子ども家庭支援の心理学		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		児童養護施設心理療法士（平成24年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本福祉心理学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 子育て家庭の支援について理解するために、「生涯発達に関する心理学の基礎知識」、「家族・家庭の意義・機能および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題」、「子どもの精神保健とその課題」を学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
○	イ	ディスカッション、ディベート		
○	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
発達課題やアタッチメントについて理解する。			目標	A
家族・家庭の意義や機能を理解する。			目標	A
子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。			目標	F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴	DVD「0～3歳までの基本的な発達」15分	復習：授業計画等を把握しておくこと。
2	思春期から青年期の発達の特徴 アイデンティティ モラトリアム	DVD「エリクソンの心理社会的発達理論」10分	復習：授業プリントについて復習し、重要語句などについてまとめておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	成人期から高齢期の発達の特徴	改定長谷川式簡易知能評価スケールの相互体験	予習：生涯発達について各段階の課題を理解しておくこと。
4	家族システムと家族発達 家族の構造と機能	アセスメントツールを使用した記述的理解	復習：授業中に配布した資料を再読し、内容を理解しておくこと。
5	養育スタイルの形成過程 愛着の世代間伝達	DVD「アタッチメント(愛着)」15分	復習：ボウルビイの愛着理論について調べておくこと。
6	現代日本社会における子育て家族の諸課題	DVD「子どもと家族を支援するための包括的アセスメント」14分	復習：授業中に配布した資料を再読し、内容を理解しておくこと。
7	ライフコースとワーク・ライフ・バランス	家族社会学的視点の文献講読	予習：女性の育児ストレスの要因について調べておくこと。
8	多様な子育て家庭への支援	DVD「ジェノグラムとは」9分	予習：貧困家庭の現状を調べておくこと。
9	特別な配慮を必要とする家庭への支援 貧困家庭	貧困率の算出方法の種類と算出法	予習：貧困家庭の現状について調べておくこと。
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援 虐待家庭	DVD「しつけと虐待」13分	予習：虐待の諸要因について調べておくこと。
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援 親が精神障害や疾病を抱える家庭	DVD「精神疾患について」12分	予習：精神疾患の主な種類を調べておくこと。
12	生活環境と心身の健康	生活環境の歴史的変遷の資料を読み解く	予習：自身のストレスコーピングを纏めておくこと。
13	子どもの心と健康 幼児期・学童期にみられる主な精神障害	知能検査WISCIVの簡易体験	復習：精神保健を学んだ感想について、リアクションペーパーに記入する。
14	障害のある子どもの理解と対応	描画法バウムテスト体験	予習：発達障害児への社会的な支援について理解しておくこと。
15	災害と子ども グリーフケアについて	DVD「教育現場におけるグリーフサポート」17分	予習：悲嘆反応について調べておくこと。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 到達目標：A 後期末試験 40% 2. 到達目標：A 毎回のリアクションペーパー、授業内の小レポート等提出物 40% 3. 到達目標：F 授業内の発言及び活動 20%			

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島市児童福祉専門部会 会長（2018.4より） 二本松市立幼稚園適正規模検討委員会 議長（2019.10より）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		毎週月曜日 16：10～		

【授業の概要】 幼児及び児童の学びの場面を想定しながら、教育ならびに保育の過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育を展開するために、必要な教育心理学の基本的事項を修得していく。各単元を通し、子どもの心身の発達、日頃の生活や遊びを通して、「学び（学習）」の過程について理解を深め、幼児・児童教育における支援の在り方や課題について考えていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
	<input type="radio"/>	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達への理解。			目標	A
学習の過程について理解。			目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育心理学で何を学ぶのか 評価方法等	教育心理学で扱う領域の説明と授業の進め方を説明します。	
2	心理学の研究手法と教育心理学の課題 個人差をどのように捉えていくのか。	友人と自分の違いをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。	次回のための予習：子どもの頃の自分と今の自分の違いを挙げてみる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	発達段階の理解(1) 生涯発達の発達段階と発達課題	子どもの頃の自分と今の自分の違いをテーマとして発達のとらえ方を議論していきます。	教科書p 4～p13を事前に読むこと
4	発達段階の理解(2) エリクソン、ハヴィガーストの発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
5	学習(1) 学習の意味、子どもが学ぶ事の意味やその心理学的な過程の理解 小テスト：日常の行動にみる「学習」	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定 小テストを基に「学習」の観点を議論していきます。	教科書p71～p78を事前に読むこと
6	学習(2) 学習の過程と理論（条件付けの理解）	小テスト：資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読み疑問点を整理
7	学習(3) 学習の過程と理論（学習の転移、認知心理学からの知見）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定。予習による疑問点から展開	教科書p78～p82を事前に読み疑問点を整理
8	学習(4) 学習の過程と理論、こどもがどのように考え、気づき、理解していくか 小テスト：学習のまとめ	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定。疑問点を基に	教科書p78～p82を事前に読み疑問点を整理
9	個人差の理解と教育(1) パーソナリティの理解・代表的な見方ととらえ方	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p37～p40を事前に読むこと
10	個人差の理解と教育(2) パーソナリティの発達	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p42～p45を事前に読むこと
11	個人差の理解と教育(3) パーソナリティの測定	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	具体的な測定例として自己分析を試みる
12	教育評価① 評価の種類、その方法と整理	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p197～p200を事前に読むこと
13	教育評価② 教育・保育場面で活用できる統計手法 小テスト：代表値を求める	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	卓上計算機（携帯電話でも可）を用意
14	まとめ1 総括的な振り返り（発達から学習）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
15	まとめ2 総括的な振り返り（人格から教育評価）	資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。</p> <p>レポート 期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。</p> <p>小テスト 授業内容の理解度あるいは授業項目上必要とされる事前の知識等の確認のため、単元区分で3回の小テストを実施する。</p>	
<p>【教科書】 書名：基礎から学ぶ教育心理学 著者名：工藤俊郎 高井直美 上田恵津子 発行所：八千代出版 価格：2,200円（税別）</p>	<p>【参考書】 特に定めないが、「発達心理学」、「教育相談」等で使用される教科書をよく読んでおくこと。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を活用していく。実習等により欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。</p>	

授業科目名	子どもの健康と安全		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：湯田厚子		開講期	後期
			授業回数	各15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県公立小中学校養護教諭（昭和53年4月～平成30年4月） 福島県スクールカウンセラー（平成30年4月～現在）			
社会貢献としての委員会・職等	福島県養護教諭部会会長（平成23・24年） 全国養護教諭連絡協議会副会長（平成27・28年）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻修士課程修了修士（教育学） 養護教諭、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、日本学校心理士会、日本LD学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 この授業では、子どもの健康及び安全に係る保健活動の在り方について学ぶ。その中で、子どもの健康増進や心身の発育・発達を促すための適切な養護的対応の在り方や教育的対応の方法の一つである保健指導の展開の仕方を学ぶ。また、日常的な生活援助、疾病予防、救急時の対応、事故防止安全管理について、適切に保健活動を展開できるための基本的な技術と実践できる能力を養う。さらに、現代社会に起きている保育の課題や現状などについてもディスカッションを取り入れて考えを深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
子どもの健康増進及び心身の発育・発達のための保健活動の在り方について理解し、具体的な教育的援助法の資料を作成することができる。	目標	A・E		
子どもの発育発達の実態を理解するとともに、疾病の予防とその適切な対応の仕方について理解し、述べるができる。	目標	A・B		
子どもの安全管理の在り方や具体的な安全対策、応急処置について理解し、述べるができる。	目標	B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1 (1) 「講義ノート」づくり (2) 授業の概要と目標 (3) 授業内容と評価の方法 (4) その他	シラバス	
2	健康及び安全の管理の実施体制 1 保育における保健計画及び評価 PDCAサイクル	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 小レポート作成
3	健康及び安全の管理の実施体制 2 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習
4	保健的観点を踏まえた保健環境及び援助 1 子どもの健康と保育の環境 養護と教育の一体性	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
5	保健的観点を踏まえた保健環境及び援助 2 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応①	スライドと講義資料による解説、保健指導教材作成	講義内容の復習
6	保健的観点を踏まえた保健環境及び援助 3 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応②	スライドと講義資料による解説、保健指導教材作成	講義内容の予習
7	保健的観点を踏まえた保健環境及び援助 4 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応③	スライドと講義資料による解説、保健指導録画、ディスカッション	講義内容の予習
8	保健的観点を踏まえた保健環境及び援助 5 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応④	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
9	保育における健康及び安全の管理 1 衛生管理・事故防止及び安全対策	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
10	保育における健康及び安全の管理 2 災害への備えと危機管理	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
11	子どもの体調不良等に対する適切な対応 1 体調不良や傷害が発生した場合の対応	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
12	子どもの体調不良等に対する適切な対応 2 救急処置および救急蘇生法	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習
13	感染症対策 感染症の集団発生と予防、対応	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
14	保育における保健的対応 1 3歳未満児への適切な対応	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
15	保育における保健的対応 2 障害のある子どもへの適切な対応 まとめ	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験40点 ノート10点 小レポート10点 目標B・E：実技演習20点 ディスカッション発言など積極的講義参加20点 ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
【教科書】 使用しない		【参考書】 ※1年時に購入済のものです。毎時間持参してください。 <ul style="list-style-type: none"> • イラストで学ぼう！子どものケガ・病気・感染症 • 保育所保育指針〈平成29年度告示〉 • 幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 • 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年度告知〉 	
【その他補足事項】 「講義ノート」として使用するので、A4サイズのノート（30ページ程度）1冊を購入し第1回講義時に必ず持参すること。			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：田村佳奈美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		金森和心会雲雀ヶ丘病院（1992年10月～2005年3月） 福島労災病院（2005年4月～2011年6月） かとう内科クリニック（2011年7月～現在に至る）		
社会貢献としての委員会・職等		日本在宅栄養管理学会評議委員、日本在宅栄養管理学会福島県支部長 日本褥瘡学会評議委員、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会理事 日本メディカルダイエティシャン研究会副会長 福島県PEGと経腸栄養と在宅医療フォーラム世話人		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島女子短期大学食物栄養学科（現福島学院大学）準学士 栄養士免許、管理栄養士免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 乳児期から小児、学童期と子どもの食生活は心身の健全な発育、発達のみならず、生涯にわたる健康的な食習慣を築く基礎となります。さらに女性の妊娠期・子どもの胎児期においても「食」「栄養」は重要であり将来の疾病予防とも大きな関連があります。近年、栄養の偏りや「欠食」、「孤食」の問題も大きく取りざたされています。子どもの成長段階に応じた栄養・健康について食を通して考え、保育士として必要な「子どもの食と栄養」について学び、適正な食、栄養のあり方、栄養学の基本的知識、技術を習得します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本的知識を習得する。			目標	A
子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。			目標	A
養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。			目標	A・B
家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。			目標	A・F
関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			目標	A・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業内容)、評価方法・授業の進め方 自身の食事について考えてみる	授業計画 教科書	授業計画を読む
2	第1章 子どもの健康と食生活の意義 子どもをとりまく「食」の問題 *自身の食事について評価し発表する	教科書P 9～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「なぜ食事をするのか？」 200字
3	第2章 栄養に関する基本的知識 三大栄養素・五大栄養素 *栄養素の流れを図に書いて理解を深める	教科書P 17～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「三大栄養素、五大栄養素とは」200字
4	第2章 栄養に関する基本的知識 その他の栄養素(食物繊維、水) *脱水と熱中症状の違いを考える	教科書P 23～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「食物繊維の働きについて」200字
5	第3章 消化・吸収・代謝に関する基礎知識 口～肛門まで、消化管について *食べ物の消化の旅、流れをまとめ	教科書P 25～ 補足資料、パワーポイント	予習 第3章を事前に読む
6	DVD学習(消化管の構造、食物の流れ) *消化について理解したことをまとめる	教科書P 25～ 補足資料、パワーポイント DVD「人体の小宇宙 ：消化管」約60分	予習：テーマ 「胃の役割」200字
7	第4章 食事摂取基準と小児の特徴 食生活指針・年齢区分・推奨量・目安量 *自分のBMIを計算して評価してみよう	教科書P 33～ 補足資料、パワーポイント	教科書 第4章を事前に読む
8	第4章 食事のバランスについて 「食事バランスガイドコマ」を使ってみる *食事バランスについて評価し発表(各自)	教科書P 39～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 食べたものの記録
9	第5章 献立・調理の基本 食品区分(3つ、4つ、6つ)PFCバランス *モデル献立を区分してバランスを調べる	教科書P 41～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 3色食品群について調べる
10	第5章 献立・調理の基本 主食・主菜・副菜(一汁三菜の考え方) *3歳児用の献立を班で考えてみよう	教科書P 45～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 献立作成の手順 200字
11	第6章 食品の基礎知識 旬の食材・食品のマーク・栄養補助食品 *食品の旬について調べてみよう	教科書P 49～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 食品のマークについて 200字
12	第7章 調理 だしの取り方、だしの違い 野菜の切り方	教科書P 57～ 補足資料、パワーポイント	復習：授業のまとめ問題 プリント
13	第7章 調理演習(調理室) だしの取り方と味の違い	調理演習(1)	復習：授業のまとめ問題 プリント
14	第7章 調理演習(調理室) 野菜の切り方	調理演習(2)	予習：事前配布のレシピ をよく読んでくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	第7章 調理演習 こどものおやつ「プリン」の作り方を考える 前期まとめ	教科書、補足資料 パワーポイント	復習：授業のまとめ問題 プリント
期末 試験	前期末試験（中間試験）	筆記試験	
16	第7章 調理演習（調理室）	調理演習(3)	予習：食品添加物について 200字
17	食の安全性、食品添加物について考える DVD学習「Supper size me」 「食の安全性に関して」 レポート提出①	教科書、補足資料 DVD「Supper size me」 120分	予習：食品添加物の種類 200字
18	〃	〃	〃
19	第8章 出生前期の特徴と食生活 悪阻・便秘・貧血・肥満 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病 *妊娠期に起こりうる栄養の問題と対応を考える	教科書P65～ 補足資料、パワーポイント	予習：妊娠期の食生活 300字
20	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 成長と発達・食習慣の形成 *離乳食・市販ベビーフードの変化について	教科書P73～ 補足資料、パワーポイント	予習：離乳食のすすめ方 300字
21	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 *市販食品や市販のベビーフードを調べる アレルギー表示、原材料、見た目、味、食感	教科書、補足資料 パワーポイント	予習：離乳食の種類 200字
22	第10章 幼児期の心身の特徴と食生活 幼児期における心身の発達と食生活 *幼児期におこりがちな栄養の問題について	教科書P81～ 補足資料、パワーポイント	予習：幼児期の食生活の 問題点 200字
23	第11章 学童期の心身の特徴と食生活 学童期、思春期の心身の特徴と食生活 *学童期での食の問題点について調べる	教科書P89～ 補足資料、パワーポイント	予習：教科書 第11章を事前に読む
24	第12章 保育所・幼稚園の給食 保育所給食の役割 *保育所給食における保育士の役割について	教科書P97～ 補足資料、パワーポイント	予習：保育所給食の役割 300字
25	第13章 食育の基本と内容 保育所保育指針・食育基本法・食育推進基本計画、食文化・ 地産地消 *地域の郷土料理を調べてみよう	教科書P105～ 補足資料、パワーポイント	予習：教科書 第13章を事前に読む
26	食育 DVD学習 「ぼくが命をいただいた3日間」 感想をまとめてレポート提出②	教科書、補足資料 DVD「ぼくが命をいた だいた3日間」60分	予習：授業のまとめ問題 プリント
27	食育ポスター作成 ポスター提出 班で食育のテーマを決めポスターを作る (色鉛筆、水性ペンなどを持参する)	教科書、補足資料 グループワーク	予習：食育ポスターの構 想 200字
28	食育ポスター発表会 班でポスター内容を発表する (色鉛筆、水性ペンなどを持参する)	教科書、補足資料 グループワーク	復習 授業のまとめ問題プリント

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
29	第14章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 共食・孤食・個食・家庭支援 特別な配慮を要する子どもの食事	教科書P113～ 補助資料、パワーポイント	予習：家庭での食事の問題点をまとめる 300字
30	第15章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾患と栄養 食物アレルギーがある子どもへの対応 これまでのまとめ	教科書P121～ 補助資料、パワーポイント	予習：特定原材料7品、特定原材料に準ずる20品目を調べる 200字
期末試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A …期末試験 80点（前期末と後期末に40点満点の試験を2回実施） 目標B・F…授業内レポート 20%（10点満×2回実施）			
【教科書】 書名：コンパクト版保育者養成シリーズ 〈新版〉子どもの食と栄養 著者名：水上由紀、細川裕子 編著 発行所：一藝社 価格：2,000円（税別）		【参考書】 特に指定なし	
【その他補足事項】 1. 調理演習：簡単な調理演習を3回実施します。（エプロン、バンダナ、調理室用上履きを各自準備） 2. 離乳食調べ：市販の離乳食の成分や味などを調べる授業を1回行います。 3. 食育ポスター作成：各班で食育ポスター作成を行い発表します。（色鉛筆、水性ペンなどを持参） 4. DVDによる学習：授業内容に関連するDVDによる授業も数回実施します。			

授業科目名	子ども家庭支援論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：高橋雄二		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		NPO法人あざみ会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士（こども心理） 社会福祉士、介護福祉士 日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解すると共に、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
		B	技能		
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。			目標	A	
② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。			目標	A	
③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。			目標	C	
④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			目標	E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性	授業計画（授業の進め方を説明します） DVD「あなたと生きたい」15分	教科書とノートを持参してください

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	子ども家庭支援の目的と機能	授業資料1	予習：事前に教科書P14～24を読んでおくこと
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	DVD「子育て労働者を支える」20分	予習：事前に教科書P26～36を読んでおくこと
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	DVD「固く閉ざされた若者の心を開け」15分	予習：事前に教科書P38～48を読んでおくこと
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	DVD「私たちのこれから」20分	予習：事前に教科書P50～60を読んでおくこと
6	子どもの育ちの喜びの共有	DVD「おうち診療所の3か月」15分	予習：事前に教科書P62～72を読んでおくこと
7	保護者及地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	授業資料2 DVD「共生ケアは地域を支える」15分	予習：事前に教科書P74～84を読んでおくこと
8	保育士に求められる基本的態度	DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」20分	予習：事前に教科書P86～96読んでおくこと
9	家庭の状況に応じた支援	DVD「ウワサの保護者会」15分	予習：事前に教科書P98～108を読んでおくこと
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	DVD「地域みんなで子どもを育てる」20分	予習：事前に教科書P110～120を読んでおくこと
11	子ども家庭支援の内容と対象	授業資料3 DVD「見えない貧困」20分	予習：事前に教科書P122～132を読んでおくこと
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	DVD「すくすく子育て」20分	予習：事前に教科書P134～144を読んでおくこと
13	地域の子育て家庭への支援	DVD「あそんでくれてありがとう」20分	予習：事前に教科書P146～156を読んでおくこと
14	要保護児童等及びその家庭に対する支援	授業資料4 DVD「すくすく子育て」20分 課題レポート内容説明	予習：事前に教科書P158～168を読んでおくこと
15	子育て支援に関する現状と課題	課題レポートの発表内容について ディスカッションを行うことにより今後必要とされる家庭支援について考察する	予習：ディスカッションの準備としてレポートの提出を求めます「子育て支援の課題」A4：2枚
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標①②③…期末試験 80点

目標④ …ディスカッションの発言 10点、課題レポート 10点

総計100点満点で評価します。そのほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。

【教科書】 書名：子ども家庭支援論
著者名：松原康雄・村田典子・南野奈津子
発行所：中央法規出版株式会社
価格：2,000円（税別）

【参考書】 特に指定しません。

授業科目名	社会的養護Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：板垣健太郎		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		(社福)富岳会富岳学園(知的障害児通園施設)園長(昭和60年4月～平成元年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		福島県社会福祉会保育士研修会講師(平成11年4月～平成12年3月)		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院博士課程心身障害学研究所知能障害専攻単位取得後退学、修士(教育学)		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 児童福祉施設における養護内容が、対象児個々の理解のもとに構築されるものであることを理解し、対象児理解の重要性を認識するとともに対象児理解に関する基礎的な態度や技能を養うこと、児童養護の難しさや面白さを実感すること、適正な児童観や養護観を身に付けること等を目的とする。 要養護児童や障害を抱えた児童に関するビデオや実習記録等を事例として採りあげ、グループ討議も含めて、児童の理解とその援助について具体的に検討し、演習を展開する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
①	養護内容が対象児の理解のもとに構築されるものであることを理解する。	目標	A	
②	対象児理解の基礎的な態度や技能を養い、児童養護の難しさと面白さを実感する。	目標	B・C	
③	適正な児童観、養護観を養う。	目標	A	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、養護的援助行為の特性と専門性についての説明	講義 資料：「養護の構造」	配布資料により復習
2	乳児院の事例の検討① 事例を知る	事例説明 VTR「乳児院物語」(25分)	事例の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	乳児院の事例の検討② 対象児理解の方法を考える	討論 VTR「乳児院物語」(5分)	対象児理解の方法の確認
4	乳児院の事例の検討③ ポイントを絞って観察する	VTR視聴と討論	観察の確認
5	乳児院の事例の検討④ 対象児理解を深める	VTR視聴「狼に育てられた少女」(10分)、討論	対象児理解の確認
6	乳児院の事例の検討⑤ 望ましい対応を考える	討論	対応について確認
7	乳児院の事例の検討⑥ 事例の所見をまとめる	個人作業	所見の完成
8	児童養護施設の事例の検討① 事例を知る	事例説明、資料：実習記録「不思議な質問」	事例の確認
9	児童養護施設の事例の検討② 対象児を理解する	討論	対象児理解の確認
10	児童養護施設の事例の検討③ 例についての所見をまとめる	討論	所見の完成
11	児童養護施設の事例の検討④ 望ましい対応を考える	討論	対応の確認、所見作成準備
12	児童養護施設の事例の検討⑤ ～事例に関する所見を作成する	討論	所見の完成
13	子どもの遊びの事例の検討① 事例を知る	VTR「ある遊び」(10分)	事例の確認
14	子どもの遊びの事例の検討② 対象児を理解する	討論	対象児理解の確認
15	子どもの遊びの事例の検討③ 望ましい対応を考える	討論	対応の確認
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には講評をします。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B・C：期末試験（Aに係わる問題20点相当、B・Cに係わる問題各40点相当…計100点） 以上、合計100点で評価する。 ※遅刻・早退は1回につき1点の減点、欠席は1回につき3点の減点。			
【教科書】 使用しない。			

授業科目名	子育て支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 <small>こん</small> 清 <small>きよ</small> 孝 <small>たか</small>		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士 （社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 保育士が行う保育技術と保育相談支援技術の組み合わせによる子育て支援により、保護者が抱える育児に関する問題を、子どものより良い保育環境を整える視点から具体的に考える。 子育てする保護者のライフサイクルを理解し、子育て支援の計画や環境構成を作成する力と、子育て支援の記録・評価ができる力を養う。 多様な子育て家庭に対する対応法を、事例を通してグループ討議や模擬相談演習、ロールプレイなどを行い学びを深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。	目標	A・B		
② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。	目標	A・B・E		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画 授業資料1・ゲーム	復習：課題解決過程
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
5	保育相談支援の技術(1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	予習：保育者の立場での考え方の検討
6	保育相談支援の技術(2)	授業資料6 授業資料完成 グループ討議	予習：保育者の立場での考え方の検討 復習：「1～6のまとめ」
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料7	授業資料の整理 テーマ「1～6のまとめ」
8	保育相談支援の実際(1)	授業資料8 DVD視聴「保育相談支援」37分	予習：「助言」「解説」「情報提供」の在り方の検討
9	保育相談支援の実際(2)	授業資料9 模擬相談演習	予習：「助言」「解説」「情報提供」の在り方の検討
10	保育相談支援の実際(3)	授業資料10 模擬相談演習	予習：「支持」「承認」の在り方の検討
11	保育相談支援の記録(1)	授業資料11 ロールプレイ	予習：「支持」「承認」の在り方の検討
12	保育相談支援の記録(2)	授業資料12 ロールプレイ	予習：「行動見本」「体験提供」の在り方の検討
13	保育相談支援の評価(1)	授業資料13 ロールプレイ	予習：「行動見本」「体験提供」の在り方の検討
14	保育相談支援の評価(2)	授業資料14 ロールプレイ	予習：「環境構成」の在り方の検討 復習：「8～14のまとめ」
15	まとめ 小レポート作成		テーマ「8～14のまとめ」
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標①②：期末試験（70点満点）。

目標①②：レポート（2回）は30（各15）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。

目標②：ロールプレイ時の気づきについて発表できた学生には加点する。

目標①②：その他 授業内容に関して、質問や意見を積極的に述べる学生には加点する。

100点を越えたものは一律100点とし、ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。

【教科書】 書名：演習 保育相談支援（第3版）

著者名：小林育子

発行所：萌文書林

価格：1,600円（税別）

【その他補足事項】

初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。

ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。

期末試験の際には、授業配布資料のみ持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。

授業配布資料は、授業内容及び必要事項を書き込み、授業中または授業後に完成させ試験に臨むこと。

授業科目名	乳児保育Ⅰ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：客員講師 氏名：永澤孝子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島福祉施設協会保育所保育士等（昭和47年4月～平成4年3月） 福島福祉施設協会保育所主任保育士（平成4年4月～平成12年3月） 福島福祉施設協会保育所所長（平成12年4月～平成24年3月） 福島学院大学認定こども園教職員・保護者カウンセラー （平成28年5月～現在に至る）		
社会貢献としての委員会・職等		福島市民生委員児童委員 福島地区少年補導員 福島学院大学同窓会理事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島女子短期大学保育科第一部卒業 準学士 保育士資格 幼稚園教諭二種免許状 甲種防火管理講習課程修了証		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等の理解を通して、保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解します。 また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制についての理解と共に、職員間の連携・協働、及び保護者や地域の関係機関との連携について理解を深めます。 ※乳児保育とは、3歳児を念頭においた保育を示します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。			目標	A
② 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。			目標	F
③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。			目標	C
④ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			目標	C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方と評価方法等 乳児保育とは <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育における養護及び教育 人が育つことの理解 赤ちゃん人形を抱く	授業計画 たて抱き・横抱きの体験 第1回レポート作成	教科書第1章 「乳児保育とは」を復習する 新生児の赤ちゃん人形を抱いた時に感じた事、捉えた事等を考察する
2	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育の役割と機能 乳児保育の様々な場(保育所 認定こども園 小規模保育所)における現状 保育所以外の児童養護施設(乳児院等)における乳児保育 	DVD視聴 「保育者の歩み」20分 プリント	教科書第2章 「乳児保育の基本」 教科書第3章 「乳児保育の制度と課題」を復習する
3	平成29年告示「保育所保育指針」について <ul style="list-style-type: none"> 改正された保育指針の構成と内容の特徴 平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について <ul style="list-style-type: none"> 改訂された教育・保育要領の構成と内容の特徴 乳児保育に関わる法律 <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法 労働基準法 育児介護休業法等 	保育所保育指針解説から学ぶ幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説から学ぶ プリント	教科書第3章 「乳児保育の制度と課題」を復習する
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育(1) <ul style="list-style-type: none"> 3歳未満児の安全と環境 乳児の心の発達 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの人見知り アタッチメントの形成とその意義 乳幼児が喜ぶわらべうた・手遊びうた	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> 保育現場におけるアタッチメント プリント DVD視聴 「赤ちゃんの秘密」20分	教科書第4章 「3歳未満児の発達過程からみる保育内容」を復習し、アタッチメントの重要性を考察する
5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育(2) <ul style="list-style-type: none"> 3歳未満児の生活と環境 乳児のこことばの発達 <ul style="list-style-type: none"> こことばの発達と必要な力 三項関係の出現 ～9か月の軌跡～ 0歳児 1歳児 2歳児の喜ぶ絵本	DVD視聴 「絵本の読み聞かせ」20分 プリント	「ブックスタート運動」について調べておく
6	諸外国の出産の現状と子育て <ul style="list-style-type: none"> カンボジア(アンコールワット)等の出産現状 自分が生まれた時のことを知る 	DVD視聴 「ちいさな命の詩」30分 プリント	授業後、自分が産まれてきた時のことを家族に聞く
7	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の背景 虐待の発見と対応 産後ケアとは 	DVD視聴 「ママ達が非常事態①」20分 グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> 虐待の対応を知る プリント	教科書第7章 「乳児保育における連携」を事前に読む
8	保育所における乳児保育 <ul style="list-style-type: none"> 3歳未満児の遊びと環境 乳幼児の砂遊び <ul style="list-style-type: none"> 砂遊びによる発達の要素 感覚遊びの重要性 	DVD視聴 「砂遊びから見る子どもの発達」20分 プリント	教科書第9章 コラム「砂遊びが子どもの生きる力を引き出す」を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	子どもの育ちと家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・外国につながる子ども、保護者の支援 ・民族・宗教等の多文化共生を目指した支援 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・多文化保育の意義と実践 「保育の現場での事例、エピソード」からの考察 プリント	外国につながる子どもや保護者について配慮すべき事を考えておく
10	家庭的保育等における乳児保育 <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法の子どもの権利と保護者関係 ・教育基本法の子どもの権利と保護者関係 ・ユニセフと子どもの権利条約 	DVD視聴 「ママ達が非常事態②」 20分 プリント	教科書第9章 「子育てをめぐる家族の権利と責任」を事前に読む
11	3歳未満児の発達を踏まえた保育における配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害とは ・発達の遅れに気づく ・保育者からの発信の仕方 	DVD視聴 「君が僕の息子についておしえてくれたこと」 30分 第2回レポート作成 プリント	発達障害がある子どもへの支援の多様性について振り返りをする
12	乳児保育における連携・協働 <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携・協働 ・保護者との連携・協働 ・自治体や地域の関係機関等との連携・協働 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援の進め方 プリント	保護者支援においてどのような連携が実践され、必要とされているか調べておく
13	乳児保育における計画・記録・評価の理解(1) <ul style="list-style-type: none"> ・保育の全体的な計画の構造 ・保育の計画と評価・改善 	プリント	教科書第6章 「乳児保育の計画と記録」を事前に読む
14	乳児保育における計画・記録・評価の理解(2) <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児・2歳児クラス運営 ・保育の記録のとり方 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿がわかる記録のとり方 プリント	乳児保育における計画・記録・評価等の見直しをして次年度の実習に生かせるようにする
15	まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育における保育者の役割と専門性 	DVD視聴 「地域の顔が見える子育て支援」20分 第3回レポート作成	保育者の役割と専門性についての考えをまとめておく
期末試験	期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 達成目標①②③ 期末試験 60点 達成目標③④ レポート作成（3回） 30点 達成目標③④ 授業内での意見発表及び討議態度等 10点 ※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行います。 ※詳細については初回授業時に説明します。			
【教科書】 書名：コンパス乳児保育 著者名：咲間まり子 編著 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			

【その他補足事項】

1. 本授業の3・4・7・10・12回において、平成29年告示「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び平成29年告示「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を使用します。詳細は授業時に指示します。
2. 授業配布資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルしてください。

授業科目名	乳児保育Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：客員講師 氏名：永澤孝子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島福祉施設協会保育所保育士等（昭和47年4月～平成4年3月） 福島福祉施設協会保育所主任保育士（平成4年4月～平成12年3月） 福島福祉施設協会保育所所長（平成12年4月～平成24年3月） 福島学院大学認定こども園教職員・保護者カウンセラー （平成28年5月～現在に至る）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市民生委員児童委員 福島地区少年補導員 福島学院大学同窓会理事			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島女子短期大学保育科第一部卒業 準学士 保育士資格 幼稚園教諭二種免許状 甲種防火管理講習課程修了証			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 本授業では、「乳児保育Ⅰ」で学んだ乳児保育の現状と課題、乳児保育の理念や知識を基に、乳児保育の技術や技能について実践演習等を通して学びます。 乳児との関わり、援助の仕方の実際を通して、乳児保育における保育士の役割を再考します。また、グループディスカッション、ロールプレイングなどを通して乳児期の発達に応じた保育計画や保育方法、保護者支援の実際について理解を深め、乳児保育を総合的に捉え、実践に応用できる力を養います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。	目標	A		
② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	目標	B		
③ 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。	目標	B		
④ 上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。＊乳児保育とは、3歳児未満を念頭においた保育を示す。	目標	E		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方と評価方法等 <p>乳児保育の基本(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと保育士等の関係の重要性 個々の子どもに応じた援助や受容的。応答的な関わりについて <p>抱っこ・おんぶ・おむつの替え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳児とのふれ合いの基本を学ぶ 抱っこ・おんぶ・おむつ交換の技術 応答的な援助の実践 	<p>授業計画</p> <p>グループ演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 抱っこ・おんぶ・おむつ交換を学ぶ(ベビーマ人形) <p>第1回レポート作成</p>	<p>教科書</p> <p>第2章「乳児保育の基本」</p> <p>第5章「基本的生活習慣の獲得」</p> <p>(3)援助の実際</p> <p>1)おむつ交換を事前に読む</p>
2	<p>乳児保育の基本(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え <p>乳児の発達過程からみる保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 0～6か月未満児の発達と保育内容 6か月以上1歳未満児の発達と保育内容 	<p>保育所保育指針・保育所保育指針解説から学ぶ</p> <p>DVD視聴</p> <p>「乳幼児へのまなざし」</p> <p>15分</p>	<p>保育所保育指針</p> <p>第2章 保育の内容「乳児保育に関するねらい及び内容」を事前に読む</p> <p>P13～P16</p>
3	<p>乳児保育における子どもの発達・発達をふまえた生活と遊びの実際(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 3歳未満児の発達・発達をふまえた生活と援助の実際と保育内容 子ども同士の関わりとその援助の実際 <p>乳児の噛みつき・ひっかき等のトラブルへの対応</p>	<p>グループ演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 噛みつきへの対応(ロールプレイング) <p>プリント</p>	<p>保育所保育指針</p> <p>第2章「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」を事前に読む</p> <p>P16～P22</p>
4	<p>乳児保育における子どもの発達・発達をふまえた生活と遊びの実際(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 3歳未満児の発達・発達をふまえた遊びと援助の実際と保育内容 <p>手作りおもちゃの製作①</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と関わる楽しさを伝えるおもちゃ作り 	<p>おもちゃの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> 音の鳴るおもちゃを作る <p>プリント</p>	<p>乳児の発達を考慮し、音の鳴る玩具を考えておく</p>
5	<p>手作りおもちゃの製作②</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成したおもちゃの発表 	<p>製作したおもちゃの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際にどのように遊ぶのか伝える <p>第2回レポート作成</p>	<p>子どもがどのように遊ぶのか理解できるよう発表の仕方を工夫する</p>
6	<p>乳児保育における配慮の実際</p> <p>① 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育室内外の衛生 乳児期特有の病気と予防 薬の取り扱いと与薬依頼票 <p>② 集団での生活における配慮・環境の変化や移行に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活における危険 人数確認による子どもの把握 不審者の侵入防止 	<p>VTR視聴「保育の安全管理と事故防止」20分</p> <p>プリント</p> <p>グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活での危険と回避の仕方 <p>第3回レポート作成</p>	<p>保育所保育指針</p> <p>第3章 健康及び安全を事前に読む</p> <p>P32～P35</p> <p>乳幼児の日常生活での危険についてまとめておく</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	基本的な生活習慣 食事(1) <ul style="list-style-type: none"> 授乳の仕方・調乳の仕方 人工乳・冷凍母乳 離乳食の進め方 	グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 調乳の仕方を学ぶ プリント DVD視聴 「離乳食のすすめかた」 20分	教科書 第8章「食事の計画、提供及び評価・改善」1 冷凍・冷蔵母乳の取り扱いについてを事前に読む
8	基本的な生活習慣 食事(2) <ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーの対応 基本的な生活習慣 睡眠 <ul style="list-style-type: none"> 乳児の睡眠 睡眠の援助 	DVD視聴「聞いてみよう！食物アレルギーのこと」20分 プリント	教科書 第8章2 乳幼児と食物アレルギー 3 保育室での配慮を事前に読む 教科書 第5章「基本的な生活習慣の獲得」食事・睡眠を予習する
9	基本的な生活習慣 排泄 <ul style="list-style-type: none"> おむつはずれの援助 基本的な生活習慣 衣服の着脱 <ul style="list-style-type: none"> 衣服の選び方 衣服の着せ方、脱がせ方 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> トイレの誘い方 グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 衣服の着せ方・脱がせ方 ベビー人形、プリント	教科書 第5章2 排泄 5 衣服の着脱を事前に読む
10	基本的な生活習慣 清潔 <ul style="list-style-type: none"> 清潔とは 沐浴の仕方、清拭の仕方 	DVD視聴「やさしい沐浴法」20分 グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 沐浴の仕方を学ぶ ベビー人形、プリント	教科書 第5章4 清潔の習慣を事前に読む
11	保護者支援 <ul style="list-style-type: none"> 日本の子育て支援システム 保育所、認定こども園、地域子育て支援の実際 子育て支援の連携法 絵本、わらべうた、連絡帳の活用法 	DVD視聴「育ち育てる子育ての時間」20分 グループ演習：連絡帳を書く プリント	教科書 第7章「乳児保育における連携」を復習する 保育施設での子育て支援について考察する
12	乳児保育における計画の実際(1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画 <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の作成ポイント 月間指導計画の作成ポイント 保育の計画と評価・改善の理解 	プリント	教科書 第6章「乳児保育の計画と記録」を事前に読む
13	乳児保育における計画の実際(2) 個別的な指導計画と集団の指導計画 <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の個別計画とクラス全体の指導計画 月間指導計画の部分作成 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> 4月指導案の部分作成 プリント	作成した指導案の見直しをし、実際の保育に生かせるように改善する
14	手作り絵本の製作 <ul style="list-style-type: none"> 終わらない絵本作り 絵本の読み聞かせ(1) <ul style="list-style-type: none"> 絵本の役割と選び方 	簡単な絵本を作る <ul style="list-style-type: none"> 絵本の発表 グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> 3歳未満児の絵本選択 	乳児に見せたい絵本を持参する 絵本の5場面を考えておく
15	絵本の読み聞かせ(2) <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの発表をする まとめ <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育演習を通して捉えた、保育士の援助や関わりについて考察を深める 	グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> グループ毎の読み聞かせ 第4回レポート作成	読み聞かせの練習をしてくる 保育士の援助や関わりについて、学び捉えたことをまとめておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	期末試験	筆記試験	
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 達成目標①② 期末試験 60点 達成目標②③ レポート作成（4回） 20点 製作物 10点 計30点 達成目標③④ 授業内での意見発表及び討議態度等 10点 ※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行います。 ※詳細については初回授業時に説明します。</p>			
<p>【教科書】 書名：コンパス乳児保育 著者名：咲間まり子 編著 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業において、平成29年告示「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び平成29年告示「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を適宜使用します。詳細は授業時に指示します。 2. 乳児にふさわしい絵本をひとり1冊用意してください。 3. 授業配布資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルしてください。 			

授業科目名	体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 子どもの運動あそびや体育領域（体づくり運動、ゲーム、器械運動、ボール運動、表現運動等）の内容について、知識と技術の両面から学習する。発育発達段階に応じた運動あそびの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。また、単元ごとにグループ発表（模擬授業）を実施し、実践能力を養う。 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につけ、保育・教育現場で活用できる運動の方法を習得することを授業目標とする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの発達に応じた運動実践の方法を理解する。			目標	A
模擬保育を通じて運動指導の実践力を身に付ける。			目標	E
運動遊びの指導計画案を作成できるようになる。			目標	E
子どもの運動指導に必要な最低限の運動技能を身に付ける。			目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	今後の授業展開や内容について	授業計画(シラバス)持参	
2	体づくり運動		
3	体力測定(1) (現時点での自分の体力を知る)		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	マット(1) (様々な遊び)		マットを使った遊びについて調べてくる
5	マット(2) (グループ発表)	グループ発表	
6	マット(3) (スキルチェック)		練習 (前転・後転など)
7	跳び箱運動(1)		とび箱を使った遊びについて調べてくる
8	跳び箱運動(2) (グループ発表)	グループ発表	
9	跳び箱運動(3) (スキルチェック)		
10	フープ (グループ発表⑤) 組み立て体操(1) 計画	グループ発表	フープを使った遊びについて調べてくる
11	組み立て体操(2) 計画及び実践練習		個人技を練習してくる。
12	組み立て体操(3) 実践練習と発表	グループ発表	
13	パラバルーン(1)		パラバルーンを使った遊びについて調べてくる。
14	パラバルーン(2) 全グループでの発表	グループ発表	
15	運動遊び指導に必要な基礎理論(1) ～子どもの体、体力・運動能力の発達～		
期末試験	前期末試験 (中間試験)		前期の内容を復習しておく
16	体力測定(2) (10月時点での自分の体力を知る)		
17	運動会 (計画)		運動会の種目について調べてくる
18	運動会 (準備)		
19	運動会 (実践) (グループ発表・全グループ)	グループ発表	
20	鉄棒運動(1)		鉄棒を使った遊びについて調べてくる
21	鉄棒運動(2) (グループ発表)	グループ発表	
22	鉄棒運動(3) (スキルチェック)		
23	縄跳び運動(1) (グループ発表)	グループ発表	長縄を使った遊びについて調べてくる
24	縄跳び運動(2) (スキルチェック)		練習 (前、後、あや、二重跳び)
25	ボール遊び(1) (グループ発表)	グループ発表	ボールを使った遊びについて調べてくる
26	ボール遊び(2) (スキルチェック)		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	様々な遊び(鬼あそび・伝承あそび・雪遊びなど) (1) (全グループ発表)	グループ発表	鬼遊び、伝承あそびについて調べてくる
28	様々な遊び(鬼あそび・伝承あそび・雪遊びなど) (2) (全グループ発表)	グループ発表	
29	運動課題の振り返りとスキルチェック		自分にとっての課題が何かまとめておく
30	運動遊び指導に必要な基礎理論(2) ～幼児期運動指針のまとめ～	DVD「幼児期の運動に関する指導参考資料・スポーツ庁」	後期授業の復習
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A：中間試験 20%、期末試験 40% 目標B：スキルチェック 20% (4回×各5点) 目標E：グループ発表 20% (10回×各2点)			
【教科書】 なし		【参考書】 なし	
【その他補足事項】 (1) 運動ができる服装および室内用シューズを着用すること。(忘れ物は減点の対象とする。) (2) 授業が始まるまでに、アクセサリ類(指輪、ネックレス、ピアス等)は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。(教員から注意を受けた場合、減点の対象とする。) (3) 貴重品は必ずロッカーに入れること。 (4) 毎回プリントを配布するので、单元ごとにインデックスを付け、各自で管理すること。(A4サイズ2穴フラットファイルを用意しておくこと。) (5) 天候によって、雪遊びを行わないことがある。			

授業科目名	保育内容指導法 環境		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名： <small>すぎ</small> 浦 <small>うら</small> <small>ひろ</small> <small>ゆき</small> 杉 浦 広 幸		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		新潟県園芸試験場（1989年4月～1996年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		全農福島県特定栽培農産物評議委員（委員長）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		農業改良普及員、毒物劇物取り扱い主任者（一般用） 博士（農学）、日本放射線安全管理学会、園芸学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは火曜日昼宮代キャンパス研究室にて行います。		

【授業の概要】 本授業におけるテーマは、保育における環境（子どもの暮らし、あそび、学びにとって意味のある外界）としての物的環境、人的環境、自然環境および社会的環境を学習する。また、基本的に知っておくべき動植物について学習してもらう。そして、出身地・実習先の環境に関わる特徴の学習について、学生の自主的な学習を促す。さらに、放射能の問題もまだ残っているため、保護者に安心してもらえるよう、対策と必要な知識を学習してもらう。保護者が安心して子どもを託すことができるよう、安心できる環境の知識を体験的に学ぶ。授業について、能動的学習についても取り入れる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
子どもが周囲の環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味関心を持たせられるように保育できる。	目標	A		
子どもが身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れられるように保育できる。	目標	B		
身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で様々な物や事象に対する感覚が豊かになるよう保育できる。	目標	C		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 子どもをとりまく環境（事例：附属認定こども園の園庭）	教科書、Power Point、 子ども園の外観から学ぶ (キャンパスツアー)	復習：附属こども園の外観を観察しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	環境を通じた教育・保育を考える 園庭の構造物の設置理由から学ぶ	教科書、Power Point、 園庭から学ぶ	予習：園庭構造物の設置理由を考えておく。
3	領域「環境」のねらいと内容(1) 幼稚園教育要領	教科書、手製資料	予習：ネットで幼稚園教育要領を調べておく。
4	領域「環境」のねらいと内容(2) 新しい保育所保育指針（前半）	教科書、手製資料	予習：保育指針が平成30年になぜ変更されたか考えておく。
5	領域「環境」のねらいと内容(3) 新しい保育所保育指針（後半）	教科書、手製資料	復習：保育所保育指針の総論を読み返しておく。
6	領域「環境」のねらいと内容(4) 設置認可基準	教科書、手製資料、子ども園の周囲ツアー	復習：認可幼稚園・保育所とは何か復習しておく。
7	領域「環境」のねらいと内容(5) 設置認可基準	教科書、手製資料	復習：認可施設の各面積を復習しておく。
8	領域「環境」のねらいと内容(6) 認定こども園教育・保育要領	教科書、手製資料	予習：認定子ども園教育保育要領をネットで調べておく。
9	教育保育思想と環境 自然を巡る教育・保育思想	教科書、Power Point	予習：森の幼稚園とは何か調べておく。
10	身近な環境の構成(1) 人的環境	教科書、Power Point	予習：身近な人と自分との関係を整理しておく。
11	身近な環境の構成(2) 物的環境	教科書、Power Point	復習：園舎内の構造の特徴を復習しておく。
12	身近な環境の構成(3) 自然環境 ビオトープを活かした活動	教科書、Power Point、 学内ビオトープ	予習：学内ビオトープを下見しておく。
13	身近な環境の構成(4) 社会環境…国際理解に役立つ世界の遊び 1	教科書、Power Point グループ活動「国際理解に役立つ世界の遊び」準備	予習：遊びの教え方を考えておく。
14	身近な環境の構成(5) 社会環境…国際理解に役立つ世界の遊び 2	グループ活動「国際理解に役立つ世界の遊び」発表	予習：発表の準備をしておく。
15	身近な環境の構成(6) 夏休みと環境 前期の振り返りと前期末試験対策	教科書、Power Point、 それまで配布した資料	復習：出題範囲を整理しておく。
期末試験	テスト実施	持込なし	
16	乳幼児の発達 数量・図形の認識	教科書、手製資料、グループ活動（キャンパス図形調査）	予習：周囲の物を図形別に分類してみる。
17	さまざまな環境との出会い(1) 自然公園 自然の事象への関心（遠足その1）	教科書、Power Point、 手製資料、グループ活動（遠足の下見報告調査）	予習：幼児の頃に行った遠足先の記憶を整理しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	さまざまな環境との出会い(2) 自然の事象への関心(遠足その2)	教科書、Power Point、 グループ活動(遠足の下見報告発表)	予習:遠足の下見報告を想定した発表の準備をしておく。
19	さまざまな環境との出会い(3) 植物・農作物の利用(ハロウィン)	教科書、Power Point、 手製資料、カボチャのランタン制作	予習:ランタンの顔を考えておく。
20	さまざまな環境との出会い(4) 植物とのかかわり1 ― 花、野草 ―	教科書、Power Point、 キャンパス植物ツアー1	予習:身近に見られる動植物を調べておく。
21	さまざまな環境との出会い(5) 植物とのかかわり2 ― 樹、公園 ―	教科書、Power Point、 キャンパス植物ツアー2、小テスト①花・野草	予習:出題の花・野草の名前を憶えておく。
22	さまざまな環境との出会い(6) 生き物とのかかわり1 ― 鳥獣 ―	教科書、Power Point、 キャンパス植物ツアー3(生き物ビンゴ)、小テスト②木・木の実	予習:出題の樹木の名前を憶えておく。
23	さまざまな環境との出会い(7) 生き物とのかかわり2 ― 虫、絶滅生物、帰化生物、動物保護 ―	教科書、Power Point、 キャンパス生き物ツアー、小テスト③動物	予習:出題の生き物の名前を憶えておく。
24	環境地図(1) キャンパスを調べよう1	教科書、Power Point、 小テスト④虫、グループ活動	予習:出題の生き物の名前を憶えておく。
25	環境地図(2) キャンパスを調べよう2	教科書、Power Point、 グループ活動	予習:花マップの発表準備をしておく。
26	小学校との連携、持続可能な社会への対応(Ecology)	教科書、Power Point	予習:環境問題に関する欧州の風潮を調べておく
27	子どもを守る安全な環境(1) 種々の危険、子どもを災害から守るその指導を含む(東日本大震災から)	教科書、Power Point、 手製資料、グループ活動 10(津波対策)、レポート	予習:震災当時の自分を思い出し、自分ならどう行動したか考えておく。
28	子どもを守る安全な環境(2) 子ども特性からくる危険、動線と安全への指導	教科書、Power Point	予習:遠足の下見を想定し、通学路周囲を観察しておく。
29	子どもを守る安全な環境(3) 環境放射線・放射能対策(保育者・保護者の対応)	教科書、Power Point、 レポート	予習:近隣のモニタリングポストを確認しておく。
30	物的環境 覚えているかな?園の構造物 ― 試験前対策 ―	教科書、後期に配布した資料	復習:園庭の構造物について設置理由を復習しておく。
期末試験	実施	持込なし	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A…前・後期末テスト40%。小テスト4回：20%（5点満点×4回…間違った回答に対しレポートでの再チャレンジを認める）。

目標B…グループ活動（プレゼンテーション）20%。

目標C…レポート20%。

※欠席は1回につき3点減点、遅刻・早退は1回につき1点減点（遅刻・早退3回は欠席1回とみなして3点減点）とする。ただし、実習、就職面接、自然災害、公共交通の遅れ等、正当な理由と判断される欠席（届出のあるもの）は除く。また、授業への取り組みに積極性が評価できる場合は3点加点、授業中の問題行動は1件につき1点減点とする。

【教科書】 書名：生活事例からはじめる ― 保育内容 ― 環境

著者名：徳安 敦、瀧川光治、杉浦広幸

発行所：青踏社

価格：1,900円（税別）

【その他補足事項】

季節感や屋外での観察を重視するため、基本的に毎回屋外へ出ることから、靴は土の場所を歩くことができるものを履いてくること。また、日射が気になる場合は帽子、寒い場合は防寒着を準備のこと。

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国学院大学文学研究科博士課程後期修了 博士（文学） 情報保障研究会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 最初に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園保育要領」にある「言葉」の領域に関するねらいと内容について理解する。その上で、子どもの言葉の獲得と発達についての理解を深めていく。 さらに子どもの言語的資質を高める実践について、ことば遊び・絵本・紙芝居などを取り上げて、どのように指導したらよいか、事例を見ながら分かりやすく指導する。さらに子どもの「言葉のモデル」としての保育者の言葉遣いについても触れる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 「言葉」の指導法の理解をテーマとし、子どもの言葉の発達の特徴や言語環境とのかかわりから、子どもの言語的資質を高める理論と実践について理解を深める。			目標	A・B・D
② 子どもの言葉の獲得と発達について理解を深め、乳幼児期の言葉に関する特徴やその指導について知識・能力を深化させることを目標とする。			目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業計画と評価方法 保育内容「言葉」の位置づけと内容	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：授業計画の確認
2	「言葉」に関するねらいと内容(1) — 幼稚園教育要領 —	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：「幼稚園教育要領」についての事前学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「言葉」に関するねらいと内容(2) — 保育所保育指針 — — 認定こども園教育・保育要領 —	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：保育所保育指針、教育・保育要領についての事前学習
4	保育者のことば(1) 方言・敬語・幼稚園語	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：教科書第1章の事前学習
5	保育者のことば(2) 保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：教科書第2章の事前学習
6	子どものことば(1) ことばの発達・ことばの発達と条件・音声の発達 (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライドによる解説 (DVD視聴「ことばの発達」21分)・質疑応答	予習：教科書第2章の事前学習
7	子どものことば(2) 音声の発達・語彙の発達	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：教科書第2章の事前学習
8	子どものことば(3) 文字の発達・言語障害 (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライド (DVD視聴「早期教育を考える」30分)・質疑応答	予習：教科書第3章の事前学習
9	文字の早期教育について(1) 「幼稚園教育要領解説」での扱い	教科書・配布資料・スライド (グループワークによるディスカッション)	予習：グループワークにむけての課題作成
10	文字の早期教育について(2) 最新の研究成果では (「リファレンスデータベース」の検索)	教科書・PC・リファレンスデータベース・表計算ソフト・配布資料を用いてのグループワーク	予習：グループワークにむけての課題作成
11	ことばの指導と計画(1) 年間・学期別・月間指導計画表	教科書・配布資料・スライドを用いてグループワークによる協議	予習：グループワークに向けての課題作成
12	ことばの指導と計画(2) 週案、日案 レポート①	教科書・配布資料・スライドを用いてグループワークによる協議	予習：グループワークにむけての課題作成。レポート作成
13	子どもの言葉を発達させる活動(1) — ことば遊び —	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
14	子どもの言葉を発達させる活動(2) — 絵本 — 絵本の特長 絵本の選択	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
15	子どもの言葉を発達させる活動(3) — 絵本 — 絵本の指導 読み聞かせする時の留意点	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
期末試験	前期末試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	子どもの言葉を発達させる活動(4) — 絵本 — 一読総合法による読み聞かせ 絵本を通して	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
17	子どもの言葉を発達させる活動(5) — 絵本 — 「ブックスタート」について (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表 (DVD視聴「クシュラの奇跡」24分) (DVD視聴「ブックスタートの活動」16分)	予習：指定された範囲の事前学習
18	子どもの言葉を発達させる活動(6) — 紙芝居 — 紙芝居の歴史の変遷 紙芝居の特性	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
19	子どもの言葉を発達させる活動(7) — 紙芝居 — 紙芝居の構成 紙芝居の選択	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
20	子どもの言葉を発達させる活動(8) — 紙芝居 — 電子紙芝居の効果を考える (効果音・クリップアートの活用など)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
21	子どもの言葉を発達させる活動(9) — 紙芝居 — 電子紙芝居の実際と活用 (動く絵や音の出る絵の活用)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
22	子どもの言葉を発達させる活動(10) — その他の活動 — エプロンシアター 人形劇	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
23	子どもの言葉を発達させる活動(11) — その他の活動 — 人形劇 テレビ (ラジオ聴取)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表 (カセットテープ聴取 NHKラジオ第2「お話出てこい」15分)	予習：研究発表に向けての課題作成
24	絵本の教材研究の発表(1) 年少児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
25	絵本の教材研究の発表(2) 年中児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
26	絵本の教材研究の発表(3) 年長児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
27	紙芝居の教材研究の発表(1) 年少児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	紙芝居の教材研究の発表(2) 年中児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
29	紙芝居の教材研究の発表(3) 年長児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
30	総括質疑 今までの授業内容を踏まえて「言葉」についてのまとめと質疑 レポート②	教科書・配布資料・スライドを用いての解説・質疑応答、研究発表の講評	予習：これまでの学習内容をまとめ、質問項目を作成
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①・②…期末試験 80% 目標② …課題提出（5回） 10% 目標①・②…教科書の朗読 10% ほか、評価に関する共通の理解に則る減点を総合点より行う。			
【教科書】 書名：新訂 保育内容指導法「言葉」 著者名：田上貞一郎、高荒正子 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）			
【その他補足事項】 教科書の他に適宜講義資料を配布する。			

授業科目名	保育内容指導法 表現 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象 教員免許状更新講座 講師 (平成23年～) 文部科学省認定他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了、芸術学修士、 学芸員資格・中学校教諭一種免許(美術) / 高等学校教諭専修免許(美術)、 美術科教育学会、全国造形美術教育教員養成協議会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼児の造形表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解します。幼児の姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていきます。実技では保育現場で行う様々な絵画技法と指導上の留意点や、材料用具の特徴を知っていきます。基礎・基本を体験的に学びながら、製作を通して知識や技術を身に付けます。そして「表現」領域における造形表現の望ましい指導の在り方をさぐります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
		C	論理的思考力		
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
幼児の造形表現の姿や、表現活動の意義を理解し、保育者として望ましい指導援助の仕方を考えられるようになります。			目標	A・B	
感性が豊かになり、イメージを膨らませて、造形的な表現力が高められます。			目標	D・F	
作品製作を通して、材料用具の特性を把握し、それをを用いた様々な技法を習得することで、目的に応じた活用ができるようになります。			目標	A・B・D・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容指導法 表現の概要 年間の授業計画、学習の進め方、評価方法について	授業計画 教科書	自然観察 教科書の復習と予習 (領域表現について)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	「表現」のねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領をふまえて	教科書、プリント映像教材視聴(20分)「0歳からの表現活動」	3法令の復習と教科書の予習 映像教材視聴後の感想をまとめる(レポート①)
3	幼児造形表現の特質 ・領域間の関連性と評価の視点	教科書	教科書の復習と予習
4	幼児造形表現の発達(1) ・発達の特徴	教科書 映像教材視聴(20分)「触れること、かくこと、つくること」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート②)
5	幼児造形表現の発達(2) ・造形表現における発達段階	教科書 映像教材視聴(20分)「かく、つくる、あそぶ～社会性を育む幼児の表現活動」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート③)
6	幼児画の特徴や様式	教科書 映像教材視聴(20分)「子どもの絵を読み取る」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート④)
7	作品製作の留意点	プリント 画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、製作を進める
8	造形表現(平面)の内容とその指導(1) ・技法を使用して表現する(概要の説明) ・指導案作成の留意点、描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
9	造形表現(平面)の内容とその指導(2) ・技法を使用して表現する(マーキングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
10	造形表現(平面)の内容とその指導(3) ・技法を使用して表現する(デカルコマニーなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
11	造形表現(平面)の内容とその指導(4) ・技法を使用して表現する(スパッタリングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
12	造形表現(平面)の内容とその指導(5) ・技法を使用して表現する(フロッタージュなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
13	造形表現(平面)の内容とその指導(6) ・技法を使用して表現する(ドリップングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、製作を進める
14	造形表現(平面)の内容とその指導(7) ・技法を使用して表現する(スタンピングなど)	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
15	造形表現(平面)の内容とその指導(8) ・技法を使用して表現する(模擬保育とその振り返り)	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	中間試験 前期分の締めくくりとして授業前半に「学びの振り返り(中間試験)」を実施し、後半に試験内容の解説を含みながら、前期の学びを確認していく	プリント	試験の復習を行う
17	感性と表現について考える(1) ・エイブル・アートについて	映像教材視聴(40分)「日曜美術館」 課題について発表し、意見を述べ合う	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑤)
18	感性と表現について考える(2) ・脳と心の世界を探る	映像教材視聴(40分)「驚異の小宇宙 人体 脳と心」	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑥)
19	感性と表現について考える(3) ・「自然」と「芸術」を通じた幼児教育を知る	映像教材視聴(40分)「レゾ・エミリア市の挑戦 — 子どもの輝く創造力を育てる」	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑦) 教科書の予習
20	幼児造形教育の方法について(1) ・造形遊びの実践 情報機器を活用した指導計画の作成について	プリント 様々な素材 OHPなど 課題について発表し、意見を述べ合う	プリントの復習と教科書の予習 ワークシートの記入と提出
21	幼児造形教育の方法について(2) ・用具や材料についての理解を深める 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書の復習と予習
22	造形表現(立体)の内容とその指導(1) ・紙材の基礎技法を踏まえた模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
23	造形表現(立体)の内容とその指導(2) ・紙材の基礎技法を踏まえた模擬保育の指導案	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
24	造形表現(立体)の内容とその指導(3) ・概要説明、指導案作成の留意点の振り返り ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
25	造形表現(立体)の内容とその指導(4) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
26	造形表現(立体)の内容とその指導(5) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
27	造形表現(立体)の内容とその指導(6) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育 情報機器を活用した指導計画の取りまとめ	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	造形表現(立体)の内容とその指導(7) ・様々な材料を使用して表現する 情報機器を活用した指導計画の取りまとめ	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
29	課題の発表と考察(模擬保育の振り返り) ・表現の広がり、教材化を目指して	教科書、プリント 用具、材料等 課題について発表し、意見を述べ合う	教科書、プリントの復習と予習
30	まとめと幼児造形教育の課題について(模擬保育の振り返り)	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習 試験勉強を行う
期末試験	後期末試験を行う	プリント	教科書、プリントの復習 試験の復習を行う
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・D・F：課題(作品)評価 50% 目標A・B：試験 30% 目標A・B：レポート提出 10% 目標A・B・D・F：受講態度 10%(授業に臨む意欲と姿勢、質疑応答の内容と頻度、提出物の状況)			
【教科書】 書名：幼児教育法講座 新造形表現 〈理論・実践編〉 著者名：花篤 實・岡田愨吾 編著 発行所：三晃書房 価格：2,000円(税別)		【参考書】 幼稚園教育要領解説(最新版)240円(税別)、 保育所保育指針解説(最新版)320円(税別)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)249円(税別) ※「保育内容総論」他の授業で使用する教科書 その都度、紹介する。授業時にプリントを配布。	
【その他補足事項】 材料費として1,600円を徴収します。 ※学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合があります。			

授業科目名	認定こども園基本実習		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	兼任教授 <small>ながくぼかず</small> 長久保和子 助教 <small>すずきしょうた</small> 鈴木翔太	開講期	通年	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の実施	無	
授業に関する主な実務経験と期間		長久保：特記事項なし 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 (平成17年4月1日～22年3月31日) 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 (平成29年4月1日～31年3月31日)		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		長久保：日本女子大学家政学部児童学科、学士(家政学) 幼稚園教諭一種免許状、日本保育学会、東北児童青年精神医学会 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修士課程修了、修士(こども心理学)、保育士資格、幼稚園教諭第二種免許、日本保育者養成教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目は、学外での各種実習を行う前に、本学が独自に設定する必修科目である。本学認定こども園(平成27年度から幼保連携型認定こども園とする)にて、1班12名編成で5日間の実習を行う。初日は講義を中心とし、観察の仕方や記録の書き方について学ぶ。2日目からは観察・参加実習を行い、実習後半には子どもの前で自分の得意とする分野(紙芝居、ピアノ、エプロンシアターなど)の演習を行う。最終日には指導計画案の立案を学び、子ども理解における基礎を養う。環境構成や製作の手伝いなどを実践しながら、保育の指導法について基礎を学ぶ中で、適切な勤務態度を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	○	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	○	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの様子や発達段階を観る。			目標	A
保育教諭の仕事や役割について体験的に学ぶ。			目標	A・E
認定こども園の目的や機能を知る。			目標	A
保育者として必要、適切な勤務態度を身につける。			目標	G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1 (5	2年次／9月または2月（12名編成） ○実習の目的と意義 ○実習の目標と心構え ○観察（参加）の意義 ○個別観察と全体観察 ○技術演習 ○実習日誌作成 ○環境構成	○講義 ・シラバス、資料に基づいて説明 ・グループディスカッションを行う 〈場所〉 認定こども園2階 実習生室 ○観察、参加、環境構成、技術演習 ・各保育室や園舎内で実際に体験学習を行う。 〈場所〉 各保育室 （各保育室あたり1～2名）	・一日の活動を振り返り、自分の課題を見つける。 ・一日の活動の流れを日誌にまとめ記録し、翌朝提出する。
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>実習中の態度および実習記録から、以下の項目について100点満点で総合的に評価する。</p> <p>目標A：認定こども園の機能や保育教諭の仕事や役割についての理解 子どもの様子や発達段階の理解</p> <p>目標E：観察した内容の整理など日誌における正確な記録と自己課題の認識 事前練習の成果を発揮した保育（技術演習）の実践</p> <p>目標G：保育教諭として必要、適切な基本的態度</p> <p>※詳細は初回授業にて説明する。</p>			
<p>【実習費】</p> <p>(1) 基本実習委託費 3,000円 (2) 腸内感染症検査料（1回分） 550円程度</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>(1) 実習最終日に各自、給食費（280円×観察日数）を聴取する。</p> <p>(2) 実習を行うにあたり、誓約書、腸内感染症検査証明書、および風疹・麻疹（はしか）の抗体を有する証明書を準備する（基本実習に関しては、授業担当者が実習先へ持参する）。</p> <p>(3) 評価に関し、学生もしくは家族等が直接、実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。</p> <p>(4) 実習期間中に何らかの理由で出勤ができなくなった場合は、実習期間中の単位を認定しない場合がある（遅刻・早退・欠席した場合について等、初回授業にて説明する）。</p>			

授業科目名	保育実習指導Ⅰ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2・3年次
担当教員	教授 今 清 孝 助教 鈴木 翔 太		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 （平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 （平成29年4月1日～平成31年3月31日）		
社会貢献としての委員会・職等		今：福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

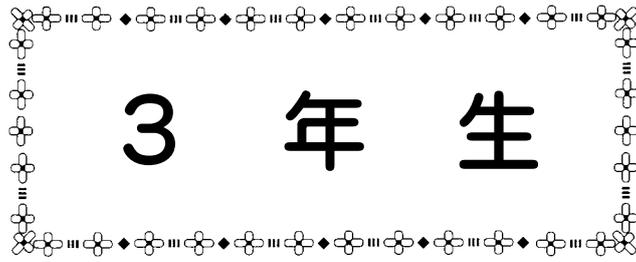
【授業の概要】 保育実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確化して実習に臨めるよう実習に向け準備する。また実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容についても理解する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、今後の課題や目標を明確にする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 保育実習の意義・目的を理解する。			目標	A	
② 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。			目標	E	
③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			目標	A	
④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			目標	B	
⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			目標	E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	2年前期 オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 児童福祉施設の役割と機能 保育所の役割と機能 居宅型児童福祉施設の役割と機能	授業計画 講義 教科書 プリント	教科書第1章を熟読して授業参加のこと
2	保育実習の意義と目的 保育実習の意義と目的の理解 保育実習の目標	VTR「保育者へのあゆみ — 保育実習の実際」(30分) ディスカッション	「保育実習の手引き」第1章を熟読して授業参加のこと
3	2年後期 子どもの人権と最善の利益 保育者の役割 子どもの理解	プリント ディスカッション	「子どもの権利条約」読後授業参加のこと 「保育所保育指針」第2章を熟読して授業参加のこと
4	保育実習の心構え 保育士の専門性と職業倫理	「保育所実習の手引き」	「保育実習の手引き」第4章を熟読して授業参加のこと
5	実習の諸手続きと内容 実習書類の作成	教科書 実習書類の記入、作成	次回までに書類を仕上げてくること
6	実習記録の理解 記録の意義と役割 実習日誌の留意点	講義 プリント	保育実習反省会の事例を読後授業参加のこと
7	実習日誌の書き方	プリント 日誌の記入練習	保育実習反省会の事例をまとめて資料作成し授業に持参すること
8	実習課題の理解 事前訪問・オリエンテーションについて	講義 グループワーク	各自実習仮課題を検討すること
9	保育所の1日 保育所保育の理解	VTR「保育士・幼稚園教諭になるために」(30分) ディスカッション	「課題レポート」提出
10	保育所実習の実際① 観察・参加・部分実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」ディスカッション
11	3年前期 保育所実習の実際② 指導案作成の留意点	VTR「軽度発達障害のある子どもたち」第2巻(30分) 指導案作成資料	指導案作成資料準備 保育教材準備
12	指導案作成練習 保育実践の準備	指導案作成練習 質疑応答	次回までに指導案を完成させること
13	特別講義「保育所の理解」	講義 ゲストスピーカー 課題レポート ディスカッション	保育士の役割を整理して くること 「課題レポート」提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	ロールプレイング① 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
15	ロールプレイング② 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
16	ロールプレイング③ 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
17	実習目標と自己課題の設定	プリント 各自作業 質疑応答	「保育実習の手引き」・教科書から目標と課題を整理しておくこと
18	保育所実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段等
19	保育所実習事後指導 実習総括と自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（保育所）実習日誌」提出 実習終了レポート提出
20	保育所実習の振り返り 実習内容の課題	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	次回授業準備 施設実習について「保育実習の手引き」を熟読後授業参加すること
21	施設実習の意義と目的 施設実習の意義と目的の理解 施設実習の目標	教科書 プリント	「保育実習の手引き」第3章を熟読して授業参加のこと
22	居宅型児童福祉施設等の1日 施設養護の理解	VTR「保育者へのあゆみ — 児童福祉施設の紹介」(31分) ディスカッション	施設の特性を種別ごとに整理しておくこと
23	施設実習の実際① 観察・参加・責任実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」第4章を熟読して授業参加のこと 次回授業準備 援助計画作成資料準備 教材準備
24	施設実習の実際② 施設実習目標の設定 援助計画作成の留意点	施設実習目標設定 援助計画作成練習	「援助計画」「実習目標」提出
25	施設の役割と機能の理解① 利用者の理解 養護内容の理解 生活環境・健康管理・安全対策の理解	講義 ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参加のこと
26	3年後期 施設の役割と機能の理解② 計画と記録の理解 保育士の役割と職業倫理	講義 プリント ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参加のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	特別講義「施設養護の理解」	講義 ゲストスピーカー 課題レポート ディスカッション	実習施設の特性を調べて整理してくること 「課題レポート」提出
28	施設実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段等の確認
29	施設実習事後指導 実習総括・自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実習日誌」仕上げ 実習終了レポート仕上げ
30	施設実習の振り返り 実習内容の課題 課題解決のための目標設定	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実習日誌」提出 実習終了レポート提出
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③④⑤：課題レポート（2年次1回・3年次2回）（20%）、実習終了レポート（保育所・施設）（40%） 目標①②④：保育所実習指導案（20%）、援助計画案（20%）			
【教科書】 書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習 著者名：新保育士養成講座編集委員会／編 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別） 書名：保育実習の手引き（2年次配布） 発行所：福島県保育者養成校連絡会 書名：福島県保育実習施設（3年次配布） 発行所：福島県保育者養成校連絡会			
【その他補足事項】 特別講義は保育所長又は主任保育士と、児童養護施設長をゲストスピーカーとして各1回招聘する。			



3 年 生

授業科目名	音楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 アフリカの楽器カリンバ（kalimba）を自作し、それを使った即興的な演奏ができるようにすることを目指します。そのために、音響学的考察や音階に関する簡単な理論、材料に関する知識・各種工具の使い方の理解、仲間との協働作業等を通して、試行錯誤しながらも手作りで楽器を作る楽しみが味わえるよう授業内容を組織します。さらに、映像とカリンバ演奏を結びつけた動画制作を行い、音や音楽と他のメディアを組み合わせる手法を学び、音や音楽の楽しみ方を広げていくことができるような授業を展開します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識	-----	
	<input type="radio"/>	B	技能	-----	
		C	論理的思考力	-----	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	-----	
		E	課題対処力	-----	
		F	多様性の理解力	-----	
		G	対人関係構築力	-----	
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	-----	
	イ	ディスカッション、ディベート	-----		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク	-----		
	エ	プレゼンテーション	-----		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク	-----		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
①	自作楽器（カリンバ）の構造や作り方、調律の仕方を理解する。		目標	A	
②	カリンバを用いて即興演奏やアンサンブル活動を行う。		目標	B	
③	タブレットやデジタルデバイスを用いて映像に音や音楽を付ける。		目標	D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法及び授業の進め方	講義：授業についての説明	年間の授業内容の見通しをもつ。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	カリンバについて(1) ・演奏の視聴	講義：カリンバの説明 演習：実際に演奏されている映像視聴	予習：プリント 「カリンバについて」
3	カリンバについて(2) ・構造、部品	講義：カリンバの構成部品 演習：グループごとに実物を分解する。	予習：プリント 「カリンバの構造」
4	カリンバについて(3) ・発音原理	講義：振動数と長さの関係 演習：モデルにより実験	復習：発音原理について
5	純正調と平均律 ・倍音	演習：音階の歴史や作り方についてモノコードを使って理解する。	予習：プリント 「音階について」
6	カリンバの製作(1) ・部品ごとの製作方法	演習：個々の部品をどのように製作したらよいか話し合う。	予習：プリント 「カリンバの部品」
7	カリンバの製作(2) ・帯鋼の切断	演習：約3メートルの帯鋼を70ミリに切断	予習：プリント 「リード製作」
8	カリンバの製作(3) ・リードの成形	演習：切断した帯鋼をリードにするための研磨	予習：プリント 「リードの成形」
9	カリンバの製作(4) ・台座の製作	演習：台座に二本の溝を付ける。	予習：プリント 「台座の製作」
10	カリンバの製作(5) ・真鍮棒の切断と穴あけ	演習：3種類の真鍮棒を台座の長さに合わせて切断し一本には穴を開ける。	予習：プリント 「真鍮棒の穴あけ作業」
11	カリンバの製作(6) ・真鍮棒の切断と穴あけ	演習：3種類の真鍮棒を台座の長さに合わせて切断し一本には穴を開ける。	予習：プリント 「真鍮棒の穴あけ作業」
12	カリンバの製作(7) ・リードの取り付け	演習：台座にリードを取り付ける。	予習：プリント 「リードの取り付け」
13	カリンバの製作(8) ・リードの音程合わせ ・カリンバ製作についてまとめ発表 ・レポート①	演習：チューナーを使ってリードの音程を合わせる。	・カリンバ製作についてまとめ発表(レポート①)
14	カリンバを使った実験 ・リードの音程を変えて様々な音階を試す	演習：ペンタトニック音階、律音階、沖縄音階にリードの音程を変える。	予習：プリント 「様々な音階」
15	カリンバの音程を決定 ・リードの音程を決めて本締めを行う。	演習：自分の好きな音階で調律する。	復習：各自自分のカリンバで演奏を試す。
16	カリンバによる演奏(1) ・ふし問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でふし問答を行う。	予習：様々な音の並びを試す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	カリンバによる演奏(2) ・ふし問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でふし問答を行う。	予習：様々な音の並びを試す。
18	カリンバによる演奏(3) ・リズム問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でリズム問答を行う。	予習：様々なリズムパターンを試す。
19	カリンバによる演奏(4) ・リズム問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でリズム問答を行う。	予習：様々なリズムパターンを試す。
20	カリンバによる演奏(5) ・即興演奏を発表 ・小テスト	演習：一人一人即興演奏を発表する。	予習：発表する曲を練習する。
21	カリンバと身の回りの楽器による演奏(1) ・グループによる演奏	演習：数パートに分かれて複数のカリンバや他の楽器で演奏する。	予習：パート分担を決める。
22	カリンバと身の回りの楽器による演奏(2) ・楽曲に合わせて演奏	演習：楽曲における演奏の映像を視聴	復習：他の楽曲でも試す。
23	カリンバと身の回りの楽器による演奏(3) ・カリンバで演奏できる曲を探す	演習：始める音程によって演奏できる楽曲が変わることを理解する。	予習：プリント「カリンバで演奏できる楽曲」
24	カリンバと身の回りの楽器による演奏(4) ・わらべ歌、民謡、民族音楽	演習：ペンタトニック音階で演奏できる曲を練習する。	復習：授業で演奏した楽曲の練習
25	カリンバと身の回りの楽器による演奏(5) ・わらべ歌、民謡、民族音楽 ・カリンバによる演奏についてまとめ発表 ・レポート②	演習：ペンタトニック音階で演奏できる曲を練習する。	・カリンバによる演奏についてまとめ発表（レポート②）
26	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(1) ・様々な情景からイメージを膨らませる	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：プリント「ビデオ編集ソフト」
27	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(2) ・様々な情景からイメージを膨らませる	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：組み合わせについて構想
28	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(3) ・短い絵本、アニメ、ゲーム	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：組み合わせについて構想
29	映像とカリンバの演奏の発表(1) ・グループごとに映像と音を編集	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：役割分担決定
30	映像とカリンバの演奏の発表(2) ・グループごとに発表	演習：大型モニターで互いに発表を鑑賞する。	発表についてコメント作成
【試験の講評】			
授業終了後、希望者にはレポートや発表等の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標② …カリンバによる即興演奏でイメージをもって演奏できるか小テストを実施します。20点満点

目標①②…カリンバの製作についてのレポート及び発表20点満点、カリンバ演奏についてのレポート及び発表。20点満点

目標③ …製作や演奏への積極的な取り組み、グループ活動等への協力的な態度。40点満点

【その他補足事項】

- 製作したものは各自の楽器となるため、材料費として実費を徴収します。(1,800円程度)

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：関本 ひとし 仁		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現・児童青少年課）嘱託員（平成23年～平成25年） 荒川区自治総合研究所 研究員（平成27年～平成29年）		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象 文部科学省認定教員免許状更新講座講師(平成29年～)		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		早稲田大学大学院教育学研究科博士課程（単位取得退学）・修士（教育学） 高等学校教諭 1種／専修免許状、博物館学芸員、社会教育主事、日本社会教育学会、教育史学会、関東教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 教育行政に関する基礎的・基本的な考え方、(原理・原則・動向)を幅広く理解するとともに、教育行政が実際に幼稚園を始めとする学校、教職員、家庭や地域社会とどのような関係を持っているのかについて理解を深める。そして、幼稚園を始めとする学校での適切かつ効果的な経営のあり方、特に安全への対応を重視したこれからの保育・教育のあり方について理解を深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
わが国の教育行政の考え方や仕組み、教育政策の動向について理解する。		目標	A	
教育行政が幼稚園や学校経営、保育・教育活動、地域との連携に深い関わりを持っていることを理解し、その実践について今後のあり方を考える。		目標	A・E	
危機管理を含む学校安全の必要性について、その目的と具体的な取り組みを理解する。		目標	A・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション：教育行政で学ぶこととは	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	配布資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	公教育と教育行政との関係	スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
3	保育の専門家としての条件	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
4	日本の公教育制度	確認小テスト①、スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
5	幼稚園における学校教育の仕組み	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
6	教育・保育を支える法規	スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
7	時事問題からみた教育行政の取り組み	確認小テスト②、スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
8	教育行政をおこなう機関：文部科学省と教育委員会	スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
9	幼稚園における学校経営	スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
10	学校と地域との連携	確認小テスト③、スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
11	教育改革と教育行政	スライド資料提示	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
12	教育を受ける権利の保障について	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
13	学校安全への対応	確認小テスト④、スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
14	教育行政と教育財政	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配布資料の復習
15	幼児教育における制度改革/まとめ	スライド資料提示	配布資料の復習
期末試験	前期末/後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 A・E・F：期末試験…50%

目標 A・E・F：授業内での確認小テスト…20%

目標 A・E・F：授業中の行動、例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等を観察し、評価する。（各回終了時に各自がまとめたものの提出を含む）…30%

【その他補足事項】

教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドの資料を配布します。予習としてその下読みをおこない、授業の準備をしておいてください。

参考図書に関しては、授業の進行に応じて、適宜紹介していきます。

授業科目名	臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員(平成19年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島市教育委員会特別支援教育指導員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。			

【授業の概要】 学習や発達等の心理学の基礎理論を用いて、心の問題の解決を図るという応用の学問です。現場で起こる事象の理解のために、心や言動をみる視点を学ぶとともに、それに基づいた対応のヒントについて考えます。授業は、知識に関する説明とワークによる体験を合わせてテーマについて深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
臨床心理学の諸理論について概要を説明できる。	目標	A		
個別性と全体性の両視点をもって、相手を理解することができる。	目標	C・F		
臨床心理学的な支援について概要を説明できる。	目標	A		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 心とは何か?	授業計画を使用する。 ワーク『WANTEDゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】自分の心について授業のポイントをふまえ振り返る。
2	臨床心理学的な視点とは	ワーク『いつどこゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#2のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	自分の価値観について振り返る	ワーク『価値観の振り返り』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の大事にしていることについて振り返ってみる。
4	体感的理解の重要性について	ワーク『A子さんの心』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#4のプリントを読み返す。
5	心の捉え方	ワーク『メイク・ア・スクエア』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の性格傾向について振り返る。 【復習】#5のプリントを読み返す。
6	心はどのように発達するのか 心理社会的発達理論	ワーク『20の私』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】および【復習】自分の心の発達の歴史について振り返る。
7	心のアセスメント	ワーク『多義図形』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の考え方の癖について振り返る。 【復習】授業での知識をもとに自分の家族についてアセスメントしてみる。
8	臨床心理学的視点(1) 力動論	『簡易版エゴグラム』を実施し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#8のプリントを読み返す。
9	臨床心理学的視点(2) 行動論	ワーク『変則じゃんけん』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#9のプリントを読み返す。
10	臨床心理学的視点(3) 人間性心理学	ワーク『模擬店配置ゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#10のプリントを読み返す。
11	臨床心理学的視点(4) 家族システム論	ワーク『カタカナ伝言ゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#11のプリントを読み返す。
12	臨床心理学的視点(5) 臨床動作法	『自律訓練法』を体験し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#12のプリントを読み返す。
13	病理水準について	『自我機能調査』を実施し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#13のプリントを読み返す。
14	臨床心理学的問題(1) うつ	ワーク『アナグラム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】うつに関する記事を探す。 【復習】#14のプリントを読み返す。
15	まとめ	14回を振り返り、臨床学的視点がどう保育に役立つかについて考える。	【復習】#15のプリントを読み返す。
期末試験	前期末試験		

【期末試験の講評】	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】	
目標 A・C：期末試験 80%	
目標 F：受講態度：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度およびリアクションペーパーなど提出物による評価 20%	
【教科書】 使用しない	【参考書】 授業時に随時紹介します。

授業科目名	心理査定法		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担助教 氏名：わた なべ ひろ ちか 渡 邊 宏 周		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士（臨床心理学）臨床心理士、公認心理師、日本認知・行動療法学会、不安症学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目では、心理査定の定義、心理的問題を理解する観点と方法について学びます。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、得られた結果から、解釈とその活用について実践的に学習します。 また、心理学の一般的なレポート形式の書き方を修得することを目指します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
心理査定の意義を理解する。			目標	A
心理検査の各種方法を学ぶ。			目標	A・B
心理学の一般的なレポート構成に沿ってレポートがかかる。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	心理的アセスメントの目的及び倫理	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	心理的アセスメントの観点及び展開	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
6	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる
7	知能検査WISC-IV①	検査実習	知能検査を受ける
8	知能検査WISC-IV②	検査実習	知能検査を受ける
9	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	質問紙法QOL、SCI、SRS-18	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法SDS、STAI、GHQ-60	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法TEG	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	質問紙法YG性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
15	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
期末 試験	期末試験 (レポート形式)		
16	投影法SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
23	投影法ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
24	投影法ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
26	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
27	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	面接法SCID	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法MINI	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	後期のまとめと振り返り		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
期末試験	期末試験（レポート形式）		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・D　　：レポート（全7回）70点満点 目標B　　　：授業に臨む姿勢　30点満点 目標A・B・D：総計100点満点で評価する</p>			
<p>【教科書】　なし</p>			

授業科目名	カウンセリング概論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>すぎ やま まさ ひこ</small> 杉 山 雅 彦		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		広島市専門家チームによる巡回相談指導委員 認知行動療法学会、常任編集委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 カウンセリングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。カウンセリングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。その上で、模擬カウンセリングを通して基本的なカウンセリングの技術を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。			目標	A
カウンセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することが出来る。			目標	B
カウンセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関し理解し対応する。			目標	E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	配布資料（次回授業）の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と（資料に関する）討議	会話という相互作用の実施とその討議	授業の振り返りと配布した資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	話すことと聞くこと (1) 話すことの実習 話すことの困難さ	話をすることを実施し、その困難性に関する検討	授業の振り返りと配布した資料の学習
4	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の討議	授業の振り返りと配布した資料の学習
5	受容 (1)なぜ受容が必要か (2)受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配布資料の学習 受容に関してまとめる
6	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感とは何をしているかの討議	配布資料の学習 共感に関してまとめる
7	受容と共感	短いやりとりの中で受容と共感を行う	受容と共感のまとめ
8	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をするのが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
9	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
10	カウンセリングの方法(1) カウンセリングにおける質問	カウンセリング中の質問に関する討議	授業の振り返りと配布した資料の学習
11	カウンセリングの方法(2) カウンセリングにおける肯定	カウンセリング中の肯定に関する討議	授業の振り返りと配布した資料の学習
12	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
13	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	配布資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
14	カウンセリングの困難性	模擬カウンセリングを踏まえて困難性の検討、議論	カウンセリングとは何かの学習 レポート作成
15	まとめ	カウンセリングで何が出来るかの議論	授業の振り返りと配布した資料の学習
期末試験	学期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】

目標A 期末試験(40点)
目標B・L 模擬カウンセリングおよびそのレポート(40点)
目標A・L 討論や発表に関する態度あるいは内容(20点)

【その他補足事項】

資料は配布し、教科書は使用しません。
評価に関して、模擬カウンセリングに関するレポートと、筆記の期末テスト、両方を行います。

授業科目名	幼児理解の理論と方法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤佑貴		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島市教育委員会特別支援教育指導員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。			

【授業の概要】 幼児の成長発達に関する基礎理論や方法論はもちろんのこと、目の前の子どもへの対応力を高めるべく、よく観察し、一人ひとりの子どものニーズを的確に把握できる力を養うことが大事である。 本授業では、とくに一人ひとりの子どもに対応するために、幼児教育に対する的確な理解と多面的視点での考察を行っていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育現場における幼児理解の意義と課題について理解している。	目標	A		
幼児理解の具体的な方法や原理について理解している。	目標	A・G		
一人ひとりの幼児を多面的に理解することができる。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 幼児は世界をどう理解しているか	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画を使用する。 「チャイルドビジョン」を用いて、子どもの視点に寄り添うことについて議論する。 	【予習】 自身の幼児期のエピソードを家族に聞く。 【復習】 #1の資料を読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	幼児理解のための発達理論(1) 認知発達理論	形式的操作について体験し、幼児の発達と表現型の関係について考える。	【予習】 実習での印象に残った幼児とのエピソードを思い出す。 【復習】 # 2 の資料を読み返す。
3	幼児理解のための発達理論(2) 発達の最近接領域を意識した理解と支援	ワーク『あるなしクイズ』から授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 3 の資料を読み返す。
4	幼児理解の視点(1) 生育歴・家族歴・他者関係性・発達特性からみる個性記述的理解	自分の歴史を振り返り、自分独自の意味や感覚を客観的に振り返ってみる。	【予習】 自身の気になる行動や心理について挙げる。 【復習】 # 4 の資料を読み返す。
5	幼児理解の視点(2) 教育的視点と特別支援	モデルケースをもとに、ニーズと配慮のあり方についてディスカッションする。	【予習】 実習園での特別支援のあり方について思い出す。 【復習】 # 5 の資料を読み返す。
6	幼児理解の視点(3) 間主観的理解	モデルケースをもとに、間主観的理解について体験する。	【復習】 # 6 の資料を読み返す。
7	幼児理解の実際(1) 遊びに見る幼児理解	ワーク『ブレインストーミング』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【予習】 大人の遊びと子どもの遊びの違いについて考えてくる。 【復習】 # 7 の資料を読み返す。
8	幼児理解の実際(2) 三項関係と共同注視による発達	ワーク『視線会議』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 8 の資料を読み返す。
9	幼児理解の実際(3) 五感+2	ワーク『前庭覚・固有覚の体験』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 9 の資料を読み返す。
10	幼児理解のための面接法 言語メッセージと非言語メッセージ	ワーク『協働絵画』をもとに、授業のテーマについて理解を深める。	【復習】 # 10 の資料を読み返す。
11	幼児理解のための情報収集(1) 参加観察	モデルケースをもとに、観察記録を作成する。	【復習】 授業で習ったポイントをふまえ、人間観察をする。
12	幼児理解のための情報収集(2) 見守ることについて	ワーク『紙コップタワー』から、見守る — 見守られることの意義について考える。	【復習】 # 12 の資料を読み返す。
13	幼児理解と評価(1) 評価のポイント	ワーク『ハイイハードン』を実施し、評価のポイントについて体験的に学ぶ。	【復習】 授業でのポイントを振り返り、実習時の幼児の様子について評価しなおしてみる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	幼児理解と評価(2) 評価の実践	ワークをもとに、これまでの知識をふまえ、理解と方針のあり方についてディスカッションする。	
15	保育カンファレンス	これまでの学びを総合し、事例をもとに保育者のあり方について考える。	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・B：期末試験（80%） 目標 F：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度（10%）、リアクションペーパーなど提出物による評価（10%）			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：おさなごころを科学する： 進化する幼児観 著者名：森口佑介 発行所：新曜社 価格：2,400円（税別） 書名：哲学する赤ちゃん 著者名：アリソン・ゴブニック（著） 青木 玲（翻訳） 発行所：亜紀書房 価格：2,500円（税別）	

授業科目名	教育方法及び技術		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師	佐藤博英	開講期	後期
	兼任准教授	鈴木木忠雄	授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		佐藤：福島市立ひらの幼稚園園長（平成28年度～平成29年度） 福島県国立幼稚園・こども園教育研究会幹事として、本県の幼稚園・こども園教諭の研修を担当（平成28年度～平成29年度） 鈴木：特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		佐藤：福島県小学校教育研究会田村地区算数科研究部長（平成26年4月） 福島県小学校教育研究会福島地区算数科研究部長（平成28年4月） 鈴木：特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		佐藤：福島大学教育学部卒業学士（教育学）、小学校教諭1級普通免許状 中学校教諭1級普通免許状（数学）、高等学校教諭2級普通免許状（数学） 鈴木：金沢大学大学院自然科学研究科物質科学専攻修士（理学）、中・ 高等学校教諭専修免許（理科）、基本情報技術者試験合格、日本物 理学会、日本ディスクロージャー研究学会、日本応用心理学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】	【授業の概要及び到達目標との対応項目】	
	<p>教育方法の定義とそれを学ぶ意義を理解した上で、欧米と日本の教育方法の歴史の変遷を、関連づけて概観し、教育方法の基礎的理論と授業（保育）を構成する基本的要件についての理解を深めるとともに、幼児理解に基づいた評価の方法を含めた、これからの幼児教育に求められる教育（保育）の基本的技術を身につけていきます。</p> <p>さらに、情報機器、ICT技術の効果的活用について学び、理解を深めます。</p>	<input type="radio"/> A
<input type="radio"/> B		技能
<input type="radio"/> C		論理的思考力
<input type="radio"/> D		文章・身体・感性等に関する表現力
<input type="radio"/> E		課題対処力
<input type="radio"/> F		多様性の理解力
<input type="radio"/> G		対人関係構築力
【アクティブラーニングの要素】		
<input type="radio"/> ア		協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
<input type="radio"/> イ		ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
<input type="radio"/> オ	実習・フィールドワーク	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育方法の定義とそれを学ぶ意義について理解する。	目標	A
教育方法の歴史的展開を概観し、今日の教育（保育）活動の基になっている基礎的理論を理解する。	目標	A・C
次代を生きる子どもたちに求められる資質や能力を育てる授業（保育）を構成する基本的要件を理解し、これからの幼児教育の現場に必要な指導（保育）技術を身につける。	目標	A・B
教育保育活動の準備、設計、実施、評価検討までの主要フェーズにおける情報機器、ICT技術活用との兼ね合いを知る。	目標	A・B・E
幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解し、指導計画が作成できる。	目標	A・B・C・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、評価方法 教育方法の定義とそれを学ぶ意義 (担当：佐藤博英)	授業計画 講義とグループ討議 配布資料	授業計画を読んでおく
2	欧米と日本の教育方法の歴史的展開とその関連 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく 小テストの事前学習
3	今日の教育(保育)の基になっている基礎的理論 *小テスト① (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
4	遊びを通した幼児期の総合的な学び (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
5	幼児の主体的活動を促す環境構成と保育者の関わり (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料 レポート課題	配布資料を読んでおく
6	子どもたちの資質や能力を育成するための「主体的・対話 的で深い学び」の具体化 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
7	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども 園教育・保育要領を共通して貫く教育・保育の理念と方法 *レポート (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
8	幼児理解に基づく教育評価の理論と実践 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
9	指導計画の立て方と作成 (担当：佐藤博英)	グループ討議 指導計画の作成	学びと評価が明確になる 指導計画を考える
10	指導計画の作成と模擬実践(1) *小テスト② (担当：佐藤博英)	指導計画の作成 模擬授業	指導計画と模擬授業の振 り返しをする
11 12	授業実施と展開 (担当：鈴木忠雄) ・授業展開と授業方法(目標に照らした「教示」「考え させる」「状況把握」) ・教示方法とICT活用(板書、プレゼンテーション、視 聴覚メディア)	自分のデジタルデバイス での情報検索を行い、収 集した情報を適切に処理 分析して再構築できる。 情報の処理・分析ツール として表計算プログラ ムの基礎的な利用がで きる。授業の大半がグル ープでの議論・調査・集 計・分析・討論・プレゼ ンテーション等になる。	今後のデジタルデバイ スの在り方について、イ ンターネット等で収集 した資料を利用し、調 査レポートとしてまと める準備をする。
13	教育方法とICT (担当：鈴木忠雄) ・相対評価と絶対評価 ・学習過程と成果の評価、ポートフォリオ	ITで行った内容を、グ ループ別にまとめ、成 果物のデジタルデータ は、クラウド上に保 存し共有し発表する。	近未来に出来うると考 えられる情報端末を予 測し、「あると良い」「学 習や生活に役立つだろ う」と思える機能を考 えまとめる。
14	実践事例、最新の動向と課題 移動型情報携帯端末の実践例 まとめ (担当：鈴木忠雄)	新型デバイスと今後の ITやAIの方向について 説明し、自分の欲しい と考えるデジタルデバ イスを簡単にまとめる。	自分の考える近未来の 情報端末は現在どの程 度研究されているかを 考えてくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	まとめ 教育方法及び技術の課題と今後の展望 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
期末試験	期末試験	講義のまとめ	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 「教育の方法」「教育の技術」について（佐藤担当）：70% 目標A・B・C・E…期末試験40% レポート（1回）20% 目標A・B・C …小テスト（2回）10% 2. 「情報機器及び教材の活用」について（鈴木担当）：30% 目標A・B・K …課題（3回）30%（10%×3回）			
【教科書】 使用しません。印刷教材を配布します。		【参考書】 書 名：新しい保育・幼児教育方法 著者名：広岡義之 編著 発行所：ミネルヴァ書房 書 名：教育方法学 著者名：佐藤 学 発行所：岩波書店 書 名：教育の方法と技術 著者名：平沢 茂 編著 発行所：図書文化 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）	

授業科目名	障害児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：北村 壽秋		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県小学校教育研究会 副会長（平成29年度） 福島県小学校教育研究会 伊達地区会長（平成29年度）			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	千葉大学教育学部卒業 学士（教育） 福島学院大学大学院心理学研究科 こども心理専攻修了 修士（こども心理） 日本社会科教育学会 日本授業UD学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後、教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 障害児保育の歴史の変遷をふまえながら、障害児保育を支える理念である「インクルーシブ」保育の考え方について理解する。現場において子どもが「ともに育つ」意味と様々な障害特性と保育方法、保護者の育児支援、学校教育制度などについて学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
		B	技能		
		C	論理的思考力		
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)				
共生社会を実現するうえでの障害児保育の意義を理解する。	目標	A・D			
障害のある子ども及びその発達支援の方法について理解する。	目標	A・D			
障害のある子どもの保護者に対する育児支援の方法について理解する。	目標	A・D			
学校教育制度（特別支援教育）について理解する。	目標	A・D			
障害者差別のない地域づくりについて理解する。	目標	A・D			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	シラバスで授業の概要 達成目標等を確認する	必ずB5版以上のノート を持参してください

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷 ○「障害」の概念 ICIDH、ICFにおける障害者観	予習レビューで有用なものをディスカッションテーマとし、導入する	予習:レビューテーマ「障害」とは何かについて400字程度でまとめる
3	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷 ○障害児保育の歴史の変遷	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どのように改訂されたのか」	予習:「保育指針・教育要領の改訂の趣旨」について
4	インクルーシブ保育とは ○インクルーシブ保育という概念が生まれてきた経緯	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「ノーマライゼーションと何が違うのか」	予習:「障害者権利条約」について
5	インクルーシブ保育とは ○インクルーシブ保育とは何か	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「合理的配慮」	予習:「合理的配慮」について
6	障害児保育の意義 ○障害のない子にとっての意義	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「障害のある子」に出会う意味	予習:「障害のある子」に出会う意味について
7	身体面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○身体面の支援が必要な子どもの理解について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習:「肢体不自由児」について
8	身体面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○身体面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「保育の現場でできること」	予習:「保育の場でできること」をまとめる。
9	知的な面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○知的な面の支援が必要な子どもの理解について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習:「知的障害の分類、判断基準」について
10	知的な面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○知的な面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どんな支援ができるか」	予習:「視覚支援」の具体例をまとめる。
11	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○発達障害とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習:「発達障害」について
12	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○注意欠陥・多動性障害	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習:「保育場面での効果的関わり」について
13	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○自閉症スペクトラム	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習:「自閉症スペクトラム」について

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○学習障害	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習：「学習障害」について
15	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○保育の目標と支援	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「発達障害」	予習：総ディスカッションの準備。
期末試験	中間試験	前期講義の内容に関するまとめのレポート	
16	愛着・コミュニケーション面の支援の必要な子どもの理解と援助 ○愛着に課題のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「愛着障害」	予習：「愛着障害」について
17	愛着・コミュニケーション面の支援の必要な子どもの理解と援助 ○コミュニケーションに課題のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「吃音、緘黙」について
18	情緒面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○情緒障害とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「情緒障害」について
19	情緒面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○情緒障害のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「情緒障害の子への支援」についてまとめる。
20	感覚面の支援の必要な子どもの理解と援助 ○感覚について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「感覚過敏、鈍麻」について
21	感覚面の支援の必要な子どもの理解と援助 ○感覚面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「聴覚過敏の支援機器」についてまとめる。
22	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画とは	予習レビューの授業導入活用 グループワーク	予習：「個別の指導計画」について
23	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画の作成	予習レビューの授業導入活用 グループワークで検討作成	予習：「個別の指導計画」を作成する。
24	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画の作成	予習レビューの授業導入活用 グループワークで完成する	予習：「個別の指導計画」を作成する。
25	個々の発達を促す生活や遊びの環境と記録 ○子どもにとって、居心地のよい保育環境とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「子どもにとって居心地の良い環境」	予習：「居心地の良い保育環境」についてまとめる。
26	個々の発達を促す生活や遊びの環境と記録 ○子ども同士の関わり合いと育ち合い	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「子ども同士の関わりで育つこと」	予習：「子ども同士の関わり合いの意味」をまとめる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	保護者や家族に対する理解と支援 ○障害のある子どもの保護者、家族への理解と支援	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「保護者面談」	予習：「保護者との面談」の配慮事項
28	地域の専門機関等との連携と小学校との連携 ○地域の関係機関との連携	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「専門機関」について
29	地域の専門機関等との連携と小学校との連携 ○小学校との連携	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どのように引き継ぐか」	予習：「就学指導」について
30	障害児保育のまとめこれからの課題	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「授業で学んだこと」	予習：総ディスカッションの準備。
期末試験	後期末試験	講義の内容に関する筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・D：中間・期末試験に実施（各30点、平均値） 授業のたびに、「今回の講義で何を学び・何を感じたか」のレポート 50点満点 総ディスカッションにおける発言 20点満点			
【教科書】 使用予定なし		【参考書】 書名：よくわかる障害児保育 第2版 著者名：尾崎康子・小林 真・水内豊和・阿部美穂子 編 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）	

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島市教育委員会特別支援教育指導員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。			

【授業の概要】 教育相談の意義とその実践方法について学ぶ。教育現場における「心の問題」に関する現代的課題およびそれに対応するために必要となるカウンセリングの基礎知識を中心に講義を行う。 カウンセリング能力を高めたい学生には、別にカウンセリング概論やカウンセリング演習の授業履修を勧める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育現場における教育相談の意義と課題について理解している。	目標	A		
教育相談の具体的な進め方について理解している。	目標	G		
教育相談で必要となるカウンセリングや心の問題に関する基礎知識を理解している。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス 教育相談では何をめざすのか・意義と課題	ワーク『手のひら伝言ゲーム』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#1のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	教育相談を支える人材と連携	ワーク『村の宅配便』を通じて、連携のポイントについて実践する	【復習】 # 2 のプリントを読み返す。
3	教育相談における心理学的基礎(1) 社会的学習理論	ワーク『よく見てみよう』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】 見て学んだ経験について振り返る。 【復習】 # 3 のプリントを読み返す。
4	教育相談における心理学的基礎(2) 動機づけに関する理論	ワーク『原因帰属に関する質問紙』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】 やる気が上がる時、下がる時について思い浮かべる。 【復習】 # 4 のプリントを読み返す。
5	教育相談における子ども理解(1) 気になる行動は個性か障害か？	ワーク『あるなしクイズ』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】 実習での障害児に対する対応を思い出す。 【復習】 # 5 のプリントを読み返す。
6	子どもへの支援における基本的態度(1) カウンセリング・マインドはどんなときに有効か？	ワーク『理想のカップル』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 カウンセリングマインドを実践してみる。
7	子どもへの支援における基本的態度(2) 自尊心を育む関わり	ワーク『ワープスピード』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 プロセスに注目する働きかけを意識的に行う。
8	子どもへの支援における基本的態度(3) 肯定的注目	ワーク『村の宅配便』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 肯定的注目を積極的に投げかけてみる。
9	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(1) 登園しぶり	ワーク『文字組合課題』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 # 9 のプリントを読み返す。
10	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(2) 発達障害	ワーク『鏡映描写』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】 実習時の発達障害児の様子について思い出す。 【復習】 # 10 のプリントを読み返す。
11	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(3) 虐待	ワーク『ダウト』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 # 11 のプリントを読み返す。
12	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(4) 心身症	ワーク『スクイグル』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 # 12 のプリントを読み返す。
13	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(5) いさかい・いじめ	ワーク『定番ゲーム』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 # 13 のプリントを読み返す。
14	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(6) 育児不安	ワーク『ブラインドウォーク』を実施し、授業テーマについてディスカッションする	【復習】 # 14 のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	保育者のメンタルヘルス	ワーク『自分のストレスマネジメント』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 #15のプリントを読み返す。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・F：期末試験 80% 目標 G：受講態度：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度およびリアクションペーパーなど提出物による評価 20%			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：よくわかる教育相談 著者名：春日井敏之・伊藤美奈子（編） 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円（税別）	

授業科目名	国語	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国学院大学大学院文学研究科後期課程修了、博士（文学）		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領や保育所保育指針の「言葉」の領域への理解と、小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てることを目的として、絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教材の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を学びます。 幼稚園・小学校と連続する教科として国語教育の理解をテーマとします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 豊かな言語感覚と言語能力の育成の大切さを学ぶとともに、しっかりした思考力・表現力・読解力を育成する国語教育を理解する。	目標	A・B・D		
② 幼稚園と小学校1、2年の国語の関連性を理解するとともに、幼稚園における国語の在り方、重要性を認識する。	目標	A・B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業計画と評価方法	授業計画・教科書・講義資料を用いた講義および自己プレゼンテーション	予習：自己プレゼンテーションの準備、授業計画の確認
2	国語の位置づけと対象領域	教科書・講義資料を用いた講義、グループワーク	予習：指定された範囲の事前学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	国語とは何か(1) (幼児にとっての国語・全体的な枠組み)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
4	国語とは何か(2) (話すこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
5	国語とは何か(3) (聞くこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
6	国語とは何か(4) (書くこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
7	国語とは何か(5) (読むこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
8	幼稚園と小学校の国語 (幼稚園での文字指導)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
9	幼稚園と小学校の国語 (小学校での国語の相違)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
10	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容 (話すこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
11	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容 (聞くこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
12	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容 (書くこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
13	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容 (読むこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義。グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
14	伝統的な言語文化と国語の関連	教科書・講義資料を用いた解説。DVD鑑賞「わらべうた」	予習：指定された範囲の事前学習
15	まとめと振り返り	教科書・講義資料を用いた解説。研究発表のピアレビュー・講評。	予習：ピアレビューにむけて研究発表内容のまとめを行う。
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】 ① 期末試験 90% ② グループ研究発表会発表 10%			

【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 国語編
著者名：文部科学省
発行所：東洋館出版社
価格：175円（税別）

【その他補足事項】

特に指定しません。

*教科書の他に適宜講義資料を配布します。

授業科目名	算 数		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：佐藤博英		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島市立ひらの幼稚園園長（平成28年度～平成29年度） 福島県国公立幼稚園・こども園教育研究会幹事として、本県の幼稚園・こども園教諭の研修を担当（平成28年度～平成29年度）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県小学校教育研究会田村地区算数科研究部長（平成26年4月） 福島県小学校教育研究会福島地区算数科研究部長（平成28年4月）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学）、小学校教諭1級普通免許状 中学校教諭1級普通免許状（数学）、高等学校教諭2級普通免許状（数学）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		毎週木曜日 16:00～17:00		

【授業の概要】 指導内容を幼稚園教育要領、学習指導要領等と各教科書会社の作成する算数科教科書を資料として、数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。また、子どもに指導するときに、知識・理解に関わる目標を教科書からとらえることができるようになる技術・表現方法を学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
算数科を総括し、算数科の役割、学年別目標などの理解を深めるとともに、指導内容について、その構成と学年別配列やその基盤となる基礎数学について理解を深める。			目標	A・B・C
問題解決の指導や個人差に応じた指導に対する理解を深めるとともに、各領域の指導内容の検討を踏まえて「数学的活動」の重要性を理解し、算数の学習指導案作成の基本が理解できるようにする。			目標	A・B・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・算数教育の変遷、学習指導要領における算数科の目標と数学的見方・考え方、算数的資質・能力	授業計画 小学校学習指導要領解説算数編（※以下、毎回使用）	
2	「数と計算」領域の概要理解 ・算数科の内容と領域の見直し、数学的活動の意義	小学校学習指導要領解説算数編	自作資料①を事前に読む。
3	「数と計算」領域の概要理解 ・数の概念と表記、記数法	自作資料① ・数の概念、十進位取り記数法の見方・扱い方	自作資料②を事前に読む。
4	「数と計算」領域の概要理解 ・たし算、ひき算、かけ算、わり算	自作資料② ・四則演算の重要教材	自作資料③を事前に読む。
5	「数と計算」領域の概要理解 ・小数と分数への数の拡張と四則演算	自作資料③ ・小数と分数の導入と四則演算の教材の見方・扱い方	自作資料④を事前に読む。
6	「図形」領域の概要理解 ・基本図形の構成要素と理解（定義）	自作資料④ ・図形の重要教材	自作資料⑤を事前に読む。
7	「図形」領域の概要理解 ・基本図形考察の視点 ※レポート①	自作資料⑤ ・基本図形考察の視点の教材の見方・扱い方	自作資料⑥を事前に読む。
8	「図形」領域の概要理解 ・角の大きさ、面積と体積	自作資料⑥ ・角の大きさ、面積、体積の教材の見方・扱い方	自作資料⑦を事前に読む。
9	「測定」領域の概要理解 ・量の概念と単位の導入、外延量と内包量	自作資料⑦ ・測定の重要教材	自作資料⑧を事前に読む。
10	「測定」領域の概要理解 ・長さ、広さ、かさ、重さ、時間	自作資料⑧ ・長さ、広さ、かさ、重さ時間の教材の見方・扱い方	自作資料⑨を事前に読む。
11	「変化と関係」領域の概要理解 ・単位量あたりの大きさ、割合	自作資料⑨ ・単位量あたりの大きさ、割合の教材の見方・扱い方	自作資料⑩を事前に読む。
12	「変化と関係」領域の概要理解 ・関数の考え方と比例、反比例、比	自作資料⑩ ・「変化と関係」領域の重要教材	自作資料⑪を事前に読む。
13	「データの活用」領域の概要理解 ・データの整理、表とグラフ ※レポート②	自作資料⑪ ・データの整理、表とグラフの教材の見方・扱い方	自作資料⑫を事前に読む。
14	「データの活用」領域の概要理解 ・統計的な問題解決の方法 ・算数科におけるプログラミング教育	自作資料⑫ ・統計的データの読み取り判断の教材の見方・扱い方	自作資料⑬を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	まとめ	自作資料⑬ ・算数科の重要教材と、教材としての見方・扱い方	全資料を事前に読む。
期末試験	後期試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験 50% 【評価する到達目標：A・B・C】 レポートの作成 30% 学習の途中で2回作成・提出 【評価する到達目標：A・C】 学習の記録の提出 20% 授業終了後、毎回記録・提出。各授業の理解及び自己の理解の明確さについて評価する。 【評価する到達目標：A・B・C】			
【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 算数編 著者名：文部科学省 発行所：日本文教出版 価格：224円（税別）		【参考書】 書名：新編 新しい算数(1～6年)全11巻 発行所：東京書籍 書名：算数教育指導用語辞典 第5版 著者名：日本数学教育学会 発行所：教育出版	

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員（2004年まで6年間） 全国私立短大体育大会運営委員競技副委員長、テニスの部競技委員長 （日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員在籍中） 国見町子ども・子育て支援推進協議会委員（2015年まで2年間）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本体育大学体育学部健康学科卒業 学士（体育学） 日本体育大学体育専攻科修了（高等学校教諭1級免許状取得） 中学校教諭1級免許状（保健体育） 高等学校教諭1級免許状（保健体育） 日本応用心理学会会員、日本ブリーフセラピー協会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー：研究室前に掲示します。（金曜3限/12：50～14：30）		

【授業の概要】 幼児にとっての健康とその意義を理解するとともに、保育者として健康を指導する時の具体的な方法を習得することを目標としている。幼児にとっての健康については幼稚園教育要領の領域「健康」にそって授業を展開する。前半では幼稚園教育要領における健康の位置づけ、健康領域「ねらい」と「内容」、幼児の健康にかかわる身体的、精神的発育発達及び健康の保持増進の条件となる運動や生活について授業を進める。後半では保育者として健康を指導する時の具体的な方法について指導案を作成し模擬指導をととして実践力を培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
		B	技能		
		C	論理的思考力		
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
○	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
幼児にとっての健康及びその意義を理解する。			目標	A	
保育者として健康を指導する時の具体的な方法を理解する。			目標	E	
プレゼンテーションを通して実践的指導法を理解する。			目標	D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 本授業のガイダンス及び授業ノートづくりについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：授業ノート作成	授業ノートを作成しておく
2	幼児にとっての健康とその意義について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児期の健康の意義について	幼児期の健康の意義について調べておくこと
3	領域「健康」のねらいについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：領域「健康」のねらいについて	領域「健康」のねらいについて調べておくこと
4	領域「健康」の内容と取り扱いについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：領域「健康」の内容と取り扱いについて	領域「健康」の内容と取り扱いについて調べておくこと
5	領域「健康」の内容(1) 食と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：食と健康について	食と健康について調べておくこと
6	領域「健康」の内容(2) 幼児の食と健康について（教材DVD視聴を含む） デジカメを使用した野菜の成長記録～画像を取り込んだ絵本（絵コンテ）の作成	教科書・資料をもとに展開 （教材DVD視聴20分） グループワーク：デジカメを使用した野菜の成長記録	画像を取り込んだ絵本の作成方法について調べておくこと
7	食と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 食と健康のまとめ ・小テスト①	食と健康についてノートをまとめておくこと
8	領域「健康」の内容(3) 運動と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：運動と健康の関連（基礎理論）について	運動と健康の関連（基礎理論）について調べておくこと
9	領域「健康」の内容(4) 幼児の運動と健康について（教材DVD視聴を含む）	教科書・資料をもとに展開 （教材DVD視聴20分） グループワーク：幼児の運動と健康について	幼児の運動と健康について調べておくこと
10	運動と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 運動と健康のまとめ	運動と健康についてノートをまとめておくこと
11	領域「健康」の内容(5) 生活と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：生活と健康の関連（基礎理論）について	生活と健康の関連（基礎理論）について調べておくこと
12	領域「健康」の内容(6) 幼児の生活と健康について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児の生活と健康について	幼児の生活と健康について調べておくこと
13	生活と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 生活と健康のまとめ ・小テスト②	幼児の生活と健康についてノートをまとめておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	領域「健康」のまとめ1 幼児の発育発達、身心相関について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児の発育発達、身心相関について	幼児の発育発達、身心相関について調べておくこと
15	領域「健康」のまとめ2 幼児の健康に関する今日的課題について 検索による最新記事・情報を収集しまとめる ・授業ノート提出	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児の健康に関する今日的課題について検索による最新記事・情報を収集しまとめる	幼児の健康に関する今日的課題について調べておくこと
期末試験	前期末試験		
16	試験内容の解説を含みながら、前期の学びの確認	試験内容の解説および前期の学びの確認	試験内容を復習しておくこと
17	子どもの保健指導に関する基礎理論(1) 幼児を対象とする保健指導について 保健指導案に画像情報を取り入れ作成する	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：指導案に画像情報を取り入れ作成	指導案の書き方について調べておくこと
18	子どもの保健指導に関する基礎理論(2) 保健指導の方法論について 保健指導のプレゼンを考えていく	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：保健指導のプレゼンを考える	保健指導のプレゼン方法について調べておくこと
19	保健指導における指導案及び教材教具について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：指導案及び教材教具について ・小テスト③	指導案及び教材教具について調べておくこと
20	模擬指導方法の説明(担当領域、指導の題材、グルーピング、指導場面の録画と検討方法)	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：担当領域、指導の題材、グルーピング、指導場面の録画と検討方法	模擬指導について調べておくこと
21	保健模擬指導 1 食①	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：食に関する保険模擬指導①	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
22	保健模擬指導 2 食②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：食に関する保険模擬指導②	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
23	食に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：食に関する模擬指導について	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
24	保健模擬指導 3 運動①	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：運動に関する保険模擬指導①	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと
25	保健模擬指導 4 運動②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：運動に関する保険模擬指導②	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	運動に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：運動に関する模擬指導について	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと
27	保健模擬指導 5 生活① チャイルドビジョンの作成と使用 (子どもの視界体験)	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：チャイルドビジョンの作成と使用	チャイルドビジョンについて調べておくこと
28	保健模擬指導 6 生活②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：生活に関する保険模擬指導 ・小テスト④	生活に関する保険模擬指導について調べておくこと
29	生活に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：生活に関する模擬指導について	生活に関する保険模擬指導について調べておくこと
30	保育内容指導法健康の全体まとめ	教科書・資料をもとに展開 保育内容指導法健康の全体まとめ ・授業ノート提出	授業ノートをまとめ授業全体の振り返りをしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A : 期末試験（前期20点、後期20点）40点、小テスト20点（4回×各5点） 目標 D・E : 講義ノート30点（2回×各15点）、グループ発表10点、合計100点とし、その他、遅刻早退欠席による減点（欠席1回3点減点、遅刻早退1回1点減点）、また授業内における積極的な発言等により加減点を行い、総合的に100点を上限として評価を行います。			
【教科書】 書 名：幼稚園教諭・保育士をめざす 保育内容「健康」 著者名：井筒紫乃、川田裕次郎 編 発行所：圭文社 価 格：2,200円（税別）		【参考書】 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）	

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		認可保育園保育士（昭和58年～平成21年）（内副園長歴6年間）		
社会貢献としての委員会・職等		国見町こども・子育て支援推進協議会委員（平成28年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院こども心理専攻修士課程修了、修士（こども心理） 保育士資格・幼稚園教諭二種免許状、日本保育学会、日本応用心理学会、日本小児学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領と保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領の領域「人間関係」について、乳児期から幼児期にかけて他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付けていく内容と指導上の留意点など事例をとおり様々な側面から理解できる。人間関係の他領域との関係と指導方法を実践事例から具体的に培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク			
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
①	現代社会における子どもを取り巻く環境とその「人間関係」を理解する。		目標	A	
②	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容並びに全体構造を具体的事例から学び、その指導法について理解する。		目標	B・F	
③	保育実践での「人間関係」に関わる具体的事例を取り上げ、基本的な考え方と方法を考察し適切な援助や対応ができる力を培う。		目標	E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容指導法「人間関係」の概要・本講義のガイダンス	教科書 「今までの人生で心に残った人々について」グループワーク	乳幼児にとっての人間関係教科書復習9～18

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	乳幼児にとっての人間関係について	*乳幼児にとっての人間関係の復習内容をグループディスカッション 教科書 プリント資料1	レポート① 【乳幼児にとっての人間関係】 教科書復習9～22
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」について	*復習内容「領域：人間関係」の確認 教科書 プリント資料2	現代社会の子どもを取り巻く人間関係 教科書復習23～36・150～183
4	教育課程・全体的な計画における領域「人間関係」の考え方	*現代社会の子どもを取り巻く人間関係のグループディスカッション【10分】 教科書 プリント資料3	領域「人間関係」と他領域との関係 教科書予習46～58
5	領域「人間関係」と他領域との関係の基礎理解	*プリント資料4を中心に予習内容の確認 教科書 プリント資料4	領域「人間関係」のねらい及び内容 教科書予習23～36
6	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論	*プリント資料5を中心に予習内容の確認 教科書 プリント資料5	領域「人間関係」のねらい及び内容 教科書復習150～183
7	乳幼児の発達と人間関係 (1) 0歳児～3歳未満児の発達とかかわりの方法事例を通した指導方法	*領域「人間関係」のねらい及び内容のミニテスト 教科書 プリント資料6	乳幼児の発達と人間関係 0歳児～3歳未満児 教科書復習37～45
8	乳幼児の発達と人間関係 (2) 3歳児の発達とかかわりの方法事例を通した指導方法	*乳幼児の発達と人間関係【0歳児～3才未満児】の解説 教科書 プリント資料7 DVD視聴「育ちあい・ある保育園の子どもたち」	乳幼児の発達と人間関係 3歳児 教科書復習7～45・104～115
9	乳幼児の発達と人間関係 (3) 4、5歳児の発達とのかかわりの方法事例を通した指導方法	*乳幼児の発達と人間関係【3歳児】の解説 教科書 プリント資料8	レポート②【乳幼児の発達と人間関係】 教科書復習37～45・104～115
10	領域「人間関係」の指導計画の考え方	*【乳幼児の発達と人間関係】レポート内容のグループディスカッション10分 教科書 プリント資料9	領域「人間関係」の指導計画の考え方 教科書復習37～45・104～115

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	「遊びを通した保育者や友達とのかかわり」(0、1、2歳児) 保育者や友達とのかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法	*領域「人間関係」の指導計画の考え方の確認 教科書 プリント資料10 教材DVD視聴「0歳児の保育・1歳児の保育・自我の芽生え」「2歳児の保育・遊びを育む」	保育者や友達とのかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法 教科書復習72～83・141～149
12	「遊びを通した友達とのかかわり」(3歳児) 友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成実際の遊びへの導入として、歌遊び、手遊びなど伝承遊び映像を対象児と視聴しながら興味や動機付けを高めつつ、遊び場面と友達とのかかわりに注目した観察のポイントの理解を深める。観察のポイントとしての事前に配布する様式データを基に、グループごと観察場面に応じた指導方法を討議し、まとめていく。	*保育計画案の作成と保育方法の復習内容の確認 教科書 プリント資料11【指導案】 グループワーク	観察のポイントと指導案の構成 教科書復習72～83・141～149
13	「遊びを通した友達とのかかわり」(4歳児・5歳児) 友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成 4歳児・5歳児を対象に歌遊び、手遊びなど伝承遊び映像を対象児と視聴しながら、実際の遊びへの興味や動機付けを高めつつ、遊び場面と友達とのかかわりに注目した観察のポイントの理解を深める。観察のポイントとしての様式データを基に、グループごと観察場面に応じた指導方法を討議し、まとめていく。	*復習内容【観察のポイントと指導案の構成】の確認 教科書 プリント資料12【指導案】 グループワーク	友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成 教科書復習72～82・141～149
14	「模擬保育——遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(1) 友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成年齢別(年齢の選択はグループごとに選択)に様式データの再利用(実習先・勤務先での利用を含む)を念頭に、今まで取りまとめた様式データを基にグループごと実践場面に応じた指導案を作成し、授業内でプレゼンしていく。	*各自の復習内容【指導案の構成】をもとにグループワーク 教科書 プリント資料13	「模擬保育——遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(1) 教科書復習72～82・141～149
15	「模擬保育——遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(2) 友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成年齢別(年齢の選択はグループごとに選択)に様式データの再利用(実習先・勤務先での利用を含む)を念頭に、今まで取りまとめた様式データを基にグループごと実践場面に応じた指導案を作成し、授業内でプレゼンしていく。	*模擬保育の振り返りをグループディスカッション 教科書 プリント資料14	友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成 教科書復習72～82・141～149
期末試験	前期末試験		
16	「模擬保育——遊びを通した友達とのかかわり」 友達とのかかわりをねらいとした指導のまとめ	*立案した指導案での模擬保育 教科書 プリント資料15	友達とのかかわりをねらいとした指導のまとめ 教科書復習72～82・141～149
17	環境とのかかわりから生まれる幼児期の人間関係 物とのかかわりを通した指導方法(1)	*友達とのかかわりをねらいとした指導計画案の確認 教科書 プリント資料16	物とのかかわりを通した指導方法(1) 教科書復習61～72

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	社会とのかかわりを通した指導方法(2)	*物とのかかわりを通した指導方法(1)の内容確認 教科書 プリント資料17	社会とのかかわりを通した指導方法(2) 教科書復習61～72
19	自然とのかかわりを通した指導方法(3)	*社会とのかかわりを通した指導方法のグループディスカッション【復習内容をもとに】 教科書 プリント資料18	自然とのかかわりを通した指導方法(3) 教科書復習61～72
20	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(1)	*自然とのかかわりを通した指導方法のグループディスカッション【復習内容をもとに】 *教科書 プリント資料19 自由遊び 保育現場のDVD視聴「育ちあい・ある保育園の子どもたち」20分	異年齢とのかかわりの指導方法 教科書復習93～97 プリント19にDVD視聴の内容をまとめる
21	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(2)	*プリント19にまとめたDVDの内容をグループディスカッション(10分) 教科書 プリント資料20 DVD視聴「おみせやさんごっこ」～映像から見る異年齢保育～15分	さまざまな人々との交流活動の実践 教科書復習93～97
22	さまざまな人々との交流活動の実践 地域の人々とのかかわり	*さまざまな人々との交流活動の実践事例の復習内容の確認 教科書 プリント資料21 DVD視聴「地域交流事業」～映像から見る地域とのかかわり～	【幼児期における地域の人々とのかかわり】レポート③ 教科書復習93～97
23	他の幼児との葛藤、つまずき場面での指導方法	*【地域の人々とのかかわり】のレポートをもとにディスカッション プリント資料22	葛藤、つまずき場面での指導方法プリント資料22の事例への取り組み
24	保護者への支援事例 実践指導法(1) ～実践事例から考える～具体的支援の方法を身につける	*プリント22の事例への取り組み内容の確認 教科書 プリント資料23 DVD視聴「保育現場での実践事例①」10分	～実践事例から考える～具体的支援の方法【復習】 教科書復習116～124
25	保護者への支援指導 実践指導法(2) ～実践事例から考える～具体的支援の方法を身につける	*実践事例から考える～具体的支援方法の復習 教科書 プリント資料24 DVD視聴「保育現場での実践事例②」10分	道徳性・規範意識と情動のつながり 教科書復習116～124

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	就学前の子どもの育ちを支える人間関係 情動統制力の育ち 【道徳性・規範意識と情動のつながり】	* 道徳性・規範意識と情動のつながりの復習内容における確認 教科書 プリント資料25	就学前の子どもの育ちを支える人間関係 情動統制力の育ちの復習 教科書復習 104～115
27	幼稚園・保育所・認定こども園小学校の連携のあり方 具体的指導計画の作成と理解	* 人間関係 情動統制力の育ちの復習内容の確認 教科書 プリント資料26	幼稚園・保育所・小学校の連携のあり方復習 教科書復習 98～103
28	多文化保育と人間関係 異文化理解における保育内容の理解と指導方法の実際	* 幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の連携のあり方の復習内容をグループディスカッション(発表)10分 教科書 プリント資料27	多文化保育と人間関係 教科書復習 132～140
29	乳幼児を取り巻く人間関係と今後の課題	* 復習した多文化保育と人間関係で自分が保育現場で行っていききたい多文化保育を各自グループ内で発表する。 教科書 プリント資料28	レポート④ 【乳幼児を取り巻く人間関係と今後の課題】
30	保育内容指導法「人間関係」のまとめ	* 乳幼児を取り巻く人間関係と今後の課題をグループ内でまとめる。 教科書 プリント資料29	保育内容指導法「人間関係」のまとめ プリント1～29
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標①②③…筆記試験 前期、後期期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 目標②③ …レポート レポート 30点満点の採点とする。(3回×7点、1回×9点)			
【教科書】 書名：保育実践を学ぶ「人間関係」保育内容 著者名：咲間まりこ 編 発行所：(株)みらい 価格：2,000円(税別) 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針、保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書		【参考書】 特に指定しません	

授業科目名	保育内容指導法 表現Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師		開講期	通年
	氏名：鈴木裕美子		授業回数	30回
	〔本務先：福島大学人間発達文化学類 職名：特任教授〕		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		東北地方社会保険医療協議会委員（東北厚生局）、公益財団法人福島県スポーツ振興基金理事、公益財団法人福島市スポーツ振興公社理事、郡山市男女共同参画審議会委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東京教育大学体育学研究科体育学専攻修士課程修了 体育学修士 中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育） 日本体育学会、日本体育科教育学会、日本スポーツ教育学会、舞踊学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後及びメールにて質問等に対応します。		

【授業の概要】 こどもの身体表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。こどもの姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていく。実技では保育現場で行う様々な表現遊びと指導上の留意点や、表現題材の特徴を知る。基礎・基本を体験的に学びながら、創作を通して知識や技術を身に付け、「表現」領域における身体表現の望ましい指導の在り方を探る。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
「表現」の指導法の理解をテーマとし、幼児期の発達特性を理解し、豊かな感性と表現力を養う。		目標	A・B・D	
保育者として発達とねらいに応じた表現遊びを展開・指導することができるようになる。		目標	B	
伝統的な表現遊びや、イメージを動きで表現して楽しむ体験を通して、各自の感性や身体表現能力を高める。		目標	B・D	
こどもが意欲的に取り組める指導法について知識・能力を深化させることができるようになる。		目標	A・B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、鑑賞(教室) (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法、授業の進め方の留意点	授業計画 DVD視聴(30分)「人間発達と表現」(映像利用)	こどもの表現活動の映像鑑賞
2	「表現」に関するねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針をふまえて	教科書補足資料1	幼稚園教育要領、保育所保育指針に書かれている「ねらい」を事前に読む
3	幼児身体表現の特質	教科書補足資料2	こどもの観察
4	幼児身体表現の発達(1) ・発達の特徴	教科書補足資料3	こどもに関する新聞記事や雑誌を読む
5	幼児身体表現の発達(2) ・身体表現における発達段階	教科書補足資料4	自分の幼児期を振り返る
6	幼児身体表現の発達(3) ・身体表現の形式	教科書補足資料5	表出と表現の違いを理解する
7	前期中間試験 ・身体表現の指導の留意点	筆記試験	こどもへの言葉かけを検討する
8	身体表現の内容とその指導(1) ・心身を開放する表現遊び	DVD視聴(30分)「人間発達とダンス・表現運動」(映像利用)	表現遊びの検討
9	身体表現の内容とその指導(2) ・伝承遊び	・権兵衛さんの赤ちゃん ・はないちもんめ ・だるまさんがころんだ ・あぶくたったにえたった ・とんだとんだとんだ	伝承遊びから表現へ発展できる題材を探す
10	身体表現の内容とその指導(3) ・ものまね遊び	・行事 ・お仕事	ジェスチャーの練習
11	身体表現の内容とその指導(4) ・ことばを手がかりとした身体表現	・動きでしりとり ・○ではじまる言葉を動きで表現する	替え歌を作る
12	身体表現の内容とその指導(5) ・音を手がかりとした身体表現	・ペンとひきゃヒュー ・エア楽器 ・オノマトペ	・音をまねる ・音と遊ぶ ・音を表現する ・音を出す表現
13	身体表現の内容とその指導(6) ・日常動作を手がかりとした身体表現	・○○の一日(私、宅急便屋さん、スポーツマン、忍者) ・おそうじ	一日の行動をパターン化する
14	身体表現の内容とその指導(7) ・モノを手がかりとした身体表現 — 新聞紙 —	新聞紙で遊ぶ、新聞紙になる、新聞紙で表現する	遊具を使って動きを作る
15	身体表現の内容とその指導(8) ・モノを手がかりとした身体表現 — 遊具 —	遊具を操作する	遊具を使って動きを作る
期末試験	前期末試験 ・童謡に振り付けをする	実技試験	童謡を分類

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	前期末試験の映像視聴と身体表現のDVD視聴	DVD視聴(30分)「人間発達とダンス・表現運動」(映像利用)	運動と表現の相関について考える
17	運動課題 ・走る — 止まる、走る — とぶ — ころがる ・のびる — ちぢむ — まわる、ねじる — まわる — 見る	連続した運動で表現	こどもの基本的な運動について考える
18	イメージ課題(1) ・動物園にいこう	・動物の行進 ・物語を作って表現	動物園の動物を挙げる
19	イメージ課題(2) ・ディズニーランド	・乗り物博覧会 ・物語を作って表現	ディズニーランドの遊具を挙げる
20	イメージ課題(3) ・おもちゃ箱	・表しているおもちゃを当てる ・物語を作って表現	おもちゃを挙げる
21	群構成(1)	集団の動きを表現	ウエーブの表現を考える
22	群構成(2)	マスゲームを作る	マスゲームを検討する
23	見立ての世界(1) ・しんぶんし	・新聞紙で遊ぶ ・新聞紙になる ・新聞紙で表現する	新聞紙で何ができるか試す
24	見立ての世界(2) ・ボール ・縄	遊具を何かに見立てて表現する	小道具を作る(ポンポン、こきりこ竹、サンバ棒、サクラ紙の花)
25	見立ての世界(3) ・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	布で何ができるか試す
26	鑑賞 ・幼児の作品、先輩作品、芸術作品など	DVD視聴(30分)「ミュージカル」(映像利用)	見たことのあるミュージカルのストーリーを確認する
27	ミュージカル(1) ・シナリオ作り ・絵本を手がかりとした身体表現	・ストーリーを作る ・イソップ、グリム、アンデルセン、アラビアンナイト、ディズニーなどの物語の絵本を参考にする	物語をそのまま表現したり、一部変更したり、オリジナルなシナリオを作るなど、グループで検討する
28	ミュージカル(2) ・動き作り、音作り、衣装、小道具の工夫	動きを作る	使えそうな音楽を選んで持参
29	ミュージカル(3) ・踊り込み	・歌、踊り、語りを入れる ・感情を込める	メリハリを工夫する
30	ミュージカル(4) ・発表会・VTR撮影	DVD撮影	作品の場当たり、発表
期末試験	運動と表現の相関	評価の観点を考える	

<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>	
<p>【教科書】 書名：うきうきわくわく身体表現あそび ― 豊かに広げよう！子どもの表現世界 著者名：高野牧子 発行所：同文書院 価格：1,800円（税別）</p>	
<p>【参考書】 書名：子ども・からだ・表現 ― 豊かな保育内容のための理論 と演習 ― 〈改訂2版〉 著者名：西 洋子、本山益子、吉川京子 発行所：市村出版 価格：2,400円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（1冊）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動できる服装及び室内用シューズを着用してください。（スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めません。） 2. 授業が始まるまでにアクセサリ類は必ず外してください。 3. 髪が長い人は一つにまとめてください。 4. 貴重品はロッカーに入れてください。 	

授業科目名	創作ミュージカル		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われます。 本授業では、とりわけ音楽（音）に関して、幼児が自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるようにするための保育者の基本的な姿勢や配慮について学ぶとともに、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるようにする様々な工夫について、実技を通して習得できるようにします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 「表現」について、幼稚園教育要領等の趣旨を理解する。			目標	A
② 幼児らしい様々な表現を楽しむことができるような手立てを考える。			目標	D
③ 幼児の表現する意欲を十分に発揮させることができるような環境構成や様々な素材・表現の仕方を身に付ける。			目標	A・D・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要、目標、評価 ・自己紹介 ・グループ編成	資料配布	授業内容の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	幼稚園教育要領「表現」の読み取りと理解(1)	幼稚園教育要領等 グループディスカッション	予習:幼稚園教育要領「表現」の下読み
3	幼稚園教育要領「表現」の読み取りと理解(2)	幼稚園教育要領等 グループディスカッション	復習:意見交換の内容を整理
4	身近な環境の再発見(1) ・音、色、形、手触り、動き等	フィールドワーク	復習:発見したものを記録する
5	身近な環境の再発見(2) ・音、色、形、手触り、動き等	フィールドワーク	復習:発見したものを記録する
6	身近な環境で発見したことを発表する準備(1)	グループワーク	予習:発表内容の決定と準備
7	身近な環境で発見したことを発表する準備(2)	グループワーク	予習:発表内容の決定と準備
8	身近な環境で発見したことの発表 ・発見の共有と相互理解 ・レポート提出①	発表	復習:各グループ発表の批評
9	感受と表現の理解 ・わらべ歌	グループワーク	予習:仲間の表現を感受するということについて自分なりの考えをもつ
10	表現活動における幼児の心理(1) ・遊び歌やダンス	グループワーク	復習:表現活動の際の自分の気持ちを振り返る
11	表現活動における幼児の心理(2) ・表現を制約したり妨げたりするもの	ディスカッション グループワーク	予習:表現活動を制約するものは何か
12	表現活動における幼児の心理(3) ・表現を促すために大切なこと	ディスカッション グループワーク	復習:表現を促すポイントをまとめる
13	多様な表現方法(1) ・様々な音のデザイン	ディスカッション グループワーク	復習:音のデザインの多様性をまとめる
14	多様な表現方法(2) ・様々な音の組み合わせ	ディスカッション グループワーク	復習:音の組み合わせの多様性をまとめる
15	前期学習の振り返り ・レポート提出②	ディスカッション レポート作成	予習:前期学習の振り返り
16	即興表現(1) ・シュタイナーペンタトニックカリンバ	グループワーク	予習:曲の譜読み
17	即興表現(2) ・シュタイナーペンタトニックカリンバ	グループワーク	予習:曲の譜読み
18	即興表現(3) ・即興演奏用カリンバ	グループワーク	復習:即興表現についてまとめる
19	即興表現(4) ・即興演奏用カリンバ	グループワーク	復習:即興表現についてまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	コード理論(1) ・基本的音楽用語	記譜と演奏	復習：授業内容をまとめる
21	コード理論(2) ・コードの構成音	記譜と演奏	復習：授業内容をまとめる
22	コード理論(3) ・五度圏	記譜と演奏	復習：授業内容を振り返り記譜する
23	コード理論の実践(1) ・簡単なコードを使った曲のアンサンブル	グループワーク	予習：選曲、パート分担
24	コード理論の実践(2) ・簡単なコードを使った曲のアンサンブル	グループワーク	復習：自分のパートの練習
25	コード理論の実践(3) ・簡単なコードを使った曲のアンサンブル	グループワーク	復習：自分のパートの練習
26	生活の一コマを音楽で表現(1) ・練習	グループワーク	予習：テーマ選定、役割分担
27	生活の一コマを音楽で表現(2) ・練習	グループワーク	予習：表現を工夫する
28	生活の一コマを音楽で表現(3) ・練習	グループワーク	予習：表現を工夫する
29	生活の一コマを音楽で表現(4) ・練習	グループワーク	予習：表現を工夫する
30	生活の一コマを音楽で表現(5) ・発表 ・レポート提出③	グループワーク	復習：互いの表現の受容
期末試験	筆記試験 「コード理論」		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②：レポート提出 45点満点（レポート15点満点×3回）、後期期末試験 30点満点（コードの記譜） 目標③：授業における協働的、積極的な学びの態度 25点満点（積極的な発言、協働的なグループワーク等） ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。</p>			

授業科目名	保育実習Ⅰ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	教授 今 清孝 きよ たか	今 清孝 きよ たか	開講期	通年
			授業回数	時間割外
	助教 鈴木 翔太 すず き しょう た	鈴木 翔太 すず き しょう た	期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 （平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 （平成29年4月1日～平成31年3月31日）		
社会貢献としての委員会・職等		今：福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	無	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 実習施設の各種別の役割や機能と、保育士の業務及び職業倫理を具体的に理解し、子どもとのかかわりの中から子どもの理解を深める。また保育の計画・観察・記録・自己評価等について具体的に理解する。さらに、既習の教科目を踏まえ保育並びに保護者支援について総合的に理解を深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	○	E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。		目標	A	
② 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。		目標	F	
③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。		目標	C	
④ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し実践する。		目標	E	
⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		目標	A	

<p>【実習期間】</p> <p>7月～8月。(概ね10日間)</p>
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>目標①②：実習日誌(保育所・施設)、実習報告書(保育所・施設)</p> <p>目標③⑤：実習日誌(保育所・施設)</p> <p>目標④：実習日誌(保育所・施設)、指導計画案(保育所・施設)</p>
<p>【実習費】(実費徴収)</p> <p>① 保育実習Ⅰ委託費(保育所・施設) 計10,000円</p> <p>② 腸内感染症検査料(2回分) 計1,100円程度</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定(キャンパスライフに記載)を参照のこと。</p> <p>② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。</p> <p>・「保育実習指導Ⅰ」授業の出席が、5分の4以上であること。</p> <p>※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定(キャンパスライフに記載)を参照のこと。</p> <p>③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書(コピー)を実習先へ持参すること。</p> <p>実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。</p>

授業科目名	幼稚園教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	兼任教授 <small>ながくぼかず</small> 長久保和子	兼任講師 <small>ながしまてる</small> 長島輝子	開講期	通年
			授業回数	20回
	期末試験の有無	無		
授業に関する主な実務経験と期間	長久保：特記事項なし 長島：特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職等	長久保：特記事項なし 長島：特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	長久保：日本女子大学家政学部児童学科、学士（家政学） 幼稚園教諭一種免許状、日本保育学会、東北児童青年精神医学会 長島：國學院大學幼児教育専門学校 幼稚園教諭二級普通免許、幼稚園教諭一種免許状 日本保育学会、日本応用心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	-	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 幼稚園教育実習は、本学認定こども園での基本実習を合格した学生が協力幼稚園での4週間の実習、及びその事前・事後指導からなる学習です。4年次に、協力幼稚園実習とそのためのオリエンテーションや事前指導、実習反省会を含む事後指導を実施します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	○	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
	○	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼稚園教諭としての基礎的な幼児理解や基本的指導技術を修得する。	目標	A・E		
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。	目標	E・G		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・今後の日程と指導計画について ・授業の概要と評価について	講義 授業計画 キャンパスライフ プリント	復習： 配布資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	実習の概要(1) ・基本実習事後指導①	講義、プリント 基本実習で学んだことをグループで話し合う 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読 レポート作成
3	実習の概要(2) ・基本実習事後指導② ・レポート提出	プレゼンテーション ディスカッション 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読
4	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(1) ・次年度「教育実習計画」について ・教育実習の意義目的	講義、プリント	復習： 配布資料を熟読
5	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(2) ・幼稚園の役割と機能 ・幼稚園教諭の役割	講義、プリント	復習： 配布資料を熟読
6	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(3) ・実習生としての心得 ・子ども理解について	講義、プリント	復習： 配布資料を熟読
7	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(4) ・守秘義務、実習保障制度について ・実習の内容と方法（観察・参加実習、日誌など）	講義、プリント	復習： 配布資料を熟読
8	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(5) ・実習関係書類の作成 ・実習日誌について	講義、プリント 書類作成 ディスカッション	復習： 配布資料を熟読 実習関連書類の作成
9	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(6) ・指導計画（指導案）の立て方① （立案の過程・内容・部分実習と部分案）	講義、プリント ディスカッション	復習： 配布資料を熟読
10	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(7) ・指導計画（指導案）の立て方② （半日実習と指導案）	講義、プリント ディスカッション	復習： 配布資料を熟読
11	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(8) ・指導計画（指導案）の立て方③ ・全日実習と日案	講義、プリント ディスカッション	復習： 配布資料を熟読
12	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(9) ・指導計画（指導案）の立て方④ ・指導の実際と評価 ・計画と指導の改善	講義、プリント ディスカッション	予習： 部分案作成
13	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(10) ・指導計画の立て方とまとめ	講義、プリント ディスカッション 指導案作成	予習： 部分案作成
14	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(11) ・ゲストスピーカーによる特別講義 （教育実習の実際、実習生の具体的実習方法他）	特別講義 （幼稚園園長または主任） 質疑応答	予習： 今までの資料を熟読し、 質問等整理する
15	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(12) ・教材研究① 子どもたちの活動への動機づけ	講義、プリント ディスカッション 指導案作成	予習： 模擬保育に向け計画を立て、 教材等準備をする

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(13) ・教材研究② 多様な活動への対応	講義、プリント 演習（模擬保育） 質疑応答	予習： 指導案を基に準備をする
17	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(14) ・実習に向けてまとめ ・事務連絡	講義、プリント ディスカッション	今までの資料を熟読し、 質問等整理する
18	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(1) ・教育実習実施後の反省、振り返り①	プレゼンテーション（各自） ディスカッション 質疑応答	予習： 教育実習を終えての感想、 課題等レポート作成
19	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(2) ・教育実習実施後の反省、振り返り② ・レポート提出 ・実習反省会について	プレゼンテーション（各自） ディスカッション 質疑応答	事前に「実習反省会要項」 を熟読しておく
20	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(3) ・教育実習のまとめ	ディスカッション	質疑応答内容を考えておく
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・E・G…実習先からの評価点 目標E …実習事前・事後指導時の受講態度 目標A・E …レポートや報告等の内容と提出 ※詳細については、第1回および第8回で説明します。			
【教科書】 ※必要に応じ毎回プリントを配布します。			
【その他補足事項】 〈実習費〉 実習委託費を実費徴収します。 〈その他〉 (1) 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照してください。 (2) 学外実習を行うにあたり、誓約書、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参してください。 (3) 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合があります。 (4) 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出てください。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出してください。			

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	教授 今 清孝 （こん きよ たか）	今 清孝 （こん きよ たか）	開講期	後期
			授業回数	15回
	助教 鈴木 翔太 （すず き しょう た）	鈴木 翔太 （すず き しょう た）	期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 （平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 （平成29年4月1日～平成30年3月31日）		
社会貢献としての委員会・職等		今：福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育実習Ⅰでの保育所実習の自己評価及び学びを活かしさらには既習の教科目の関連性を強く意識し、保育について総合的に理解する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、自身の保育に対する課題や認識を明確にする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）		
① 保育実習の意義・目的を理解し、観察に基づいて総合的に学ぶ。			目標	A	
② 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。			目標	B	
③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。			目標	E	
④ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。			目標	A	
⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			目標	E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年後期 オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 保育実習Ⅱの意義と目的	授業計画 講義 教科書・プリント	教科書熟読 提出物記入
2	保育所の役割と機能 保育と保育相談支援	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
3	保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
4	保育所保育の形態 年齢別・異年齢・順序性・選択制・習熟度別	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
5	保育実習Ⅱの目標 実習目標・課題設定	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
6	4年前期 実習の実際① 1日の流れ・子どもの活動・保育士の活動 全体指導・個別指導	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
7	実習の実際② 実習日誌の書き方	演習 保育実習Ⅰの日誌見直し	教科書、資料熟読
8	実習の実際③ 指導計画案作成(部分実習)	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
9	実習の実際④ 指導計画案作成(総合実習)	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
10	実習の実際⑤ 模擬保育(部分実習)	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
11	実習の実際⑥ 模擬保育(総合実習)	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
12	実習における留意点の確認 実習準備物の確認	講義 実習における留意点	資料熟読 準備物の点検
13	保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート・礼状	演習 報告レポート作成練習 礼状作成練習	資料熟読
14	4年後期 保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート	演習 報告レポート作成	礼状送付
15	保育実習Ⅱ事後指導 実習総括・自己評価・報告レポート 新たな課題設定・課題目標の明確化	演習 実習総括・自己評価 新たな課題・目標設定 報告レポート完成	実習終了レポート等の再 点検・整理 実習終了レポート提出

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標①②③④⑤：実習目標設定（20%）、使用教材作成（20%）、実習終了レポート（20%）

目標②③：指導計画案（20%）、模擬保育（20%）

【教科書】

書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習
著者名：新保育士養成講座編纂委員会／編
発行所：全国社会福祉協議会
価格：1,900円（税別）

書名：保育実習の手引き（2年次配布）
発行所：福島県保育者養成校連絡会

書名：福島県保育実習施設（3年次配布）
発行所：福島県保育者養成校連絡会

【参考書】

書名：実習日誌の書き方
著者名：相馬和子・中田カヨ子
発行所：萌文書林
価格：1,600円（税別）

書名：指導計画の考え方・立て方
著者名：久富優子／編
発行所：萌文書林
価格：1,800円（税別）

書名：幼稚園・保育所実習ハンドブック
著者名：田中まさ子／編
発行所：みらい
価格：2,000円（税別）

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：兼任講師 氏名：高橋 雄二		開 講 期	通年
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		NPO法人あざみ会幹事		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修了 修士（こども心理） 社会福祉士 介護福祉士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 既習の実習や教科書の内容を踏まえ、保育における実践力を習得する。保育における観察、記録及び自己評価等について事例を通して理解すると共に、子どもの最善の利益を考慮した支援計画を立案する技術を習得する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="checkbox"/>	A	知識		
	<input type="checkbox"/>	B	技能		
	<input type="checkbox"/>	C	論理的思考力		
	<input type="checkbox"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="checkbox"/>	E	課題対処力		
	<input type="checkbox"/>	F	多様性の理解力		
	<input type="checkbox"/>	G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
	<input type="checkbox"/>	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="checkbox"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
<input type="checkbox"/>	ウ	グループワーク			
<input type="checkbox"/>	エ	プレゼンテーション			
<input type="checkbox"/>	オ	実習・フィールドワーク			

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。	目標	B
②	実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。	目標	F
③	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。	目標	C
④	保育士の専門性と職業倫理について理解する。	目標	F
⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	目標	E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育実習Ⅲの目的・目標と内容	講義 資料「一般的な実習日誌」	過去の実習日誌の検討

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	各自の目標設定①	各自作業	過去の実習日誌の検討
3	各自の目標設定②	各自作業	過去の実習日誌の検討
4	養護系施設の理解と対象児理解	各自作業	過去の実習の日誌の検討
5	障害児系施設の理解と対象児理解	各自作業	過去の実習の日誌の検討
6	記録の意義と自己評価のポイント	DVD「保育士になるためのつまづきのある子への保育」第3巻 障害児施設	前回練習の復習
7	実習の実際 養護の基本原則と援助技術	DVD「保育士になるためのつまづきのある子への保育」第4巻 児童養護施設	前回練習の復習
8	実習施設概要の理解 実習目標の設定	サンプル日誌使用	過去の日誌の検討
9	日誌の書き方①説明	観察練習用VTR使用	サンプル日誌の熟読
10	日誌の書き方②練習	観察練習用VTR使用	前回練習の復習
11	個別支援計画について①説明	サンプル個別支援計画使用 観察練習用VTR使用	サンプル個別支援計画の熟読
12	個別支援計画の書き方②練習	観察練習用VTR使用	前回練習の復習
13	事前注意・確認 礼状・報告書の書き方	各自作業	注意事項、準備の確認
14	事例検討発表と解釈をめぐる討論①	各自作業、グループワーク	発表準備
15	事例検討発表と解釈をめぐる討論②	ディスカッション ディベート	発表
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標①②③④⑤：指導計画案作成、実習目標設定、実習終了後の報告書、事例発表原稿で評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔	た なべ のる 稔	開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島市児童福祉専門部会 会長（2018.4より） 二本松市立幼稚園適正規模検討委員会 議長（2019.10より）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		毎週月曜日 16：10～（宮代キャンパス研究室）		

【授業の概要】 本ゼミナールは教育心理学領域における課題を自ら見だし、2年間の継続した履修を通して研究していく科目である。履修者自身が高める教育心理学領域とは発達段階と発達課題・学習及び学習過程の原理・個人差把握の観点・教育評価に関わる統計解析の4項目いずれかに添う必要があり、自分の観点で論じ、研究成果を纏めることとしている。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
		B	技能		
	○	C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
	○	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
2カ年の継続履修を通し、卒業研究として纏めること。(単位認定は4年次となる)			目標	A・C・E	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。授業の進め方の確認 卒業論文について		
2	研究論文に触れてみる①	2018年度卒業研究を読み、それぞれの感想を述べる	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	研究論文に触れてみる② 卒業研究の大まかな方向性を決める	2018年度卒業研究を読み、それぞれの感想を述べる	
4	CiNii文献検索について	図書館情報センターで検索の実験を体験	CiNiiから論文をDL。プレゼン用のレジюме作成
5	学術研究論文に触れてみる①	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
6	学術研究論文に触れてみる②	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
7	学術研究論文に触れてみる③	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
8	学術研究論文に触れてみる④	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
9	学術研究論文に触れてみる⑤	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
10	統計解析の基礎としてExcelの再学習① (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
11	統計解析の基礎としてExcelの再学習② (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
12	基本統計の算出 平均の差とは (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
13	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)① X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
14	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)② X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
15	アンケート調査の方法① (学外幼児教育施設の見学)	見学先の受け入れ状況等により実施	
16	アンケート調査の方法② (学外幼児教育施設の見学)	見学先の受け入れ状況等により実施	
17	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)③ X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)④ X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、 先行研究等の論文を選び ゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジユメを 用意する
19	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
20	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
21	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
22	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
23	首都圏の学外幼児教育施設の見学 (見学をコマ数に換算します)	見学先の受け入れ状況等 により実施	
24	首都圏の学外幼児教育施設の見学 (見学をコマ数に換算します)	見学先の受け入れ状況等 により実施	
25	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
26	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
27	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
28	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
29	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
30	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジユメを 用意する
31	調査・フィールドワークのスケジュール 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
32	調査・フィールドワークのスケジュール (依頼先との調整) 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
33	調査・フィールドワークのスケジュール 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
34	調査・フィールドワークのスケジュール 依頼先との調整	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
35	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	
36	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
37	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
38	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
39	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
40	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
41	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
42	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
43	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
44	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
45	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
46	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
47	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
48	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
49	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
50	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
51	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
52	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
53	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
54	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
55	卒業論文のまとめ		
56	卒業論文のまとめ		
57	卒業論文のまとめ それぞれの論文を読み合う		プレゼン用のレジюмеを用意する
58	卒業論文のまとめ それぞれの論文を読み合う		プレゼン用のレジюмеを用意する
59	卒業論文のまとめ 研究発表会の準備		プレゼン用のレジюмеを用意する
60	卒業論文のまとめ 研究発表会の準備		
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>本科目は大学設置基準第二十一条三項（卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。）に準拠し、ゼミナール内のプレゼン成果および卒業研究に至る過程と成果として提出された「卒業論文」により評価する。</p>			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 清 孝	きよ たか	開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会、保育士資格			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子どもが育つ環境は、人的物的要素に様々な機能が加わり構成されている。こうした子どもの周辺環境を要素ごとに見つめながら、子育て社会の今日的課題と制度の変遷を整理し、子どもの最善の利益獲得を目指すために必要なことを考察していく。特に人間と社会の関係性に注目し、地域福祉やソーシャルワークの視点で「子育て支援」を考察できる、豊かな子育て社会の実現をめざす人材を育成する。 3年生は卒論構想発表を行い、4年生は構想発表した研究計画書に基づき、論文執筆を進め、中間報告を行ない、他の教員らからの意見を参考に12月までに卒業論分を提出する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
① 論文形式と書き方を学び、先行研究レビューと問題のとらえ方を学ぶ。	目標	A・C		
② 調査方法と分析方法を理解し調査と分析を行う。	目標	A・B・C		
③ 研究計画書に則り、卒業論文を完成し、発表する。	目標	C・D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年 卒業論文の書き方①	講義 卒業研究の形式を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	4年 論文作成⑥（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配布 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年 卒業論文の書き方②	講義 卒業論文の構成を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	4年 論文作成⑦(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配布 先行研究検索
3	3年 興味・関心・価値観について	自分の価値観を自己検証する ディスカッション	自身の興味・関心事を整理する
	4年 論文作成⑧(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収) 論文作成⑨(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
4	3年 先行研究検索の方法	講義 論文検索サイトの紹介 論文検索の体験	実際にインターネットで論文検索する
	4年 論文作成⑩(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
5	3年 先行研究検索①	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	4年 論文作成⑪(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
6	3年 先行研究検索②	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	4年 論文作成⑫(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
7	3年 先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑬(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
8	3年 先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑭(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
9	3年 先行研究検索③	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	4年 論文作成⑮(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	3年 先行研究検索④	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	4年 論文作成⑩(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
11	3年 先行研究レビュー③	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑪(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配布・回収) 論文作成⑫(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索 調査データ整理
12	3年 先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑬(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
13	3年 調査方法について①	自分の研究にあった調査 方法を検討する	調査方法について事前に 調べる
	4年 論文作成⑭(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
14	3年 調査方法について②	自分の研究にあった調査 方法を検討する	調査方法について事前に 調べる
	4年 論文作成⑮(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
15	3年 分析方法について①	講義 自分の研究にあった分析 方法を検討する	分析方法について事前に 調べる
	4年 論文作成⑯(先行研究確認) 調査分析(データ整理) 中間報告発表	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索 中間報告会
16	3年 ゼミ合宿 ～保育園での保育研修～ (筒井保育園・青森市)	保育研修の体験から、保 育園の生活の流れ、子ど ものかかわり方を学ぶ	保育研修での学びを記録 する
	4年 論文作成⑰(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	3年 分析方法について②	講義 自分の研究にあった分析方法を検討する	分析方法について事前に調べる
	4年 論文作成⑳(仮説) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
18	3年 研究計画書作成①	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究テーマの検討をする
	4年 論文作成㉑(仮説) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
19	3年 研究計画書作成②	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究意義を考える
	4年 論文作成㉒(仮説) 調査分析(データ整理) 論文作成㉓(仮説・調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 データ分析 図表作成
20	3年 調査対象の検討	演習 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	具体的な調査対象者を考える
	4年 論文作成㉔(仮説・調査結果) 調査分析(データ分析) 論文作成㉕(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成
21	3年 調査方法の決定	演習 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	調査方法の検討を重ねる
	4年 論文作成㉖(考察) 論文作成㉗(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成
22	3年 調査項目の抽出 調査項目の決定	演習 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する 調査項目を決定する	調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
	4年 論文作成㉘(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
23	3年 分析方法の検討	演習 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	分析方法の検討を重ねる
	4年 論文作成㉙(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	3年 分析方法の決定	演習 調査にかかる分析方法を決定する	分析方法の検討を重ねる
	4年 論文作成③(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
25	3年 研究計画書作成	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する	計画書の再検討
	4年 論文書式点検(図表確認、謝辞)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備
26	3年 研究計画書作成 論文作成①(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の検討 ディスカッション	研究の背景・目的の検討・ 考察
	4年 論文作成⑤(考察) 論文書式点検(引用文献、参考文献整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備
27	3年 研究計画書作成 論文作成②(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・ 考察
	4年 論文書式点検(引用文献、参考文献整理) 仮製本 卒業論文提出	論文指導 作成進捗報告	論文印刷 論文提出
28	3年 研究計画書完成 論文作成③(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを完成させる 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・ 考察
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
29	3年 論文作成④(序章)	論文指導 序章の検討 ディスカッション	序章の検討・考察
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	3年 論文作成⑤(序章) 調査用紙作成 卒業論文構想発表(2月中旬)	論文指導 序章の執筆 ディスカッション 卒業研究及び卒業論文の構想を発表する	序章の執筆・考察 卒業論文構想発表会
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】

目標①②: 研究計画書を作成する。卒業研究中間発表会で発表する。

目標③: 卒業論文完成。卒業研究発表で発表する。

【参考書】

書名: 新版 論文の教室

著者名: 戸田山和久

発行所: NHK BOOKS

価格: 1,200円(税別)

書名: 卒論執筆のためのWord活用術

著者名: 田中幸夫

発行所: BLUEBACKS

価格: 880円(税別)

書名: 日本社会福祉リーディングス8 子ども家庭福祉

著者名: 岩田正美/監修 山縣文治/編著

発行所: 日本図書センター

価格: 3,800円(税別)

書名: 社会調査のための計量テキスト分析

著者名: 樋口耕一

発行所: ナカニシヤ出版

価格: 2,800円(税別)

書名: 新版 質的研究入門(人間科学)のための方法論

著者名: ウヴェ・フリック 著

小田博志 監訳

発行所: 春秋社

価格: 3,900円(税別)

書名: 質的調査法入門 教育における調査法とケース・スタディ

著者名: S・B・メリアム 著

堀 薫夫・久保真人・成島美弥 訳

発行所: ミネルヴァ書房

価格: 4,200円(税別)

書名: 研究の進め方

著者名: ダン・レメニイほか 著

小樽商科大学ビジネス創造センター 訳

発行所: 同文館出版

価格: 1,900円(税別)

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：古畑雅規		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動。			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業 芸術学士 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本ゼミナールは、美術の「制作」を2年間の継続で行う。他授業の図画工作では、保育現場で役立つ情報として美術作品の制作の基礎を学習するが、この授業ではワンランク上の作品制作を目指す。異なるジャンルの作品を数点制作し、その後集大成となる作品づくりを行う。同時に作品の制作ノートをつくり、レポートでの説明もできるようにする。美術の基礎より上を知ることで、より美術の幅を広げ、またここで学習することがどのように保育の環境につながるかを考える。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
		C	論理的思考力		
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
		F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)				
① 作品の制作に対して、技法とその技術を学ぶ。	目標	B			
② 制作、またその準備段階で様々な資料から知識を習得する。	目標	A			
③ 感性を磨き美術、環境、デザインへの感動を覚える。	目標	D			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 授業の概要と目標 授業内容と評価方法 本科目の留意点など	
2	作品制作のための計画(1)	これからの制作のための制作ノートをつくる	画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	作品制作のための計画(2)	これからの制作のための制作ノートをつくる	画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
4	作品制作のための計画(3)	これからの制作のための制作ノートをつくる	画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
5	平面作品の制作(1) ～絵画やデザインの基礎	平面作品にはどのようなものがあるのか 画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
6	平面作品の制作(2) ～絵画やデザインの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
7	平面作品の制作(3) ～絵画やデザインの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
8	平面作品の制作(4) ～絵画やデザインの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
9	平面作品の制作(5) ～絵画やデザインの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
10	平面作品の制作(6) ～絵画やデザインの基礎	立体作品にはどのようなものがあるのか 画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
11	平面作品の制作(7) ～全体のバランス	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
12	平面作品の制作(8) ～作品の仕上げ	細部の確認 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
13	立体作品の制作(1) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
14	立体作品の制作(2) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ ～これからの方向性を考える	これまでの研究方法の見直しと後期への準備 制作ノート	
16	立体作品の制作(3) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
17	立体作品の制作(4) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
18	立体作品の制作(5) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
19	立体作品の制作(6) ～3Dアートやインスタレーションの基礎	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
20	立体作品の制作(7) ～全体のバランス	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
21	立体作品の制作(8) ～作品の仕上げ	細部の確認 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
22	混合技法での制作(1) ～様々なジャンルの組み合わせ	混合技法による作品にはどのようなものがあるのか 画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
23	混合技法での制作(2) ～様々な素材の組み合わせ	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
24	混合技法での制作(3) ～様々な素材の組み合わせ	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
25	混合技法での制作(4) ～ボリュームと質感など	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
26	混合技法での制作(5) ～背景の効果	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	混合技法での制作(6) ～背景の効果	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
28	混合技法での制作(7) ～全体のバランス	画材の種類や技法を学習しながらの制作 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
29	混合技法での制作(8) ～作品の仕上げ	細部の確認 制作ノート 研究レポート	教材研究 画集、写真集、ネット環境などから美術作品やその資料を探る
30	1年間のまとめ ～2年目からの研究方法を考える	研究レポートの作成	
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③：70点 作品評価（制作した全ての作品の技術力、表現力など総合で評価） 目標③：20点 授業態度（授業、作品への意欲） 目標③：10点 美術というものに感銘を受けることができたか			
【教科書】 使用しない			
【その他補足事項】 制作にかかる画材などの材料費は自己負担。 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡辺博志		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事（平成15年4月～平成17年3月） 福島大学総合教育研究センター准教授・教授（平成19年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		川俣町学校教育あり方検討委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学） 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状（国語）、日本カリキュラム学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「幼児期の言葉の獲得と保育者の役割」を主たる研究のテーマとする。子どもが言葉の使い手として発達していく姿や言葉が育つ環境などの諸要素を取り上げてその関連について考察するとともに、言語環境としての保育者の様々な役割とその意味について追究していく。そのために、幼稚園の保育場面と観察対象児の発話を継続的に取り上げ、その記録を分析、討議して言葉の発達と教師の役割の関連について具体的に理解を深めていく。 3年生は言葉獲得の理論と事例を関連させた卒論の基本構想を確立し、4年生は卒論指導を中心に行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 卒業研究の方法と手順を把握し、論文作成の概要、書式について理解することができる。			目標	A
② 先行研究（論文、実践）を調査し、レビューを行うことで研究の方向性を探り、課題のとらえ方を理解することができる。			目標	E
③ 論文テーマに関わる各論について論理的に構成し配置することができる。 4年次には、研究計画、構成構成案に基づき卒業論文を執筆する。			目標	C・D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>○オリエンテーション〈○：3年生以下同じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要とゼミナールの学びについて ・研究の見通しと方法 <p>卒業論文の作成について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文作成の方法と手順 <p>◇授業内容と年間計画の確認〈◇：4年生以下同じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文提出に関する計画の見直し ・章立ての再検討 	<p>○授業計画</p> <p>講義：「論文の作成の展望を開く」</p> <p>演習：研究に対する興味・関心の方向性についての話し合い</p> <p>◇演習：研究の見通しについてプレゼンテーションと意見交換</p>	<p>○関係図書等を基に論文作成の基本を検討する</p> <p>◇第3次研究計画の作成をする</p>
2	<p>○卒業論文の作成について②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「論文」の必須条件 ・卒業論文作成の見通しと書式 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理 ・研究テーマに基づく実践計画 	<p>○講義「論文の条件」</p> <p>演習：論文作成の書式等についてモデル調査</p> <p>◇演習「論文構成プロット」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章立て ・小項目 ・小見出し、キーワード 	<p>○関係図書等を基に論文作成の基本を予習する</p> <p>◇論文構成の図解資料を作成する</p>
3	<p>○卒業論文の作成について③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図解を活用した研究の「見える化」 ・研究テーマと構成 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討① 	<p>○講義：「論文の組み立て」</p> <p>演習：図解の効果についての話し合い</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導演案」をグループ検討する</p>	<p>○紹介図書を基に論文作成、図解の基本を予習</p> <p>◇授業実践指導演案を作成する</p>
4	<p>○先行研究の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索環境——図書館の資料閲覧と検索サイト ・論文検索の習得 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討② 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導演案」をグループ検討する</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇授業実践指導演案を作成する</p>
5	<p>○先行研究の調査①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討③ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>先行研究のキーワード洗い出し</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導演案」をグループ検討する</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇授業実践指導演案を作成する</p>
6	<p>○先行研究の調査②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関わる資料の整理 ・実践の整理と考察① 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>先行研究のキーワードと関連研究の調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
7	<p>○先行研究の調査③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究に関連する論文・実践の論文検索 ・関連研究論文から「テーマ」と「構成」の組み立てを学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関わる資料の整理 ・実践の整理と考察② 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>先行研究の「テーマ」と構成について調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	<p>○先行研究の調査④</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関連する論文・実践の論文検索 関連研究論文から「テーマ」と各論の組み立てを学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関わる資料の整理 実践の整理と考察③ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「テーマ」と構成について調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
9	<p>○先行研究の調査⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関連する論文・実践の論文検索 関連研究論文から「実践事例」の調査方法、分析を学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関わる資料の整理 実践の整理と考察④ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「実践事例」分析方法を調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
10	<p>○先行研究の調査⑥ — 先行研究レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ 研究モデルのテーマ、構成等分析 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：先行研究レビュー発表</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○論文レビューを作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>
11	<p>○先行研究の調査⑦ — 先行研究レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ 研究モデルのテーマ、構成等分析 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：先行研究レビュー発表</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○論文レビューを作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>
12	<p>○研究課題・内容・方法の組み立て検討①</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○題研究のための資料を作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>
13	<p>○研究課題・内容・方法の組み立て検討②</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> プロットを基にした論文執筆 	<p>○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現</p> <p>◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談</p>	<p>○課題研究のための資料を作成する</p> <p>◇プロットから「はじめに」の試案作成</p>
14	<p>○研究課題・内容・方法の組み立て検討③</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> プロットを基にした論文執筆 	<p>○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現</p> <p>◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談</p>	<p>○課題研究のための資料を作成する</p> <p>◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	○研究課題・内容・方法の組み立て検討④ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
16	○研究課題・内容・方法の組み立て検討⑤ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
17	○研究課題・内容・方法の組み立て検討⑥ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
18	○研究課題の中間報告① ・研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ・ゼミ内発表・合評 ◇卒業論文の作成報告会① ・ゼミ内発表・合評 ・構成プロットと執筆の実際	○合評会：研究テーマと各論の構成 ◇作成進捗状況をもとにした論文概要の合評会	○中間報告発表資料を作成する ◇論文作成の進捗状況について発表資料を作成する
19	○研究課題の中間報告② ・研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ・ゼミ内発表・合評 ◇卒業論文の作成報告会② ・ゼミ内発表・合評 ・構成プロットと執筆の実際	○合評会：研究テーマと各論の構成の妥当性 ◇作成進捗状況をもとにした論文概要の合評会	○中間報告発表資料を作成する ◇論文作成の進捗状況について発表資料を作成する
20	○研究課題・アウトラインの検討・調整① ・テーマと各論の構成について ・研究の方法・分析の調整 ◇卒業論文の吟味・検討 ・卒業論文構成プロットと内容の調整	○演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆論文構成プロットと内容の整合性について個別指導	○研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする ◇論文プロットと内容の整合性を検討する
21	○研究課題・アウトラインの検討・調整② ・テーマと各論の構成について ・研究の方法・分析の調整 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正 ◇演習：各自研究テーマ、内容の調整内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする ◇関係資料を整理し、調整内容に基づき執筆活動を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	○研究テーマに基づく研究計画の立案① ・研究テーマの意義、独自性、妥当性検討 ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習:研究計画の作成: テーマの妥当性について発表 合評会を通して批評交流 ◇演習:各自研究テーマ、 内容の調整内容を基に 論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画と発表資料を 作成する ◇関係資料を整理し、調 整内容に基づき執筆活 動を進める
23	○研究テーマに基づく研究計画の立案② ・実践事例、調査分析、各論の論理的構成 ・タイムスケジュール ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習:各論の構成につ いて発表 合評会を通して批評交流 ◇演習:各自研究テーマ、 内容の調整内容を基に 論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画とタイムスケ ジュールを作成する ◇関係資料を整理し、調 整内容に基づき執筆活 動を進める
24	○研究テーマに基づく研究計画の立案③ ・研究テーマの確定 ・実践事例、調査分析、各論の論理的構成 ・タイムスケジュール ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の提出準備 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆 ・提出に関する手続き	○演習:研究テーマの決定 各論の構成仮決定 タイムスケジュール作成 ◇演習:各自研究テーマ、 内容の調整内容を基に 論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画とタイムスケ ジュールを作成する ◇関係資料を整理し、調 整内容に基づき執筆活 動を進める
25	○研究テーマに基づく研究計画書 ・卒業論文構想発表会 ◇卒業論文の提出 ・研究テーマに即した研究成果を卒業論文として提出	○ゼミ内研究構想発表 ◇演習:「卒業論文概要 版」のグループ検討	○研究構想発表会資料を 作成する ◇「卒業論文概要」の作 成
26	○卒業論文構成プロットの作成① ・研究計画に基づく執筆 ・研究の背景、意義、研究視点の検討 ◇卒業論文のゼミ内発表会 ・卒業論文作成2年間の歩みと研究	○個別指導 研究テーマと研究視点 の関連性検討 ◇演習:卒業論文概要版 ゼミ内発表	○研究の意義、独自視点 のキーワードを確認 し、執筆を進める ◇「卒業論文概要」の作 成
27	卒業論文構成プロットの作成② ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ◇卒業論文発表会の準備① ・発表原稿執筆・検討	○個別指導 用語、キーワード検討 ◇演習:資料の収集、整 理、分析	○各論の小見出し、キー ワードを確認し執筆す る ◇発表の構想と原稿を作 成する
28	○卒業論文構成プロットの作成③ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ◇卒業論文発表会の準備② ・発表原稿執筆・検討	○個別指導 研究テーマと各論の整 合性検討 ◇演習:発表原稿のグ ループ内検討	○各論の小見出し、キー ワードを確認し執筆す る ◇発表の構想と原稿を作 成する
29	○卒業論文構成プロットの作成④ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ・序論の検討 ◇卒業論文発表会の準備③ ・発表リハーサル	○個別指導 研究テーマと各論の整 合性検討 ◇演習:発表リハーサル のグループ内検討	○序論を検討し作成する ◇発表原稿を作成する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	○卒業論文構成プロットの作成⑤ ・研究計画に基づく執筆 ・序論の執筆 ◇卒業論文発表会	○個別指導 「序論」の検討 ◇卒業論文発表	○序論を執筆する ◇発表のスライド等作成
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1 目標②③：論文作成計画書60点 研究レビュー、先行研究調査、ゼミ内討論40点 3年次は研究対象、テーマの絞り込み、研究方法の決定、調査方法と分析の方法決定を通して論文構成を練り、研究計画を作成する。</p> <p>2 目標①③：卒業論文プロット、卒業論文100点 4年次は、適時にプレゼンテーションを実施しながら研究構成の改善、修正を加え、論文執筆に取り組む。 1、2の各段階ごとのまとめ、提出物、プレゼンテーションをもとに、3年生は「卒業論文研究計画書」、4年生は「卒業論文」を総合的に評価する。</p>			
<p>【教科書】 使用しない</p>			
<p>【参考書】</p> <p>書名：論文の書き方 ― ステップ式リサーチ戦略の進め ― 著者名：花井 等・若松 篤 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別）</p> <p>書名：卒業論文・修士論文作成の要点整理 著者名：滝川好夫 発行所：税務経理協会 価格：1,300円（税別）</p> <p>書名：よくわかる卒論の書き方 第2版 著者名：白井利明・高橋一郎 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）</p> <p>その他、研究内容によって適宜紹介する</p>			
<p>【その他補足事項】 実践研究を深めるための具体的制作の費用。および調査等に関わる費用は各自負担とする。</p>			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎 信 政 <small>やま ざき のぶ まさ</small>	開講期	通年（2年間）	
		授業回数	30（60）回	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業（芸術学士：音楽） 白梅学院大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程修了 （修士：こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子どもは、感じたことや考えたことを自分なりに様々な方法で「表現」することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。この子どもの表現に関すること、特に演劇や身体表現に関する諸理論を学びながら、履修者の興味関心を広げ、自分自身で問題点や疑問点を探り、継続的な研究が可能になるようにする。 4年生は卒論の中間発表を適宜行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
○	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
○	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
文献検索と文献研究の方法を知る。	目標	A・C		
表現に関する学術論文を読み、内容を説明できること。	目標	A・C		
先行研究を調査し、レビューを行うことで研究の方向性を探り、課題の捉え方を理解することができる。	目標	A・C・D		
4年次には、研究計画、構成案に基づき卒業論文を執筆する。	目標	A・C・D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・年間授業の流れと留意点 ・授業の進め方の確認		
2	○表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
3	○表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
4	○表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
5	○表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
6	○自分の研究に関連する研究内容の論文を図書館やインターネット等にて探し資料として収集	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
7	○自分の研究に関連する研究内容の論文を図書館やインターネット等にて探し資料として収集	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
8	○先行研究の資料を基に、自らの研究に資する内容を取り入れる	事前に論文を探し、理解していく	資料の熟読
9	○先行研究の資料を基に、自らの研究に資する内容を取り入れる	事前に論文を探し、理解していく	資料の熟読
10	○各自の研究課題・調査に関する中間報告		
11	○各自の研究課題・調査に関する中間報告		
12	○各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	事前に論文を探し、理解していく	
13	○各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	事前に論文を探し、理解していく	
14	○各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	事前に論文を探し、理解していく	
15	○各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	事前に論文を探し、理解していく	
16	○各自の研究課題に関する再調整と中間報告		
17	○各自の研究課題に関する再調整と中間報告		
18	○各自の研究課題に添い研究計画の立案	資料は各自で準備	
19	○各自の研究課題に添い研究計画の立案	資料は各自で準備	
20	○研究課題についてのプレゼンと批評	資料は各自で準備	
21	○研究課題についてのプレゼンと批評	資料は各自で準備	
22	○各自の研究課題に添い研究計画の修正	資料は各自で準備	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	○研究課題についてのプレゼンと批評	資料は各自で準備	
24	○研究課題についてのプレゼンと批評	資料は各自で準備	
25	○研究課題の決定	資料は各自で準備	
26	○研究課題の決定	資料は各自で準備	
27	○研究計画に基づく資料収集	資料は各自で準備	
28	○研究計画に基づく資料収集	資料は各自で準備	
29	○先行研究に関わる文献検索 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
30	○先行研究に関わる文献検索 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
31	○研究計画に基づく進捗状況のゼミ内発表	資料は各自で準備	
32	○研究計画に基づく進捗状況のゼミ内発表	資料は各自で準備	
33	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
34	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
35	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
36	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
37	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
38	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
39	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
40	○各自の研究課題・調査に関する中間報告	資料は各自で準備	
41	○各自の研究課題・調査に関する中間報告	資料は各自で準備	
42	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
43	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
44	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	
45	○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	資料は各自で準備	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
46	○論文制作	資料は各自で準備	
47	○論文制作	資料は各自で準備	
48	○論文制作	資料は各自で準備	
49	○論文制作	資料は各自で準備	
50	○論文制作	資料は各自で準備	
51	○論文制作	資料は各自で準備	
52	○論文制作	資料は各自で準備	
53	○論文制作	資料は各自で準備	
54	○論文制作	資料は各自で準備	
55	○論文制作	資料は各自で準備	
56	○論文制作	資料は各自で準備	
57	○論文制作、提出	資料は各自で準備	
58	○ゼミ内卒論発表会	資料は各自で準備	
59	○ゼミ内卒論発表会	資料は各自で準備	
60	○ゼミ内卒論発表会	資料は各自で準備	
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 2カ年の継続履修を通し、卒業研究として纏めること。			
【教科書】 必要な資料はその都度印刷物で配布する。		【参考書】 必要な書籍は履修者各自の研究領域により異なるため、授業内で逐次紹介する。	

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象教員免許状更新講座講師 （平成23年～）文部科学省認定他		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了、芸術学修士 学芸員資格・中学校教諭一種免許（美術）／高等学校教諭専修免許（美術）、 美術科教育学会、全国造形美術教育教員養成協議会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「美術」は、日常から切り離されたものではなく、とても身近なものです。それは、芸術表現の一領域でありながら、文学や音楽、また歴史や文化、科学等の他領域とも密接にかかわっています。本ゼミナールでは、単なる制作にとどまらず、広く教養としての「美術」を学びながら、自分を取り巻く世界の諸相を、再発見していく視点を獲得します。具体的には様々な表現を通して、ものを作りだす喜びを味わいます。また、各月の「歳時記」の記述を通して自然に親しみ、感性を豊かにします。造形表現領域から、幼児の姿を理解し、保育における今日的な課題を探究します。 3年生では卒論構想発表を行い「序章」を執筆します。4年生では中間報告を行い、1月までに卒論を提出します。時間割外に個別指導を行います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
卒業論文の形式と書き方を知り、調査・分析方法が理解できるようになる。		目標	A・B・C	
先行研究のレビューを行うことで、研究の方向性を探り、問題のとらえ方を理解できる。		目標	A・C	
様々な素材や道具を使用し、技法を試したりなど制作を行うことで、その特性が把握でき、表現技術が向上する。		目標	A・B	
歳時記を記入することにより、感性が豊かになり、自然や文化等に対する知識が養われる。		目標	A・D	
卒業論文を書くことで、自分の研究の方向性や課題が明らかになる。		目標	A・B・C	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標 ・授業の内容と年間計画 卒業論文の書き方① 卒業研究の形式を学ぶ 歳時記の記入方法～感性について	授業計画 講義・演習 教科書 プリント 各自、リングファイル(A4判)を準備する	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標の確認 ・授業の内容と年間計画の確認	授業計画 講義・演習 プリント 論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
2	3年生 卒業論文の書き方② 卒業論文の構成を学ぶ 教材研究の方法について① 学習の進め方	講義・演習 教科書、プリント 材料・用具等	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑥(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
3	3年生 興味・関心・価値観について 自分の価値観を検証する 教材研究の方法について② 資料整理の仕方(写真・製作物も含む)	ディスカッション 教科書	自身の興味・関心事を整理する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑦(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
4	3年生 先行研究検索の方法について 論文検索サイトの紹介 論文検索を体験する 教材研究の方法について③ 材料・用具・技法の理解を深める	講義 演習 教科書	インターネットで論文を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑧(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
5	3年生 先行研究の検索① 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について④ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑨(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	3年生 先行研究の検索② 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について⑤ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑩(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
7	3年生 先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑪(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
8	3年生 先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑫(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
9	3年生 先行研究の検索③	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑬(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
10	3年生 先行研究の探索④	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑭(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
11	3年生 先行研究レビュー③	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑮(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究の検索 制作・教材研究
12	3年生 先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑯(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	3年生 調査方法について① 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑱(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
14	3年生 調査方法について② 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑱(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
15	3年生 分析方法について① 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑲(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
16	3年生 分析方法について② 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑳(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理) 提出計画確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究 提出計画書作成
17	3年生 分析方法について③ 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉑(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
18	3年生 研究計画書作成① 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉒(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
19	3年生 研究計画書作成② 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉓(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	3年生 調査対象の検討 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	演習 教科書	研究テーマの検討 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑳(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
21	3年生 調査方法の決定 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	演習 教科書	研究意義を考える 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉑(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究 調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
22	3年生 調査項目の抽出・決定 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する 調査項目を決定する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉒(仮説・調査) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
23	3年生 分析方法の検討 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉓(仮説・調査) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
24	3年生 分析方法の決定 調査にかかる分析方法を決定する	演習 教科書	分析方法を検討する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉔(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
25	3年生 研究計画書を完成させる 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルの作成 卒業論文構想の発表(12月中旬) 卒業研究及び卒業論文の構想を発表する	演習 教科書	計画書の再検討 発表練習 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉕(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
26	3年生 論文作成㉖① 研究の背景・目的の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の検討・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉖②(考察・図版確認)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	3年生 論文作成② 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成③(考察・図版確認)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
28	3年生 論文作成③ 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 印刷調整、論文提出	論文指導 作成進捗報告	論文提出 論文要旨作成 制作・教材研究
29	3年生 論文作成④ 序章の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の検討・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 卒業研究発表会準備 論文修正	論文指導 作成進捗報告	論文修正 要旨集原稿作成 制作・教材研究
30	3年生 論文作成⑤ 序章の執筆 調査用紙の作成	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の執筆・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 2年間の振り返り 卒業研究発表会準備 論文要旨修正	感想等を述べ合い、まとめを提出する 発表資料、原稿作成 質疑応答の練習	資料、原稿確認 要旨集原稿作成
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>〈3年生〉 卒業研究のテーマの決定、研究方法の決定、研究対象の決定、調査方法および分析方法の決定をしたのち、研究計画書を作成します。歳時記ノートを記入し、提出すること。 卒業論文(序章)の執筆を開始します。</p> <p>〈4年生〉 卒業論文を執筆し、期日までに提出すること。</p> <p>〈3・4年生共通〉 授業への出席、研究の意欲や態度、提出物の状況。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明します。 成績評価は4年次に行います。</p>			

<p>【教科書】 3年時に購入（2年間継続して使用）</p> <p>書名：よくわかる卒論の書き方 著者名：白井利明・高橋一郎 著 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）</p>	<p>【参考書】</p> <p>① 書名：幼児教育法講座 新造形表現 〈理論・実践編〉 著者名：花篤 實・岡田愨吾 編著 発行所：三晃書房 価格：2,000円（税別） ※表現Ⅰの授業で使用した教科書</p> <p>② 書名：幼児造形教育の基礎知識 著者名：花篤 実（監修） 永守基樹（編集） 清原知二（編集） 発行所：建帛社 価格：2,700円（税別）</p> <p>③ 書名：科学の健全な発展のために — 誠実な科学者の心得 — 著者名：日本学術振興会 「科学者の健全な発展のために」 編集委員会 編 発行所：丸善出版 価格：900円（税別）</p> <p>④ 書名：卒論執筆のためのWord活用術 著者名：田中幸夫 発行所：BLUEBACKS 価格：880円（税別）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各自が使用する材料・用具類は、基本的に自己負担となります。 • 感性や表現力を豊かにするため、自主的に美術館や博物館等で作品を鑑賞し、ワークショップや講演等にも、積極的に参加しましょう。（交通費や入場料他は自己負担となります。） • 保育現場でのボランティア等を推奨します。 • 学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合があります。 	

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 （平成19年4月～現在）		
社会貢献としての委員会・職等		福島市教育委員会特別支援教育指導員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状 日本心理臨床学会、日本人間性心理学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育および幼児教育における事象や問題について、個性記述的理解に関する視点で研究をしていく。 3年次には問題意識を明確にもてるようになるため、実習やボランティア等実践体験を重ねることや先行研究のクリティークを行う。また、研究方法についても知識を深め、研究改革を立てられるようにする。 4年次には、予備調査等研究の実践に入る。データの解釈等吟味のためのディスカッションを十分に行い、保育・幼児教育の現場に役立つ知見を見出す。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
		A	知識		
		B	技能		
	○	C	論理的思考力		
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
	○	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
○	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
2年間の学びと研究活動の成果を卒業論文として纏める。			目標	D	
先行研究およびリサーチクエスションに則した考察ができる。			目標	C・F	
筋道を立てて説明およびプレゼンテーションができる。			目標	D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの年間計画と、内容の説明	授業計画を使用する。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年：研究とは何をするのか?(1) 問題意識を持つ	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	関心あることについて文章化してくる。
	4年：研究計画を策定しよう(1) これまでのプロセスをまとめて研究計画を完成させる。	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	研究計画に関する資料をまとめておく。
3	3年：研究とは何をするのか?(2) 問題意識を持つ	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	関心あることについて文章化してくる。
	4年：研究計画を策定しよう(2) これまでのプロセスをまとめて研究計画を完成させる。	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	研究計画に関する資料をまとめておく。
4	3年：研究とは何をするのか?(3) 仮説生成研究と仮説検証研究について倫理的問題について	APA論文作成マニュアルを読んでディスカッション	配布資料について事前に読み、内容を説明できるようにしておく。
	4年：方法の実践(1) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
5	3年：研究とは何をするのか?(4) 先行研究に学ぶ 論文の形式とルール 文献検索の仕方を体験する	図書館での文献検索演習	関心あるテーマのキーワードを挙げておく。
	4年：方法の実践(2) 選定した研究方法を実践する。	図書館ラーニングコモンズにて実施する。	実施に必要な準備を行う。
6	3年：先行研究を読もう(1)	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	関心あるテーマの先行研究を収集する。
	4年：方法の実践(3) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
7	3年：先行研究を読もう(2)	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	関心あるテーマの先行研究を収集する。
	4年：方法の実践(4) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
8	3年：先行研究を読もう(3)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(1) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	報告担当者は資料をまとめておく。
9	3年：先行研究を読もう(4)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(2) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	報告担当者は資料をまとめておく。
10	3年：先行研究を読もう(5)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(3) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	3年：先行研究を読もう(6)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(4) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
12	3年：先行研究を読もう(7)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(5) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
13	3年：先行研究を読もう(8)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(6) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
14	3年：先行研究を読もう(9)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理と考察(1) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
15	3年：先行研究を読もう(10)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理と考察(2) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
16	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(1)	4年生の発表を聞きながらディスカッションに参加する。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(3) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
17	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(2)	4年生の発表を聞きながらディスカッションに参加する。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(4) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
18	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(3)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(5) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(4)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：論文の形式に則り、執筆(1)	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
20	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(5)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：論文の形式に則り、執筆(2)	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
21	3年：研究方法について学ぼう(1) 量的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(3)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
22	3年：研究方法について学ぼう(2) 量的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(4)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
23	3年：研究方法について学ぼう(3) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(5)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
24	3年：研究方法について学ぼう(4) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(6)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
25	3年：研究方法について学ぼう(5) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(7)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
26	3年：研究方法について学ぼう(6) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(8)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
27	3年：研究方法を選択しよう(1)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(1) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	3年：研究方法を選択しよう(2)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(2) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
29	3年：研究方法を選択しよう(3)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(3) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
30	3年：研究方法を選択しよう(4)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(4) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。 上記達成のため、以下の点において評価する。 C：プレゼンテーション時に筋立てて説明できているか。 30% D：授業時に活発に発言（意見・疑問等）しているか。 40% F：発表レジュメや論文において適切に記述できているか。 30%			
【教科書】 使用しない。		【参考書】 適宜紹介する。	
【その他補足事項】 論文作成やプレゼンテーション資料作成のため、パソコンは自分のものを用意することが望ましい。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 当ゼミナールでは子どもの運動発達とその支援、運動学習と指導に関する内容についての研究活動を行うこととする。「運動の『できる』『できない』はなぜ存在するのか。」「子どもが上手にできるようになるには指導者として何をどうすればよいのか。」といった基本的な問題を出発点に、体育科教育や運動学についての理解を深めていく。 3年次は主として体育学や運動学等の文献を輪読しながら、教育者あるいは保育者としての視点から子どもと運動にまつわる問題や課題を探り、自らの研究計画を立てていく。 4年次は卒論の作成と、途中経過のプレゼンテーションやディスカッションを中心に研究活動を行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
2年間の学びと研究活動の成果を卒業論文として纏める。			目標	C
学術論文執筆の基本的なルールと方法を習得する。			目標	D
学術論文等や専門書を読み込み、体育や運動学に関する知識を深める。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの年間計画と、内容の説明	体育分野の学術論文	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究計画の発表	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
3	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
4	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
5	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
6	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
7	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
8	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
9	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の論文の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
11	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
12	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
13	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
14	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
15	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
16	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
17	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
18	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
20	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
21	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
22	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
23	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
24	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
25	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
26	3年：卒業研究計画の作成	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	シラバスに沿って、論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
27	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備 (抄録やスライドなどプレゼン資料の作成)	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備 (抄録やスライドなどプレゼン資料の作成)	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
29	3年：卒業研究計画の作成。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
30	3年：卒業研究計画の提出。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・D：2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。80点 目標A・D：体育や運動に関する学術論文や専門書等を輪読していくが、自分の担当箇所を事前に学習し、プレゼンテーションができるかどうか。10点 研究計画に沿って、指定された課題を提出することができるかどうか。10点 以上、合計100点で評価する			
【教科書】 書名：運動学講義 著者名：金子明友・朝岡正雄（編著） 発行所：大修館書店 価格：2,000円（税別）		【参考書】 書名：マイネル スポーツ運動学 著者名：クルト・マイネル 著 金子明友 訳 発行所：大修館書店 価格：4,300円（税別） 書名：スポーツ運動学 — 身体知の分析論 — 著者名：金子明友 発行所：大修館書店 価格：3,400円（税別） 書名：教師のための運動学 著者名：金子明友 監修 吉田 茂・三木四郎 編 発行所：大修館書店 価格：2,000円（税別）	
【その他補足事項】 論文作成やプレゼンテーション資料作成のため、パソコンは自分のものを用意することが望ましい。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	通年（2年間）
			授業回数	30（60）回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		静岡県スクールカウンセラー（平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 当ゼミナールでは、保育や福祉にかかわる領域において、特にこどもの発達面や子ども・養育者の心理的課題と支援法を研究していく。 問題意識を明確にし、他者に配慮でき良好な対人関係を維持していくことをベースとして、自身の推論過程を意識的に吟味する再帰的な思考が求められる。また、吟味するには適切な基準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考を行い、問題提起及び課題解決に積極的に関与しうる卒業研究を推進する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
先行研究のレビューを通じて、研究史とこれまでの諸課題を認識する。			目標	A
適格なリサーチクエスチョンを立てて、それに沿った方法論を採用する。			目標	C
資料作成やプレゼンテーションを計画的に簡潔に実施できる。			目標	D
卒業論文の基本構成に沿って、意義ある卒業論文を完成させる。			目標	D・E
クリティカルシンキング能力を獲得する。			目標	C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 第1回 ゼミの概要と目標及び学習方法	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成
	卒論目次作成	目次の作成と発表	研究計画確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2回 目指すものを定義する① いつまでに	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	卒論作成日程表作成	日程の作成と発表	計画案準備
3	第3回 目指すものを定義する② どのくらいのレベルを設定するか	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
4	第4回 目指すものを定義する③ 何のために(目的は)	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
5	第5回 何が問題なのかクリアにする① 自分の状況を客観的に分析する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
6	第6回 何が問題なのかクリアにする② 目指すものとのギャップを認識する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
7	第7回 何が問題なのかクリアにする③ ギャップが生じている原因を本質的に説明する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
8	第8回 方法を考える① 具体的なアクションを挙げる	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
9	第9回 方法を考える② 選択したアクションをクリアに説明する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
10	第10回 研究テーマを考える① どのような領域があるのか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
11	第11回 研究テーマを考える② 問題の背景は何か	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析(データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	第12回 研究テーマを考える③ 目的を明確化する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
13	第13回 方法を学ぶ① どのような方法があるのか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
14	第14回 方法を学ぶ② どのような方法を用いるか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
15	第15回 方法を学ぶ③ 方法を選択する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
16	第16回 先行研究の文献講読①	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
17	第17回 先行研究の文献講読②	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
18	第18回 先行研究の文献講読③	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
19	第19回 先行研究の文献講読④	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
20	第20回 先行研究の文献講読⑤	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
21	第21回 研究方法について学ぶ① 量的研究	文献講読とディスカッション	量的研究に関する資料を通読
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
22	第22回 研究方法について学ぶ② 量的研究	文献講読とディスカッション	量的研究に関する資料を通読
	論文作成 (図表)	論文指導	論文作成
23	第23回 研究方法について学ぶ③ 質的研究	文献講読とディスカッション	質的研究に関する資料を通読
	論文作成 (図表)	論文指導	論文作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	第24回 研究方法について学ぶ④ 質的研究	文献講読とディスカッション	質的研究に関する資料を通読
	論文作成(図表)	論文指導	論文作成
25	第25回 研究方法について学ぶ⑤ 質的研究	文献講読とディスカッション	質的研究に関する資料を通読
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
26	第26回 研究計画書の作成①	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
27	第27回 研究計画書の作成②	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
28	第28回 研究計画書の作成②	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結論・考察)	論文指導	論文作成
29	第29回 最新の研究動向を学ぶ①	文献講読とディスカッション	最新の研究動向を広く収集する
	論文作成(結論・考察)	論文指導	論文作成
30	第30回 最新の研究動向を学ぶ②	文献講読とディスカッション	最新の研究動向を広く収集する
	論文作成(校正)	論文指導	論文作成
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 到達目標：C・D 2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。 到達目標：E 演習時に活発に発言しているか。 到達目標：A 先行研究を多く読んで体系を理解しているか。			
【教科書】 使用しない。(適宜資料を配布する)			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> あらゆる事項において期限厳守を徹底する。 学習の進捗度により、内容が一部変更になる場合がある。 			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>	開講期	通年（2年間）	
		授業回数	30（60）回	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月） 福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「感性と表現に関する研究」を主たる研究内容とし、幼児は身近な周囲の環境と関わりながら、音や音楽に不思議さや面白さを見付け心を動かし自己表現を通して他との新たな関わりを築いていることについて、実際の幼児の姿と関係付けて理解を深めます。 そのために、幼稚園等における保育の様子を教育的に観察することを重視し、一般的な幼児の姿ではなく、一人ひとりが営む日常生活の中で何が起きているのかを見て、その子がいかに有能であるのかを理解しようとし、その姿から何を選んで記録し、意味や価値を与えるのかという視点を学び、その結果をまとめることにより継続的な研究ができるようにします。 4年生は卒業論文指導を中心として行います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 幼児教育の基本について理解している。			目標	A
② 卒業論文に関する方法を把握し、研究課題と見通しをもつ。			目標	E
③ 先行研究の調査を通して、批判的な読解ができる。			目標	C
④ 論文構成について理解し、各論同士の関係を論理的に構築することができる。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ゼミナールに対する心構え ・授業の概要とこれからの研究の見通し 3年次	講義：研究についての心構え 演習：研究についての抱負	研究に取り組む決意と研究内容の確認
	オリエンテーション ・卒業論文提出に関する見通し 4年次	演習：グループで研究の見通しについて意見交換	研究の見通しについての計画
2	卒業論文の書き方 ・論文とは何かについての話し合い ・文章作成の心得 3年次	講義：論文について 演習：卒業論文についての話し合い	プリントを基に論文とは何かについて予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
3	卒業論文の書き方 ・文章のスタイルについて 3年次	講義：論文について 演習：文章のスタイルについての話し合い	プリントを基に論文の書き方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
4	卒業論文の書き方 ・文章作成の練習 3年次	講義：論文について 演習：短い文章を記述し互いに批評し合う	プリントを基に文章の書き方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
5	先行研究 ・各自の研究に関する先行研究を図書館や情報機器を利用して資料を収集 3年次	演習：各自の方法で資料収集を行う	資料収集の方法について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
6	先行研究 ・各自の研究に関する先行研究を図書館や情報機器を利用して資料を収集 3年次	演習：各自の方法で資料収集を行う	資料収集の方法について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	資料収集及び資料の整理
7	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究の資料の批評を予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
8	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	批評の仕方について工夫を図るための予習
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に各自の研究に資する内容を取り入れる。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
10	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に各自の研究に資する内容を取り入れる。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
11	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即して研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	プロットから内容の構想を練る
12	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係資料を熟読し執筆に備える
13	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する 3年次	演習：各自の研究テーマに即した調査方法を検討する	調査方法の予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即して研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係資料を熟読し執筆に備える
14	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する 3年次	演習：各自の研究テーマに即した調査方法を検討する	調査方法の予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
15	調査項目 ・卒業論文の調査項目としてふさわしい内容かについて確認する 3年次	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
16	調査項目 ・互いの調査項目を出し批評し合う 3年次	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	分析方法 ・各自の卒業論文にふさわしい分析の仕方を考える 3年次	演習：各自分析の方法を提示し分析の仕方を検討する	分析の方法について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
18	分析方法 ・各自の卒業論文にふさわしい分析の仕方を確定する 3年次	演習：各自分析の方法を確定する	分析の方法について確認する
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
19	情報の整理 ・研究の方法と資料の整理 3年次	演習：資料の整理の仕方について討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
20	情報の整理 ・研究の方法と資料の整理 3年次	演習：資料の整理の仕方について討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
21	論文の構成部分とその順序 ・論文の構成部分について 3年次	演習：「序論」「本論」「結論」について討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：卒業論文を互いに読み合い修正点を指摘	卒業論文に齟齬がないかを確認
22	論文の構成部分とその順序 ・論文の構成順序 3年次	演習：「序論」「本論」「結論」について討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：互いに卒業論文の内容を発表	卒業論文の内容を熟読
23	研究計画書作成 ・研究テーマの作成 3年次	演習：各自の研究テーマを発表し討議	研究テーマについての検討
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの再確認 4年次	個別指導：卒業論文としての内容を確認する	卒業論文を再度読み直し確認
24	研究計画書作成 ・研究テーマの確定 ・研究テーマの意義についての検討 3年次	演習：各自の研究テーマを発表し討議	研究テーマの意義を検討し計画の見直しをもつ
	卒業論文の提出 ・研究テーマに即した2年間の研究成果を卒業論文として提出 4年次	演習：各自の卒業論文の概要を発表し合う	卒業論文を再度読み直し確認

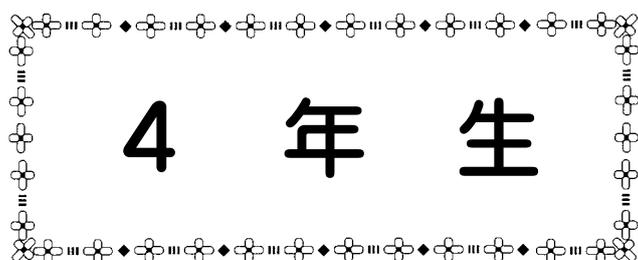
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	研究計画書完成 ・卒業論文構想の発表会 3年次	演習：卒業論文執筆の構想を発表し批評し合う	研究計画の確認と発表の予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討 4年次	演習：資料の収集、整理、分析	発表原稿の内容を構想
26	卒業論文作成「序論」 ・問題の所在の提示についての執筆 3年次	個別指導：問題の所在が適切であるか確認	問題の所在を確認し、執筆の構想を練る
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討 4年次	個別指導：発表原稿の内容を検討する	発表原稿の構想を把握
27	卒業論文作成「序論」 ・問題の設定理由についての執筆 ・問題設定の動機についての執筆 3年次	個別指導：問題の設定理由・動機についての確認	問題の設定理由や動機についての内容を予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の完成 4年次	個別指導：発表原稿として筋が通っているか確認	発表原稿の修正や文言のチェック
28	卒業論文作成「序論」 ・仮説の提示についての執筆 ・用語の説明についての執筆 3年次	個別指導：仮説や用語の説明に不備がないかを確認	仮説や用語の説明に関する整理と執筆準備
	卒業論文発表会の練習 ・リハーサルや発表会当日に向けての準備 4年次	個別指導：発表原稿等のチェックを行い、リハーサルに備える	発表の仕方を練習
29	卒業論文作成「序論」 ・研究及び調査方法についての執筆 ・論文の構想についての執筆 3年次	個別指導：「序論」としての体裁及び内容が適切であるかを確認	論文の調査方法や論文の構想についての確認
	卒業論文発表会の練習 ・発表原稿を基にわかりやすく発表できるようリハーサルを行う 4年次	演習：リハーサルを互いに聴き合い批評し合う	発表の仕方を練習
30	卒業論文作成「序論」 ・序論についての発表会 3年次	演習：「序論」についての発表を聞き、互いに批評し合う	序論の発表について予習
	卒業論文発表会 ・2年間の研究成果をわかりやすく発表する 4年次	演習：互いに発表しあったり聞き合ったりすることを通して研究成果を認め合う	発表の仕方を練習
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②：2年間を通して、学習および研究した成果を卒業論文としてまとめることができる。 80点 目標②③：音楽や保育に関する文献や専門書等を批判的に輪読することを通して、課題を事前に学習し的確なプレゼンテーションをすることができる。 10点 目標④：研究計画に沿って、指定された課題を提出することができる。 10点 以上、合計100点で評価する。			
【教科書】 使用しない			

- 【参考書】**
- (1) 書名：レポート・論文の書き方入門 第3版
著者名：河野哲也
発行所：慶応義塾大学出版会
価格：1,000円（税別）

 - (2) 書名：大学生のための研究ハンドブック
著者名：ノートルダム清心女子大学人間生活科 編
発行所：大学教育出版
価格：1,200円（税別）

 - (3) 書名：「文化系」学生のレポート・卒論術
著者名：渡辺 潤、宮入恭平 編著
発行所：青弓社
価格：1,600円（税別）

 - (4) 書名：学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル
著者名：滝川好夫
発行所：税務経理協会
価格：1,300円（税別）



4 年 生

授業科目名	地域福祉論		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>くさ か てる み</small> 日 下 輝 美		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		日本地域福祉学会福島県地方委員、福島県社会福祉協議会評議員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学））		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 地方分権化・社会サービスシステム・コミュニティワーク・住民参加の視点から地域福祉を捉え、その理念・対象・政策展開・構成要件・財源・主体・推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="checkbox"/>	A	知識	
	<input type="checkbox"/>	B	技能	
	<input type="checkbox"/>	C	論理的思考力	
	<input type="checkbox"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="checkbox"/>	E	課題対処力	
	<input type="checkbox"/>	F	多様性の理解力	
	<input type="checkbox"/>	G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
	<input type="checkbox"/>	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="checkbox"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="checkbox"/>	ウ	グループワーク		
<input type="checkbox"/>	エ	プレゼンテーション		
<input type="checkbox"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
地域福祉の歴史的展開（法律、制度等）過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。			目標	F
地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。			目標	E・F・G
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。			目標	E・F・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	シラバス 配布資料に基づき講義	【予習】 新聞・雑誌を読んできると。 【復習】 現代の地域生活と地域福祉の整理
2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 海外の地域福祉の歩みを整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 地域福祉に関連する法律の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 社協活動の整理
6	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 地域福祉を支える専門職の役割について整理
7	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 地域福祉にある社会資源の整理
8	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくると。 【復習】 福祉ニーズの把握の方法の整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングcommons)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域トータルケアシステムの整理
10	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉サービスの評価の方法について整理
11	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングcommons)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉計画の整理
12	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉教育のモデル作成
13	地域福祉における住民参加の意義と方法 1) 地域福祉における住民参加の意義 2) 地域福祉における住民の役割 3) 地域福祉における住民参加の方法	配布資料に基づき、グループワーク	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 ボランティアについて調べる
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングcommons)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 NPO法人の社会的役割について整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて 振り返りと授業のまとめ	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末試験		
【 期末試験の講評 】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【 授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標E・F・G：期末試験（各20点・平均点） 受講ノート提出（最終回）の評価40点			

<p>【教科書】 書名：地域福祉の原理と方法 著者名：井村圭壯・相澤譲治 発行所：学文社 価格：2,200円（税別）</p>	<p>【参考書】 書名：地域福祉の理論と実際 著者名：都築光一 監修 発行所：建帛社 価格：2,520円（税別）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「受講ノート」は必ず用意し、毎回、予習は福祉に関する新聞記事の記述。受講後（復習）は授業で学んだ事柄を整理すること。詳細については初回時に詳しく説明する。 	

授業科目名	子育て支援政策		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：桜田葉子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県議会議員・平成15年～29年		
社会貢献としての委員会・職等		聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問、福島県美容業生活衛生同業組合顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県歯科技工士会顧問、福島職業訓練技能協会顧問		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国立音楽大学声楽学科卒業（芸術学士） 大学行政管理学会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 少子化・人口減少に歯止めがかからず、地域社会や社会保障制度の維持が困難になることが現実の問題となっている。少子化・人口減少が社会に与える影響と、その対策としての子育て支援政策の必要性について理解を深める。また、子育て支援政策として、待機児童解消や幼児教育無償化など、幼児教育の現場も対象となってきていることから、行政の現場を視察研修して子育て支援政策の現状を学び、政策立案を通じてどのような子育て支援政策が必要なのかを考え、幼児教育者として理解していなければならない子育て支援政策について、グループワークを通して学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
		B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク			
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
少子化・人口減少が社会に与える影響と子育て支援の重要性を理解する。			目標	A	
子育て支援政策の現状を理解する。			目標	E	
子育て支援政策を立案する。			目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・「子育て支援政策」とは ・福島県の具体的施策	講義・グループワーク 福島県資料：【うつくしま子ども夢プラン】【子育てしやすい福島県づくり条例】	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	少子化・人口減少社会の課題と子育て支援政策の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・国の政策 ・福島県の人口の推移と政策 ・子育て支援の必要性 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県の人口の推移】【国民生活基礎調査】 福島県資料：【ふくしま復興のあゆみ】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
3	安心して次世代を産み育てられる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目のない福島県における妊産婦・乳幼児に対する支援体制 ・医療体制 ・家庭を築き子どもを産み育てる環境づくり 	講義・グループワーク 福島県資料：【子育て支援に関する施策の年次報告】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、母子手帳の調査
4	子育てに関する支援について① <ul style="list-style-type: none"> ・子育て等に関する相談・情報提供体制づくり ・子育て世代包括支援センター 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
5	子育てに関する支援について② <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭の経済的な負担軽減策 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
6	子育てに関する支援について③ <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援新制度の推進 ・保育所待機児童の解消 ・地域における子ども・子育て支援事業 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】【子ども・子育て支援新制度ハンドブック】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
7	子育てと社会参加の両立のための環境づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の推進 ・子育てと仕事の両立策 ・女性活躍推進法 ・改正育児・介護休業法のポイント 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
8	子どもの健やかな成長のための環境づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・援助を必要とする子どもや家庭に対する支援策 ・地域における子ども環境の整備 ・子どもの権利条約 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
9	フランス・フィンランドにおける子育て支援政策について <ul style="list-style-type: none"> ・フランスにおける子育て支援 ・フィンランドにおける子育て支援「ネウボラ」 ・エシコウルのしくみと権利 	講義・グループワーク 自作資料【フランス・フィンランドにおける子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
10	合計特殊出生率日本一の岡山県奈義町における子育て支援政策について	講義・グループワーク 奈義町資料、福島県資料【奈義町と福島県59市町村の比較】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
11	「子育て支援」の現場研修① 県庁：県執行部から「子育て支援」についての説明 県庁内保育所「けやきの子」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
12	「子育て支援」の現場研修② 県立医科大学：小児科医からの説明・看護師からの説明 「こども医療センター」「総合周産期母子医療センター」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、県庁における現場研修のレポート提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	「子育て支援政策」を新聞記事から収集し、コメントをつけて発表 グループディスカッション	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集ファイルの提出、医大における現場研修のレポート提出
14	「子育て支援政策」立案 ディベート	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、子育て支援の調査
15	「子育て支援政策」の発表	グループワーク	子育て支援政策レポート提出
期末試験	後期末試験(レポート)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・E・F：期末試験(レポート)30% 目標E：新聞記事の収集・発表20%、現場研修レポート10% 目標F：政策立案・発表30%、授業への参加態度(発言)10%			
【教科書】 自作資料を配布する。		【参考書】 特になし。 参考文献は必要に応じて提示する。	
【その他補足事項】 少子化・人口減少の進展に伴い新しい政策が次々と出されているので、新聞等による情報収集に努め、少子化・人口減少対策・子育て支援政策に関心をもって授業にのぞむこと。			

授業科目名	保護者対応事例研究	授業形態・単位数	演習・1単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）		
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業（芸術学士：音楽） 白梅学院大学大学院修了（修士：こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業では、保護者を支援するための具体的な対応方法について学ぶ。保育現場では、子どもの支援は勿論のこと、親育ち支援の視点が重要。保育者の知識と技術、そして、地域の専門機関との連携による解決法等、より良い支援の多様なあり方を考察する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
親個人の成長と自己実現のための支援を学ぶ。		目標	A	
親と子ども、親と保護者、親同士の間関係における支援を学ぶ。		目標	A・E	
生活を営む環境や場における支援を学ぶ。		目標	A・E・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・保護者支援の意義について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	事例研究 ・孤立する子育てに対して	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
3	事例研究 ・虐待が疑われる場合の対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
4	事例研究 ・育児不安を抱える場合の対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
5	事例研究 ・愛着関係構築のための対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
6	事例研究 ・保護者の子育て環境構築のための対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
7	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
8	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
9	事例研究 ・保護者との連絡と連携について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
10	事例研究 ・トラブルメーカーの保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
11	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
12	事例研究 ・仕事と子育てのバランスに悩む保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
13	事例研究 ・文化の違いに悩む親子への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
14	事例研究 ・自分本位な行動が目立つ保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
15	事例研究 ・あらためて保護者への支援を考える	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】

目標A・E・Fについて下記の通り、100点満点で評価する。

期末試験60%、レポート(1回)、ミニレポート20%、授業態度10%、出席状況10%

*授業態度(授業に関係ない私語、もしくは授業の流れを妨害する私語は、注意1回1点減点、目障りな居眠りも減点することがある)

*遅刻・早退(30分以内の遅刻・早退は3回で1回の欠席。30分を超える遅刻・早退は欠席とみなす)

*課題(宿題)未提出は各2点減点。優秀レポートは各1~3点加点。

なお、詳細は初回の授業時に説明する。

【教科書】 特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配布する。

授業科目名	保育・幼稚園教職実践演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡 辺 博 志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事（平成15年4月～平成17年3月） 福島大学総合教育研究センター准教授・教授（平成19年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		川俣町学校教育あり方検討委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学） 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状（国語）、日本カリキュラム学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは金曜日午前宮代キャンパス研究室で行います。		

【授業の概要】 保育現場に求められる指導上の諸問題（発達障害を含む）に対して、演習を主とした授業を通して、今後の保育実践に向けての自己課題を明確にするとともに、保育活動に必要とされる実践的な知識・技能の補完を図ることをねらいとする。 ビデオ視聴（保育参観）や実践記録の分析・グループ討議・全体討議等を通して、保育現場に不可欠な幼児理解と適切な援助や望ましい環境構成のあり方等について再確認し合いながら、実践的指導力を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
		A	知識		
	○	B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	○	E	課題対処力		
	○	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
○	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 保育に関する学修履歴や実習経験をふり振り返り保育者としての自己課題を明らかにする。			目標	E	
② 実践的知識技能の習得状況について省察し、履修カルテを作成する。			目標	B	
③ 保育に関する課題について具体事例をもとに現状分析し、解決のための実践的指導力について学びを深める。			目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習を振り返り、むずかしかったこと、苦労したことを考える ・個人経験の表示とグループ討議を通じた自己課題の整理	学修や実習について省察し、確かめたいことやさらに深く学びたいことについてグループで話し合う	・これまでの学修履歴や実習から自己課題を整理する
2	子どもを理解する (understanding) ということ ・子どもを「見る」「看る」「視る」「診る」に関する整理、グループ討論	子ども理解の方法や事例について話し合う ・実習で出会った〇〇さん ・ベテラン教師に学ぶ方法 ・私が実践したい「子ども理解」	履修ミニレポート1 左記3つの視点から自分の「子ども理解」を整理して記述する
3	もの見る眼差しと「加加法」 ・「ほめる」ということ “appreciation” 〈鑑賞〉「ほめる」ことのロールプレイング	グループで場面事例をもとに「ほめる活動」のロールプレイングをする	履修ミニレポート2 効果的であった「ほめる」活動事例を整理して記述する
4	一人ひとりの子どもに寄り添うということ ・子どもと保育者の動き (一人ひとりへの心配りとフットワーク) 経験者からの指導とその内容についてのグループ討論	自分が考える「教育的愛情」「よりよい対人関係」についてグループ討議をする	履修ミニレポート3 左記2つの視点から自分の考えを整理して記述する
5	ここまでの演習でいちばん深く学んだこと (わたしのまとめ→レポート①)	自分の振り返りとして自己課題に関する学びの展望を話し合う	履修ミニレポート4：小まとめを作成する
6	子どもの活動への思い願いを育てる ～内発的動機付け	自発性・能動性を引き出す環境づくり、内発的動機付けなどについて事例研究をする	履修ミニレポート5 左記の事例について授業案集などから事例を集め考察をする
7	子どもの活動 (遊び) の総合性 ～経験者からの指導を受け、グループ討論を通じた整理 ・保育・教育の重点化、焦点化	実践指導者からの指導を受け、遊びのレパートリー、取り入れ方についてグループで協議する	履修ミニレポート6 「遊び」事例集の作成
8	保育者の「指導・援助」 ・安全・子どもへのやわらかな対応	言葉かけ 見守る スキンシップの具体事例についてグループで討議する	履修ミニレポート8 左記の具体事例をまとめて考察する
9	週案・日案を書く	現在の「私・シート」をもとに指導計画についての作成課題を整理するとともにクラスメートからのコメントから「気づき」をまとめる	履修ミニレポート9 「私・シート」をまとめる
10	魅力的な計画を立案するために (わたしのまとめ→レポート②)	クラスメートから視点「自分の強みとそれを生かした展望」をまとめる	履修ミニレポート10 「私・シート」に「これからの展望」をまとめる
11	子どもの活動の実際と計画のズレ ・指導の評価と計画の修正、指導と評価の一体化、経験者からの指導を受けてのまとめ	経験者からの指導を受け、「実技」についてのまとめと活用の展望を図る	得意な実技のプレゼンテーション計画を立てる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	指導と評価～子どもの姿を見とり ・指導の評価と改善～あすにつなぐ指導評価を巡るグループ討論	「保育の質を高める」をテーマにグループ討議をする	履修ミニレポート11 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
13	「気になる子への対応」と関係機関と保護者との連携	子どもの見とり、援助の在り方など保育・教育の改善についてグループで話し合う	履修ミニレポート12 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
14	めざしたい保育者像を考える ～個人意見の表示とグループ討論	目指したい保育者像について整理しグループで話し合う	履修ミニレポート13 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
15	わたしが授業を通して学んだこと (わたしのふりかえりとまとめ→レポート③)	授業を通して学んだことを発表し合う	履修ミニレポートの整理と考察をする
期末試験	後期末試験時間内の「履修カルテ」作成		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標②：レポート作成 50点 ・「履修カルテ」レポートの作成（30点） ・ミニレポートの作成（20点） 目標①③：演習、授業への主体的な取り組み 50% ・「学びの着底点」記述内容、グループ討議、プレゼンテーション、資料作成			
【教科書】 使用しない （授業内容に関する資料は、その都度、配布する） なお、以下の3冊は、準教科書として1年次から使用しているものを使用する。 ① 書名：幼稚園教育要領 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） ② 書名：保育所保育指針 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） ③ 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）		【参考書】 書名：保育・教職実践演習 著者名：小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子 編著 発行所：建帛社 価格：1,800円（税別） 書名：保育・教職実践演習 — 自己課題の発見・解決に向けて 著者名：生野金三 井口眞美 田中正浩 田中正浩 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）	
【その他補足事項】 1. 授業で配布する資料、実施した演習内容、授業キーワードについて予習・復習すること。 2. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。 3. 授業資料は前週に配布するので「授業のキーワード」について下調べをする。 4. 授業に使用する教材は前週に配布するので「授業のキーワード」について下調べをしておく。			

授業科目名	保育実習Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	教授 今 清孝 きよ たか	今 清孝 きよ たか	開講期	通年
			授業回数	時間割外
	助教 鈴木 翔太 すず き しょう た	鈴木 翔太 すず き しょう た	期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 （平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 （平成29年4月1日～平成31年3月31日）		
社会貢献としての委員会・職等		今：福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会）、保育士資格 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修 士（こども心理学）、保育士資格、幼稚園教諭第二種免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。また保育の計画・観察・記録・自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ自己の課題を明確化し、保育及び子育て支援について総合的に理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	<input type="radio"/>	A	知識		
	<input type="radio"/>	B	技能		
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力		
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/>	E	課題対処力		
	<input type="radio"/>	F	多様性の理解力		
	<input type="radio"/>	G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
	<input type="radio"/>	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート			
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク			
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。			目標	B	
② 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。			目標	F	
③ 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。			目標	C	
④ 保育の計画、実践、観察記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。			目標	F	
⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			目標	A	
⑥ 保育士としての自己課題を明確化する。			目標	E	

【授業計画】

【実習期間】 7月～8月。(概ね10日間)
【評価方法】 目標①②③④⑤⑥：実習日誌 目標④：指導計画案
【実習費】 (実費徴収) ① 保育実習Ⅱ委託費 10,000円 ② 腸内感染症検査料 550円程度
【その他補足事項】 ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。 ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅱ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。 ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習Ⅲ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：高橋雄二		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		NPO法人あざみ会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修士（こども心理） 社会福祉士、介護福祉士 日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして、児童福祉施設における実習を部分実習、指導実習を主に 行い、保育内容の技術の習熟、援助活動等の理解と立案 を実践する。 保育士としての態度と技術の習熟、要援護者の個々が 抱える問題への事例研究等について実習を通して展開す る。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	○	E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
○	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。			目標	F
② 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。			目標	E
③ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			目標	A
④ 実習における自己の課題を理解する。			目標	E

【授業計画】

【実習期間】

7月～8月。(概ね10日間)

【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】

実習施設先からの評価点80% ※実習先の評価点が60点以上であることが単位認定の条件となります。

目標①②③④：実習日誌 10%

目標②：個別支援計画 10%

- ・「A+」 90点～100点
- ・「A」 80点～89点
- ・「B」 70点～79点
- ・「C」 60点～69点
- ・「D」 50点～59点
- ・「F」 49点以下

D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

1. 保育実習Ⅲ委託費 10,000円
2. 腸内感染症検査料 550円程度

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習については、福島学院大学福祉学部履修規程(キャンパスライフに記載)を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規程(キャンパスライフに記載)を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書(コピー)を実習先へ持参すること。
- ④ 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。
- ⑤ 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	学 童 保 育		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	4年次
担当教員	職名：助教 氏名：鈴木翔太		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭 (平成17年4月1日～22年3月31日) 六華学童クラブ 指導員 (平成22年5月1日～27年3月31日) 福島学院大学認定こども園 主幹保育教諭 (平成29年4月1日～31年3月31日)			
社会貢献としての委員会・職等	福島県学童クラブ連絡協議会役員 (平成26年度)			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修士課程修了、修士(こども心理学) 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許 日本保育者養成教育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本科目は、今日の時代背景等を踏まえても、社会的に必要な不可欠となっている学童保育において、基礎的な知識(歴史・役割・機能等)を習得することを目的とします。現代社会において、学童保育の現場ではどのような生活・活動が行われているか理解を深め、保育者(指導員)としてふさわしい人間性等を考えることで保育観を養っていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】				
	○	A	知識		
		B	技能		
		C	論理的思考力		
		D	文章・身体・感性等に関する表現力		
		E	課題対処力		
	○	F	多様性の理解力		
		G	対人関係構築力		
	【アクティブラーニングの要素】				
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		
○	イ	ディスカッション、ディベート			
	ウ	グループワーク			
	エ	プレゼンテーション			
	オ	実習・フィールドワーク			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 学童保育の基礎的知識(役割・機能等)について理解する。			目標	A	
② 現代の学童保育の状況を知る。			目標	A	
③ 学童保育の実際の活動内容(遊びや学習)、指導員のあり方を理解する。			目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標について (2) 評価方法・授業の進め方について 学童保育とは① ・学童保育の歴史 等	シラバス 配布資料に基づき講義	配布資料復習
2	学童保育とは② ・学童保育の役割と機能	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
3	学童保育の現状と課題① ・学童保育の現状	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
4	学童保育の現状と課題② ・国の学童保育に関わる動向 ・学童保育の課題	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
5	放課後児童クラブ(学童保育)ガイドライン① ・子どもの健康管理、情緒の安定 ・子どもの安全確認、来所帰宅時の安全確保	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
6	学童保育(放課後児童クラブ)ガイドライン② ・遊びを通して自主性、社会性、創造性を培う ・家庭との日常的な連絡、情報交換	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
7	小テスト 学童保育の遊びと生活① ・学童保育での生活	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
8	学童保育の遊びと生活② ・遊びの活動への意欲と態度の形成	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
9	学童保育の遊びと生活③ ディスカッション	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
10	学童保育指導員の専門性① ・専門性をめぐる理念・実践・取組	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
11	学童保育指導員の専門性② ディスカッション	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
12	今後の学童保育のあり方について ・待機児童問題をふまえた拡充の課題 等	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
13	学童保育の環境① ・学習環境について	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	学童保育の環境② ・日常の安全について	配布資料・パワーポイント等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
15	学童保育の学習についての振り返り	配布資料等に基づき講義	予) インターネット情報検索 復) 配布資料復習
期末試験	前期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等の時間に説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標①②③：期末試験 80% 目標①②③：授業への参加態度 20%			
【教科書】 配布プリントによる講義		【参考書】 特に指定しないが、学童保育に関する情報を調べて授業に臨む	

授業科目名	教育内容指導法 算数		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：佐藤博英		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島市立ひらの幼稚園園長（平成28年度～平成29年度） 福島県国公立幼稚園・こども園教育研究会幹事として、本県の幼稚園・こども園教諭の研修を担当（平成28年度～平成29年度）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県小学校教育研究会田村地区算数科研究部長（平成26年4月） 福島県小学校教育研究会福島地区算数科研究部長（平成28年4月）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学）、小学校教諭1級普通免許状 中学校教諭1級普通免許状（数学）、高等学校教諭2級普通免許状（数学）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 本科目では、算数科の学習指導に必要不可欠な知識や素養を身に付けるために、算数科における学習と指導、評価について、模擬授業等の実践的な演習をとおして理解できるようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
	<input type="radio"/>	E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート		
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
算数科の授業に興味・関心を持つことができるようにする。	目標	A・B
算数科の学習指導法に関する基礎的・基本的な知識を持ち、模擬授業に積極的に生かすことができるようにする。	目標	A・B・C
学習指導法の理解を通して、今日的な算数教育の課題について考察を深めることができるようにする。	目標	C・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	「算数」の授業とは何か ・「算数科」の目標から、目指す授業を構想する。	自作資料① 小学校学習指導要領解説算数編(※以下、毎回使用)	自作資料①を事前に読む。
3	「算数科」の授業で何が見えるか。 ・「算数科」授業を視聴し、子どもの学びを視点として、授業で大切にしていけることを議論し合う。	自作資料②(事前配布※以下同じ)	自作資料②を事前に読む。
4	「算数科」における子どもの学び ・具体的な教材をもとに、子どもの学びを追究する。	自作資料③ ・平行四辺形の求積公式	自作資料③を事前に読む。
5	「算数科」の授業で子どもの意欲を育む。 ・「学びのスイッチ」を誘う「導入」の工夫について考察する。	自作資料④ ・「合併・増加」「求残・求差」の問題場面	自作資料④を事前に読む。
6	「算数科」の授業で数学的な考え方を育む。 ・「円の求積公式」を導き出す多様な考え方を生み出す思考パターンを追究する。	自作資料⑤ ・「円周率」と「円の求積公式」との関係性	自作資料⑤を事前に読む。
7	「算数科」の授業でコミュニケーション力を育む。 ・「問題解決学習」に不可欠な議論と傾聴	自作資料⑥ ・多様な考えの「ねりあげ」と数理発見	自作資料⑥を事前に読む。
8	数学的な考え方を高める「算数的活動」 ・学内探索活動における「算数的活動」の実際と活動に内在する数学的思考力の発見	自作資料⑦ ・1対1対応 ・十進法	自作資料⑦を事前に読む。
9	模擬授業①-1 ・数と計算領域「12-7」の計算方法に関する模擬授業案の作成	自作資料⑧ ・減加法と減々法	自作資料⑧を事前に読む。
10	模擬授業①-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑨ ・班ごとの模擬授業の実践 ・全体における授業考察	自作資料⑨を事前に読む。
11	模擬授業②-1 ・図形領域「三角形と四角形」の弁別に関する模擬授業案の作成	自作資料⑩ ・「三角形と四角形」の定義と弁別	自作資料⑩を事前に読む。
12	模擬授業②-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑪ ・班ごとの模擬授業の実践 ・全体における授業考察	自作資料⑪を事前に読む。
13	問題解決を視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「問題解決学習」の理論と実践	自作資料⑫ ・「問題解決学習」における教師の役割	自作資料⑫を事前に読む。
14	学び合いを視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「学び合い」の理論と実践	自作資料⑬ ・「学び合い」における教師の役割	自作資料⑬を事前に読む。
15	評価を生かした算数科学習指導法 ・算数科における「評価」の理論と実践	自作資料⑭ ・「評価」と「授業改善」	自作資料⑭を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	前期試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、その都度課題を設定する。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するため2～3枚程度、小テストを実施する。採点は授業の中で答え合わせを行い、理解不足の箇所を補う。</p>			
<p>【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 算数編 著者名：文部科学省 発行所：日本文教出版 価格：224円（税別）</p>		<p>【参考書】 書名：新編 新しい算数(1～6年)全11巻 発行所：東京書籍</p> <p>書名：算数教育指導用語辞典 第5版 著者名：日本数学教育学会 発行所：教育出版</p>	

授業科目名	特別研究Ⅰ (お菓子づくり・パンづくり)		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：橋本ヨシイ		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		平成24年度より本学非常勤講師 平成27年度より食物栄養学科専任講師 平成3年より郡山市にて「ヘルシークッキング教室」主宰 テレビの料理番組生出演中（平成8年～現在） 全国みそに関わる研究 書籍（料理本、NHK出版書籍など）		
社会貢献としての委員会・職等		郡山市消費生活センター審議委員（終了） 青少年ホーム運営委員（終了） 郡山市環境審議委員（終了）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島県立会津短期大学家政科食物栄養専攻卒業 栄養士、管理栄養士 日本臨床栄養協会認定機構サプリメントアドバイザー 日本栄養食糧学会会員・日本栄養改善学会会員 日本臨床栄養協会会員・日本調理科学会会員 日本伝統食品研究会会員・日本栄養士会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 現代においてお菓子やパンはお金を出して買うことが当たり前になっている。しかし愛情を込めて作ったパンやお菓子には見た目は不揃いであるが、自分と他の人を幸せにする不思議な力がある。手作りする時の「おいしい匂いや音」そして「素朴な味」が心と感性を豊かにすることを保育者・教育者として実感する。 授業では常に子どもの健康と食に関心を持ち、研究心をもって授業に臨み、お菓子やパンに使用する素材の知識をマスターして応用力を身につける。 併せて社会に出て役立つ簡単な飲み物についても学習する。4～5人の班編成で行い、手作りの楽しさと協同作業の大切さを学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
	○	F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
○	ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
・作って食べることが健全な心、健康な体と深く関わることを学ぶ。		目標	A	
・簡単なお菓子とパンの基本知識、及び技術を習得する。		目標	B	
・実際の保育・教育の現場で役立つように応用力を身につける。		目標	F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の概要と授業の進め方、評価方法 調理室使用に際しての注意事項 調理室内の器具の確認 実習時の身支度や衛生面の注意事項 	シラバスの確認 調理室の器材の確認 安全な調理の確認 調理の手順の説明 配布プリント	シラバスを一読して来る こと
2	<ul style="list-style-type: none"> いちご大福 水ようかん 日本茶 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 米粉の種類と性質 寒天の種類と特性 	実習 (エプロン、三角布準備) <ul style="list-style-type: none"> 配布プリント使用 レポート提出 	復習とそのアレンジなども試みる
3	<ul style="list-style-type: none"> いちごヨーグルトゼリー スコーン 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> ゼラチンの種類と性質 小麦粉の種類と性質 	同上	同上
4	<ul style="list-style-type: none"> ミルクパンの講義 (※簡単手法のみ実習) 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 発酵 強力粉の特徴 グルテンについて 	同上	同上
5	<ul style="list-style-type: none"> 米粉蒸しパン 青菜のパンケーキ 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 米粉の特徴 蒸し器の使い方 	同上 次回の創作菓子の準備	同上
6	<ul style="list-style-type: none"> 創作菓子① 子どもに食べさせたい パンケーキを作る 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 子どものおやつに適した食材を研究 	同上	同上
7	<ul style="list-style-type: none"> 新茶をおいしく入れる (湯温とうま味、苦味を知る) フルーツ葛餅 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 八十八夜と新茶 葛粉の性質 	同上	同上
8	<ul style="list-style-type: none"> カラフル白玉 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 野菜の色素を調べ、用途を考える 	同上	同上
9	<ul style="list-style-type: none"> マドレーヌ 紅茶をおいしく入れる 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 短時間の焼き菓子 紅茶のルーツ、種類 	同上 次回の創作菓子の準備	同上
10	<ul style="list-style-type: none"> 創作菓子② (カスタードプリン、他) 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 卵の特徴を知る 鮮度や加熱温度 	同上	同上
11	<ul style="list-style-type: none"> クッキー2種 (アーモンドチョコ、抹茶) コーヒーをおいしく入れる 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> クッキー生地のパリエーションを考える 	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • おやき (南瓜) • いも餅 • ほうじ茶 	<p>同上</p> <p>次回の創作菓子の準備</p>	同上
13	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 創作菓子③ 郷土食を取り入れる <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どものおやつに適した郷土のおやつ 	同上	同上
14	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 福島の桃を使って桃のレアチーズケーキ <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 郷土の桃のおいしさ • 桃の調理法 	<p>同上</p> <p>次回の創作菓子の準備</p>	同上
15	<ul style="list-style-type: none"> • 創作菓子④ <p>課題食材で自由にお菓子、パンを作る — 準備された食材で各班が時間内に創作 —</p>	レポート提出	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A・F：レポート（内容及び提出状況を含む）50点 目標B・U：毎回の調理（身支度・理解度・向上心、出席状況を含む）を50点（各回3～4点） 以上、合計100点として評価します。 次に該当する場合は、総合評価から減点します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 私語、実習中の携帯操作、周囲への迷惑行為など「学生受講規定」に反する場合は減点の対象となります。 ※特に調理実習は危険を伴うので教員の注意を良く聞くこと。 • レポートの未提出は減点対象となります。 • 調理実習用の服装（上履き、エプロン、三角布など）を整わない場合は減点の対象となります。 ※特に上履きを持参しない場合は入室できないので要注意 			
<p>【教科書】 なし（プリントによる実習）</p>		<p>【参考書】 特に指定しないが、図書館などでお菓子やパンの本を読んで授業に臨む。</p>	
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業内容は進捗状況や食材の入手状況により、変更することがあります。 ② 食物アレルギーのある者は必ず予め申し出る事と、アレルギーを持つ者は調理中にアレルギー食品が口に入ることの無いように自分で十分に注意して下さい。 ③ 調理実習中は火傷や怪我の無いよう、集中して作業を行い、全員で十分に気を配って下さい。 ④ 教材費として7,000円が必要です。 			

授業科目名	特別研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：菅 田 清 正 <small>すが た きよ まさ</small>	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	(株)テレビユー福島において番組制作ディレクター及び報道記者として番組・TV-CM等の制作を担当（昭和58年4月～平成14年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	学校法人福島学院元理事・元評議員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	<ul style="list-style-type: none"> 千代田工科芸術専門学校 放送芸術科卒業 映像情報メディア学会 正会員 			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは月曜午後4時以降 研究室（宮代キャンパス）			

【授業の概要】 技術の進歩によりモバイルデバイスが劇的に普及して数年。その実用性が高まっている現在、インターネット上で見られる動画の割合が増えてきている。 本科目は、そのような背景を踏まえ、スマートフォンで動画制作を行い、様々なビジネスシーンで活用するための基礎知識と技能を学び、身に付ける。 撮影から編集まで個人のスマートフォンを使用して、動画制作を行い発表する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力	
		F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力	
	【アクティブラーニングの要素】			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/>	エ	プレゼンテーション		
<input type="radio"/>	オ	実習・フィールドワーク		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
動画制作に必要な基礎知識と技能を身に付ける。	目標	A・B		
動画による感性等の表現力を身に付ける。	目標	D		
実習を通して他者との協力関係を築き、併せてプレゼン力も身に付ける。	目標	B・D		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と評価方法の説明 ・「動画制作のワークフロー」	・資料配布	指定したウェブサイトで予習復習する
2	「著作権とは何か」 ・著作権隣接権と権利制限について	・資料配布	著作権をネットで調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「撮影の基礎」 ・画面サイズとカメラワーク ・イマジナリーラインとは？	・資料配布 ・DVD（ハリウッド白熱教室・撮影篇）視聴（30分）	指定したウェブサイトですり習復習する
4	「音声・照明の基礎」 ・マイクアレンジ ・人物照明	・資料配布 ・実演で説明	指定したウェブサイトですり習復習する
5	「絵コンテとは何か」 ・コンテの要素と構成 ・動画制作の立案	・資料配布	次回までに企画案をまとめる
6	「絵コンテの作成」 ・CM絵コンテの企画と作成 ※小テスト実施予定	・資料配布 ・企画書の作成 ・小テストの実施	次回までに企画案をまとめる
7	「撮影1」 ・動画撮影アプリVIVA VIDEOの説明 ・ビデオカメラの操作方法説明	・アプリ操作法DVD視聴（15分） ・カメラ操作法の実地説明	時間外でコンテに基づいて撮影する
8	「撮影2」 ・撮影開始及び継続 ・DVD（ハリウッド白熱教室）視聴	・DVD（ハリウッド白熱教室・編集篇）視聴（30分）	次回までに撮影を完了させる
9	「編集とは何か？」 ・編集とは何か？ ・モンタージュ理論について	・DVD（モンタージュ理論篇）視聴（15分） ・資料配布	指定したウェブサイトですり習復習する
10	「編集1」 ・アプリで編集開始	・個人のスマホで編集を開始する	編集を続ける
11	「編集2」 ・編集の継続 ・MA（音編集）作業	・個人のスマホで編集の継続 ・映像、音声の最終編集	編集が完了しないときは継続する
12	「インサートカット及び映像加工処理」 ・挿入と上書き ・特殊効果	・資料配布	指定したウェブサイトですり習復習する
13	「CM作品発表」 ・個々に作品を発表する ・講評	・資料配布	発表用の資料を作成する
14	「放送・舞台用語の理解」 ・放送用語、舞台用語	・資料配布	用語の復習
15	「まとめ、振り返り」 ・これまでの振り返り	・資料配布	次回のプレゼン資料を作成する
期末試験	制作したCM作品の上映と作品についてのプレゼンテーションを実施し、評価する	一人3分で作品の上映とプレゼンを行う	プレゼン用の資料を準備しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

- 目標A：小テスト20点
- 目標B：期末試験（CM作品完成度40点）
- 目標D：期末試験（プレゼンテーション力20点）
- 授業への積極性等（発言、協調性等20点）

ほか、評価に関する共通理解に則る減点（欠席等）を総合点により行う。

【教科書】 使用しない。

【参考書】 使用しない。

【その他補足事項】

- 個人のスマートフォンを使用するため、データ通信料が発生する可能性がある。
- 撮影に必要な小物などは自己負担で準備する。
- 完成した作品をDVD出力する場合は、DVDを自己負担とする。